

極
秘

日露講和談判筆記

附兩國全權委員非正式會見要録

2-0096

0124

日露講和談判筆記

2-0096

0125

講和談判筆記豫備會議

明治三十八年八月九日午前十時開會

列席者

日本國 小村高平兩全權委員及安達書記官

露西亞國 「ウヰッテ」ローゼン兩全權委員及「ナボコフ」書記官

小村男曰ク 昨夜「ローゼン」男ヨリ本日當處ニ於テ兩國全權委員會合セントノ談アリタルニ由リ來會セリ

「ウヰッテ」氏曰ク 就テハ何ヨリモ先ニ解決スヘキハ兩國全權委員所持ノ全權委任狀ノ問題ナルヘシ

小村男 本日ハ兩國全權委員公然ノ會見ニ非ス單ニ全ク非正式ノ會談ニシテ公然ノ會議ニ關スル諸般ノ豫議ヲ爲スヲ目的トスルモノナレハ全權委任狀ハ携帯セス

「ウヰッテ」氏 貴意正ニ領承セリ就テハ本日ハ諸般ノ豫議ヲ整ヘ明日以後公然ノ會議ヲ開クコトトセム乍去本員等ハ本日双方全權委任狀ノ通示アルコトト思ヒ右文書ヲ持參シタリ而シテ更ニ明日之ヲ此處ニ携帯スルコト、セハ途中紛失ノ虞モアリ旁煩累ニ堪ヘサルニ付日本全權委任狀ハ明日拜見スルコトトシ露國全權委任狀ハ今日此處ニテ貴國ニ供スルコトトシタシ

小村男 差支ナシ

「ウヰッテ」氏 然ラハ之レヨリ露國全權委任狀ヲ貴覽ニ供セム

(トテ右委任狀ノ本書並ニ露國外務次官ノ證明アル佛譯文ヲ小村全權委員ニ手交セリ
小村全權委員ハ別紙寫右文書ヲ一閱ノ後安達書記官ヲシテ右佛譯文ヲ口譯セシメ之
ヲ聞取ラレタリ)

小村男 貴全權委任狀ノ趣意正ニ了解セリ

「ローゼン」男 本委任狀ハ我國通常ノ形式ニ依リタルモノナリ

「ウヰッテ」氏 世上新聞紙等ニ於テハ本員等所持ノ全權委任狀ノコトニ關シ種々ノ風説
ヲ流布シタル趣ナルカ唯今該文書ヲ一閱セラレ諸種ノ疑團氷解セラレタラム

小村男 然リ日本全權委任狀モ同様完全ノモノナリ双方全權委任狀ノ正式ノ通示ハ明
日以後ノ正式ノ會議ニ之ヲ爲スヘキモ事務進捗ノ便ヲ計リ本日午後旅館ニ於テ我委
任狀譯文ノ寫ヲ貴閱ニ供シ置クコトトセム

「ウヰッテ」氏 右譯文ハ佛文ニテ作成シアル乎

小村男 否英語ヲ以テ作成シアリ然レトモ「ローゼン」男ハ之ヲ貴全權委員ニ佛譯スルヲ
得ム

「ウヰッテ」氏 然リ

小村男 露國全權委任狀佛譯文ハ之ヲ本員ノ手許ニ取置キ右委任狀本書ハ之ヲ貴全權
委員ニ返附ストテ右文書ヲ「ウヰッテ」氏ニ手交ス次ニ双方協議ヲ遂クヘキハ講和會議
ノ用語會議調製及會議ノ秘密嚴守ノ件等ナリト思考ス扱テ第一ニ本會議ノ用語ニ

關シテハ本員モ高平氏モ共ニ英語ヲ能ク了解スルヲ以テ英語ヲ採用スルコトト致シ
タシ

「ウヰッテ」氏 本員ハ英語ヲ了解セサルヲ以テ英語ヲ以テ會議ノ用語ト爲スコトニ同意
シ難シ外交上ノ用語タル佛語ヲ以テ本會議ノ用語ト爲スヲ可トス

小村男 然ラハ一步ヲ譲リ貴方ヨリ提出ノ文書ニ付テハ佛文ヲ以テ本書ト見做シ我方
ヨリ提出ノ文書ニ付テハ英文ヲ以テ本書ト見做スコトトナサム

「ウヰッテ」氏 貴案ヲ諾ス但シ幸ニ講和條約締結ノ際ニハ一定ノ國語ヲ以テ決裁力アル
モノトセサレハ不都合ニシテ佛語ハ從來常ニ外交並條約上ノ用語ト看做サル、モノ
故該語ヲ以テ該條約及附屬文書ノ用語ト爲スコトヲ希望ス且ツ本員ハ英語ヲ了解セ
サルヲ以テ英語ニテ作成セル文書ニハ署名スルコト能ハス

小村男 佛語ハ獨リ外交上ノ用語タルノミナラス其ノ意義モ亦最モ明確ナリ依テ條約
及附屬文書ニ關シテハ佛語ノ分ヲ以テ決裁力アルモノトスルコトニ對シ異議ナシ
次ニ會議錄ニハ單ニ討議ノ大要ノミヲ掲載スルコトヲ可トスト思考ス何トナレハ是
レ貴我双方腹藏ナク胸襟ヲ披瀝シテ意見ヲ交換スルニ適スル方法ナレハナリ而シテ
右會議錄調製並ニ文書取扱等ノ爲メ會議ニ書記官ヲ列席セシムルヲ必要トセム

「ウヰッテ」氏 會議錄ニ關スル貴説全ク我意ニ合ス又書記官ヲシテ列席セシムルノ件モ
貴説ノ如シ就テハコレヨリ双方書記官ノ氏名ヲ互ニ通知スルコト、セム(トテ「ローゼ
ン」男ト相談シツ、ド、フランソン「コロストヴェツ」及「ナボコフ」三氏ノ名ヲ記ス之レト同

時ニ小村男ハ佐藤安達落合三氏ノ名ヲ記シ前記露國書記官氏名表ト引換ニ之ヲウヰ
ツテ氏ニ交付セラレタリ

小村男 是レニテ講和會議錄調製ノ方法モ定マレリ而シテ右會議錄ハ其後ノ一會議ニ
於テ双方ノ全權委員之ニ署名スルコト、セム

「ウヰツテ氏」領承

小村男 次ニ協議ヲ遂クヘキハ會議ノ秘密確守ノ件ナリ今回ノ講和會議ノ如キ場合ニ
於テハ世界ノ各方面ヨリ無數ノ通信員等集合シ來リ種々ノ風説ヲ捏造シ以テ利ヲ射
ラムコトヲ努ム此ノ場合ニ當リ談判ノ秘密ヲ確守スルコトハ貴我双方ノ利益ナルハ
固ヨリ言ヲ俟タス依テ之ニ關スル貴案ナキヤ願クハ之ヲ聽クコトヲ得ム

「ウヰツテ氏」談判秘密確守ニ關スル貴全權委員ノ意見ハ全ク我意ニ合スル所ナリ新聞
通信員ニ對シテハ主義トシテ談判ヲ秘密ニスルヲ要スト雖之ニ對シ一切言ハス語ヲ
サルコトハ不可能且不利益ニ付彼等ニ通示スヘキ事項ハ各會議ノ畢リニ双方協議ノ
上一定スルコト、爲シテハ如何

小村男 貴案ニ同意ス即チ各會議ノ畢リニ双方書記官ヲシテ新聞通信案ヲ起草セシメ
全權委員之ヲ檢閱承認スルコト、セム

「ウヰツテ氏」然リ次ニ協議ヲ要スルハ專門事項擔當隨員ヲ會議ニ列席セシムヘキヤ否
ヤノ件ナリ本員ハ數多ノ專門的智識アル隨員ヲ携へ來レリ其ノ内ニハ會議ニ列席セ
シメテ有益ナル者アリ

小村男 日本側ニ於テモ專門事項ニ關スル隨員アレトモ彼等ハ何レモ獨立ノ資格アル
モノニ非スシテ全權委員ノ諮問ニ應シテ意見ヲ發表スルノ職權アルノミニ過キス獨
リ全權委員ノミ講和談判ノ衝ニ當ル責任アルモノナレハ主義トシテ彼等ヲ列席セシ
メサルヲ可トス

「ウヰツテ氏」露國側ニ於テモ亦獨リ全權委員ノミ談判ノ衝ニ當ルノ責任アル者ニシテ
専門事項擔當隨員ハ全權ノ諮問ニ應シ其ノ意見ヲ發表スルノ職責アルモノニ過キサ
ルナリ依テ主義トシテ會議書記官タル隨員ノ外ハ各隨員ヲ會議ニ列席セシメサルノ
貴説ニ同意ス但シ事件ノ性質ニ依リ專門隨員中或者ヲ列席セシムルヲ得策トスル場
合モアルヘシト思ハル

小村男 右等ノ場合發生シタルトキハ其ノ各場合ニ付一々双方協議ノ上右必要ノ隨員
ヲ會議ニ列席セシメ其ノ意見ヲ徵スルコト、セハ可ナラム

「ウヰツテ氏」然リ次ニ協議ヲ要スルハ會議ノ時日ノ問題ナリ出來得ヘクハ不幸ナル
兩國ノ交戦ヲ一日モ早ク熄止シタキカ故ニ講和談判モ可成速ニ終了セムコトヲ希望
ス就テハ若シ幸ニ貴諾ヲ得ハ毎日兩回會議ヲ開クコトト爲サムト欲ス而シテ其ノ開
會時限ハ午前九時ヨリ正午迄並午後三時ヨリ五時半迄ト爲サムト欲ス貴意如何

小村男 出來得ヘクハ兩國ノ交戦ヲ速ニ熄止セシメムカ爲ニ最も迅速ナル方法ヲ以
テ講和談判ヲ進行セシムルノ貴意ハ主義トシテ本員ノ贊成スル所ナリ但シ萬般ノ準
備上ノ都合モアリ且旅館ヨリ當會議所ニ來ルニハ少クトモ三四十分ヲ要スルニ付朝

(contresigné) Le Ministre des Affaires Etrangères le Secrétaire d'Etat Comte Lamsdorff.

Pour traduction conforme :

(Signé) L'Adjoint du Ministre des Affaires Etrangères: Prince Obolensky.

七

ノ開會時間ヲ九時半ト爲ス方適當ナルヘシ又特種ノ事情ノ爲メ右毎日二回開會ノ原
則ニ遵由スルコト能ハサル場合生スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ双方豫メ協議
ヲ遂ケ次回開會ノ時日ヲ定ムルコトト爲シテ然ルヘシト思ハル

六

「ウヰッテ」氏 貴説ニ賛ス

小村男 本會議ノ豫備事項ニ關シ協議ヲ遂クヘキコト他ニ之レ無キヤ

「ウヰッテ」氏 本員ノ見ル所ニテハ總テ盡キタリト思ハル扱新聞通信案ハ如何ニスヘキ

ヤ

小村男 新聞通信者ニハ本日兩國ノ全權委員相會シテ本會議ニ對スル豫備的打合ヲナ

シ明日午前再會ヲ期シテ相別レタリ又會議ハ原則トシテ毎日兩回即チ午前九時半乃

至正午午後三時乃至五時半ニ開會セラレハシ云々ノ旨通示シテ可然ト思ハル

「ウヰッテ」氏 然リ又本日協議ヲ遂ケタル諸事項ハ之レヲ一個ノ文書ニ作成シ明日當處

ニ會合ノ際双方全權委員之ニ署名スルコト、セム

小村男 然リ而シテ右文書草案ハ一同旅館ニ歸リタル後安達「ナボコフ」兩氏協議ノ上之

ヲ作り双方全權委員ノ檢閱承認ヲ經ルコト、セム

「ウヰッテ」氏 可ナリ就テハ明朝九時半當處ニ於テ再會シ本會議ニ取掛ルコト、セム

小村男 諾

右ノ後數刻ノ雜話アリ午前十一時半各々相別レテ會議室ヲ去レリ

PAR LA GRACE DE DIEU
NOUS NICOLAS II,
EMPEREUR ET AUTOCRATE DE
TOUTES LES RUSSIES,

de Moscou, Kiow, Wladimir, Novogorod; Tsar de Casan, Tsar d'Astrakhan, Tsar de Pologne, Tsar de Sibérie, Tsar de la Chersonese Taurique, Tsar de la Géorgie, Seigneur de Plescow et Grand Duc de Smolensk, de Lithuanie, Volhynie, Podolie et de Finlande; Duc d'Estonie, de Livonie, de Courlande et Semigalle, de Samogitie, Bialostock, Carelie, Twér, Iugorie, Perm, Viatka, Bulgarie et d'autres; Seigneur et Grand Duc de Novgorod-inférieur, de Czernigow, Riasan, Polotzk, Rostow, Iaroslaw, Béloosersk, Oudor, Obdor, Condie, Witepsk, Mstislaw, Dominateur de toute la contrée du Nord; Seigneur d'Ibérie, de la Cartalinie, de la Cabardie et de la province d'Arménie; Prince Héritaire et Souverain des Princes de Circassie et d'autres Princes montagnards; Seigneur du Turkestan; Successeur de Norvège, Duc de Schleswig-Holstein de Stormarn, de Dithmarsen et d'Oldenbourg, etc. etc. etc. Savoir faisons par les présentes, qu'à la suite d'un désir manifesté par Nous et par l'Empereur du Japon de nommer les Plénipotentiaires chargés de se réunir à Washington pour délibérer sur les conditions de la paix et pour procéder à la signature d'un traité de paix définitif, Nous avons choisi et nommé, comme par les présentes Nous choisissons et nommons pour Nos Plénipotentiaires, Nos aînés et féaux Serge Witte, Notre Secrétaire d'Etat, Conseiller Privé Actuel, Président du Comité des Ministres et le Baron Roman de Rosen, Maître de Notre Cour, Notre Ambassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire près les Etats-Unis de l'Amérique, les autorisant non seulement à entrer en négociation avec les Plénipotentiaires du Japon, mais encore à arrêter, conclure et signer avec eux un traité de paix définitif, ainsi que tous les actes qu'il sera jugé nécessaire d'y rattacher, promettant sur Notre parole Impériale d'avoir pour agréable et d'approuver tout ce qui aura été arrêté, conclu et signé par Nos Plénipotentiaires en vertu du présent Pleinpouvoir, et d'y donner Notre Ratification Impériale.

En foi de quoi, Nous avons signé de Notre propre main le présent Pleinpouvoir et y avons fait apposer le sceau de Notre Empire. Donnée à Peterhof le 2 Juillet de l'an de grâce mil-neuf-cent-cinq et de Notre règne l'onzième année.

(Signé) NICOLAS.
(L. s.)

天佑ヲ保有シ全露西亞國皇帝獨裁君主波蘭王芬蘭大公其他ノ君位ヲ踐ミタル朕ニコライ第二世茲ニ宣ス朕及日本國皇帝ハ共ニ全權委員ヲ任命シ之ヲシテ華盛頓府ニ會合セシメ講和條件ヲ審議シ且講和本條約ニ記名調印スルノ任ニ當ラシメムトスルノ希望ヲ表明シタル結果朕ハ茲ニ朕カ全權委員トシテ老達忠誠ナル國務尙書兼大臣委員會議長「セルジウヰヰツテ」及官中別當亞米利加合衆國駐劄特命全權大使男爵「ローマンド、ローゼン」ヲ選任シ之ニ委ヌルニ日本國全權委員ト商議ヲ開始スルノミナラス又之ト講和本條約並之ニ添附スルノ必要アリト認メラルヘキ各文書ヲ決定締結シ及之ニ記名調印スルノ任ヲ以テス而シテ朕ハ朕カ全權委員ニ於テ本委任狀ニ基キ決定締結及記名調印スル所ノモノハ總テ朕カ意ニ適スルモノトシテ裁可シ之ニ朕カ批准ヲ與フヘキコトヲ誓約ス千九百五年朕ノ即位後第十一年七月二日「ベテルホフ」ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

ニコライ(親署)國璽

翻譯ノ正確ヲ證スル爲メ

外務大臣國務尙書 伯爵ラムスドルフ(記名)

外務次官 公爵オボレンスキ(記名)

講和談判筆記第一回本會議

明治三十八年八月十日午前十時十五分開會

列席者

日本 露西亞國

小村高平兩全權委員佐藤安達及落合書記官

「ウヰット」氏 「ウヰット」ローゼン兩全權委員「フランソン」「コロストヴェツ」及「ナボコフ」書記官

「ウヰット」氏 昨日日本全權委員ノ全權委任狀ノ譯文ヲ領收シタルカ該譯文ニハ副署ナカリシ、翻譯ノ原本ト一致ナルコトヲ證明スル外務次官ノ證明ナカリシ

小村男 我 皇帝陛下ノ全權御委任狀ハ原本ニ於テ御親署及副署アレトモ其ノ譯文ニハ何等證明ナキヲ我邦ノ慣例トス乍去若シ露國委員ニ於テ強テ譯文ノ證明ヲ必要トセラルルニ於テハ本員等ニ於テ之ヲ證明スヘシ

「ウヰット」氏 此ノ事タル全ク形式上ニ止マルモ譯文ノ原本ト相違ナキコトヲ公然證明セラル、コト必要ナリト思考スルヲ以テ願クハ左様取計ハレタシ

小村男 諾直ニ證明スヘシ

「ウヰット」氏 否唯形式上ノコトニ止マルヲ以テ後刻一午餐後ニナリトモ行ハレタシ

小村男 然ラハ後刻爲スコト、スヘシ
(是ニ於テ兩國全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示ス)

小村男 (陛下ノ御委任狀ヲ示シツ) ローゼン男ハ我 皇帝陛下ノ御親署ヲ記憶セラル
ハナラン

「ローゼン男 然リ

「ウヰッテ氏 日露兩國全權委員ノ携帶シ來リタル全權委任狀ニ重要ナル差違アルコト
ヲ認ム此ノ事ニ關シ爰ニ趣意ヲ明ニ爲シ置クヘキ必要アルヲ以テ其ノ趣意ヲ書面ニ
認メテ提出スルコトニ決セリ(トテ左ノ覺書ヲ出ス)

(原文ハ附屬書第一號)

「ポーツマス」一千九百〇五年 七月二十八日
八月十日

全露西亞國皇帝陛下ノ下名全權委員ハ左記ノ點ニ關シ日本國皇帝陛下ノ全權委員
閣下ノ慎重ナル注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ有ス

日本國皇帝陛下ノ全權委員閣下ノ全權委任狀ヲ熟閱シ之ヲ露西亞國皇帝陛下ノ署
名アラセラレタル全權委任狀ト比較シタルニ双方ノ間ニ一ノ重要ナル相違アルヲ
確メタリ

露西亞國皇帝陛下ハ其ノ全權委任狀中ニ露西亞國全權委員ノ約定若クハ署名セシ
モノハ凡テ之ヲ嘉納確認ス可キコトヲ誓約アラセラレタルニ日本國全權委員ノ全
權委任狀英譯文ニハ全權委員ノ議定スル所ノ各條項ハ朕親シク檢閲ヲ加ヘ其ノ妥
善ナルヲ認メテ後之ヲ批准スヘシトアリ

双方全權委任狀文ニ右ノ重要ナル相違アルヲ認ムルニ付下名ハ日本國全權委員閣
下ニ對シ我皇帝陛下ノ署名アラセラレタル全權委任狀ハ日本國全權委員ノ提示セ
ラレタル全權委任狀ト同一ノ範圍ニ之ヲ解釋ス可キコトヲ宣言スルノ止ムヲ得サ
ルヲ見ル

セルジ、ウヰッテ(記名)
ローゼン(記名)

日本國全權委員閣下

小村男 貴意了解セリ然ルニ露國委員ノ有セラル、委任狀ト雖之ニヨリ協定署名シタ
ル條約其ノ他ノ文書ニ對シテハ露國皇帝陛下ノ批准ヲ要スルコトハ無論ナラン

「ウヰッテ氏 皇帝陛下ノ批准ヲ要スルコトハ無論兩國共ニ必要ナリ然レトモ露國委員
ノ委任狀ニハ委員カ協定記名シタルモノハ如何ナルモノト雖皆露國皇帝陛下ニ於テ
之ヲ嘉納セラル、コトヲ明言シアリ然ルニ日本ノ方ニ於テハ皇帝陛下ニ於テ其ノ委
員ノ協定シタル條約ノ條項ヲ檢閲シ其ノ良好妥當ナルコトヲ認メタル上ニテ批准セ
ラルトアリ是レ即チ兩國全權委任狀ニ於ケル重要ナル相違ナリ

小村男 然レトモ兩國互ニ皇帝陛下ノ批准ヲ要スルハ勿論ノコトニシテ其ノ條件アル
以上批准ニ至ル迄兩國全權委員ノ權限ハ全ク同一ナリ

「ウヰッテ氏 然リ其ノ點迄ハ双方共ニ同一ナリ然レトモ其ノ後ハ同一ナラス露國皇帝
陛下ハ全權委員ノ決定シタルモノハ總テ嘉納スルコトヲ明言セラレタルモ日本皇帝
陛下ハ其ノ全權委員ノ決定シタルモノニシテ不可ナルモノアリト認メラル、場合ニ

ハ批准シ玉ハサルコトアルヘキ趣意ヲ留保セラレタリ是レ即チ重大ナル相違ナリ
小村男 昨日、ローゼン男ノ談ニ露國ニ於テハ今回ノ如キ委任狀ヲ與ヘラレ、コトハ其
ノ慣例ナリトアリタリ我方ニ於テモ今回ノ委任狀ノ如ク認メラル、コトハ我國ノ慣
例ニシテ如何ナル條約締結ノ場合ニ於テモ同一ノ形式ヲ用フルナリ

「ウヰッテ」氏 我露國ニ於ケル慣習ハ今回ノ委任狀ノ如ク認メラル、ヲ常トスルモ何レ
ノ場合ニ於テモ必ス然ルニアラス若シ皇帝陛下ニ於テ充分ノ信用ヲ措カセラレサル
委員ニ對セラル、時ハ今回ノ如クナラス例セハ露土戰爭後ノ全權委員トシテ伯爵、シ
ヴァアロフ及公爵、ゴルチアコフニ與ヘラレタル御委任狀ハ今回ノ如ク充分ナルモノニ
ハアラサリキ、セヴァストポール戰争後、オルロフ及男爵、ブリュネノフニ與ヘラレタル
モノハ今回ト同様完全ナルモノナリシ斯ノ如ク場合ニヨリテハ充分ニ御委任アリ場
合ニヨリテハ充分ナラサルコトアリテ毎時必ス完全ナルモノニハアラス然レトモ今
ヤ双方ノ委任狀ヲ同一ナラシムルコト能ハス又此ノ上論スルハ形式ニ止マルコトニ
關シテ議事ノ進行ヲ妨クルコト、ナルヲ以テ要スルニ實際上兩國全權委員ハ權限同
一ナルヲ必要トスルノ趣意ナルヲ以テ委任狀ノ實効ハ双方同一ト見做サム

小村男 然リ、双方ノ權限ハ批准交換ニ至ルマテハ全ク同一ナリ
「ウヰッテ」氏 然リ、左様心得ルコト、スヘシ
小村男 可ナリ
（次ニ前日ノ會議録ニ署名スルコトノ談トナリ小村全權委員ハ我方ニテ調製シタル

會議録ヲ出ス

「ウヰッテ」氏 會議録ノコトニ關シテハ双方間ニ約束アリテ之ニ遵ヒ調製スルコト、爲
リ居レリト思考ス

小村男 コレハ双方協議シ作りタルモノニシテ互ニ署名確認スヘキモノナリ
「ウヰッテ」氏 署名ハ形式ニ止マルコトナレハ午餐後ノコト、セム
（此時露國書記官、ブランソン氏彼方ニテ調製シタル會議録ヲ提出ス）

小村男 然ラハ今互ニ署名シ了ルヘキカ
「ウヰッテ」氏 是ハ二通署名スルコトヲ要スルカ貴方ノ會議録ハ英語ナリヤ

小村男 否佛語ニテ貴方提出ノモノト全ク同一ナリ
「ウヰッテ」氏 然ラハ署名セム
（爰ニ於テ双方全權委員會議録ニ署名了ル）

小村男 是ニテ手續ニ關スル問題ハ完了セリ就テハ直ニ緊要問題ニ移ルヘキカ
「ウヰッテ」氏 然リ、左様爲サレシコトヲ望ム

小村男 然ラハ爰ニ緊要問題ニ入ルヘシ之ニ先チテ一言日本全權委員ノ希望ヲ述ヘ置
カント欲ス今ヤ本員等ハ極メテ重要ナル任務ヲ帶ヒ來リ之ヲ果スニツキ充分ノ力ヲ
盡シ且充分誠實ヲ以テ之ニ當ラントス就テハ露國委員ニ於テモ同シク誠實事ニ當ラ
レンコトヲ望ム次ニ又談判上講和問題ニ直接ノ關係ナク又ハ枝葉ニ涉ルカ如キ事項
ハ務メテ之ヲ避ケント欲ス露國委員ニ於テモ此ノ點ニ付テハ同様ナラシコトヲ希望

「ウヰッテ」氏 本員等ハ今回露國ヨリ來リタルニ就テハ全然誠實ヲ以テスルノミナラス又腹藏ナク事ニ當ラント欲ス是レ重大ナル事柄ヲ成就セシムルニハ最も良好ノ方法ナリ故ニ本員等カ貴方ニ提言スルコトハ何レモ熟慮ノ末ニナスモノナルコトヲ了解セラレタシ次ニ相互間ノ談判ハ大綱ニ關シテ爲スコトヲ主トスル義ニ付テモ全ク貴見ニ一致ス何トナレハ大綱ニ付キテ意見ヲ鬭ハストキハ吾人ハ果シテ協商ニ到達スルコトヲ得ルヤ否ヲ速ニ知ルコトヲ得ヘケレハナリ

小村男 貴方ニ於テハ緊要問題ニ付開談ノ前何等言ハント欲セラル、コトナキヤ「ウヰッテ」氏 否一モ之レアルナシ

小村男 然ラハ如何ナル方法ニヨリ緊要問題ニ入ラントスルカニ付貴見如何「ウヰッテ」氏 ソハ如何ニセハ可ナラン乎蓋シ我方ニモ緊要問題ニ付テ抱持セル意見アリ之ヲ先ツ提言スヘキカ然レトモ閣下ハ外交上ノ經驗ニ富マル、ヲ以テ閣下ニ於テ何等適當ノ考案アラハ之ニ從フコト、スヘシ本員ノ考ニテハ先ツ貴方ヨリ如何ニシテ兩國間ニ平和ヲ結フヘキカノ意見ヲ聞キ其ノ上ニテ我方ノ意見ヲ提出スルコトトナサム

小村男 然ラハ日本政府ニ於テ平和回復ニ必要ナリト認ムル條件ヲ提出スヘシ右ニ關シ尙一言シタキコトアリ即チ該條件ハ箇條ニ認メアルヲ以テ露國全權委員ニ於テ之ニ對シ意見ヲ表セラル、ニ方リテハ各箇條ニ對シテ之ヲ爲サレンコトヲ希望ス即チ

右條件ハ各條ニ付互ニ研究センコトヲ欲ス

「ウヰッテ」氏 唯今述ヘラレタル小村男ノ意見ハ吾人ノ目的ヲ達スルニ最良ノ方法ニシテ毫モ異議アルナシ要ハ日本全權委員ヨリ先ツ條件ヲ示サレンコトニアルナリ今述ヘラレタル處ニテハ日本全權委員ノ提出セラル、條件ニハ理由ヲ附シ在ラサルモノノ如シ本員等ニ取リテハ理由ヲ附シ置カル、ヲ便宜ナリト思考ス然レトモ若シ日本ノ方ヨリ單ニ條件其ノ物ノミヲ示サル、コトナラハ本員等ハ之ニ付研究ヲ盡シ之ニ對スル本員等ノ意見モ亦書面ヲ以テ表示スルコト、ナサム而シテ此等ノ書類ハ總テ會議録ニ編入スルコト、ナスヘシ

小村男 然ラハ今日我方ヨリ條件ノ箇條ノミヲ提出シ其ノ理由ハ各條ニ付互ニ討議スル時ニ至リ之ヲ明ニスルコト、ナサン即チ我箇條ニ對シテ貴方ヨリ意見ヲ表示セラレヘク其ノ上ニ於テ順次各條ニ付双方口頭ニテ理由ヲ述ヘ意見ヲ討議スルコト、ナサム

「ウヰッテ」氏 我方ヨリハ貴方提出ノ各條ニ對シテ議スヘキモノト議スヘカラサルモノトヲ書面ニテ供述スヘシ蓋シ貴方ノ條件ヲ見サル前ニ於テハ何等ノ言ヲ爲ス能ハサルコト勿論ナリト雖條件ノ種類ニヨリテハ當初ヨリ全然其ノ主義タモ討議スルコト能ハサルモノアルモ測ルヘカラス兎ニ角貴方ノ條件ヲ受領シタル上之ニ對スル回答トシテ我方ノ對案ヲ提出セム

小村男 然ラハ其ノ上ニテ各條ニツキ意見ヲ討議スルコト、ナサム

「ウヰッテ」氏 諾

小村男 茲ニ我講和條件箇條書ノ英文ト之ニ對スル佛譯文アリ蓋シ佛譯文ハ之ニ添附シ置クヲ以テ貴方ノ研究ニ便ナルヘシト思惟シ昨夜急ニ之ヲ作成シタルモノナルヲ以テ或ハ英文ノ原本ト多少相違セル處アルモ知ルヘカラス故ニ英文ノ方ヲ本文ト認メラルヘシ

「ウヰッテ」氏 英文ヲ本文ト看做スコト正ニ領承セリ

小村男 サテ之ヲ提出スルニ際シテ一言スヘキコトアリ抑モ我 皇帝陛下ハ世界ノ平和ノ爲メ並人道ノ爲メ日露兩國間ニ平和ノ回復センコトヲ御希望アラセラレ本員等ニ命シ貴國全權委員ト會同シテ之ヲ商議セシメラル今爰ニ提出スル條件ハ日本政府ニ於テ穩和且和協ノ精神ヲ以テ按定シタルモノニシテ予等兩全權委員モ其ノ商議ニ當リ同ク穩和和協ノ精神ヲ以テ之ニ臨ムモノナルカ故ニ露國全權委員ニ於テモ同一ノ精神ヲ以テ之ニ對シ商議セラレンコトヲ希望ス

「ウヰッテ」氏 予等兩全權委員ニ於テモ全ク同様ノ精神ナリ蓋シ本員等カ帶有セル訓令モ穩和且和協ノ精神ヲ以テ成リ其ノ爲シ得ヘキ最終ノ點迄讓歩シ得ル事ニ成リ居レリ故ニ若シ此ノ談判中兩國全權委員間ニ一致ヲ見ルコト能ハサルモノアラハソハ兩國政府カ時局ヲ觀察スルニ於テ互ニ差違アルニ歸スヘキモノニシテ本員等ハ充分ニ和衷ノ精神ヲ以テ此ノ談判ニ臨ムモノナルコトヲ諒セラレタシ倍此場合ニ於テ本員ハ職務上ノ資格ヲ脱シ一個人トシテ小村男爵ニ對シテ最モ熱誠ノ意ヲ表シ且卑見ヲ

述ヘントス予ノ考ニテハ吾人ハ單ニ一時ノ平和ヲ結フカ爲メニ必要ト認ムル條件ヲ議スルニ止マラス吾人ノ義務トシテ兩國間ニ永久鞏固ナル平和ヲ成立セシメンカ爲メニ適當ナル條件ヲ議定センコトヲ欲ス露國皇帝陛下ノ平和回復ニ熱中アラセララルコトハ予等兩名ヲ選任セラレテ日露兩國間ニ鞏固ナル平和ヲ設定シ之ニヨリ將來互ニ衝突ヲ生スルコトヲ一切避ケ得ヘキ良好ノ關係ヲ造リ出サンコトヲ希望アラセラル、ニヨリ明ナリトス

小村男 予ハ閣下ニ確保セン我 皇帝陛下ニ於カセラレテモ全ク同一ノ御趣意ヲ有セラル又予ハ今回ノ談判ノ結果トシテ貴我兩國間ニ恢復セラルヘキ平和ハ將來ニ於テ兩國間ノ衝突ヲ避ケ且兩國間ニ最モ良好ナル關係ヲ設定スヘキ性質ノモノタルヘキヲ信ス

「ウヰッテ」氏 若シ貴方ヨリ提出セラル、平和條件ニシテ今述ヘラレタルカ如キ精神ヲ以テ按定セラレタルモノナランニハ吾人ノ希望ヲ達スルコト容易ニシテ良好友誼ノ關係貴我兩國間ニ設定セラルヘシ然レトモ之ニ反シ若シ貴方ノ條件ニシテ單ニ一時的解決ノ性質ノモノナランニハ寧ロ此際之ヲ締結セサルヲ可トセン何トナレハ更ニ爭鬭ヲ續行スルコトニヨリテ却テ兩國間ニ良好ナル關係ヲ作出スルニ一層適當ナル時勢ヲ誘致スヘケレハナリ

高平氏 永遠ノ平和回復ノ爲メ必要ナル條件如何ニ關シテハ我方ニハ自ラ我意見アリ然レトモ若シ貴方ニ於テ所謂永久鞏固ノ平和ヲ作成スルニ必要ナル事項ニ關シ何等

貴見ヲ示サル、ニ於テハ我方ニ於テモ之ヲ研究スルコトヲ幸トナサム

「ウヰッテ氏」該問題ニ關シ意見ヲ吐露スルコトハ予ノ最モ欲スル處ナリ即チ兩國間ニ永久且鞏固ナル平和ヲ設定センカ爲ニハ主トシテ双方行動ノ範圍ヲ劃定シ其所ニ於テハ甲國ノ爲スコトハ其ノ爲スカ儘ニ任セ乙國之ニ干涉若クハ防碍ヲ加ヘス又他處ニ於テハ乙國專ラ行動ヲナスカ如ク互ニ協定シ尙進ンテ一定ノ場所ト場合ニハ兩國互ニ政治的ノミナラス軍事的幫助ヲモ與フルコトニ至ル迄約定スルニ在リ
高平氏 今我方ヨリ提出スル條件タル若シ承諾セラレンニハ是レ即チ永久の平和ノ保障トナルヘキモノタルコトヲ言明スルハ予ノ希望ナリ
「ウヰッテ氏」 貴方ノ條件ハ未タ之ニ接セサルヲ以テ右ニ關シ何等意見ヲ述フルコトヲ得ス

小村男 借愈條件箇條書ヲ手交スルニツキ再ヒ繰返シテ言ハントス此ノ條件タル全然穩和且和協ノ精神ヲ以テ作成シタルモノナルヲ以テ之ニ對シテハ貴方ニ於テモ同様ノ精神ヲ以テ考究アラシムコトヲ望ム

「ウヰッテ氏」 條件如何ヲ閱悉スル迄ハ何等ノ意見ヲ述フルコト能ハス唯本員ノ恐ル、處ハ貴方ノ提出條件中露國ニ於ケル事物及形勢ヲ觀察セラル、上ニ於テ當ヲ得サル點ヨリ按出セラレタルモノアラサルカニ在リ

小村男 本員ハ茲ニ我講和條件ヲ交付セムトテ左ノ講和條件箇條書ヲ交付ス
講和條件箇條書

第一、露西亞國ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干涉セサルコトヲ約スルコト

第二、露西亞國ハ一定ノ期限内ニ全然滿洲ヲ撤兵シ且同地方ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ若クハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若クハ專屬的讓與及免許ヲ拋棄ス可キ旨ヲ約スルコト

第三、日本國ハ改革及善政ノ保障ノ下ニ其ノ占領中ニ屬スル滿洲全部ヲ擧ケテ清國ニ還附ス可キ旨ヲ約スルコト但シ遼東半島租借權カ其ノ効力ヲ及ホス地域ハ此ノ限ニアラサルコト

第四、日本國及露西亞國ハ清國カ滿洲ノ商工業ヲ發達セシメムカ爲メ列國ニ共通スル一般ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙セサルコトヲ互ニ約スルコト

第五、薩哈噠島及之ニ附屬スル諸島嶼並公共營造物及財産ハ總テ日本國ニ讓與セラレヘキコト

第六、旅順口、大連並其附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スルモノトシテ露西亞國カ清國ヨリ得タル一切ノ權利、特權讓與及免許並一切ノ公共營造物及財産ハ之ヲ日本國ニ移轉讓渡セラレヘキコト

第七、哈爾濱旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並之ニ附屬スル一切ノ權利、特權及財産及該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲メニ經營セラレ、一切ノ炭坑ハ何等ノ債

務及負擔ヲ伴ハシメスシテ露西亞國ヨリ之ヲ日本國ニ移轉讓渡スヘキコト

第八、滿洲橫貫鐵道ハ其ノ敷設ノ基ク特許條件ニ遵ヒ且商工業ノ目的ニ限り之ヲ使用スルノ條件ヲ以テ露西亞國之ヲ保持經營スルコト

第九、露西亞國ハ戰爭ノ實費ヲ日本國ニ拂戻スヘシ其ノ金額並支拂ノ時期及方法ハ双方ノ合意ヲ以テ之ヲ定ムルコト

第十、戰闘中損害ヲ被リ爲メニ中立港ニ避難シ抑留セラレタル露西亞國軍艦ハ凡テ正當捕獲物トシテ之ヲ日本國ニ交付スヘキコト

第十一、露西亞國ハ極東水上ニ於ケル其ノ海軍力ヲ制限スルヲ約スルコト

第十二、露西亞國ハ日本海、オコーツク海及、ベーリング海ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸灣港、入江及河川ニ於テ充分ナル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與スヘキコト

(原文英文及佛譯文ハ附屬書第二號及第三號)

「ウヰンテ」氏 熟覽ノ上意見ヲ草シ而シテ該意見書脱稿ノ後更ニ會見ヲ打合ハスコト、シタシ就テハ談判ハ此儘暫ク休會トナシ次會ハ更ニ協定スルコト、ナシタシ

小村男 諾然ヲハ會見ハ一時休止シ貴方ノ都合ヲ待ツコト、セム

「ロ、ゼン」男 我方ニ於テモ可成速ニ回答ヲ爲スコト、セム
(爰ニ於テ一同席ヲ去ラントスルヤ「ウヰンテ」氏ハ再ヒ着席シ顧ミテ)

「ウヰンテ」氏 茲ニ新聞紙ニ通知スルコトニ付互ニ協議ヲ爲スヘキ必要アルコトヲ想起セリ

小村男 然リ直ニ協定セム

(爰ニ於テ「ウヰンテ」氏ハ通知案ヲ誦シ「フランソ」氏之ヲ筆記シ之ニ對シ小村男ヨリ二三ノ注意アリ遂ニ左ノ如ク決定セリ)

新聞通知文

千九百五年八月十日ノ會議ニ於テ全權委任狀ノ問題ハ解決セラレ此點ニ付テハ最早困難ヲ存セス次ニ日本全權委員ハ講和條件ヲ書面ニ認メ露國全權委員ニ交付セリ露國全權委員ハ直ニ右書類ノ講究ニ着手シ可成速ニ書面ヲ以テ回答スルコトトシ會議ハ該回答ノ時迄休會セララルヘシ

(原文ハ附屬書第四號)

(右ニテ散會時ニ午前十一時五十分)

第四號

Dans la séance du 10 Août 1905, la question des pleins pouvoirs a été réglée de sorte qu'il n'y a plus de difficultés à ce sujet. Après cela les Plénipotentiaires du Japon ont transmis aux Plénipotentiaires de Russie les conditions de paix par écrit. Il a été décidé que les Plénipotentiaires de Russie se mettront sans retard à l'étude de ce document et donneront au plus vite une réponse par écrit. Jusque là les séances de la Conférence seront ajournées.

4. Japan and Russia reciprocally to engage not to obstruct any general measures common to all countries, which China may take for the development of the commerce and industries of Manchuria.

5. Sakhalien and all Islands appertaining thereto and all public works and properties to be ceded to Japan.

6. The lease of Port Arthur, Talien and adjacent territory and territorial waters together with all rights, privileges, concessions and franchises acquired by Russia from China, in connection with or as a part of such lease and all public works and properties to be transferred and assigned to Japan.

7. Russia to assign and transfer to Japan free of all claims and encumbrances, the railway between Harbin and Port Arthur and all its branches together with all rights, privileges and properties appertaining thereto, and all coal mines belonging to or worked for the benefit of the railway.

8. Russia to retain and work the Trans-Manchurian railway, subject to the terms and conditions of the concession under which it was constructed, and subject also to the condition that it is to be employed exclusively for commercial and industrial purposes.

9. Russia to reimburse to Japan the actual expenses of the war. The amount as well as the time and manner of such reimbursement to be agreed upon.

10. All Russian ships-of-war which, in consequence of damage received in battle, sought asylum in neutral ports and were there interned, to be surrendered to Japan as lawful prizes.

11. Russia to engage to limit her naval strength in the waters of the Extreme East.

12. Russia to grant to Japanese subjects full fishery rights along the coasts and in the bays, harbours, inlets and rivers of her possessions in the Japan, Okhotsk and Behring Seas.

第三號

(Translation)

1. La Russie, reconnaissant que le Japon possède en Corée les intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, s'engage à ne point obstruer, ni intervenir en ce qui concerne des mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée.

2. La Russie s'engage à évacuer complètement la Manchourie dans une période qui sera à être déterminée, et à abandonner tous les avantages territoriaux et toutes

les concessions et franchises préférentielles et exclusives qui sont attentatoires à la souveraineté de l'Empire chinois ou qui sont incompatibles avec le principe de l'opportunité égale.

3. Le Japon s'engage à restaurer à la Chine, sous la garantie de réforme et de bonne administration, toutes les parties de la Manchourie qui sont à présent occupées par lui, excepté seulement les régions sur lesquelles le bail de la presqu'île de Liao-tung a produit son effet.

4. Le Japon et la Russie s'engagent réciproquement à n'obstruer aucune mesure générale qui sera commune à toutes les nations et que la Chine pourra prendre pour le développement du commerce et de l'industrie en Manchourie.

5. Sakhaline, toutes les Îles y appartenant ainsi que tous les travaux et propriétés publics seront cédés au Japon.

6. Le bail de Port Arthur, de Talien, des territoire et eaux territoriales adjacents, ainsi que tous les droits, privilèges, concessions et franchises acquis par la Russie de la Chine, comme ayant rapport avec, ou comme partie de ce bail, de même que tous les travaux et propriétés publics seront cédés au Japon.

7. La Russie s'engage à céder au Japon, libre de toutes réclamations et charges, le chemin de fer entre Harbine et Port Arthur, et tous ses embranchements avec tous les droits, privilèges et propriétés y appartenant, de même que toutes les mines de charbon appartenant au susdit chemin de fer ou en exploitation pour son profit.

8. La Russie retiendra et exploitera le chemin de fer trans-manchourien, soumis aux termes et conditions de la concession en vertu de laquelle il a été construit, et de plus soumis à la condition qu'il doive être exclusivement employés dans le but commercial et industriel.

9. La Russie remboursera au Japon les dépenses réelles de la guerre. Le montant, le moment et le mode de ce remboursement seront convenus.

10. Tous les vaisseaux de guerre russes qui, par suite des dommages subis dans les combats, ont cherché l'asile dans les ports neutres et qui y étaient internés, sont à être remis au Japon comme prises légitimes.

11. La Russie s'engage à limiter sa force navale dans les eaux de l'Extrême Orient.

12. La Russie concédera aux sujets japonais les pleins droits de pêche le long des côtes, ainsi que dans les baies, havres, anses et rivières de sa possession dans les mers du Japon, d'Okhotsk et de Behring.

講和談判筆記第二回本會議

明治三十八年八月十二日午前九時四十五分開會

列席者 前回ニ同シ

小村男 先ツ前回會議録ノ署名ヲ爲サン乎

ウヰッテ氏 然リ

(双方ノ書記官互ニ其ノ作りタル會議録ヲ出シ兩國全權委員之ニ署名ス)

ウヰッテ氏 一昨日ノ會議ニ於テ貴方ヨリ交付セラレタル講和條件ニ關スル書類ハ之

ヲ査覈シタリ而シテ約ニ從ヒ爰ニ其ノ各條ニ對スル回答書ヲ提出ス

(トテ佛文ニテ認メタル左ノ回答書ヲ手交ス)

露國回答書

第一 第一條ニ對シテハ何等ノ異議ヲ存セス帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事
上軍事上並經濟上優越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ執事
コトヲ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ阻礙セス又之ニ干渉セサルヘキコ
トヲ約スルノ覺悟ナリ但シ露西亞國及露西亞國臣民ハ他ノ諸外國並其ノ國民ニ
現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有スヘキハ勿論ナリ且前
述日本國ノ措置實行ノ爲メニ韓國皇帝ノ主權ヲ侵害スヘカラサルコトト知ルヘ
シ又特ニ軍事上ノ措置ニ關シテハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ日本國ハ韓國

Portsmouth, le 28 Juillet 1905.
10 Août

第一號

Les Soussignés, Plénipotentiaires de S. M. l'Empereur de toutes les Russies ont l'honneur de signaler à la sérieuse attention de Leurs Excellences les Plénipotentiaires de S. M. l'Empereur du Japon ce qui suit:

L'examen attentif des pleins pouvoirs de Leurs Excellences les Plénipotentiaires de S. M. l'Empereur du Japon a constaté une différence importante dans cet acte en le comparant avec les pleins pouvoirs signés par S. M. l'Empereur de Russie.

En vertu du texte de ce dernier document S. M. l'Empereur de Russie promet par Sa parole Impériale d'approuver et de confirmer tout ce que les Plénipotentiaires auront stipulé ou signé.

Tandis que dans la traduction anglaise des pleins pouvoirs des Plénipotentiaires du Japon il est dit: "We shall examine all stipulations which Our said Plenipotentiaries may agree upon, and finding such stipulations proper and in good and due form, We shall ratify them."

Vu cette importante différence dans le texte des pleins pouvoirs respectifs, les soussignés se voient obligés de déclarer à Leurs Excellences les Plénipotentiaires du Japon qu'ils interprètent les pleins pouvoirs signés par S. M. l'Empereur leur Auguste Maître dans les mêmes limites dans lesquelles sont donnés ceux présentés par les Plénipotentiaires du Japon.

(Signé) SERGE WITTE.

(Signé) ROSEN.

第二號

1. Russia, acknowledging that Japan possesses in Corea paramount political, military and economical interests, to engage not to obstruct or interfere with any measures of guidance, protection and control which Japan finds it necessary to take in Corea.

2. Engagement on the part of Russia to completely evacuate Manchuria within a period to be specified and to relinquish all territorial advantages and all preferential and exclusive concessions and franchises in that region in impairment of Chinese sovereignty or inconsistent with the principle of equal opportunity.

3. Japan to engage to restore to China, subject to the guarantee of reform and improved administration, all those portions of Manchuria which are in her occupation, saving only the regions affected by the lease of the Liao-tung Peninsula.

ニ隣接セル露西亞國領土ノ安全ヲ侵迫ス可キ措置ヲ執ラサルヘシ

三十

第二、帝國政府ハ本條ノ前段ヲ承諾スルノ覺悟ニシテ露西亞國軍隊ヲシテ日本國軍隊ト同時ニ滿洲ヨリ撤退セシムルノ意向ナリ而シテ撤兵ノ細目及條件ハ追テ決定スルコトヲ得ヘシ同條ノ後段ニ關シテハ帝國政府ハ清帝國ノ主權ヲ侵迫スルノ性質ヲ帶ヒ及權利平等主義ト相容レサルカ如キ領土上ノ特權並獨占的讓與又ハ便益ニ付何等ノ主張ヲ有セサル旨ヲ聲明スルノ覺悟ニシテ帝國政府ハ之カ爲メ必要ノ保障ヲ與フヘシ右根本的原則ノ一旦明定セラレタル以上ハ露國全權委員ハ日本全權委員ニ提議スルニ第二條後段ニ關スル日本國政府ノ希望ヲ精確ニ言明セラレムコトヲ以テシ且帝國政府ニ於テハ日本國又ハ他諸國ノ利益ヲ侵害スヘキコトハ凡テ之ヲ排除セントスルノ意向ヲ有スルコトヲ宣言スルモノナリ滿洲ニ於テ公共的性質ヲ帶ヘル唯一ノ露國ノ私人的企業ハ東清鐵道ナリトス但シ同鐵道ニ關聯スル問題ハ特ニ他條ニ於テ講究シアリ

第三、帝國政府ハ本條ヲ承諾スルノ覺悟ナリ然レトモ滿洲ノ此等部分ニ於テ露西亞國及露西亞國臣民ハ同地方ニ於テ他ノ諸外國及其ノ國民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ保有ス可キハ勿論ナリトス遼東半島租借權カ其ノ効力ヲ及ホス諸地方ニ關シ露西亞國ハ此等地方ニ對スル其ノ權利ヲ日本國ニ讓與スルノ意向ヲ有ス然レトモ同地方ニ對スル清國ノ主權及右租借ニ關シ露西亞國カ清國政府ト締結シタル諸條約ニ鑑ミ右ノ如キ讓與ハ同政府ト協商ヲ經

ルニアラサレハ之ヲ爲スコト能ハサルヘシ

第四、帝國政府ハ本條記述ノ主意ニ對シ全然同意ヲ表シ若シ此ノ規定ニシテ日本國提出ノ條件中ニ挿入シアラサリセハ露西亞國ハ自ラ之ヲ提出スルヲ以テ其ノ義務ト認メタリシナルヘキコトヲ聲明ス

第五、薩哈噠島ニ對スル露西亞國舊時ノ權利ハ日本國カ未タ同島ヲ領有セス又ハ少クトモ其ノ大部分ニ對シテ毫モ領有權ヲ行ハサリシ時代ニ於テ既ニ存シタリシナリ加之薩哈噠島カ甚タ淺ク且僅ニ七露里ノ幅員ヲ有スル一海峽ニ依リテ大陸ト相隔ツルヲ以テ之ヲ觀ルニ同島ハ亞細亞ニ於ケル露領ノ自然的連續ニ外ナラス故ニ露西亞國ハ同島ノ讓與ニ同意スルコト能ハスト雖同島ニ於テ廣ク海上漁業及他ノ商事的企业ヲ營ムノ權利ヲ日本國ニ許與スルノ意向ハ充分之ヲ有スルモノナリ而シテ右ノ如キ營業ノ條件ハ特別ノ取極ヲ以テ之ヲ協定スルヲ得ヘシ

第六、帝國政府ハ本條ニ對シ異議ヲ有セサルヘシト雖同條所載地ニ對スル清國ノ主權ニ鑑ミ露西亞國ハ豫メ清國ト協商ヲ遂クルコトヲナシテ其ノ權利ヲ日本國ニ讓與スルコト能ハサルヘシ但シ露清兩國間ニ締約セラレタル該租借カ其ノ効力ヲ及ホス地方全部ニ於ケル個人ノ權利カ依然存續スヘキハ固ヨリ言フ俟タス

第七、帝國政府ハ主義ニ於テ本條ヲ承諾ス但シ日本國軍隊ノ現ニ占領中ナル鐵道

三十一

線ノ外ハ之ヲ拋棄スルコト能ハス而シテ右ノ條件ヲ以テ讓與スヘキ鐵道線ノ終點ハ双方合意ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要スヘシ然ルニ右鐵道線路ヲ敷設且經營スルノ特許ハ同地方ニ對シテ今尙主權ヲ保有スル清國ニ依リテ一ノ私立會社ニ與ヘラレタルモノナルコト並軍事占領ノ事實ハ毫モ同會社ノ權利ヲ侵害スルモノニアラサルコトハ之ヲ顧念センコトヲ要ス帝國政府ハ清國政府ニ向テ今日以後何時ニテモ右線路買上權ヲ行使スルコトヲ許シ且同會社ト協商スルコトハ同政府自ラ其ノ責ニ任スルノ覺悟ナリ而シテ同會社ノ所有ニ歸スヘキ買上代金ハ之ヲ日本國ニ讓與スヘシ

(備考) 露清銀行ニ本鐵道ノ敷設ヲ特許シタル露曆千八百九十六年八月二十七日(九月八日附條約第十一款ニヨリ清國政府ハ該線路完成開業後三十六箇年ヲ經ハ之ヲ買上クルノ權ヲ有セリ南滿洲線敷設ニ關シテハ露曆千八百九十八年六月十二日(六月二十四日附條約ヲ以テ前記條約ヲ適用スルコト、ナセ

第八、本條ニ對シテハ何等異議ヲ存セス鐵道會社ハ滿洲幹線並南滿洲支線中同會社ノ所有ニ殘存スヘキ部分ノ經營ニ關シテハ露曆千八百九十六年八月二十七日(九月八日附特許條約ノ條件ヲ恪守スヘシ同特許條約第八項ニハ該線路ニ依リ輸送セラルヘキ露西亞國軍隊及軍需品ハ清國領土内ニ停留スヘカラサル旨ヲ規定セリ

第九、露西亞國ハ本條ノ規定ニ同意スルコト能ハサルヘシ抑モ軍費拂戻ナルモノハ獨リ征服セラレタル國ノミ之ヲ爲スコトナリ然ルニ露西亞ハ征服セラレタル國ニ非ス凡ソ一國領土カ敵ノ爲メ僅カニ攻撃セラレタルニ過キササルニ際シ該國ハ自ラ以テ征服セラレタルモノト認ムルコト能ハス縱ヒ日本國カ黑龍江沿海州全部ヲ占領シタリトスルモ露西亞國ノ活力ハ毫モ之カ爲メニ侵害セラルヘキニアラスシテ露西亞國ハ尙戰爭ヲ繼續スヘシ獨リ日本國ノ戰捷軍カ露西亞國ノ内地ニ進入シタル場合ニ於テノミ露西亞國民ハ軍費拂戻問題ノ起リタル所以ヲ了解シ得ヘケム往年セバストポール陥落後ニ開催セラレタル巴里會議ニ於テタニ同盟列國ハ軍費拂戻問題ヲ起シ得ヘシト認メサリシ事實ハ露國全權委員ニ於テ日本全權委員ノ注意ヲ喚起セサルヘカラスト信スル所ナリ軍費ハ戰爭繼續ノ方盡キタル國ニヨリテノミ拂戻サル、モノニシテ此ノ如キハ決シテ露西亞國ノ現狀ニアラス

然レトモ帝國政府ハ軍費拂戻ヲ拒絕スルト同時ニ日本國カ仕拂ヒタル費用ニシテ戰爭其ノ物並露西亞國ノ損害ノ爲メニナシタルニアラスシテ戰爭ノ結果艱苦ニ陥リタル露西亞國人ノ利益ノ爲メニナシタルモノハ之ヲ日本國ニ賠償スルノ至當ナルヲ認識ス俘虜給養費病者其他ノ保護ニ關スル費用ノ如キハ即チ之ニ屬スルモノナリ

第十、露西亞國ハ此ノ要求ニ應スルコト能ハス國際關係ノ實際ニ於テ此ノ如キ要

求ヲ支持スルニ足ル可キ先例ヲ發見スルコトハ困難ナルモノ、如シ加之此ノ要
求ハ講和談判者双方カ以テ其ノ精神トナスヘキ平和的意思ト兩立スルコト難シ
縱ヒ中立港ニ於ケル露西亞國軍艦カ日本國ニ引渡サレタリトスルモ日本國カ之
カ爲メニ獲得スヘキ實質的利益ハ比較的僅少ナルヘシ又此ノ如キ條項ニ同意ヲ
與フルコトハ露西亞國ノ威嚴ト相容レサルモノナリ

第十一、外國ノ爲メニ此ノ如キ約務ヲ課セラル、コト是レ亦露西亞國ノ威嚴ト相
容レサルヲ以テ露西亞國ハ之ニ同意スルコト能ハス但シ帝國政府ハ近キ將來ニ
於テ太平洋ニ著大ナル海軍力ヲ維持スルノ意向ヲ有セサルコトハ之ヲ聲明シ得
ヘシト信ス

第十二、露西亞國ハ日本海、オコーツク海及ペーリリング海ニ瀕スル沿岸ニ於テ日本
國臣民ニ漁業權ヲ許與スル爲メ日本國ト協定ヲナスノ覺悟ナリ但シ右漁業權ハ
海洋ニ瀕スル沿岸ノミニ限リ入江及河川ニ及フコト能ハサルモノトス而シテ此
等方面ニ於テ既ニ露西亞國臣民又ハ外國臣民ニ屬スル權利ノ依然効力ヲ有スヘ
キハ言ヲ俟タス(原文ハ附屬書第一號)

小村男 然ラハ之ヲ翻譯セシメ研究ヲ加フヘシ之カ爲メ少シク時間ヲ要スルヲ以テ今
ヨリ直ニ研究ヲ始メ更ニ本日午後三時ニ會議ヲ開クコト、セム但シ貴方ノ便宜如何
ニ依リテハ延期スルモ可ナリ
ウヰヰッテ氏 今日午後三時會議ヲ開クコトニ關シテハ毫モ異議ナシ

小村男 然ラハ左様ニナスコト、シ本日午後三時再ヒ此處ニ會合シ其上直ニ討議ニ入
ルカ或ハ更ニ延期スルカヲ決セム

ウヰヰッテ氏 如何様ニテモ貴方ノ便宜次第ナリ然レトモ明日ハ日曜日ナルヲ以テ午前
ハ會議ヲ開カサランコトヲ希望ス若シ日曜日ニ拘ハラス會議ヲ開カントノコトナレ
ハ午後ニセラレタシ

小村男 全然同感ナリ若シ明日會議ヲ開クノ必要アラハ午後三時ニ開クコト、セム

ウヰヰッテ氏 左様ナサンコトヲ希望ス既ニ我方ヨリ回答ヲ提出シタル以上何時次回ノ
會議ヲ開クヘキカヲ決スルハ全ク貴方ノ都合ニヨルコトナリ只明日午前ハ日曜日ノ
コトナルヲ以テ休會シタシト云フノミ

小村男 了承セリ

ウヰヰッテ氏 本日會議ノ要領ヲ新聞紙ニ通信スルコトハ如何ニスヘキヤ今朝露國全權
委員ハ日本全權委員ノ提議ニ對スル回答ヲ交付シ今後ノ會議ハ日本全權委員ノ都合
ヲ以テ決スル日ニ開カルヘシトノ主意ニテ通信スルコト、センカ

小村男 可ナリ

(爰ニ於テ左ノ如ク通信文ヲ作り互ニ同意ノ上之ヲ發表スルコト、ス)

新聞通知文

八月十二日土曜日午前ノ會議ニ於テ露國全權委員ハ一昨日日本全權委員ヨリ提出
セラレタル條件書ニ對スル回答ヲ書面ニテ交付セリ次回ノ會議ハ日本全權委員ニ

於テ右回答書ヲ考究シ討議ヲ開始スルノ準備ヲ整ヘタル旨ヲ露國全權委員ニ通知シタルトキ之ヲ開クヘキコトニ決定セリ而シテ右會議ハ本日午後三時若クハ明日午後三時ニ開カルヘキ筈ナリ(原文ハ附屬書第二號)

小村男 此機ニ於テ一言スヘキ事アリ貴全權委員等ノ了知セラル、如ク當地ニハ各種ノ新聞記者集合シテ種々ノ報道ヲ爲シ或ハ全然想像ニ出テタル捏造説ヲ事實ラシク報スルモノアリ故ニ新聞紙ニ公表スヘキモノハ双方互ニ協議ノ上之ヲ決定シ而シテ後發表スルノ制ヲ設ケタル次第ニシテコハ最も事宜ニ適シタルモノナリ然ルニ過日來ノ新聞紙ヲ見ルニ此ノ會場ニ於テ双方間ニ協定シテ發表スルコト、爲シタル以外ノ事實多ク新聞紙ニ洩ル、ノ觀アリ斯ノ如キハ當初此ノ談判ニ關シテハ互ニ秘密ヲ守ルヘキコトヲ協定シタル主旨ニ反セリ故ニ今後相互ノ間尙一層注意シテ堅ク秘密ヲ守ルコトニ爲サンコトヲ欲ス

「ウヰッテ」氏 然リ彼等新聞記者ハ貴方ヨリ提出セラレタル條件ヲ殆ト盡ク公表セリ思フニ現在ノ如キ状態ニ在リテ新聞記者等カ議事ノ秘密ヲ探知スルヲ防クハ甚タ難事ナリ彼等通信員中ニハ本員ノ久シキ以前ヨリ知レルモノモ數名アリ其ノ中ノ一人ニシテ其ノ爲人ハ甚タ高尚ニ且信用ス可キモノナルカ其ノ者ノ談ニ據レハ通信員等ハ本員等カ貴方ノ條件ニ對シ爲サントスル回答案ヲ草シ居タリト云フ又貴方ヨリ提出セラレタル條件モ本員等カ此處ニ於テ貴方ヨリ之ヲ受領スル以前已ニ通信員等ハ其ノ大要ヲ知り居リタリ是レ蓋シ東京ニ於ケル通信員ヨリ聞知セルモノナラン彼等ハ

此等東京ヨリノ通信及歐洲新聞紙ノ口氣等ニヨリ種々ノ想像ヲ逞クスルモノニシテ之ヲ止ムルハ不可能ノ事ナリ本員ノ所見ニテハ之ニ處スル最良ノ方法ハ一層精細ニ會議ノ事實ヲ公ニスルニ在リ就テハ寧ロ講和條件及露國ノ回答ヲ公表シテハ如何然ラスンハ新聞記者等ハ多々益捏造説ヲ流布シ世人ハ多々益惑ハサレン今日迄ハ我方ニ於テハ何人モ談判ノ詳細ヲ泄シタルモノナク貴方ニ於テモ亦無論之レ無キコトヲ確信ス

小村男 新聞記者等カ想像ヲ逞クスルコトヲ止メント云フニアラス只談判ニ關スル消息ノ妄リニ洩ル、形跡アルヲ以テ双方ニ於テ協定シタル以上ノ事實ヲ洩スコトナキ様互ニ注意センコトヲ希望ストノ趣意ナリ

「ウヰッテ」氏 我方ニ於テハ何人モ約束以外ノ事實ヲ洩スモノナキハ之ヲ保障スヘシ又貴方ニ於テモ洩スモノナキハ本員ノ確信スル所ナリ

猶午後三時再ヒ此處ニ集ルコト、シテ散會セム其ノ場合貴方ノ都合ニヨリ更ニ會見ヲ延期スルヤ否ヤヲ決スルコト、心得ヘシ何レニシテモ本員等ハ午後三時ニ此處ニ來ラム

小村男 午後三時ニ會議ヲ開クヤ否ヤハ可成速ニ貴方ニ通知セム

「ウヰッテ」氏 否、只若シ今日ノ午後會議ヲ開カサルコト、決セラレナハ可成速ニ通知セラレタシ其通知ナキ限リハ三時ニ會見スルモノト心得待チ居ラム

小村男 承知セリ

(右ニテ休會時ニ午前十時三十分)

午後三時七分再開

小村男 今朝受領シタル貴方ノ回答ハ本員等之ヲ慎重ニ攻究シタリ之ヨリ前ニ協定シ置キタル如ク各條ニ就キ討議ヲ行ハントス

ウヰヰッテ氏 承知セリ

小村男 第一條ニ就キ一ノ修正案ヲ提出セム

(トテ左ノ英文案ヲ提出スナボコフ書記官之ヲ露譯シテウヰヰッテ氏ニ説明ス)

第一條修正案

第一條 露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干涉セサルコトヲ約スヘシ而シテ上記約束ノ下ニ於テ露西亞國及露西亞國臣民ハ他ノ諸外國及其ノ臣民又ハ人民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有スヘキハ勿論ナリ尙又日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ措置ハ互ニ之ヲ執ラサルヘキコト、知ルヘシ原文ハ附屬書

第三號

ウヰヰッテ氏 貴案ヲ閱スルニ我回答案ノ趣意ト異ナル處ハ只二點アルモノノ如シ其一

一ハ露韓間ノ國境ニ於テ露國若クハ韓國ノ領土ヲ侵迫スルカ如キ軍事上措置ヲ執ラサルコトヲ互ニ約スルコトニシテ其ノ二ハ韓國皇帝ノ主權ヲ侵害セサルコトノ條件ヲ除カレタルコトナリ此ノ第一ハ貴方ノ案理由アリ軍事上措置ノ禁止ヲ相互的ニ爲スコトハ公平ナルヲ以テ之ヲ承諾スヘシ只露國ノ方ニ於テ現ニ韓國國境附近ニ堡壘ヲ有セルモノアラハ之カ武裝ヲ解除スルコトハ爲シ難シ本員ハ韓國國境上ニ堡壘ノ存在セルヤ否ヤヲ知ラスト雖若シ存在セルニ於テハ本條ノ約束ヲ以テ之カ武裝ヲ解除セシムルコト能ハス即チ既ニ存在スル要塞又ハ堡壘ハ其ノ武裝ノ解除ヲ要セサルコトヲ條件トシテ日本ノ對案ニ同意セム

第二ハ韓國皇帝ノ主權ヲ尊重スルノ主意ヲ明ニスルモノナリコハ實際上ノ問題ニアラスシテ主義即チ國際上ノ主義ノ問題ナリ本員ノ意見ニテハ若シ本條中ニ於テ此ノ主義ヲ明言シ置カサルトキハ各國ノ反對ヲ喚起スルコト、ナラン本員ハ腹藏ナク云ハン此ノ事タル實際上ノ利害ニハ全ク關係ナキコトニシテ日本モ露國モ之ヲ明言スルコトニヨリ何等利害ノ影響ヲ受クルモノニアラス只此ノ明言ヲ缺クカ爲メ日露兩國ノ約束ヲ以テ一獨立國ヲ亡ホスカ如キコトヲ爲スノ觀ヲ與フルハ好マシカラス若シ爾カスルニ於テハ他ノ列國ノ抗議ヲ招クコト、ナラン

小村男 第一點タル國境ニ於テ領土ノ安全ヲ侵迫スヘキ措置ヲ避クルコトニ關シ我方ノ旨意トスル處ハ主トシテ將來ニ對スルモノナリ露韓間ノ國境ニ於ケル韓國ノ方面ニハ勿論何等堡壘アルナキハ爰ニ之ヲ確言スルコトヲ得露國ノ方ニモ露韓間ノ國境

ナル豆滿江左岸ニハ永久的堡壘アルナシ然レトモ今ヤ戰時ナルカ故ニ或ハ一時的堡壘ヲ臨時ニ築造シタルモノアルモ知ルヘカラス斯ノ如キハ之ヲ取除カンコトヲ要ス
「ウヰッテ」氏 本員ノ言フ所ハ一時的堡壘ニ非スソハ勿論取除クヘキモノナリ只戰時以前ニ築造セラレ今尙現存スル永久的堡壘アラハソハ其ノ儘存セシムヘシト云フノ義ナリ

小村男 然ラハ可ナリ

「ウヰッテ」氏 第二點ハ國際的主義ノ問題ニシテ實際上何等價値ナキモ主義上ヨリシテ此ノ明言ヲ除クハ日露双方ニ取リテ注意ヲ缺ケルコトナラン

小村男 此ノ點ニ付テ我方ノ主意ハ韓國ノ事ニ關シ將來日露兩國間ニ何等誤解ヲ生スルコトヲ充分ニ豫防スルコト最モ必要ナリト認ムルニアリ隨テ此際露國ニ於テ日本カ韓國ニ於テ充分ニ自由行動ヲ取リ得ルコトヲ承認センコトヲ緊要トス此ノ事ヨリシテ列國トノ關係上將來日本ノ行爲ニ付列國ト日本トノ間ニ如何ナル事ヲ生スヘキヤハ日本ト列國トノ間ニノミ關係スルコトニシテ爰ニ論スヘキ限ニ非ス此ノ處ニテハ日本ノ韓國ニ於ケル自由行動權ヲ露國ニ於テ承認センコトヲ主トスルナリ此ノ點ハ日本ニ於テ最モ重ク置ク所ナルカ故ニ露國ノ實際ノ利害ニ關係アラハ知ラス若シ果シテ實說ノ如ク實際上ノ價値毫無之ニ於テハ韓國皇帝ノ主權云々ノ字句ハ之ヲ削除スルコトニ同意セラレタシ此ノ事ヲ主張スルハ我方ニ取リテ絶對的ニ必要ナリ
「ウヰッテ」氏 本員ハ全ク腹藏ナク云ハン本員等ハ此ノ字句ニ付如何ナル利害ヲモ有セ

ス日本カ韓國ニ於テ如何ナル行動ヲ執ルモ我方ハ毫モ之ヲ妨クル意志ナキノミナラス今回ノ條約一旦締結セラレ兩國間ニ親密ノ關係ヲ設定スルコトヲ得ハ寧ロ進シテ我方ヨリ日本ノ行動ヲ贊助保障セント迄欲スルナリ然レトモ列國ニ對スル形式上此ノ會合ニ於テ一國ヲ處分シルカ如キ約束ヲ爲スハ穩當ナラスト思考ス實際ハ日本ニ於テ韓國ヲ自由ニ處分シ得ルノ他位ニ在リ然レトモ同國皇帝ノ主權ヲ尊重スルコトヲ一言シ置カサルハ不可ナラン

小村男 若シ此ノ會合ニ於テ列國トノ關係上日本ト露國トカ韓國ノ主權ヲ侵害スヘシトノコトヲ協定スルニ於テハ自ラ別問題ナルモ爰ニ論スルハ此ノ如キ事ニ非ス即チ日露間ニ約束セントスルコトハ韓國ノ主權ヲ認ムルヤ否ヤノ問題ニアラサルカ故ニ之ニ對シテ列國ヨリ故障ノ起ルヘキ筈ナキナリ目下ノ主旨ハ韓國ニ於ケル日露兩國ノ關係ヲ此ノ際明白ニ爲シ置カントスルニ在リ而シテコレハ兩國ニ取リテ必要ト認ムルカ故ニ此ノ點ハ我案ニ同意セラレンコトヲ切望ス

(此間安達氏ノ通辯アリ「ウヰッテ」氏熱心ニ耳ヲ傾ケテ之ヲ聽ケリ)

小村男 又列國ノ故障云々ノコトハ今後日本カ如何ナルコトヲ爲スマニ存スルコトニシテ露國ニハ關係ナキコトナリ

(安達氏ノ通辯ニ加ヘテ「ナポコフ」氏「ウヰッテ」氏ニ説キシモ「ウヰッテ」氏ハ「予ハ了解セスト」獨語セリ)

小村男 故ニ過刻ヨリ「ウヰッテ」氏ノ幾回カ明言セラレタル如ク事實上露國ノ利害ニ關

係ナシトノコトナレハ斯ル語句ハ之ヲ削ルコトニ同意アラシク切望ス

「ローゼン男 本員ハ小村男トウヰテ氏トノ談話ノ間ニ意思ノ充分疏通セサル所アリト信スウヰテ氏ノ意見ハ日本カ韓國ニ於テ自由行動權ヲ有スルハ勿論ノコトニシテ此ノ點ニ就キ一ノ疑問ヲ存セス

(次ニ「ローゼン男ハ韓國皇帝ノ主權云々ニ關シテ説明ヲ試ミントシテ其ノ要點ヲウヰテ氏ニ質シウヰテ氏之ニ答ヘテ兩氏ノ間ニ久シキ露語ノ問答アリ其ノ大體ノ趣意ハ韓國ノ獨立ヲ侵害スルカ如キ約束ヲ避クルハ必要ナリト云フニ在リ)

「ローゼン男 ウヰテ氏ノ趣意ハ實際全ク小村男ノ意見ト同様ナレトモ只之ヲ條約ノ一條トシテ書キ下スニ當リ其ノ書方如何ニ付小村男ノ提議ニ満足セサル所アリ小村男ノ提議セラレタル條文案ヲ讀ムトキハ恰モ兩國ノ合意ヲ以テ韓國ノ獨立ヲ處分スルモノノ如ク感セシム然ルニ韓國ノ獨立ハ貴全權委員ト雖亦本員等ト雖之ヲ隨意ニ處分シ得ヘキ事柄ニハアラス

(此ノ間ウヰテ氏「ローゼン男ニ私語シ「ローゼン男ハ少シツ、説明セントシ談話混亂シテ要領ヲ得ス)

「ローゼン男 ウヰテ氏ノ論旨ハ只吾人ハ一國ノ運命ヲ處分スルノ權利ヲ有セスト云フニ在リ而シテ此ノ事ハ此ノ條文ヲ書クニ當リ、、、、

小村男 本員カ言ハント欲スルハ此ノ條文ニ於テハ主權ニ及ホス影響如何等ノ問題ニ關係スルコトナキヲ要スルナリ主權ノ問題ハ全然別事ナリ只此ノ第一條ニ於テ吾人

ハ日露兩國間ニ將來起リ得ヘキ衝突ノ一切ノ原因ヲ全然排除シ置クコトヲ極メテ必要トスヘシ而シテ若シ今後日本カ韓國ニ於テ執ル所ノ行動如何ニツキ他ノ列國ヨリ何等故障ニテモ起ラハ是レ日本ノ獨リ關係スヘキコトニシテ露國ノ責任ト何等關係ナシ

ウヰテ氏 實質上ニ於テハ双方ノ議論全ク一致セルヲ以テ其事ヲ會議録ニ認メ置カハ可ナラン

小村男 本員等ノ言ハ無論會議録ニ殘ラシウヰテ氏ハ實質上同一ナリト屢云ハルルモ氏ノ提議ノ如ク韓國ノ主權ヲ全然其儘ニ保續スルカ如キ主意ニハ斷然同意スルコト能ハス本員ノ言ハント欲スルハ日本ハ韓國ノ同意ヲ以テ種々ノ行動ヲ爲スニ於テ全然自由ナルコトヲ要スト云フニアリ抑モ韓國ノ主權ナルモノハ既ニ今日ト雖完全ナルモノニアラス日本ハ既ニ同國ト協約ヲ訂シ同國主權ノ一部ハ日本ニ委セラレ韓國ハ外交上日本ノ承諾ナクンハ他國ト條約ヲ締結スルコト能ハサルノ地位ニ在リ貴全權委員ノ所論ハ一方ニ於テ日本ノ完全ナル自由行動ヲ認ムト言ハル、モ此ノ點ニ於テ其ノ認メタル自由ヲ制限セントセラル、コト、ナル

(ウヰテ氏「ローゼン男ニ私語ス其ノ大意ハ實質上日本ノ提議ニ同意スルモ只主權ノ事ニ關シ何事モ云ハサレハ誤解ヲ生スヘシト云フニ在リ)

「ローゼン男 本員等ハ毫モ日本ノ自由行動ニ對シテ權利ヲ留保セントスルノ意思ヲ有セス此ノ事ハ日本ノ獨リ關係スヘキコトナリト言ハル、モ露國ノ側ヨリ見レハ露國

カ他ノ一國ノ主權ヲ侵害スルカ如キ意味ヲ有スル條約ヲ結フハ外觀上甚タ好マシカ
ラスト云フヘシ

四十四

小村男 此ノ點ハ日本ニ於テ非常ニ重大視スル所ニシテ本員等ハ我事業ニ累ヲ貽スカ
如キ規定ニ同意スルコトハ斷シテ爲スコトヲ得ス

「ウヰッテ」氏 國際法上ノ點ヨリ此ノ事ヲ見ハ其ノ結果如何若シ他日——數年ノ後——
別國カ露國ニ對シ露國ハ韓國ノ主權ヲ奪ヒ去ルカ如キコトニ同意セルヤ否ヤト問ハ
レムニハ露國タルモノ如何ニ之ニ答フヘキカ

小村男 露國ニ於テ此ノ規定ニ同意シタルカ爲メ別國ヨリ此ノ如キ質問ヲ受ケナハ露
國ハ只韓國ニ於ケル日本ノ自由行動ヲ認メタリト答ヘテ可ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ再ヒ腹藏ナク言ハシ實際ニ我方ハ本件ニ付何等ノ利害ヲ有セス我
方ハ韓國ノコト全ク日本ノ處置ニ一任スルヲ以テ此ノ事ハ實質上ノ問題ニアラス全
ク形式上ノ問題ナリ故ニ若シ之ヲ條約ニ記入セサルニ於テハ之ヲ會議錄ニ掲載スル
コト、爲シタシ此ノ事カ實質上ノ問題ニアラス純然タル形式上ノ問題タルコトハ双
方同意セルモノト考フルヲ以テ何等カ一ノ形式ヲ以テ此ノ語句ヲ存シ置キタシ

小村男 此ノ事ヲ以テ單ニ形式上ノ問題ナリト論セラル、コトハ屢々之ヲ聞キタリ然
レトモ日本ニ取リテハ此事ハ非常ニ重キヲ措ク所ニシテ決シテ單ニ形式上ノミノコ
トニアラス實際ノ利害ニ於テ重大ノ關係ヲ有スヘシ

「ウヰッテ」氏 此ノ問題ニ關スル日本ノ地位ハ本員等ニ於テ能ク了解セリ今回ノ戰爭ハ

此ノ事ヨリ起リタルモノニシテ戰爭ニ於ケル日本ノ今日迄ノ成行ハ既ニ吾人ノ見ル
所ノ如クナル以上本員等ハ韓國ニ於ケル日本ノ行動ハ啻ニ日本ニ一任シテ毫モ關係
セサル趣意ナルノミナラス尙今回ノ條約ニシテ幸ニ成立シ兩國ノ關係親密トナラハ
日本ノ韓國ニ於ケル行動ハ却テ露國ニ於テ之ヲ贊助シ之ヲ保障セントスルモノナリ
然レトモ條約ハ一旦成立シタル以上ハ之ヲ秘密ニ付スルコト能ハス必ス公然知ラル
ヘキモノナルヲ以テ其ノ締結スル條文ニ於テ決シテ第三國ヨリ非難セラレサル丈ケ
ノコトハ之ヲ爲シ置カサルヘカラス今若シ露國ハ日本トノ條約ニ於テ此ノ如キコト
ニ同意シ調印シタリトセハ露國ハ其ノ之ニ關スル地位ヲ如何ニ説明スヘキ乎故ニ日
本今後ノ處置ニシテ韓國主權ニ影響ヲ及ホスヘキ事柄ハ韓國ノ同意ヲ經テ爲ストカ
何レカノ主意ヲ明ニナシ置カンコトヲ欲ス

小村男 若シ貴方ノ意見タル日本カ將來韓國ニ於テ執ル所ノ措置ニシテ韓國ノ主權ニ
關係スルモノニ就テハ韓國政府ノ贊同ヲ得テ爲スヘシトノコト及露國ハ韓國ニ於テ
日本ニ行動ノ自由ヲ與フルノミナラス將來日本カ執ル所ノ措置ニ對シ贊助ヲ與フヘ
シトノ意ヲ會議錄ニ留メ置カンコトナラハ本員ニ於テモ之ニ同意セム

「ウヰッテ」氏 此事ハ二點ニ分チテ論セサルヘカラス第一ニ日本ノ韓國ニ於テ執ル所ノ
措置ニシテ韓國ノ主權ニ關係スルモノハ韓國ト合意ノ上ニ行フトノコトハ必ス之ヲ
會議錄ニ記載シ置カンコトヲ欲ス第二ノ露國カ贊助ヲ與フル云々ノコトハ一般ニ關
スルコトナリコハ全ク予一己ノ見ヲ以テ全體ニ涉リテ爲サントスル議論ニシテ幸ニ

四十五

本條約ノ調印ヲ見鞏固ナル關係成立セハ之ヲ實行スル上ニ於テ互ニ援助ヲナサント云フ義ナリ蓋シ貴我双方ノ地位ヲ判然劃定シ而シテ之カ實行ニ於テ互ニ誠實ニカヲ致スハ極メテ必要ノコトニシテ之ヲ缺クトキハ大ナル禍ヲ爲スコトアリ今回ノ戰爭ノ如キ其ノ明證ナリ今回ノ戰爭タル日露兩國ニ取リ厭フヘキ慘禍ナリ予ハ日本ニ取リテモ慘禍ト云ハシ何トナレハタトヒ貴國ハ戰爭ニ於テ今日迄著々成效セラレタルモ之カ爲メ有形無形共ニ受ケラレタル損害ハ極メテ大ナレハナリ此ノ慘禍ヲ避ケル爲メ吾人ハ互ニ協商ヲ遂ケ第一ニ双方ノ自負心ヲ損傷スルコトヲ避ケ第二ニ双方ニ於テ自ラ條約ヲ守ルノミナラス若シ他國カ此ノ條約ヲ犯サントセハ互ニ援助ヲ與ヘ之ヲ防カント云フニ在リ是レ一般ニ關スルコトナリ

小村男 貴意ハ明ニ之ヲ了解セリ先ツ此ノ第一點ヨリ定ムルコト、セム此ノ主意ヲ會議録ニ留ムルコトハ本員ニ於テ異議ナク我方ニ於テ韓國ニ對シ行動セントスルニ付テハ常ニ此ノ主意ヲ以テスルナリ

「ウヰッテ」氏 然ラハ其ノ趣意ヲ條約ニ掲ケ置キタシ

小村男 否會議録ニ留ムルコトハ同意スルモ條約ニ上スコトハ絶對ニ不同意ナリ

「ウヰッテ」氏 然ラハ會議録ニ掲ケタルコトニ同意セム然レトモ會議録ニハ明ニ之ヲ記入シテ他日露國カ此ノ事ヨリ他國ノ利害ニ影響スルノ規定ニ同意シタル故ヲ以テ他國ヨリ説明ヲ求メラレタル場合ニ之カ説明トシテ會議録ヲ一見セハ直ニ他ノ了解シ得ル如ク爲シ置カンコトヲ希望ス



小村男 承知セリ然ラハ之ヨリ此ノ會議録ニ記入スル語句ノ起草ニ移ラム

「ウヰッテ」氏 一時休憩シテ起草セシメンカ

小村男 否着席ノ儘ニテ爲サハ如何

「ウヰッテ」氏 然ラハ左様ニ取計ハム

小村男 双方ノ書記官ヲシテ協同起草セシメム

（書記官文案ヲ草シ始メ約二十分ノ後了リテ之ヲ朗讀シ兩國全權委員同意決定ス即チ左ノ如シ）

日本國全權委員ハ日本國カ將來韓國ニ於テ執ルコトヲ必要ト認ムル措置ニシテ同國ノ主權ヲ侵害スヘキモノハ韓國政府ト合意ノ上之ヲ執ルヘキコトヲ茲ニ聲明ス

（原文ハ附屬書第四號）

「ウヰッテ」氏 貴方ノ第一條對案ニ於テ當初ハ心付カサリシカ今ヤ更ニ一點我方ノ趣意ト異ナリタル所アルヲ發見セリソハ露國及露國臣民カ韓國ニ於テ他國及他國臣民ト同様ノ權利ヲ享受スルコトヲ規定スル處ニ於テ之ニ上記約束ノ下ニ於テナル一句ノ挿入シアルコト是ナリ此ノ文句ハ獨リ露國臣民ノ享受スル權利ニ對シテノミ一ノ制限ヲ加ヘントスルモノ、如クニ解セラル、ヲ以テ同意スルコト能ハス若シ此ノ事カ各國共同様ナルニ於テハ同意スルニ躊躇セサルモ斯ノ如クハ獨リ露國ノミ不利益ノ地位ニ立ツコト、ナルヲ以テ之ヲ除去セラレンコトヲ希望ス

小村男 此ノ事ハ獨リ露國人ノミニ對シテ施サント云フコトニアラス他國人ニ對シテ

モ無論同様ナリ

「ウヰッタ氏」 爾カ云ハル、モ此ノ書方ニテハ露國人ノミニ加ヘラレタル制限ト解セラ
ル故ニ全然之ヲ除去セラレンコトヲ欲ス然レトモ若シ之ヲ存シ置クノ必要アラハ此
ノ制限ハ均シク各國人ニ係ル如ク修正セラレンコトヲ希望ス

小村男 此ノ條項ハ各國人ニ係ルモノニシテ文理上貴全權委員ノ解セララル、カ如クニ
ハ見ヘス

「ウヰッタ氏」 之ヲ各國ト同様ニ解セララル、カ如ク修正セララル、ニ於テハ同意スヘシ其
ノ書方ハ種々アルヘシ要スルニ各國共ニ本條ノ冒頭ニ認メタル規定ノ制限ヲ受クル
モノタルコトヲ明記シ置ケハ可ナリ

小村男 他國ノ權利即チ韓國ト外國ニ關スル事項ヲ本席ニ於テ貴我兩全權委員ノ間ニ
定ムルカ如キハ爲シ能ハサルノコトナリ趣意ニ於テハ素ヨリ露國モ各國モ同様ナル
モ其ノ事ヲ茲ニ定ムルコトハ不可能ナルヘシ

「ウヰッタ氏」 然レトモ、
小村男 今協定セントスルハ日露兩國間ノ事ニ止マリ他國ニ關スルコトヲ此處ニテ決
定スル能ハス故ニ我案ノ如クスルヲ必要トスヘシ

「ウヰッタ氏」 貴方ノ案ニテハ貴説ノ如ク露國カ各國ト同様ニナルモノナルコトハ認メ
得ラレス各國ハ日本ノ爲ス所如何ニ拘ハラス各自ヲ有スル所ノ權利アルヘシ
小村男 將來韓國ニ於ケル列國ノ關係ニ就テハ各國ハ日本カ韓國ニ於テ執ル所ノ措置

ハ均シク之ヲ承認スルコト、ナルヘシ故ニ列國カ韓國ニ於テ有スル權利ハ本條文ノ
冒頭ニ云ヘル條件ニ服従スルコト、ナルヘク隨テ露國モ列國モ同一ノ取扱ニ歸スヘ
シ然レトモ此處ニテ約束スルコトハ日露間ノコトニシテ列國ノコトハ日本トノ間ノ
關係トナル此ノ兩關係ハ全ク二様ノコトニシテ混同シテ之ヲ論スヘカラス外國ニ關
スルコトヲ此處ニテ定ムルハ爲シ能ハサルノコトナリ

「ウヰッタ氏」 貴見ニ付キテハ至極同感ナリ然レトモ此ノ書方ニテハ今述ヘラル、カ如
キ趣意ハ認メ得ラレス故ニ其ノ趣意ニ解セララル、如ク修正セラレタシ然ラズンハ本
員ハ之ニ同意スルコト能ハス

小村男 曩ニモ述ヘタル如ク此處ニテ列國ヲ束縛スルカ如キ規定ヲ設クルハ爲シ能ハ
サルコトナリ故ニ斯ノ如ク認ムルヨリ他ニ方法ナシ

「ウヰッタ氏」 然レトモ若シ日本カ韓國ニ於テ執ルヘキ措置ニシテ他國ノ之ヲ承認セサ
ルモノアラハ如何其ノ場合ニハ露國獨リ此等措置ニ羈束セラル、ノ地位ニ立チ他國
ハ羈束ヲ受ケスシテ諸種ノ權利ヲ有スルコト、ナルヘシ是レ本員等ノ承諾スル能ハ
サル所ナリ

小村男 他國カ日本ノ措置ヲ承認スルヤ否ヤハ別問題ニシテ爰ニ論スヘキコトニアラ
ズ
「ウヰッタ氏」 要スルニ双方ノ趣意ハ同一ニシテ其ノ異ナル所ハ書方如何ニ在ルヲ以テ
双方ノ書記官協同シテ更ニ文案ヲ作り之ニ兩全權委員同意スルコト、爲サハ可ナラ

（此時双方ヨリ種々ノ文案ヲ出ス）

小村男 此ノ上記約束ノ下ニ於テナル字句ヲ文章ノ終リニ移スコト、セハウヰッテ氏ノ云ハル、如ク獨リ露國ニノミ係ルコト、解セラル、ノ憂ナカラム

（此ノ時ウヰッテ氏ローゼン男其ノ他露國書記官間ニテ此ノ文句ハ全ク無用ナリ何故ニ強テ挿入セントスルヤト私語セリ）

小村男 本員ノ述ヘタル如クセハ明了トナルナラム

ウヰッテ氏 趣意ニ於テハ異議ナキモ斯ノ如クスルトキハ尙ホ疑ヲ存スルコト、ナル小村男 日本政府ハ韓國ニ於テ露國臣民ニ對シ區別的取扱ヲ與フルノ意思ハ毫モ之レアル無シ前ニ云フカ如ク此ノ文句ヲ終リニ置カハ其ノ趣意明了トナルヲ以テ斯クセシコトヲ欲ス

ウヰッテ氏 斯ノ如クスルモ尙明瞭ナリト云フヲ得ス

小村男 貴説甚タ解シ難シ露國カ既ニ冒頭ノ趣意ヲ認メ承諾シタル以上ハ露國及露國臣民ノ享有スル權利ニ對シ此ノ第一ノ約束ヨリ生スル羈束ノ加ヘラル、コトヲ明言スルハ當然ナリ

ウヰッテ氏 本員ハ之ニ同意スルコト能ハス日本ニ於テ如何ナル措置ヲ執ルモ之ニ對シテ露國ハ何等故障ヲ唱フルコトナシ然レトモ露國ノミ他ノ諸外國ニ比シ不利益ノ地位ニ立ツノ虞アル書方ニテハ到底同意スルコト能ハサルヘシ



小村男 要スルニ區別的取扱ヲナサシコトヲ痛ク危惧セラル、カ如キヲ以テ此ノ文句ハ之ヲ修正シ他國及他國臣民又ハ人民ノ前ニ商業及居住ニ關シナル一句ヲ加フルコト、セム此ノ如クセハ双方共ニ趣意ヲ達スルヲ以テ異議ナガラム

（此ノ時ローゼン男小村男ノ提議ヲウヰッテ氏ニ露語ヲ以テ説明セントシテ商業及居住ニ關シト云フヤ否ヤウヰッテ氏ハ頗ル不満ノ顔色ニテ然ラハ航海業ハ如何治外法權ハ如何ナト頻ニローゼン男ニ語レリ）

ローゼン男 貴方ノ提議ニテハ甚タ不充分ナル點アリ故ニ各國同様前記約束ノ範圍内ニ於テ一切ノ權利ヲ享有スルコト、ナサ、レハ不可ナリ（註、各國モ露國ト同一ノ約束ニ服從セシメ而シテ露國ハ之ト同シク一切ノ權利ヲ享有スルノ意ナリ）

ウヰッテ氏 要スルニ最惠國ノ待遇ヲ受レハ可ナリ此ノ事タル双方異議ナキ所ニシテ我方ノ書方ニテ充分明了ナリ之ニ同意セラレサルハ如何ナル理由ニ因ルヤ

小村男 然リ最惠國ノ權利ヲ享有セシムルコトニ於テ毫モ異議アルナシ然レトモソハ日本ノ執ル所ノ措置ニ服從シテノ上ナルコトヲ明ニセント欲スルナリ商業及居住ニ關シト爲サハ此ノ如クナルヘシ

ローゼン男 爾カセンニハ其ノ以外ノコトハ最惠國ト同等ノ取扱ヲ受ケサルコト、ナルニアラスヤ

ウヰッテ氏 貴説ヲ聞クニ隨ヒ當初ハ單ニ字句ニ關スル問題ナリト思ヒ居リタルモ然ラスシテ其ノ他實際上ノ問題モ之レアルモノ、如シ果シテ然ルヤ否ヤヲ知ラント欲

ス貴全權委員ハ曩ニ露國人ハ決シテ他國人ト異ナリタル待遇ヲ受クルコト無キコトヲ明言セラレタリ然ラハ其ノ通りニ認メナハ可ナルニ何故之ニ同意セラレサルヤ要スルニ趣意ニ様ニ見ユ若シ露人ノ取扱全ク他國人ト同等ナルニ於テハ其ノ通りニ認メテ然ルヘシ若シ其ノ通りニ認ムルコト能ハストナラハ是レ取扱ノ異ナル場合アルコトヲ意味スルナラン然ラハ又更ニ何故ニ斯ル場合ヲ取除キ置クコトヲ得サルヤヲ論スヘシ

小村男 然ラス今韓國ニ於テ他國人種々ノ權利ヲ有スコハ皆日本カ韓國ニ於テ執ルヘキ措置ニ服從シテノコトナリ露國臣民カ韓國ニテ各種ノ權利ヲ享有スルコトモ亦同様ノ制限ニ服從スルコトヲ條件トセサルヘカラス即チ政治上外交上日本ノ執ル措置ニ服從スルノ條件ヲ明ニスルコトヲ必要トス

(此ノ間又露國全權ノ問ニ私語ヲ始ムウヰヰッテ氏ローゼン男ニ對シ稅率及居住ノ件ノ如キハ如何シテモ各國民ト露國民ト同等ナラサルヘカラスト云ヒローゼン男ハ更ニ調停的ニ説明シテ此條項ノ冒頭ノコトハ政治上ニ關スルコトニシテ第二點ニ於テハ此ノ第一點ノ條件ニ服從スヘキコトヲ明ニセントスルモノニシテ此ノ規定ナクシテ政治上ニモ及フコトヲ日本全權委員ニ於テ懸念セルナラント云フウヰヰッテ氏ハ之ニ對シ政治上ノコトニテモ第三國カ或權利ヲ得ハ露國ハ之ニ均霑スルコト能ハサル場合生スヘキガ如何ト云ヒ双方久シキニ涉リ私議セリ此ノ會談ノ間ローゼン男ハ時々ウヰヰッテ氏ノ所論ヲ小村男ニ説明セントシテ屢言ヲ發シタルモ其

ノ説明ノ了ラサルニ先チウヰヰッテ氏ヨリ更ニ質問又ハ議論ヲ注カレ稍秩序ヲ失セントスルノ觀アリキ)

「ローゼン男 何故此ノ條件ヲ露國人民ニノミ明ニ加ヘントセラル、ヤ其ノ理由ヲ聞カント欲ス

小村男 其ノ故ハ今日茲ニ議論スルコトハ日露兩國間ノ事ナレハナリ既ニ屢次述ヘタル如ク他國ニ關スルコトヲ此處ニテ決スルコト能ハサレハナリ

「ローゼン男 如何ニシテモ此ノ書方ニテハ露國人ノミ不利益ノ地位ニ立ツコトアルカ如ク解セラル

小村男 然ラハ此ノ條件的文句ヲ取去リ夫レト同時ニ露國及露國臣民ハ云々トアル露國ナル語ヲ除キ單ニ露國臣民トシ他ノ諸外國云々ノ處モ亦諸外國ナル語ヲ除キテ只諸外國ノ臣民又ハ人民ナル語ニ改メナハ貴方ノ趣意ニ合セム

(「ローゼン男之ヲウヰヰッテ氏ニ説クウヰヰッテ氏ハ此ノ説明ハ耳ニセサリシモノ如ク小村「ローゼン男ノ談話中類ニ「ナボコフ」及「フランソシ」兩氏ト文句ヲ案シ居レリ)

「ウヰヰッテ氏 此ノ如クセンヨリモ此ノ最初ノ二文章ヲ一ノ文章トナシ句讀ヲ去ラハ兩個ノ規定一文中ニ集リ貴方ノ云ハル、條件附權利享有ノ趣意明トナルナラム

小村男 「ウヰヰッテ氏ノ考案ノ如キハ實際上今迄ノ議論ト何等異ナリタルコトナシト認ム

「ウヰヰッテ氏 否大ナル相違アリ是ニテ双方ノ趣意相達スルコト、認ム然ルニ右ハ以前

ノ議論ト毫モ異ナラズト言ハル、ハ解シ難シ

小村男 否、少シモ異ナルコトナシ抑モ今論シツ、アル事柄ノ第一點ハ政治上外交上ノコトニシテ第二點ハ商業上ノ問題ノコトナリ此ノ第二點ノコトカ明ニ第一點ノ制限ノ下ニ立ツコトヲ明ニセサルヘカラス

「ウヰッテ」氏 商業上ノコトノミト解セラル、ハ不可ナリ商業以外ニ多大ノ權利アリ領事官ノコト、法權ノコトハ其ノ大ナルモノナリ代理公使ノ權限モ亦他國ト同様ナラサルヘカラス單ニ商業上ノコト、此等ノコト、ハ大ナル差異アリ抑モ今回ノ談判ハ一時的ノ平和ニアラスシテ永久鞏固ノ平和ヲ設定スルコトヲ目的トスルモノナリ露國ハ日本ノ韓國ニ於ケル充分ナル自由行動ヲ認メ之ニ就テハ若シ日本ニ於テ要スルコトアラハ露國ハ贊助及保障ヲ與ヘントスル程ナリ故ニ露國カ韓國ニ於テ享有スル權利ハ日本ノ行動ニヨリ制限セラルコトハ勿論異議ナキ所ニシテ此ノ上議論スル餘地ナキモ只他ノ外國ヨリモ不利益ナル地位ニ在ルコト能ハス此ノ主意ヲ明ニナシ置クコト兩國永遠ノ平和ノ爲メ甚タ必要ト考フルナリ

小村男 本員ニ於テモ亦若シ此ノ條約締結サレナハ此ノ上兩國間ニ一切何等ノ誤解ナカラシコトヲ欲ス是レ本員カ此ノ條件ヲ主張スル所以ナリ蓋シ日本ハ露國臣民カ韓國ニ於テ他ノ臣民ノ有スル一切ノ權利ヲ享有スルコトヲ承諾スルモ此等權利ノ享有カ政治上外交上ノコトニ及フト解セラレンニハ甚シキ誤解ナルヲ以テ之ヲ明ニ豫防シ置カンコトヲ要ス

「ローゼン」男 要スルニ問題ハ日本ハ如何ナル事項ニ就テモ露國人民ヲ他ト區別スル意ナキヤ否ヤニ在リ

小村男 素ヨリ區別スルノ意ナシ若シ其ノ事ニ關シ疑懼ヲ有セラル、ニ於テハ之ヲ會議録中ニ掲ケテ明ニナスコト、セム

「ウヰッテ」氏 第一ニ日本カ行動ノ自由ヲ得第二ニ露國カ他國ト同等ニ立ツト云フコトニ、、、、、、、、

小村男 「ウヰッテ」氏ノ議論ノ如キハ第一點ニ於テ日本ノ自由行動ヲ認メツ、第二點ニ於テ之ヲ取り去ラントスルモノナリ

「ウヰッテ」氏 否左ニアラス全ク反對ニシテ日本ニ充分ノ自由行動ヲ認ムルノミナラス却テ進テ之ヲ贊助シ之ヲ保障セントス

小村男 果シテ此ノ如ク日本ヲ贊助スルノ意アラハ何故此ノ場合ニ我提案通り同意シ以テ日本ヲ贊助スルコトニ躊躇セラル、カ

「ウヰッテ」氏 ハ之ニ答ヘス尙頗ニ何人ニ對シテトモナク前同様ノ議論ヲ喃ヤセリ尤モ時既ニ夜ニ入ラントシ談話ノ順序モ亂レ露國側ニ於テハ書記官ニ至ル迄種々ノ私談ヲ爲シ容易ニ纏ルノ模様ナシ茲ニ於テ

小村男 最早時刻モ大ニ進ミタレハ今日ハ此儘ニシテ散會シ尙明日午後三時ヨリ開會シ更ニ引續キ本問題ヲ議セム

「ウヰッテ」氏 承知セリ現今日ノ議事經過ヲ新聞紙ニ報スル通知案ハ如何ニスヘキカ本

日午後講和條件ノ各條ノ討議ニ移リ先ツ韓國問題ニ付討議シ七時迄議シタルモ未ダ結局ヲ見スシテ散會シ明日午後三時ヨリ引續キ同問題ヲ議スル筈ナリト爲スヘキカ小村男 否韓國問題云々ト明ニ認メテ公表スルコトハ我方ニ於テ同意スルコト能ハス只講和條件各條ノ討議ニ入りタリト云フコトニスヘシ

ウヰヰテ氏 双方ノ同意ヲ要スルヲ以テ貴方ニ於テ爾カ云ハル、ニ於テハ本員等ハ之ニ從フノ外ナシ然レトモツレニテハ新聞通信員ハ大ニ不満足ヲ唱フルナラン小村男 新聞記者ノ不満足ハ顧ミル能ハス何トナレハ問題ノ種類ヲ明言セサルコトハ我方ニ取り絶對的ニ必要ナレハナリ依テ左ノ如クナサム

(トテ新聞通知案ヲ讀ム)

日本全權委員ハ其ノ講和條件ニ對スル露國回答ノ考究ヲ了シタルニ付講和會議ハ同條件ノ逐條討議ニ移ル爲メ午後三時ヲ以テ開會シ同七時散會セリ

明日ハ日曜日ニ付午前ハ會議ヲ開カス兩國全權委員ハ右討議繼續ノ爲メ午後三時再ヒ會見スヘシ(原文ハ附屬書第五號)

ウヰヰテ氏 如何様ニテモ同意スルノ外ナキカスノ如クンハ新聞記者等ハ不満足ノ餘リ吾人ヲ食フニ至ルヤモ知レスト諧謔的ニ述ヘ一同大笑フ

(右ニテ散會時ニ午後六時三十分)

elles-mêmes, sans toucher aux anses et fleuves. Il va sans dire que les droits déjà appartenant dans cette région à des sujets russes ou étrangers devraient rester en vigueur.

第二號

In the sitting of Saturday morning this August 12th, Their Excellencies Plenipotentiaries of Russia have handed their reply in writing to the note presented the day before yesterday by Their Excellencies Plenipotentiaries of Japan. It has been decided that the next Conference meet when Their Excellencies Plenipotentiaries of Japan notified that they have studied the document and are ready to continue the deliberation which will be held to-day at three o'clock or to-morrow afternoon same hour.

第三號

1. The Imperial Russian Government, recognizing that Japan possesses in Corea paramount political, military and economical interests, is ready to engage neither to obstruct nor interfere with the measures of guidance, protection and control which Japan will consider necessary to take in Corea. It is a matter of course that, subject to the above engagement, Russia and Russian subjects will enjoy all rights that belong or will belong to any other Powers and their subjects or citizens. It is further understood that in order to remove all causes of misunderstanding Japan and Russia will mutually abstain from taking the measures on the Russo-Corean frontier, which might menace the security of Russian and Corean territory.

第三號佛譯文

1. Le Gouvernement Impérial de Russie, reconnaissant que le Japon possède en Corée des intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, est prêt à s'engager à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne les mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il va sans dire que la Russie et les sujets russes jouiront, soumis à l'engagement ci-dessus, de tous les droits qui appartiennent ou appartiendront à d'autres Puissances quelconques et à leurs ressortissants. Il est, de plus, entendu que, dans le but d'éloigner toute cause de malentendu, le Japon et la Russie

s'abstiendront mutuellement de prendre à la frontière russo-coréenne des mesures qui pourraient menacer la sécurité du territoire russe ou coréen.

第四號

Les Plénipotentiaires du Japon déclarent qu'il est entendu que les mesures que le Japon peut trouver nécessaire de prendre en Corée à l'avenir et qui portent atteinte à la souveraineté de ce pays seront prises d'accord avec le Gouvernement de Corée.

第五號

Les Plénipotentiaires Japonais ayant étudié la réponse russe à leurs conditions de paix, la Conférence s'est réunie de nouveau à trois heures de l'après-midi pour procéder à leurs discussions article par article. La séance a été levée à sept heures.

Demain, étant dimanche, il n'y aura pas de séance matinale, et les Plénipotentiaires se réuniront à trois heures de l'après-midi pour continuer leurs délibérations.

4. En accédant entièrement aux principes émis dans cet article, le Gouvernement Impérial déclare que si cette stipulation n'avait pas été insérée dans les conditions proposées par le Japon, la Russie se ferait un devoir de la proposer elle-même.

5. Les anciens droits de la Russie à l'île de Sakhaline existaient déjà à une époque où le Japon ne possédait, ou du moins n'exerçait, aucuns droits de propriété sur la majeure partie de cette île. D'un autre côté, Sakhaline n'est que la continuation naturelle des possessions russes en Asie, vu que cette île est séparée du continent par un détroit d'une très petite profondeur et d'une largeur de 7 verstes. En vertu de ces considérations la Russie ne saurait consentir à une cession de cette île, mais elle est en même temps toute disposée à reconnaître au Japon le droit d'exploiter largement les pêcheries maritimes et autres entreprises commerciales dans cette île. Les conditions d'une pareille exploitation pourraient faire l'objet d'un arrangement spécial.

6. Le Gouvernement Impérial n'aurait pas d'objections à cet article, mais vu les droits souverains de la Chine aux territoires énumérés, la Russie ne pourrait céder ses droits au Japon sans un accord préalable avec la Chine. Il va sans dire que les droits des particuliers dans toute la région sur laquelle s'étend le bail conclu entre la Russie et la Chine, devront rester intacts.

7. Le Gouvernement Impérial accepte en principe cet article, à la condition toutefois qu'il ne pourrait se dessaisir que de la partie du chemin de fer se trouvant actuellement occupée de fait par les troupes Japonaises. La station terminale du tronçon à céder dans ces conditions devra être déterminée d'un commun accord. Il est cependant indispensable d'avoir en vue que c'est à une compagnie privée que la concession pour construire et exploiter la ligne a été accordée par la Chine qui en conserve les droits souverains, et que l'occupation militaire ne devrait porter aucune atteinte aux droits de cette compagnie. Le Gouvernement Impérial est prêt à prendre sur lui de s'entendre avec la dite compagnie tout en autorisant le Gouvernement de Chine à user dès à présent du droit de racheter la ligne en question. La prime de rachat qui revient à la compagnie serait cédée au Japon.¹⁾

8. Cet article ne soulève pas d'objections. La Compagnie du Chemin de fer se conformera strictement—en ce qui concerne l'exploitation de la ligne magistrale de la Manchourie ainsi que du tronçon de la branche sud-manchourienne qui restera en sa possession—aux termes de l'acte de la concession du 27 Août (8 Septembre)

1) En vertu du § 11 de l'acte du 27 Août (8 Septembre) 1896 concédant à la Banque Russo-Chinoise la construction du chemin de fer,—acte qui fut confirmé par la convention du 13 Juin 1898 pour la construction de la branche sud-manchourienne, le Gouvernement de Chine a le droit de racheter la ligne à l'expiration du terme de 30 ans après le jour de l'achèvement et de l'ouverture de la ligne.

dont le paragraphe 8 stipule que les troupes ainsi que le matériel de guerre russe qui seraient transportés sur la ligne, ne doivent pas subir d'arrêts sur le territoire chinois.

9. La Russie ne saurait consentir aux stipulations de cet article. Seuls les pays vaincus remboursent les frais de guerre, mais la Russie n'est pas vaincue. Un pays ne saurait se reconnaître comme tel, alors que son territoire a été à peine attaqué par l'ennemi. Quand même le Japon se serait emparé de toute la province Maritime de l'Amour, les forces vitales de la Russie ne s'en trouveraient nullement atteintes et elle continuerait la lutte. Dans le cas seulement où les Armées Japonaises victorieuses auraient envahi l'intérieur de la Russie la nation pourrait comprendre qu'on soulevait des questions de remboursement de frais de guerre. Les Plénipotentiaires de Russie croient devoir attirer l'attention des Plénipotentiaires du Japon sur le fait que même au Congrès de Paris qui a eu lieu après la prise de Sébastopol, les alliés n'ont pas cru possible de soulever la question d'un remboursement de frais de guerre. Ceux-ci ne sont remboursés que par les pays qui n'ont plus de moyens de continuer la guerre, ce qui n'est en aucune façon le cas de la Russie.

Mais tout en refusant de rembourser les frais de guerre, le Gouvernement Impérial reconnaîtra équitable d'indemniser le Japon de celles des dépenses qu'il aurait effectuées non pas pour la guerre elle-même et au préjudice de la Russie, mais pour le bien de ceux des russes qui ont souffert par le fait de la guerre. Telles sont les dépenses pour l'entretien des prisonniers de guerre, pour le soin des malades et autres.

10. La Russie ne saurait consentir à cette demande. Il paraît qu'il est difficile de trouver dans la pratique des relations internationales des précédents qui pourraient servir à l'appui d'une pareille exigence. En outre, cette demande ne s'accorde guère avec les intentions pacifiques qui devraient animer les deux parties négociantes. Les avantages matériels qui seraient acquis par le Japon si les navires russes se trouvant dans des ports neutres lui étaient remis, seraient comparativement minimes. Mais le consentement à une pareille clause serait incompatible avec la dignité de la Russie.

11. La Russie ne saurait consentir à un pareil engagement imposé par une Puissance Etrangère, car ce serait également incompatible avec sa dignité. Le Gouvernement Impérial se croit cependant à même de pouvoir déclarer qu'il n'entre pas dans ses vues, dans un avenir proche, d'entretenir dans les eaux du Pacifique des forces navales considérables.

12. La Russie serait prête à s'entendre avec le Japon pour concéder aux sujets japonais des droits de pêche sur les côtes des mers du Japon, d'Okhotsk et de Behring. Ces droits ne pourraient cependant s'étendre quo sur les côtes des mers

第一號

1. Le premier article ne soulève pas d'objection. Le Gouvernement Impérial, reconnaissant que le Japon possède en Corée des intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, est prêt à s'engager à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne les mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il va sans dire que la Russie et les sujets russes jouiront de tous les droits qui appartiennent ou appartiendront aux autres Puissances étrangères et leurs ressortissants. Il est également entendu que la mise en vigueur par le Japon des mesures susmentionnées ne portera pas atteinte aux droits souverains de l'Empereur de Corée. En ce qui concerne particulièrement les mesures militaires, le Japon, dans le but d'éloigner toute cause de malentendu, s'abstiendra de prendre des mesures qui pourraient menacer la sécurité du territoire russe limitrophe de la Corée.

2. Le Gouvernement Impérial est prêt à accepter la première partie de cet article, et est disposé à faire évacuer par ses troupes la Manchurie simultanément avec l'évacuation des troupes Japonaises; les détails et termes d'évacuation pourraient être arrêtés ultérieurement. Quant à la dernière partie de cet article le Gouvernement Impérial est prêt à déclarer qu'il n'a aucune prétention à des privilèges territoriaux, concessions ou facilités exclusives qui seraient de nature à menacer les droits souverains de l'Empire de Chine et qui seraient incompatibles avec le principe d'égalité de droits. Le Gouvernement Impérial est disposé à donner à cet effet les garanties nécessaires. Ce principe de fond une fois établi, les Plénipotentiaires de Russie proposent aux Plénipotentiaires du Japon de préciser le désir du Gouvernement du Japon concernant cette partie de l'article 2, et ils déclarent que le Gouvernement Impérial est disposé à éliminer tout ce qui pourrait porter préjudice aux intérêts du Japon ou des autres Puissances. La seule entreprise privée russe en Manchurie ayant un caractère public est le chemin de fer de l'Est Chinois; l'examen des questions se rattachant à ce chemin de fer se trouve du reste spécialement traité dans d'autres articles.

3. Le Gouvernement Impérial est prêt à accepter cet article, mais il va sans dire que la Russie et les sujets russes conserveront dans ces parties de la Manchurie tous les droits qui y appartiennent ou appartiendront aux autres Puissances étrangères et à leurs ressortissants. Pour ce qui est des régions sur lesquelles s'étend le bail de la presqu'île de Liaotong la Russie est disposée à céder au Japon ses droits aux régions dont il s'agit. Cependant, vu les droits souverains de la Chine à ces régions et les traités passés à cet effet avec le Gouvernement de Chine une pareille cession ne pourrait se faire autrement qu'en vertu d'une entente avec cette dernière.

講和談判筆記第三回本會議

明治三十八年八月十四日午前十時開會

列席者前回ニ同シ

「ウヰヰ」氏 一昨日述ヘラレタル貴方ノ意見ニ適合セムカ爲メニ一案ヲ提出シ置キタ
リ右ハ卑見ニモ合スルモノナルカ貴見如何(十二日夜ウヰヰ「氏」ハ「ナボコ」フ書記官ヲ
遣ハシ第一條ニ關シ左ノ如キ修正案ヲ送付シ小村男ニ意見ノ内示ヲ求ム)

露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ優越ナル利益ヲ有
スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ執ル
ニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干渉セサルコトヲ約ス露西亞國臣民ハ他ノ外國ノ臣民
又ハ人民ト全然同様ニ待遇セラルヘク之ヲ換言スレハ一般ニ採用セラレタル最惠
國條款ニ依リテ待遇セラル、コト、知ルヘシ尙日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケ
ムカ爲メ露韓國ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ノ安全ヲ侵迫スルコトアル
ヘキ何等ノ措置ヲ執ラサルコトニ決定ス(原文ハ附屬書第一號)

(小村男ハ翌朝少シク字句ヲ修正シ左案ノ如クニシ「ウヰヰ」氏之ニ同意ス)

露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有
スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ執ル
ニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干渉セサルコトヲ約ス韓國ニ於ケル露西亞國臣民ハ他

ノ外國ノ臣民又ハ人民ト全然同様ニ待遇セラレヘク之ヲ換言スレハ最惠國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ地位ニ置カルヘキモノト知ルヘシ尙日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ノ安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ何等ノ措置ヲ執ラサルコトニ同意ス(原文ハ附屬書第二號)

小村男 全然同意ス唯末文措置ナル文字ニ「軍事上」ナル形容詞ヲ附シ一層其ノ意義ヲ明ニ爲シ置キタシ

ウヰヰテ氏 異議ナシ

小村男 然ラハ第一條ハ確定セルモノト認ム

ウヰヰテ氏 然リ

小村男 コレヨリ第二條ニ移ラム

ウヰヰテ氏 諾

小村男 第二條ニ關スル露國回答ニ對シ修正案ヲ作り置キタルニ付之ヲ提出ス(トテ左案ヲ提出ス)

第二、日本國全權委員ハ露西亞國全權委員カ第二條第一段ヲ承諾シタルコトヲ領シ重同條ノ殘部ニ關シ同委員ノ爲シタル宣言ニ鑑ミ左ノ意義ニ同條款ヲ修正セムコトヲ提議ス

露西亞帝國政府ハ講和條約ニ附屬スル別約ノ規定ニ遵ヒ日本國ト同時ニ滿洲ヨリ全然撤兵スヘキコトヲ約ス又露西亞帝國政府ハ其ノ占領又ハ監理ノ下ニ

在ル滿洲全部ヲ舉ケテ全然清國專屬ノ行政ニ還附スルコトヲ約ス尙同政府ハ滿洲ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若クハ專屬的ノ讓與若クハ免許ヲ現ニ有セス又將來之カ要求ヲ提出シ若クハ援助スルコトナカルヘキコトヲ聲明ス

日本國全權委員ハ別約ヲ以テ同時撤兵ノ細目及條件ヲ確定スルヲ緊要ナリト思料ス又同全權委員ハ露西亞國及露西亞國臣民ハ滿洲ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ若クハ機會均等主義ヲ無視スル幾多ノ讓與及免許ヲ有セリトノ感想ヲ懷キタリ帝國政府ノ唯一ノ希望ハ同地方ニ於ケル清國主權及行政ヲ全ク恢復シ且均等待遇主義ヲ復興スルニ在リ

東清鐵道ニ關スル諸問題ハ第七條及第八條ニ於テ之ヲ考量スヘシ(附屬書第三號及第四號)

ウヰヰテ氏 (ナボコフ書記官ヲシテ右修正案ヲ朗讀セシメタル後) 文意ニハ異存ナキモ文體ニ異議アリ即チ修正案ニ「露國ハ……」ヲ約ス「トアリテ日本國ニ關スル約束ノコト毫モ規定スル所ナシ是レ全ク一面的ノ約束ニシテ露國ニ對シ之ヲ強要シタルノ觀アリ依テ之ヲ露國及日本國ハ……」ヲ約ス「ト改メ相互的ニ規定スルヲ要ス

小村男 日本ニ關スル事項ハ第三條ニ規定シアリ且詳細ノ事項ハ別約ヲ以テ之ヲ定ムトアルカ故ニ本條ニハ之ヲ省キテ可ナリ

ウヰヰテ氏 了解セリ若シ第三條ニ日本撤兵ノ事規定シアラハ可ナリ然レトモ文體ハ

尙之ヲ改ムルヲ要ス

小村男 第三條ハ露國回答書ニ於テ貴全權委員ノ既ニ承認セラレタル所ナリ而シテ第二條ハ該回答ニ依テ起草シタルモノナリ

ウヰヰッテ氏 事實ニ關シテハ異存ナシ但書方ニ關シテハ貴案ノ如キ片務的約束ノ觀アルモノニ同意スル能ハス又本問題ハ第二條ト第三條トヲ併合スルヲ可ナリト思考ス

小村男 然ラハ如何ナル書方ニセハ可ナルヤ

ウヰヰッテ氏 書方ニ關シ時ヲ費スハ不得策ニ付是レハ書記官等ニ一任スルコト、セン乎

小村男 其ノ書方ハ我方ニ於テ立案スヘシ是レヨリ第二條ノ第二點ヲ審議スルコト、セム此點ニ關シテモ日本ノコトハ第三條ニ規定シアリ本條ハ露國ニノミ關ス且此ノ文章ハ露國回答ニ依リテ作成シタルモノナリ

ウヰヰッテ氏 第三條ハ未タ討議ニ上ラス且貴案ヲ知ラサルカ故ニ第二條ノ第二點ハ第三條カ露國ニ對シ満足ナルヘキヲ條件トシテ之ヲ承諾スルノ外ナシ

小村男 宜シ

ウヰヰッテ氏 (ナボコフ書記官ヲシテ第二條第三點ヲ朗讀セシメタル後) 是亦片務的約束ナルニ非スヤ

小村男 第二條ト第三條トヲ照合セハ貴意ノ通り相互的ノ結果ヲ生スヘシ

ウヰヰッテ氏 未タ第三條ヲ見サルモ果シテ貴説ノ如キ主意ナルニ於テハ本條第三點ハ異存ナシ依テ此ノ第三點ハ相互ノ條件ヲ附スルコトトシテ之ヲ承諾スヘシ

小村男 本條ノ末項ニ於テ露國政府ハ現時滿洲ニ於テ露國ハ何等ノ特權ヲ有セストノ旨ヲ宣言セラレナハ夫レニテ満足スヘシ然レトモ萬一ノ誤解ヲ避ケムカ爲メニ尙一言シタキコトアリ聞ク所ニ據レハ露國政府ハ滿洲將軍ト契約ヲ締結シ吉林省ニ於ケル礦山採掘權ヲ全ク露國人ノ手ニ收メ他國人ハ毫モ該權利ヲ行フコトヲ得サル様ニ成リ居レリトノコトナリ某礦山ノ採掘權ヲ某一人ニ特許シ他人モ亦同様ノ權利ヲ享受スルヲ得ルコトナランニハ不可ナシト雖前陳ノ如ク露國人ニ限り該權利ヲ有スルコト、爲シタルハ即チ一ノ露國人ノ爲メニ獨占的特權ヲ設ケタルモノニシテ本條ニ規定セントスル約款ノ主旨ニ反スルモノト謂ハサルヘカラス貴見如何

ウヰヰッテ氏 本員ハ全ク眞率坦白ニ云ハンカ今貴全權委員ノ陳述ノ如キ事實ノ存在スルコトヲ知ラス若シ實際存在スルナランニハ是レ出先ノ露國官吏ニ於テ爲シタル事ニシテ露國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニ非ルカ故ニ取消サルヘキモノニシテ又必ス之ヲ取消スヘシ今陳ヘラレタルカ如キ契約ハ決シテ露國政府ノ結ヒタルモノニハ之レナシ

小村男 然ラハ可ナリ

ウヰヰッテ氏 就テハ本條第一項ハ「露日兩國ハ……ヲ互ニ約ス」ト爲シ第二項モ亦露日兩國ハ……ヲ互ニ約ス」ト爲シ之ニ附屬ノ約款トシテ露日兩國政府ハ若シ現時ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等ノ主義ニ反スル特權ノ存在スルアランニハ該特

權ハ取消サルヘキモノナルコトヲ茲ニ宣言ストノ旨ヲ明記シ置クコト、セム
小村男 尙將來ノ誤解ヲ防カンカ爲メニ戰爭以前哈爾濱ニ於ケル日本人ノ取扱ニ就テ

一言スヘキコトアリ即チ露國政府ハ鐵道經營ノ名義ノ下ニ同地ニ於テ清國ヨリ廣大
ナリ土地ヲ讓受ケ同所ニ露國ノ行政ヲ布キ日本人ヲシテ之ニ服從セシメタルノ事實
アリ此ノ如キハ清國ノ主權ヲ侵害シ且機會均等ノ主義ニ反スル特權ニ非スマヤ

「ウヰッテ」氏 露國カ滿洲ヲ占領シタル以來既ニ數年ヲ過タルカ故ニ或ハ同地方ニ於テ
露國中央政府ノ知ラサル事實ノ發生シタルヤモ計リ難キモ其ノ皆取消サルヘキモノ
ナルハ既ニ述ヘタルカ如シ然レトモ哈爾濱ニ於ケル特權云々ニ就テハ一言ヲ要ス茲

ニ一人アリ鐵道經營ノ爲必要ナル一定ノ地所ヲ占有スルモノアリトセハ是レ特許ニ
シテ特權ニ非ス純然タル一人ノ權利ナルカ故ニ政府ニ於テ之ヲ動シ得ヘキモノニ
非ス之ニ反シテ或種ノ人ノミ享有スルヲ得ヘク他ノ人ハ之ニ與カルヲ得サル性質ヲ

有スル所ノ權利ハ特權ナリ今哈爾濱ニ於ケル鐵道經營ノ淵源ヲ說明セムニ同地ニハ
元來單ニ一箇ノ製酒場アリタルノミニシテ顧ミルニ足ラサル村落ナリシモ本員ハ先
年同地ヲ巡回シテ其ノ將來大都會ト爲ルヘキ形勢ヲ有スルモノタルヲ覺リタルヲ以

テ鐵道會社ハ同地ニ多少廣大ナル地所ヲ買受ケ鐵道經營ヲ始メタル次第ナリ去ル千
九百二年同地ニ於テ本員ニ對シ日本人ノ取扱ニ付質問シタルモノアリタル際本員ハ
明ニ日本人ハ露國人ト同様ニ之ヲ待遇セサルヘカラサル旨ヲ答ヘ置キタリ依テ若シ
同地ニ於テ其ノ後果シテ日本人ニ對シ不當ノ處置アリシトセハソハ同地ノ市政當局

者ヨリ生シタルニ非スシテ軍人ヨリ生シタルモノナルヘシ事情右ノ如クナルヲ以テ
若シ同地ニ於テ露國カ土地ヲ賣拂フ等ノ場合ニ於テハ日本人ハ必ス他ノ一切ノ外國
人ト同様ニ取扱ハルヘシ若シ今日迄同地ニ於テ日本人ニ對シ不正ナル取扱アリシト

セハ此ノ如キ不正ナル取扱ハ今後全ク其跡ヲ絶ツニ至ルヘシ
小村男 抑モ滿洲ニ於ケル日本人ノ權利ハ露國政府ノ好意ニ依テ之ヲ有スルモノニ非
スシテ日本國カ清國ト結ヒタル條約ニ因テ之ヲ有スルモノナリ然ルニ露國政府ノ滿

洲ニ於テ執リタル處置ニ因リ日本人ハ其ノ條約上ノ權利ヲ享有スルヲ得サリシハ事
實ナリ本條款ハ畢竟此ノ如キ事實ノ再發ヲ防止セムトスルノ目的ニ外ナラス尤モ露
國ニ於テ鐵道ヲ所有スル以上ハ其ノ經營ヲ必要ナル地所ヲ有スルコトハ必要缺クヘ

カラサルコトナリト雖露國ハ現ニ哈爾濱ニ於テ鐵道經營ニ必要ナル程度ヨリハ遙ニ
廣大ナル地域ヲ有セリ而シテ露國政府ノ此地域ニ對シ執リタル措置ニ依リ哈爾濱ハ
事實上露國版圖ノ一部分タルノ觀アリ日本人モ亦露國行政ニ服從セサルヘカラス是

レ全ク日清條約ヲ無視シタルモノナリ
「ウヰッテ」氏 貴見ニハ同意ヲ表シ難シ哈爾濱ニ於ケル現状ハ決シテ他國ノ條約ト衝突
スルモノニ非ス抑モ露國ノ一會社カ清國政府ヨリ或ル面積ノ地所ヲ讓受ケ之ヲ利用

經營スルコトハ決シテ條約ノ主義ニ違反スルモノニ非ス則チ該地所ノ所有者ハ其ノ
欲スルカ如ク該地所ヲ利用スルコトハ固ヨリ其ノ當然ナリ故ニ日本人ニシテ同地ニ
於テ土地ヲ買受タルニ於テハ全ク同様ノ事ヲ爲シ得ヘシ茲ニ例ヲ當「ボー」ツマスニ取

ランカ子若シ當地ニ於テ地所ヲ買受クルト假定セハ予ハ該地所ニ於テ家屋ヲ建築シ
園庭若クハ田畑ヲ作ル等一ニ予ノ欲スルカ儘ニシテ毫モ違法ナル筈ナシ右予ノ事業
ニ就テハ巧拙ノ批評ハ免カレサルヘキモ其ノ合法ナルハ何人モ疑ヲ挾ムヘキ筈ナシ
今實際ニ移リテ哈爾賓ノ事情ヲ觀ルニ同市ハ鐵道會社ノ所有地ナルコト恰モ加奈太
ニ於テ停車場附近ノ市邑ヲ鐵道會社ニ於テ所有スル場合多キト同シク該地ハ所有主
タル鐵道會社ニ依リテ自由ニ取扱ハルヘキモノトス然レトモ同地及其ノ他ノ諸地方
ニ於テ日本人ハ諸外國人ト同様ニ取扱ハルヘシ

小村男 本員ノ思想ノ能ク貴全權委員ノ了解スル所トナラサルハ今貴全權委員ニ於テ
米國ニテ地所ヲ買受クル場合ト哈爾賓ニ於テ露國鐵道會社カ廣大ナル地所ヲ有スル
場合トヲ比較セラレタルニヨリ明ナリ貴説ノ如ク米國ニ於テ日本政府カ地所ヲ買受
クルコトヲ得ルハ勿論ナリト雖之ヲ使用スルノ方法ハ一ニ米國法ニ據ラサルヘカラ
ス之ニ反シ哈爾賓ニ於テ露國鐵道會社カ露國行政ヲ施スハ恰モ日本政府カ米國ニ於
テ地所ヲ買受タル場合ニ該地所ニ關シ日本法ヲ施行スルト同シク全ク土地ノ主權ヲ
侵害スルモノト謂ハサルヘカラス

「ウヰ」テ氏 露國鐵道會社カ哈爾賓ニ於テ鐵道ノ經營ニ從事スルハ露國カ清國政府ト
締結シ清國皇帝ノ批准ヲ經タル正式ノ特許ノ條約ニ依テ之ヲ爲スモノニシテ右條約
ノ主旨ニ就テハ毫モ誤解アルヘキ筈ナシ蓋シ該鐵道ハ浦鹽斯德ト歐洲ノ西亞トヲ連
絡スルノ目的ヲ以テ敷設ヲ計畫ヲ爲シ其ノ經營ハ清國トノ條約ニ依テ定メラレタル

モノニシテ其後同鐵道經營ノ實際ハ總テ該條約ニ準據シ一モ之ニ違反セルコトナシ
若シ該條約ノ條項ニ違反スト認メラル、事實アヲハ指摘セラレタシ

日本國カ清國利益ノ守護者タルト同シク露國モ亦清國利益守護者タリ而シテ清國ノ
利益ハ哈爾賓鐵道經營ノ爲メニ毫モ損傷セラレ、コトナシ試ニ一步ヲ進メテ問ハム
貴國カ哈爾賓ニ於テ希望セラレ、所ハ果シテ何物ナリヤ若シ希望ノアル處ヲ示サレ
ムニハ本員等ハ可成之ニ應スルノ心算ナリ然レトモ貴方ニ於テ清國ノ辯護士タルカ
如キ態度ヲ以テ本問題ヲ論セラル、ニ於テハ本員等モ亦同シク清國ノ辯護士タルコ
トヲ一言セサルヘカラス哈爾賓鐵道ノ性質ヲ明白ナラシメムカ爲メニ本日午後ノ會
議ニ於テ該鐵道會社ノ清國政府ヨリ得タル特許ノ條約ヲ貴覽ニ供スヘシ

小村男 茲ニ談セムトスルハ哈爾賓ニ於ケル鐵道經營カ如何ナル性質タルヤニ非スシ
テ該經營ヨリ生セル所ノ結果ナリ貴説ノ如ク該鐵道經營ノ特許ハ正式ノ條約ヲ以テ
之ヲ清國ヨリ得タルモノニ相違ナシト雖露國ハ鐵道經營ノ名義ノ下ニ同地ニ於テ該
經營ニ必要ナラサル廣大ナル地所ヲ清國ヨリ讓受ケ露國ノ行政ヲ布ケリ本員等ハ毫
モ清國ノ利益ヲ辯護スルノ意ナク單ニ清國トノ條約ニ依リ日本國カ取得シタル權利
ヲ擁護セムト欲スルノミ假ニ哈爾賓ニ於テ露國ノ爲ス所果シテ正當ナリトセハ露國
ハ同様ノ口實ヲ以テ滿洲至ル所ニ同様ノ事ヲ爲シ得サル筈ナク其ノ結果ハ鐵道經營
ノ名義ノ下ニ滿洲全部ヲ侵略スルコト、ナルヘシ

「ウヰ」テ氏 貴説ハ鐵道會社ノ清國政府ヨリ得タル特許ノ性質ヲ明知セラレサルヨリ

生シタル一ノ誤解ナリ

小村男 然ラス鐵道會社ノ特許ノ眞性質如何ハ充分了解シ居レリ茲ニハ單ニ該鐵道經營ノ結果日清條約上ノ日本ノ權利ヲ侵害スルニ至レルコトヲ指摘セムト欲スルノミ若シ右ノ結果ニシテ果シテ正當ナルモノトセハ本條第三項ノ文字ハ全ク空文タルニ過キス

「ウヰヰ」氏 曩ニ提出セル露國回答書ニハ露國カ滿洲ニ於テ有スル一切ノ特權ヲ廢棄ストハ言明セス鐵道經營ナルモノハ勿論一ノ特權タルニ相違ナク從テ本條第三項ノ聲明モ亦鐵道經營ヲ除キテ之ヲ爲シタルモノナリ哈爾濱ニ於ケル鐵道事業ハ清國ヨリ得タル特許ニ違背スルモノニ非ス同地ニ於ケル日本人ハ他外國人ト全然同一ニ取扱ハルヘシ抑モ本員等ハ兩國ノ利益ヲ協定セムカ爲メニ此處ニ來リタルモノナルカ今貴説ヲ聽キ相互ノ間ニ主義上意見ノ相違アルモノ、如ク感セラレ就テハ事件ノ進行解決ヲ迅速ナラシメムカ爲メニ哈爾濱ニ於テ貴方ノ希望セラル、所果シテ何物ナルヤ明示セラレタシ

小村男 本員ノ希望スル所ハ事物ノ實際ヲシテ本條第三項ノ精神ニ違背セシメサラムコト是ナリ即チ鐵道經營ニ必要ナル地以外ニ於テハ清國自身カ現實ニ行政ヲ執行セムコト是ナリ而シテ日本國ハ清國內ニ於テ此ノ精神ヲ飽迄實行スルノ決心ナリ「ウヰヰ」氏 鐵道ノ經營ニ必要ナル地面ノ廣狹如何ヲ定ムルコトハ頗ル難事ニシテ哈爾濱ニ於ケル鐵道會社ノ敷地ニ就テハ特別ノ事情アルヲ知ラサルヘカラス元來同地

ニハ唯一ノアルコトヲ醸造所アリタルノミニシテ毫モ市街ト稱スヘキモノナク從テ從來ノ建物及設備等ヲ利用シ得ルノ便宜ナカリシカ故ニ會社ノ雇人旅客及軍人等ノ爲メニ寺院俱樂部旅館等一切ノ設備ヲ爲スノ必要アリタリ又先年義和團騷擾後ハ鐵道保護ノ爲メ同地ニ兵營ノ建築ヲ爲スヲ要シタリ是レ皆鐵道經營ノ爲メニ必要ナルモノナルカ故ニ之ニ要シタル地面モ亦鐵道經營ノ爲メニ必要ナルモノト云ハサルヘカラス其ノ他同地面内ニ於ケル警察モ露國ニ於テ自ラ施行セスシテ清國人ニ委スルニ於テハ毫モ鐵道ノ安全ヲ保護スル能ハサルヲ以テ露國自ラ之ヲ施行シ居レリ而シテ此等ノ諸項ハ皆鐵道ニ關シ清國ヨリ得タル特許ニ違背セサルモノナリ但シ右ノ外公法上ニ關スル諸項ニ就テハ貴見正當ナリ故ニ裁判權ノ如キハ決シテ露國ノ行ヒ居ル所ノモノニ非ス露國ハ全ク門戸開放ノ主義ヲ維持シテ之ヲ實行スヘキコトヲ茲ニ宣言スヘシ

小村男 將來ノ誤解ヲ豫防スルカ爲メニ本件ニ關スル貴我双方ノ意思ヲ明瞭ナラシムルコトヲ要シタリシ次第ナルカ先刻ヨリノ意見交換ニ依テ双方相解スルニ至リタリ是ヨリ此ノ事ニ關スル宣言案ノ文言ヲ定メサルヘカラスモ此ノ文言ニ付テハ未タ研究ヲ遂ケサルヲ以テ午後ノ會議ニ至リ一案ヲ提出スルコト、セム「ウヰヰ」氏 文言作成ノコトハ書記官等ノ任ナリ元來門戸開放ナルモノハ文字上容易ニ了解シ得ヘキ主義ノ如クナレトモ其ノ實行ニ至リテハ數多ノ論議ヲ生スルヲ免レサルモノナリ尤モ一私人的ノ利益ニノミ關スルナラハ此ノ主義ノ實行明白ニシテ疑

ヲ存セサルヘキモ鐵道ノ事項ニ至リテハ該主義ノ適用ニ關シ頗ル極端迄論議スルヲ得ヘク其ノ結果遂ニ鐵道ニ關スル特許ヲモ取消サムコトヲ要求スルニ立到ルヘキヤモ知ルヘカラス然レトモ該特許ヲ取消スカ如キコトハ本員ノ到底諾スル能ハサル所ナリ

小村男 露國回答書中本件ニ關シ日本國ノ希望ヲ精確ニ言明セラレタキ旨記載アリタルニ付先刻來意見ヲ交換シタル次第ナリ又本條第三點即チ滿洲ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ若クハ機會均等主義ニ反スル何等ノ特權ヲ有セス且將來之ヲ請求若クハ援助セサルコトヲ聲明スルコトニ關シテハ日本國ハ少シモ之ヲ爲スノ必要ナシ何トナレハ日本國ハ未タ嘗テ右様ノ事項ニ付他ヨリ批評若クハ嫌疑ヲ受ケタルコトナケレハナリ依テ此ノ事ニ就テハ獨リ露國ノミ聲明ヲ爲スヲ要スルモノナリ

滿洲撤兵ノ事ハ貴見ノ如キ相互的ニテ可ナリ門戶開放主義ノ事ニ關シテハ唯今述ヘタルカ如ク本條約中之ヲ明定シ置クヲ要ス露國ハ現在滿洲ニ於テ該主義ニ反スル特權等ヲ有セサルコトヲ宣言セラルルノミニテモ宜シ

「ウキッテ」氏 ソハ獨リ文言作成ノミニ關スル問題ニ非ス將來些少ノ誤解ナカラシカ爲メニ今充分ニ意思ヲ明白ナラシメ置カンコトヲ要ス抑モ滿洲ニ於テ露國カ門戶開放主義ニ違反スル特權等ヲ有ストハ本員ノ全ク知ラサル所ナリト雖若シ萬一事實上存在スルコトナラシニハ是レ必ス取消サルヘキヲ保證ス但シ鐵道ニ關スルコトハ全ク特別ノ事項タルカ故ニ此ノ宣言ノ爲メニ何等ノ影響ヲ受クヘカラサルモノトス從テ

清國政府カ將來他國ニ對シ曩ニ露國ニ對シ爲シタル特許ト同一ノ特許ヲ爲ス場合ニ於テハ露國ハ門戶開放主義ニ則リ決シテ之ニ反對セサルヘシ

小村男 鐵道ノ特許其ノ物ハ全ク本日談話ノ題目以外ナリ今日日本員ノ述ヘタル所ハ單ニ鐵道經營ノ結果ノミナリ將又滿洲ニ於ケル特權等ノ問題ニ付其ノ過去及現在ニ關シテハ日本國ハ何等ノ宣言ヲモ爲ササルヘシ而シテ其將來ニ於ケルモノニ關シテハ其ノ時ニ至リ双方互ニ談合スルコト、セム

(右ニテ休會時ニ午後一時)

(午後三時二十分再開)

小村男 今朝ノ話題タリシ鐵道及其ノ附屬地所ノコトニ付一案ヲ作成セリトテ左記寫ノ案ヲ「ウキッテ」氏ニ交付ス

日露兩國全權委員ハ將來ニ於ケル一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ茲ニ滿洲ニ於ケル東清鐵道ノ敷設及經營ノ特許ハ門戶開放及均等待遇主義ト相容レサルモノニ非ス又右特許ニ依リテ獲得シタル土地ノ區域内ニ於テ日本國皇帝陛下ノ臣民ハ露西亞國皇帝陛下ノ臣民ト同一ノ權利及特權ヲ享有スヘキ旨ヲ聲明ス(原文英文及佛譯文ハ附屬書第五號及第六號)

「ウキッテ」氏 此ノ事ニ關シ談スルノ前第二條ノ文章改作ニ付協議シタシ

小村男 承知セリ然ルニ茲ニ一ノ困難アルハ露國ハ滿洲全體ヨリ撤兵スルニ反シテ日

本國ハ遼東租借地以外ノ地方ノミヨリ撤兵スルニ在リ此ノ事誤解ヲ惹起スヤモ計リ
難キヲ以テ茲ニ明記シ置カムト欲ス

「ウヰッテ」氏 貴意ノ通り二三語即チ遼東租借權ノ及フ地域ヲ除キ云々ノ如キ文字ヲ附
加ヘ置キテ然ルヘシ

小村男 異議ナシ

本條即チ第二條ニ三點アリ第一點ハ滿洲ノ同時撤兵ナリ第二點ハ清國行政ニ滿洲ヲ
還附スルコトニシテ日本國ニ關スルモノハ本條ニ規定スヘカラス之ヲ第三條ニ讓ル
ヘク且第三條ハ既ニ大體上露國回答書ニ於テ承諾ヲ經テ定リタルモノナルカ故ニ別
ニ異議アルヘキ筈ナシ又第三點即チ滿洲ニ於ケル特許云々ノ件ニ關シテハ現在露國
カ之ヲ有セサルコトノミヲ聲明シ將來ノ事ニ關シテハ何等ノ規定ヲ設ケサルコト、
スヘシ何トナレハ將來ノコトニ付テハ日露兩國其ノ時ニ至リ談合ヲ爲スヲ得ヘケレ
ハナリ且此ノ案ハ露國回答書ノ主意ニ依リテ作成シタルモノニシテ其ノ間ニ重要ナ
ル差異ナキモノナリ

「ウヰッテ」氏 貴案ノ如ク第二點ノ日本ニ關スル部分ヲ第三條ニ移スコトニ關シテハ異
議ナキモ是レ亦日露同様相互的トスル規定ヲ入ル、コトヲ要ス

小村男 既ニ陳ヘタル如ク第三條ハ大體ニ於テ既ニ貴方ノ同意ヲ經タルモノナルカ故
ニ今更異議アルヘキ筈ナシ

「ウヰッテ」氏 主意ハ可ナルモ日本ニモ露國ト同様ノ約束ヲ帶ハシムルヲ要ス去リ乍ラ

此事ハ第三條ヲ議スル時迄見合ハスヘシ

小村男 然ラハ先ツ本條第三點ヲ確定セム

「ウヰッテ」氏 將來ノコトハ之ヲ規定スルコトナク單ニ現在ノコトノミヲ規定スルコト
トセハ日本モ露國同様ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ヘキ筈ニハ非ル乎

小村男 抑モ本條第三點ノ規定ヲ要スル所以ハ日本人民ハ露國カ滿洲ニ於テ門戶開放
主義ニ反シ若クハ清國ノ主權ヲ侵害スヘキ特權ヲ有スルニ非サヤトノ嫌疑ヲ有スル
ニ由リ今全ク該嫌疑ヲ除去セムトスルニ在リ之ニ反シ日本國ハ滿洲ニ於テ未タ嘗テ
同一ノ嫌疑ヲ受ケタルコトナキヲ以テ此ノ如キ聲明ヲ爲スヘキ必要ナシ

「ウヰッテ」氏 該聲明ハ單ニ現在ニノミ關シ將來ニハ關セサルカ

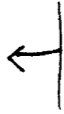
小村男 然リ露國カ現在滿洲ニ於テ右等ノ特權ヲ有セサルコトヲ明記スルノミニテ可
ナリ

次ニ第四點ハ鐵道經營事業ハ門戶開放ノ主義ニ違背セス云々ノ件ナリ之ニ關シテモ
日本ハ滿洲ニ於テ從來清國ヨリ鐵道ノ特許ヲ得タルコトナキヲ以テ右ノ件ヲ條約ニ
掲記スルヲ要セス單ニ會議錄ニ之ヲ記スルノミニテ足レリ

「ローゼン」男 否條約ニ掲記スルヲ可トス

「ウヰッテ」氏 小村男ノ提議ヲ諾ス而シテ右鐵道經營事業ハ門戶開放主義ニ違反セス云
云ノ趣旨ヲ文字ニ書キ表ハスコトハ書記官等ニ任シテ可ナラム

小村男 曩ニ交付シタル案ノ通りニテ可ナルヘシ



「ウヰッテ」氏 (該案ヲ讀了シタル後) 此ノ案中……ノ主義ト相容レサルモノニ非ス迄ハ可ナリ其後部ニ付テハ多少修正ヲ施シ且此ノ聲明ノ趣意ヲ全ク相互的トナスヲ要スト信ス而シテ其ノ文言等ハ書記官等ヲシテ起草セシメ後刻重テ協議スヘシ

小村男 然ラハ後刻貴案ヲ閱覽ノ上重テ討究セム

次ニ第三條ノ案ヲ議セム該案ノ旨意ハ露國回答書ノ趣意ト同様ノモノニシテ其ノ間大差アルナシ故ニ我案ノ如クセム但シ文言ハ多少變更スルモ可ナリ

「ウヰッテ」氏 否主意ニ大差アルヲ見ル即チ第二條第二點ニハ露國ノ滿洲行政還附義務ノコトヲ規定セルカソハ全ク無條件ニシテ如何ナル場合ニ於テモ露國ハ其ノ占領中ナル土地ヲ清國ノ行政ニ還附スルヲ要スルモノナルモ本條ニ至リ日本國ノ同様義務ヲ規定スルニ當リテハ一ノ條件ヲ附シ即チ清國カ善政ヲ實施スルノ保障ノ下ニ日本國ノ占領ニ係ル土地ヲ清國行政ニ還附ストナセリ何故ニ此ノ如キ重大ノ差異アリヤ

小村男 ソハ日露兩國ノ滿洲ニ於ケル地位全ク異ナレハナリ

「ウヰッテ」氏 其ノ差異トハ如何
小村男 抑モ露國ハ先年滿洲ヲ清國ニ還附スルノ公約ヲ爲シタルヲ以テ滿洲ヲ撤退スルノ義務ヲ有シ從テ其ノ滿洲ヲ清國ニ還附スルハ單純ナル義務ノ履行ニ過キス然ルニ日本ノ地位ハ全ク之ニ反シ何等ノ義務ヲモ帶有セサルニ拘ハラス自ラ進ミテ滿洲ヲ清國ニ還附セムトスルモノナリ元來滿洲ハ先年以來露國ノ掌握ニ歸シ事實清國ノ監理ヲ脱シタリシモノナルニ清國ハ何事ヲモ爲サ、ルニ拘ハラス日本戰勝ノ結果ト

シテ其ノ好意ニ依リ今ヤ之ヲ回復スルヲ得ルニ至リタルモノナリ故ニ日本國ハ滿洲ヲ清國ニ還附スルニ當リ清國カ之ニ對シ善政ヲ施スノ保障ヲ要求スルニ正當ノ權利アルモノト信ス

「ウヰッテ」氏 露國ハ滿洲ニ於ケル總テノ利益ヲ拋棄スルノ考ナレハ今更之ヲ保護スルノ意思アルモノニ非スト雖兩國カ各其ノ占領ニ係ル滿洲ノ部分ヲ清國ニ還附スルニ關シテハ全ク相互的同一ノ條件ヲ要ス此ノ事ナクシテハ本員ハ何事ヲモ約束スルコト能ハス

小村男 先ニモ陳ヘタル通り滿洲ニ於ケル日露兩國ノ位地ハ全ク相異ナレハ其ノ還附ノ條件ノ同一ナラサルモ亦當然ナリ元來日本國カ滿洲ヲ清國ニ還附スルノ件タルヤ全ク日清兩國間ノ事柄ナルニ依リ日露講和條約中ニ之ヲ規定スルノ必要ナキモノナレトモ日露兩國將來萬一ノ誤解アラムコトヲ慮リ玆ニ念ノ爲メ貴方ト協議スル次第ナリ且右善政ノ保障ナクムハ日本國ハ滿洲ヲ還附セスト云フニ非ス故ニ曩ニ撤兵ノ件ヲ論スルニ方リ日露兩國滿洲ヨリ同時ニ撤兵スト規定シタルナリ

「ウヰッテ」氏 露國ハ清國ノ辯護士ニ非サルカ故ニ日清兩國ノ關係ニ容喙スルヲ欲スルモノニ非ス又決シテ日本國ノ清國ニ對シ爲ス所ノ措置ニ故障アルニ非ス然レトモ北滿洲ノ事柄ニ關シテハ露國ハ全ク日本國ノ南滿洲ノ事柄ニ關スルト同様ノ權利ヲ得ムコトヲ欲ス片務的ノ約束ハ之ヲ爲スコト能ハス畢竟是レ單ニ體面ヲ維持セントスルニ在リテ決シテ日本國ノ措置ニ關シ容喙セムトスルニ非ス

小村男 貴意ハ了解セルモ將來露國ヨリ故障ノ來ルヲ慮リテ此ノ條件ヲ設ケムトシタルナリ

「ウヰヰッテ」氏 本員ノ請求ハ偏ニ體面ヲ維持セムトノ思想ノミヨリ出テタルモノナレハ還附ノ事柄ハ是非相互的ニ爲サムコトヲ希望ス

小村男 貴全權委員ノ此ノ如キ態度ニ出テラル、所以ハ露員能ク之ヲ諒ス依テ善政云云ノ條件ハ全ク撤回セム

「ウヰヰッテ」氏 貴全權委員ノ同意ニ依リ第二條ト第三條トヲ併合シテ之ヲ完成スルヲ得タルハ幸ナリ

(是ニ於テ書記官等ハ右兩條ヲ併合セル第二條ノ文言ヲ確定シ兩國全權委員ノ認可ヲ得タリ即チ左ノ如シ)

日本國及露西亞國ハ互ニ左ノ事ヲ約ス

一 本條約ニ附屬スル追加約款第一ノ規定ニ從ヒ遼東半島租借權カ其ノ効力ヲ及ホス地域以外ノ滿洲ヨリ全然且同時ニ撤兵スルコト

二 前記地域ヲ除クノ外現ニ日本國又ハ露西亞國ノ軍隊ニ於テ占領シ又ハ其ノ監理ノ下ニ在ル滿洲全部ヲ擧ケテ全然清國專屬ノ行政ニ還附スルコト

露西亞帝國政府ハ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若クハ專屬的讓與ヲ滿洲ニ於テ有セサルコトヲ聲明ス(原文ハ附屬書第七號)

(又會議録中ニ挿記シ置クヘキ鐵道及其所屬地所ニ關スル聲明ノ文言ヲ左ノ如ク確定ス)

日露兩國全權委員ハ將來ニ於ケル一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ茲ニ滿洲ニ於ケル東清鐵道ノ敷設及經營ノ特許ハ門戶開放及均等待遇主義ト相容レサルモノニ非ス又右特許ニ依リテ獲得シタル土地ノ區域内ニ於テ日本國皇帝陛下ノ臣民並其ノ他ノ諸外國民ハ露西亞國皇帝陛下ノ臣民ト同一ノ權利及特權ヲ享有スヘキ旨ヲ聲明ス(原文ハ附屬書第八號)

「ウヰヰッテ」氏 右ノ聲明ト同様ノ聲明ハ後ニ南滿洲ニ於ケル日本所屬鐵道ノ事ヲ規定スルニ方リ之ヲ爲スヲ要ス

小村男 承知セリ又滿洲撤兵時期等大體ノ事項ハ本條約附屬約款中ニ必ス規定シ置クヲ要ス

「ウヰヰッテ」氏 毫モ異議ナシ

(尋テ左ノ新聞通知案ヲ協定ス)

八月十四日朝ノ會議ニ於テ第一條ノ文言ヲ決定シ同日午後ノ會議ニ於テ第二第三兩條ヲ討議決定シ同六時散會セリ(原文ハ附屬書第九號)

du territoire sur lequel s'étend le bail de la presqu'île de Liaotung, conformément aux dispositions d'un article additionnel ;

2. de restituer entièrement et complètement à l'administration exclusive de la Chine toutes les parties de la Manchourie qui sont occupées maintenant par les troupes russes ou japonaises ou qui sont sous leur contrôle à l'exception du territoire sus-mentionné.

Le Gouvernement Impérial de Russie déclare qu'il n'a point en Manchourie d'avantages territoriaux ou concessions ou franchises préférentielles ou exclusives de nature à porter atteinte à la souveraineté de la Chine ou incompatibles avec le principe d'opportunité égale.

第八號

The Plenipotentiaries of Japan and Russia, with a view to avoid all cause of future misunderstanding, declare that the concession for the construction and exploitation of the Eastern Chinese Railway in Manchuria is not inconsistent with the principle of the open-door and equal treatment and that within the boundaries of the land acquired under such concession the subjects of His Majesty the Emperor of Japan as well as the subjects or citizens of other foreign countries shall enjoy the same rights and privileges as the subjects of His Majesty the Emperor of Russia.

第八號佛譯文

Les Plénipotentiaires du Japon et de Russie, dans le but d'éviter toute cause de malentendu à l'avenir, déclarent que la concession de la construction et de l'exploitation du chemin de fer de l'Est chinois en Manchourie n'est pas incompatible avec le principe de la porte ouverte et du traitement égal, et que, dans les limites du terrain acquis en vertu de cette concession, les sujets de Sa Majesté l'Empereur du Japon, ainsi que les ressortissants des autres Puissances étrangères, jouiront des mêmes droits et privilèges que ceux de Sa Majesté l'Empereur de Russie.

第九號

Dans la séance du matin du 14 Août, le texte de l'article I a été définitivement arrêté. Dans la séance de l'après-midi, les articles II et III ont été discutés et arrêtés et à six heures la séance a été levée.

The Plenipotentiaries of Japan deem it essential to fix definitely by means of a separate article, the details and terms of simultaneous evacuation. The Plenipotentiaries of Japan were under the impression that Russia and Russian subjects possessed several concessions and franchises in Manchuria which trench upon the sovereignty of China or disregard the principle of equal opportunity. The sole desire of the Imperial Government is to fully restore Chinese sovereignty and administration in that region and to revive the principle of equal treatment for all.

The questions connected with the Eastern Chinese Railway will be considered under Articles VII and VIII.

第四號

(Traduction)

2. Prenant acte de l'acceptation par Leurs Excellences les Plénipotentiaires de Russie de la première partie de l'article et eu égard à leur déclaration en ce qui concerne les autres parties du même article, les Plénipotentiaires du Japon leur proposent de modifier la stipulation dans le sens suivant :

Le Gouvernement Impérial de Russie s'engage à évacuer complètement la Manchourie simultanément avec le Japon conformément aux dispositions de l'article séparé qui se trouve annexé au Traité de Paix. Le Gouvernement Impérial de Russie s'engage, de plus, à restaurer entièrement et complètement à l'administration exclusive de la Chine toutes les parties de la Manchourie qui sont occupées par la Russie ou qui sont sous le contrôle russe. Le Gouvernement Impérial déclare, en outre, qu'il n'a pas à présent et qu'il n'émettra ni appuiera à l'avenir aucune prétention aux avantages territoriaux ou aux concessions ou franchises préférentielles ou exclusives quelconques, qui porteront atteinte à la souveraineté de la Chine ou qui seront incompatibles avec le principe de l'opportunité égale.

Les Plénipotentiaires du Japon estiment qu'il est essentiel de fixer définitivement, au moyen d'un article séparé, les détails et les termes de l'évacuation simultanée. Les Plénipotentiaires du Japon avaient une impression que la Russie et les sujets russes possédaient plusieurs concessions et franchises en Manchourie, qui portaient atteinte à la souveraineté de la Chine ou qui méconnaissaient le principe de l'opportunité égale. Le seul désir du Gouvernement Impérial du Japon est de restaurer entièrement la souveraineté et l'administration chinoises dans cette région et de faire revivre le principe du traitement égal pour tous.

Les questions se rattachant au chemin de fer de l'Est Chinois seront traitées dans les articles VII et VIII.

第五號

The Plenipotentiaries of Japan and Russia, with a view to avoid all cause of future misunderstanding, declare that the concession for the construction and exploitation of the Eastern Chinese Railway in Manchuria is not inconsistent with the principle of the open-door and equal treatment and that within the boundaries of the land acquired under such concession the subjects of His Majesty the Emperor of Japan shall enjoy the same rights and privileges as the subjects of His Majesty the Emperor of Russia.

第六號

Les Plénipotentiaires du Japon et de la Russie, dans le but d'éviter toute cause de malentendu à l'avenir, déclarent que la concession de la construction et de l'exploitation du chemin de fer de l'Est chinois en Manchourie n'est pas incompatible avec le principe de la porte ouverte et du traitement égal et que, dans les limites du terrain acquis en vertu de cette concession les sujets de Sa Majesté l'Empereur du Japon jouiront des mêmes droits et privilèges que ceux de Sa Majesté l'Empereur de Russie.

第七號

(Article II, as finally adopted at the sitting of 14 Aug., Art. III being incorporated therein)

Japan and Russia mutually engage:

1. to evacuate completely and simultaneously Manchuria except the territory affected by the lease of the Liaotung peninsula, in conformity with the provisions of an additional article.

2. to restore entirely and completely to the exclusive administration of China all portions of Manchuria now occupied by Japanese or Russian troops or under their control, with the exception of the above-mentioned territory.

Imperial Russian Government declare that they have in Manchuria no territorial advantages or preferential or exclusive concessions or franchises in impairment of Chinese sovereignty or inconsistent with the principle of equal opportunity.

第七號佛譯文

2. La Russie et le Japon s'engagent mutuellement :

1. d'évacuer complètement et simultanément la Manchourie à l'exception

講和談判筆記第四回本會議

明治三十八年八月十五日午前十時開會

列席者前回ニ同シ

小村男 本日ハ是ヨリ第四條ヲ議セム

ウヰッテ氏 諾

小村男 本條ニ關シ貴國答書ニ於テ全然同意ヲ表セラレタルハ満足ノ至ナリ但シ本條ニ關シ萬一將來ニ誤解アラムコトヲ豫防セムト欲スルカ故ニ茲ニ一言シタキコトアリ即チ清國カ滿洲ノ都府並港市ヲ開クコトハ商工業ノ發達ノ爲メニ必要ナルモノナルニ右開放ノ場所ヲ單ニ滿洲ノ或一部ニ限ルニ於テハ其ノ効果充分ナル能ハサルヲ以テ其ノ場處ノ如何ニ拘ハラズ則チ其ノ鐵道線路ニ沿ヘル處ニ在ルト又他ノ地方ニ在ルトヲ問ハス之ヲ開クコトハ日露兩國共通ノ利益ナルカ故ニ右開港開市ニ付テハ兩國互ニ故障ヲ爲サ、ルコト、定メ置クノ精神ナリ

ウヰッテ氏 異議ナシ

小村男 抑モ此ノ事ニ關シ貴全權ノ注意ヲ喚起シタル所以ハ去ル千九百年義和團騷亂ノ後北京ニ於テ爲サレタル一般ノ約束ニ依リ日清新條約締結ノ交渉中滿洲ニ於ケル某某場所ヲ外國貿易ノ爲メニ開カムコトヲ清國ニ要求シタルニ露國ハ之ニ故障ヲ申立テタリ尤モ該故障ハ後ニ至リテ之ヲ撤回セラレタルトモ鐵道線路ニ沿ヒタル諸市

第一號

Le Gouvernement Impérial Russe, reconnaissant que le Japon possède en Corée les intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, s'engage à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne des mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il est entendu que les sujets russes seront traités exactement de la même manière que les ressortissants des autres pays étrangers, savoir en vertu de la clause universellement adoptée de la nation la plus favorisée. Il est de même arrêté que pour éviter toute cause de malentendu le Japon et la Russie s'abstiendront sur la frontière russo-coréenne de toute mesure qui pourrait menacer la sécurité du territoire russe ou coréen.

第二號

Le Gouvernement Impérial Russe, reconnaissant que le Japon possède en Corée les intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, s'engage à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne des mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il est entendu que les sujets russes en Corée seront traités exactement de la même manière que les ressortissants des autres pays étrangers, à savoir qu'ils seront placés sur le même pied que les ressortissants de la nation la plus favorisée. Il est de même convenu que pour éviter toute cause de malentendu, le Japon et la Russie s'abstiendront sur la frontière russo-coréenne de toute mesure qui pourrait menacer la sécurité du territoire russe ou coréen.

第三號

2. Taking note of the acceptance by the Plenipotentiaries of Russia of the first part of Article II and having regard to their declaration concerning the remaining portions of the same article, the Plenipotentiaries of Japan propose to modify the stipulation in the following sense:

The Imperial Russian Government engage completely to evacuate Manchuria simultaneously with Japan in accordance with the provisions of the separate article annexed to the Treaty of Peace. The Imperial Russian Government also engage fully and completely to restore to the exclusive administration of China all portions of Manchuria which are in their occupation or under their control and they declare that they have not now, and that they will not hereafter advance or support, any claim to any territorial advantages or preferential or exclusive concessions or franchises in Manchuria in impairment of Chinese sovereignty or inconsistent with the principle of equal opportunity.

ニ關シテハ尙依然トシテ之ヲ固持シタリキ此ノ如キ事情アルヲ以テ將來外國商業ノ爲メニ開クヘキ港市ニ關スル露國ノ意向ヲ確メムト欲シタルナリ

「ウヰッテ」氏 露國ハ滿洲ニ於テ各國貿易ノ爲メニ市或ハ港ノ開カル、コトヲ拒マントスルモノニアラス今小村男爵ノ述ヘラレタルコトハ義和團事變後滿洲カ混亂ノ状態ニ在リシヲ以テ鐵道線路ニ沿ヒタル或停車場所在地ノ都市ニ付露國政府カ清國政府ニ對シテ注意ヲ喚起シタルコトヲ指サル、モノナルヘシ

小村男 本員カ確メ置カムトスルハ全ク其ノ點ニ在リ本條ノ規定ヲ設ケントスル主意モ此ノ事ニ存ス向後清國カ滿洲ニ於テ如何ナル都市如何ナル港灣果テハ滿洲全體ヲ開クコトアリトモ露國政府ニ於テ何等故障ヲ有セサルコトヲ確メ置クヲ要ス

「ウヰッテ」氏 其ノ點ニ就テハ毫モ異議ナシ但シ此約束ハ双互的ニシテ即チ遼東方面ヲモ含ムモノタルヲ要ス

小村男 本條ハ日露兩國相互的ノ約定ナリ

「ウヰッテ」氏 全ク同意ナリ就テハ會議録中ニ本件ハ全ク相互的ナルヲ記載シ置カム

小村男 夫レニテ宜シ是ヨリ第五條ノ討議ニ移ルヘシ露國回答書ニ對シ覺書ヲ認メ置キタルハ一覽ヲ請フ

(トテ左ノ覺書ヲ「ウヰッテ」氏ニ交付ス)

五日本國全權委員ハ第五條ニ關スル露西亞國全權委員ノ所見及論結ニ同意スルコト能ハサルコトヲ遺憾トス日本國全權委員ハ少クトモ薩哈噠島ノ大部分ニ對スル日

本國ノ權利ハ露西亞國カ占領シタル以前ノ時代ニ遡リテ之ヲ認ムルコトヲ得ヘキヲ信ス且該島タル亞細亞大陸系ノ自然ノ連續ニアラスシテ却テ日本帝國カ全然依テ以テ組成セラル、島群連鎖ノ自然且必要ナル一部ヲナスモノナリト認ム然レトモ日本國ヲシテ該島ノ讓渡ヲ要求スルニ至ラシメタル重要ノ事由ハ(第一)日本帝國永遠ノ安全ハ日本國カ該島ヲ獨リ自ラ監理スルコトヲ要スルコト(第二)日本國ハ戰爭ノ運命ニヨリ薩哈噠島ヲシテ其ノ完全ナル占有ニ歸セシメ今ヤ該島ニ於ケル露西亞國ノ官憲ハ日本國官憲之ニ代リ該島ハ全然日本行政ノ下ニ在ルコト是ナリ日本國全權委員ノ希望スル所ハ斯ノ如クニシテ獲得シタル權利カ露西亞國ノ正式ノ讓渡ニヨリ確認セラル、ニ在リ(原文ハ附屬書第一號及第二號)

「ウヰッテ」氏 (右覺書ヲ閱讀シタル後)

本員ハ遺憾ナカラ當初ヨリノ意見ヲ毫モ變更スルコト能ハス露國ハ極東ニ於ケル事物ノ現状ヲ承知スト雖薩哈噠島占領ノ事實ハ單ニ武力ノ結果ニシテ決シテ權利獲得ノ行爲ニ非スト認ム

小村男 本條ヲ承諾セラレ難キ理由テ承リタシ

「ウヰッテ」氏 露國ノ威嚴ニ關セサル讓與ナラハ如何様ニモ都合ヲ附クルノ精神ニテ現ニ是迄ノ莫大ノ讓與ヲ爲シ來レリ然レトモ露國カ正當ナル條約上ノ權利ニ依リ久シク領有セル版圖ヲ割取セラル、コトハ露國ノ威嚴ト相容レサルモノナルヲ以テ同意スル能ハサルナリ

小村男 歴史上ノ先例ニ鑑ミルニ歐洲強大國カ戰爭ノ結果トシテ領土ヲ割讓シタルコト多キカ故ニ領土割讓ノ一事決シテ大國ノ威嚴ヲ毀損スルモノニ非ス

「ウヰキッテ」氏 然リ強大國ニシテ領土割讓ヲ諾シタル先例モ或ハ之アラム然レトモ是皆敗勢ノ餘リ最早戰爭ヲ繼續スル能ハサリシ邦國ナラサルハナシ露國ノ現狀ハ決シテ此ノ如キモノニ非ス

小村男 本員等ハ事物ノ進行カ其ノ極端ニ走ラサル前ニ平和ノ克復ヲ講セムカ爲メニ此處ニ會シタルモノナリ依テ本問題ノ地位ヲ明ニシ以テ此處ニ於テ之ヲ解決セムト欲ス

茲ニ聊カ薩哈噠島カ日本國ニ對シ如何ニ深キ關係ヲ有スルヤヲ説明セムニ今ヲ距ルコト二百數十年ノ昔即チ千六百二十四年ニ於テ既ニ日本國官吏ハ同島ニ派遣セラレタリシナリ然ルニ露國人ノ始メテ同島ニ關係ヲ開キタルハ千八百三年露船ノ士卒難船シテ長崎ニ來リソレヨリ同島ニ赴キテ其ノ一部ヲ襲ヒタルコトアルニ始マリ千八百五十年ニ至リ露國土官ハ同島ノ北部ヲ占領シタルニ依リ同島ニ關スル日露間ノ談判ハ千八百五十一年ニ始マリ千八百七十五年ニ至リ終了シ遂ニ條約ヲ以テ同島ヲ露國ノ領有ニ委スルニ至リタルナリ故ニ條約及法律上ノ議論トシテ露國ノ從來該島ヲ領有シタルヲ不法ナリト云フニハ非サルモ該島ニ關スル日本國民ノ道義上ノ感念ハ最モ深厚ナリ依テ將來ノ誤解ヲ防カムカ爲メニハ該島ヲ日本國ノ領有ニ歸セシムルコトヲ要ス且同島ノ領有ハ日本國ニ取リテハ國家ノ安全ヲ維持スル爲メニ緊要ナレ

トモ露國ニ取リテハ單ニ殖民的及利益的ノ關係タルニ過キス又地勢上ヨリ之ヲ考察スレハ同島ハ日本帝國ヲ構成スル島群連鎖ノ一部ニシテ日本帝國カ同島ヲ領有スルコトハ國家永遠ノ安全ニ必要ナリ以上陳述シタル理由ハ同島割讓ノ必要ヲ示スニ足ルヘシト信スルカ故ニ露國全權委員ハ能ク本問題ニ對スル日本帝國ノ眞位地ヲ考量セラレタシ勿論同島ノ領有ハ日露兩國何レニモ利益アルモノニ相違ナキモ露國ニ取リテハ單ニ利益問題ニシテ之ヲ保ツモ又之ヲ失フモ露國ノ安全ニ對シ關係ナキニ反シテ日本ニ取リテハ國家ノ安全上不可缺モノナリ依テ貴全權委員ノ再考ヲ促ス

「ウヰキッテ」氏 先ツ歴史上ノ事實ニ付一言セン千八百七十五年以前ニ於テ日本ハ同島ノ南方一小部分ヲ占領シテ之ヲ管轄シ居リタルノミ北部ハ全ク無人ノ土地ナリシ而シテ千八百七十五年ニ正式ノ條約ヲ以テ露國ハ千島群島ヲ日本ニ與ヘ其ノ代リニ薩哈噠島ヲ取得シ露領ト確定シタルモノナリ是ハ歴史ノ事實ナリ次ニ經濟上ノ一點ヨリ觀察スレハ日本人ハ同島ノ農業及漁業等ニ關シ露國人ヨリモ一層大ナル利害ヲ有スルハ之ヲ認ム是レ日本カ同島ヲ領有スルコトヲ切望スル所以ナルヘシ故ニ本員等ハ右等ノ事項即チ漁業等ノ權利ヲ日本ニ讓與スルノ覺悟ナリ又政治上ノ方面ヨリ考察スレハ貴全權委員明言セラレタルカ如ク去ル千八百五十年露國人ハ黑龍江州ヲ占領シタルト同時ニ薩哈噠島ヲ占領シタリ是レ同島ヲ領有セサレハ黑龍江畔ノ領有モ亦事實上之ヲ持續スル能ハサルコト當時ヨリ既ニ露人ノ覺リタル所ナルニ因ルモノナリ又今回戰爭ノ實驗ニ依リ薩哈噠島ハ日本國ヲ侵襲スル爲メニ價値ナキモノニシテ且

露國ハ未タ嘗テ同島ヲ以テ日本侵略ノ根據ト爲スノ意思ナキコトヲ證明シタリ依テ露國カ同島ヲ領有スルコトノ日本ノ安全ニ害アリトスル貴説ニハ同意ヲ表スル能ハス之ニ反シテ日本國カ同島ヲ領有スルハ露國ノ門戸ニ哨兵ヲ設クルニ均シ日本國ノ希望スル所ハ夫レ或ハ隣人ノ門戸ニ哨兵ヲ設クルニ在ラム乎又兩國間永遠ノ平和ヨリ之ヲ考フルニ日本國カ同島ヲ領有スルヨリモ露國カ引續キ之ヲ領有スルコトノ遙ニ勝レルモノナルコト余ノ斷言スル所ナリ加之露國人民ハ決シテ露國ノ領土ヲ他國ニ割讓スルコトヲ了解スル能ハサルナリ

又歷史上ノ先例ニ照シテ之ヲ考察スルニ戰爭ノ結果トシテ領土ヲ割讓シタルノ結果ハ實ニ恐ルヘキモノアリテ兩國間ニ永續スル怨恨ヲ遺スモノナリ千八百七十年獨佛戰爭ニ於ケル獨逸國戰勝ノ結果トシテ佛國ヨリ「アルザース」「ローレーヌ」ノ二州ヲ合併シタルヤ兩國間ノ平和今ニ確立スルコト能ハス永ク互ニ敵視ス之ニ反シテ千八百六十六年ノ獨逸戰爭ニ於テ「ピスマーク」公ハ軍人ノ激烈ナル反對ヲ排斥シテ獨逸國ニ割地ヲ要求セサリシ故ニ其ノ結果トシテ兩國間ノ交情親密ニシテ今ニ至ル迄鞏固ナル同盟關係ヲ保持スルヲ得タリ又千八百六十五年露國ハ「クルシヤ」ノ叛亂ニ際シ同地方ヲ占領シタリシモ事定マルノ後之ヲ清國ニ還附シタルニ因リ露清間ノ交情親密ナリ之ヲ要スルニ露國ハ割地ヲ諾シテ平和ヲ求ムルヲ要スル位地ニ在ラサルヲ以テ若シ本員等ニ於テ此處ニ薩哈噠島ヲ日本國ニ割讓スルヲ諾スルニ於テハ輿論ハ決シテ之ヲ了解スルヲ得サルヘシ況ンヤ日本國カ薩哈噠島ヲ領有スルハ東洋永遠ノ平和ノ爲メ

ニ取ラサルニ於テヲヤ

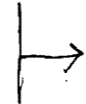
小村男 貴説ノ如ク千八百五十年ニ露國官吏カ薩哈噠島ニ顯ハレ來リタルハ事實ナリ然レトモ日本人ハ常ニ之ヲ以テ露國ノ侵略ト見做シタリ又千八百七十五年千島ト薩哈噠島ト交換スルノ條約ヲ日露間ニ締結シタルハ事實ニシテ法律上ヨリ云ヘハ正當ナル取引タルヘシト雖右露國ノ爲シタル薩哈噠島占領ハ其ノ外交ヲ以テシタルト將タ兵力ヲ以テシタルトヲ問フコトナク日本人ハ之ヲ以テ正當ナル行爲トナサス即チ露國ノ侵略ニ外ナラス當時日本國カ強者ノ力ニ服シタルハ所謂不可抗力ニ服シタルモノナリトノ信念ヲ抱キ今日ニ至リ少シモ變スルコトナシ又經濟上ノ一點ニ付貴全權委員カ日本國ノ薩哈噠島ニ對スル利益ハ露國ノ之ニ對スルモノヨリモ勝レルコトヲ認メラレタルハ本員ノ満足スル所ナリ次ニ政治上ノ見地ヨリ複言セムニ同島ハ日本帝國ヲ構成スル群島連鎖ノ一部分ニシテ日本國々運ノ中心ニ甚タ近キカ故ニ同島ヲ領有スルト否トハ日本國ニ取リテ實ニ最モ緊切ナル問題ナリ之ニ反シテ同島ハ露國ト中心點ヲ距ルコト甚タ遠ク之ヲ棄ツルモ露國ノ運命ニ何等至大ノ關係ヲ及ボスモノニ非サルヘシ貴説ニ依レハ薩哈噠島ノ領有ハ黑龍江州ノ保有上必要ナリトノコトナルカ若シ果シテ右様ノ懸念アラムニハ日本國ハ之ニ對シ必要ナル保證ヲ與フルニ躊躇セサルヘシ又貴全權委員ハ領土割讓ノコトニ付説示セラレタルカ本員ハ夫ノ常ニ善隣ノ好誼ヲ他國ト保タントスル露國ニ於テモ度々隣國ニ對シ割地ヲ要求シタル歴史上ノ先例ヲ貴全權委員ニ回想セシメムトス抑モ割地ヨリ兩國間ニ惡感及怨恨

ノ情ノ起ルヤ否ヤハ偏ニ割地ニ至リタル理由如何ニ因ルモノニシテ薩哈噠島割讓ノ事ノ如キハ固ヨリ當然ノ請求ニシテ毫モ右ノ如キ感情ヲ惹起スヘキ筈ナシ
依テ本員ハ切ニ希望ス露國全權委員ニ於テ能ク日本國カ如何ニ本件ヲ重要視スルヤヲ明察セラレ重テ本問題ヲ充分ニ研究セラレムコトヲ再言スル迄モナク日本國ハ永遠ノ平和ヲ希望スルモノナルカ故ニ薩哈噠島ヲ以テ露國ニ對スル侵略ノ根據トナス様ノコトハ決シテ之レ無シ終リニ本員ハ希望ス露國全權委員ハ以上所陳ノ理由ヲ以テ同島割讓ニ充分ナルモノト認メラレ本員ヲシテ戰爭ノ法理ニ基ケル他ノ理由ヲ主張スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメサラムコトヲ

「ウヰ」氏 本員ハ茲ニ總テノ意見ノ撞着ヲ調和スルヲ得ヘキ一案ヲ提出セムト欲ス
本員ハ露國カ薩哈噠島ヲ領有スルコトヲ以テ日本ニ對スル侵迫ナリトスル貴説ニ同意スル能ハス露國カ同島ヲ領有セルヨリ以來三十年ノ久シキニ達スルモ露國ハ未ダ曾テ同島ニ軍事的設備ヲ爲シタルコトナク又今回ノ戰爭ニ於テモ同島ヲ以テ日本侵略ノ根據ト爲シタルコトナシ此等ハ皆同島カ軍略上何等ノ價值ナキヲ證明スルモノナリ之ニ反シテ日本カ同島ヲ領有スルコトハ其ノ大陸ニ對スル地勢的關係上露國ノ黑龍江畔ノ領有ニ對スル危險ノ原因タリ從テ世界ノ此ノ部分ニ對スル平和攪亂ノ種子タルヘシ地理上有形ノ狀態ヨリ立論シテ同島カ日本群島連鎖ノ一タルカ將又大陸ノ繼續ナルヤヲ決スルハ寧ロ困難ナルコトナレトモ同島ノ舊土民ハ日本人種ニ非スシテ全ク之ニ異ナレルモノナルカ故ニ同島ハ日本人種ノ棲息地ニ非スト云フヲ得ヘ

シ又貴全權委員ハ露國カ外國ノ領土ヲ要求シテ之ヲ割讓セシメタル先例ヲ擧ケラレタルカ割地ハ常ニ露國ト之ヲ爲シタル國トノ間ニ永ク葛藤ヲ生シタルモノナリ次ニ永遠ノ平和ヨリ之ヲ見レハ薩哈噠島ノ割讓ハ決シテ適當ナルモノト見做スヲ得サルヲ以テ兩國間永ク不快ノ原因タルヘシ且此ノ事タル露國ノ威嚴及露國人ノ自負心ニ最モ反對スルモノナルカ故ニ本員ハ決シテ之ヲ諾スルヲ得ス唯茲ニ兩國ノ利益ヲ調和スヘキ一案ハ日本國ノ同島ニ於ケル實益ノ重大ナルヲ承認シテ實質的及經濟的ノ讓與ヲ日本人ニ對シ爲サムトスルニ在リ故ニ此方面ノ提案ハ喜テ之ヲ諾スヘシ

小村男 貴全權委員ハ今回ノ戰爭ハ薩哈噠島ノ日本ニ對スル侵略ノ根據タラサルヲ證スルモノナリトノ説ヲ陳述セラレタルカ若シ今回戰爭ノ主タル戰場カ滿洲ニ非スシテ例ヘハ沿海州及沿黑龍江州地方等ニ在リシナラシニハ同島カ戰略上重要ノ價值ヲ有スルヤ明瞭ナルヘシ又同島カ大陸系統ニ屬スルヤ將又日本群島連鎖ノ一部タルヤヲ地勢上ヨリ斷定スルコトハ困難ナラムモ千八百年日本人間官ナル者同島ト大陸トヲ隔ツル海峡ヲ發見シ其ノ名該海峡ニ付與セラレ地圖ニ於テ間官海峡トシテ知ラレタルハ茲ニ注意ヲ喚起スルノ價值アリトス又本員等ハ幾多ノ事實ニ依リ最初ニ同島ヲ占領シタルモノハ露國人ニ非スシテ實ニ日本人ナルヲ證明スルヲ得ヘシ是故ニ其後露國カ同島ヲ領有スルニ至リタルノ事實ハ其ノ軍事的措置ニ依リタルト將タ外交上ノ手段ニ依リタルト問フコトナク日本人民ハ常ニ之ヲ目シテ日本國ニ對スル侵略ノ行動ト爲セリ日本人民ノ此ノ感情ハ實ニ數十年間因襲傳來シタルモノニシテ常



ニ存在シ殊ニ今回ノ同島占領ノ事實ハ此ノ感情ヲシテ極度迄熱熾トナラシメタリ
 「ウヰッテ」氏 軍略上ノ見地ヨリ薩哈噠島ノ價值ヲ論セムニ露國ハ同島領有以來未タ嘗
 テ軍事の措置ヲ施シタルコトナク從テ決シテ日本ニ對スル侵迫ノ原因タルノ理ナシ
 唯露國ノ大陸領地ニ對スル防禦ノ地點タルヘキノミ將又同島海峽ノ第一發見者及其
 ノ年代ニ關シテハ本員ハ精確ナル材料ヲ此處ニ有セサルカ故ニ假リニ貴全權委員ノ
 主張ノ如ク之ヲ日本人ナリトスルモ可ナリ則チ右第一發見者ハ日本人タルニモセヨ
 日本國ハ千八百五十年前ニ於テハ同島ニ別段ノ利害關係ナキモノト思惟シタルモ
 ノ、如ク露人「ムラフイ」ヨフ之ヲ占領スルニ及ヒテ俄ニ同島ニ對スル注意ヲ高ムルニ
 至リタルナリ是レ蓋シ同島カ日本國ニ對スル侵略ノ根據タルヘキヲ懸念シタルヨリ
 出テタルモノナラム乎將又貴全權委員ノ度々唱道セラレタル國民ノ感情ノ一點ニ關
 シテハ本員ハ固ヨリ日本國民ノ薩哈噠島ニ對スル感情ノ存在ヲ領ス然レトモ是レ單
 ニ日本國カ第一ニ同島ヲ占領處有セスシテ終ニ露國ノ有ニ歸シタルヲ遺憾トスルノ
 情ニ過キス之ニ反シ同島割讓ヨリ生スヘキ露國人民ノ感情ハ三十年以來露國ノ所有
 タル領土ヲ喪失スルニ基クモノナリ

小村男 歷史上ノ見地ヨリ觀察シテ日本國カ往昔充分ニ同島ヲ占領セサリシコトハ之
 ヲ認ムヘシ然レトモ日本國ハ千八百三年以來同島ノ政治ヲ計畫シタルハ事實ニシテ
 唯當時本國トノ交通頗ル不便ナリシカ故ニ充分有效ニ其ノ事業ヲ行フコトヲ得サリ
 キ然レトモ千八百五十年ニ至リテハ日本政府ハ鉛意ニ同島ノ政治ヲ經營シ其ノ效ヲ



收メタリ如上ノ理由アルニ依リ日本國民ノ同島ニ關スル感情ハ最近半世紀間常ニ最
 モ鋭敏ニシテ露國ノ同島保有ヲ以テ日本國ノ同島ニ對スル領土權ヲ侵害シタルモノ
 ト看做シタリ而シテ此ノ感情ハ近來極度迄熱熾トナリタルコトハ既ニ述ヘタル所ノ
 如ク如何ナル措置ト雖之ヲ緩和スルヲ得サルナリ本員モ亦露國人民ノ同島ニ對スル
 感情ノ存在ヲ領スト雖モ日本人民ノ感情ハ日本國ノ權利及名譽ニ對シ侵害ヲ被リタ
 リトノ信念ニ基クモノ故露國人民ノ感情ヨリモ一層熾盛ナルモノナリ

「ウヰッテ」氏 日本人民ノ感情ハ之ヲ要スルニ薩哈噠島カ未タ「ムラフイ」ヨフニ依テ占領
 セラレス則チ無主ノ土地タリシ時之ヲ占領セサリシヲ遺憾トスルヨリ生スルモノニ
 過キス然ルニ日本國カ右「ムラフイ」ヨフ占領前ニ之ヲ占領セサリシハ同島ヲ全ク輕視
 シタリシニ起因スルコトナルヘシ右ノ如キ遺憾ノ念ヨリ生スル感情ニシテ果シテ貴
 全權委員ノ云ハル、如ク熾盛ナルモノナラムニハ三十年間合法的ニ領有シタリシ同
 島ヲ喪失スルヨリ生スヘキ露國人民ノ感情ハ如何ニ強盛ナルヘキヤ想像スルニ餘リ
 アルヘシ是レ露國ノ斷シテ同島割讓ニ同意スル能ハサル所以ナリ且又本件ニシテ露
 國ノ威嚴ニ關セサル問題ナラムニハ之ヲ承諾スルノ途モアルヘシト雖同島割讓ハ露
 國ノ威嚴ニ關スルコト大ナルヲ以テ何等妥協ノ法ナシ但シ露國全權委員ハ講和ノ至
 情ニ富メルヲ以テ同島ニ關スル事柄ニ關シテモ露國國民ノ名譽ト兩立スヘキ讓與ハ
 凡テ之ヲ日本臣民ニ與フルコトニ躊躇セサルヘシ

小村男 本員ハ同島割讓ニ關スル露國人民ノ感情ノ存在スルヲ無視スルモノニ非スト

雖半世紀以來常ニ存在シタリシ日本國民ノ感情ハ先般實行セラレタル同島占領ノ事實ニ依リテ極度迄熱熾ト爲リタリ是レ同島割讓ヲ求ムル理由ノ一ナリ

第二ノ理由ハ同島ヲ領有スルコトタルヤ日露兩國何レニ取リテモ重要ナルコトナレトモ露國國運ノ中心ハ遙ニ同島ヨリ遠カルカ故ニ露國ニ取リテハ單ニ利益ノ問題タルニ過キス之ニ反シ日本ハ同島ニ近ク其ノ國運ノ中心ヲ有スルカ故ニ日本ニ取リテハ實ニ國安ニ關スル最モ緊切ノ問題ナリ

第三ノ理由ハ日本國カ同島ヲ領有スルニ至ルモ單ニ之ヲ以テ國防ノ用ニ供スルノミニシテ決シテ之ヲ以テ侵略ノ根據ト爲サ、ルヲ以テ右領有ハ決シテ露國ニ對スル侵迫ト爲リ得ヘキモノニアラス

第四ノ理由ハ本問題ニ關シ露國ノ執ルヲ得ヘキ手段ニアリ一ハ此ノ際何等ノ措置ニ出ツルコトナク暗黙ノ間ニ日本國占領ノ事實ヲ承認スルコトニハ同島處分問題ニ關シテ日本國ト協定ヲ爲スコト即チ是ナリ

第五ノ理由ハ日露兩國將來ノ關係ノ爲メニ計ルニ此ノ際双方協議シテ本問題ヲ満足ニ解決シ置キ以テ今後兩國間ニ誤解不和若クハ撞着ノ生スルコトヲ豫防スルヲ要ス

本員ハ露國全權委員ニ於テ前陳諸理由ニ對シ交讓ノ精神ヲ以テ更ニ最モ適切ナル考量ヲ加ヘラレムコトヲ熱望ス

「ウヰヰッテ氏 貴全權委員ノ今陳述セラレタル諸理由ニ對シテハ既ニ答辯シタル所ヲ以テ充分ナリト信スルカ故ニ茲ニ之ヲ復説スルヲ要セス就テハ貴全權委員ニ於テ別箇

0:175

ノ新案ヲ提出セラレサルニ於テハ双方到底一致ニ達スルヲ得ス

小村男 貴全權委員ノ本件ニ關スル一般ノ思想ハ既ニ之ヲ知ルヲ得タリ然レトモ本員ハ更ニ右五箇條ノ理由ヲ具シ貴全權委員ノ考量ヲ煩ハス殊ニ右第五ノ理由ニ對シテハ特ニ留意アラムコトヲ切望ス

「ウヰヰッテ氏 本問題ハ露國回答中ニ陳述シタル如クニシテ之ヲ處分スルヲ要スルモノナリ

小村男 既ニ陳述シタル諸理由アルカ故ニ本員ハ到底露國案ニ同意スルコト能ハス

「ウヰヰッテ氏 本員モ亦既ニ陳述シタル理由ニ依リ到底日本案ニ同意スルコト能ハス而シテ本件ニシテ双方ノ同意ヲ經サル以上ハ會議モ此上進行セシムルコト能ハサル次第ナリ

（暫時黙考ノ後）

併シナカラ此儘他條ノ討議ニ移ルノ途モアリ兩者其ノ一ヲ採用スルヲ要ス貴全權委員ニハ此ノ上他條ノ討議ヲ繼續スルヲ無益ト思考セラレ、ヤ

小村男 貴説ノ如ク茲ニ二個ノ途アリ本員ノ意見ニヨレハ本條ニ關スル双方意見ノ相違ヲ認メタル上他條ノ討議ニ移ル方可然ト思料ス

「ウヰヰッテ氏 貴意ノ如ク實行セム

（コレヨリ左ノ新聞通知案ヲ協定シ午後零時三十分休會）

新聞通知文

八月十五日午前ノ會議ニ於テ第四條及第五條ヲ討議シ第四條ハ一致ヲ以テ協定セラレタリ第五條ニ就テハ一致ノ決定ニ到達スルコト能ハサリシヲ以テ全權委員ハ意見ノ異ナルコトヲ認メテ他ノ條項ノ討議ニ進ムコトニ決シタリ
會議ハ本日午後三時再ヒ開カルヘシ(原文ハ附屬書第三號)

午後三時三十分再會

「ウヰット」氏 是ヨリ會議ヲ開カム

小村男 然リ講和條件第六條ノ討議ヲ開始セム就テハ該條ニ關シ日本全權委員ハ一ノ覺書ヲ作成シタルカ故ニ研究ノ上同意セラレムコトヲ乞フ

(トテ左ノ覺書ヲ英文ニ認メ佛譯文ヲ添ヘテ「ウヰット」氏ニ手交セリ)

六露西亞國全權委員ハ本條ニ對シ主義ニ於テ何等故障ヲ有セサルヲ以テ日本國全權委員ハ形式上ノ困難ハ直ニ排除シ得ラルヘシト信ス日本帝國政府ハ露西亞帝國政府ヲシテ清國ニ對スル一切ノ責任ヲ免レシムル方法ヲ以テ本條規定ノ讓渡ヲ受諾スヘシ此ノ結果ハ該規定ヲ左ノ如ク書載スルコトニヨリ得ラルヘシ

露西亞帝國政府ハ日本國ノ利益ノ爲メ旅順口大連並ニ其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利特權讓與及免許ヲ拋棄ス

又露西亞國政府ハ前記租借權カ其効力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物

及財産ヲ日本國ニ讓渡ス又日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル個人ノ財産權カ尊重セラレヘキコトヲ約ス

(原文英文佛譯文ハ附屬書第四號及第五號)

「ウヰット」氏 (右文書ヲ閱覽シ且ツ之ヲ露國回答書ト比較シタル上) 新案ノ文言ニ關シテハ異議ナシ然レトモ其ノ説明ハ義ニ露國全權委員ノ爲シタル回答ノ趣旨ト相違セリ該回答書ニ於テ本員ノ陳述シタル思想ハ旅順口ノ租借ハ清國トノ契約ナルカ故ニ露國ノ一存ヲ以テ拋棄スルヲ得スト云フコトニシテ清國ニ對スル責任ノ問題ニ非サルナリ

小村男 貴全權委員ニ於テ新文案ニ關シ異存ナシトノ儀ナラハ之ニ關スル説明ハ全ク之ヲ撤回スルモ可ナリ

「ウヰット」氏 本員ハ貴新案中露西亞帝國政府ハ「ナル」文字ノ下ニ「清國政府」承諾ヲ經テ「ナル」文字ヲ附加セムコトヲ提議ス何トナレハ該租借權ハ清國トノ契約ニ依リテ所有スルモノナレハ豫メ清國ノ承諾ヲ得サレハ之ヲ讓渡スヲ得サルモノナレハナリ但シコレハ本員ノ思想ノ大體ノミニ止マリ其ノ字句ノ如キハ更ニ修正ヲ要スルコトアルヘシ

小村男 貴提議ノ如ク清國政府ノ承諾ヲ經テ「ナル」文字ヲ附加スルコトハ我新案ヲ採用スル以上ハ全ク無用ニ屬スヘシ何トナレハ舊案ニ於ケルカ如ク租借權ヲ日本國ニ讓渡スルコト、セハ貴方提案ノ如ク豫メ清國ノ承諾ヲ經ルコトヲ要スルナラムモ我新案

百一
ノ如ク單ニ該租借權ヲ拋棄スルコト、爲シタル以上ハ清國政府ノ承諾ヲ經ルヲ要セサルノ理ナリ貴方回答書中ニ該租借權ハ清國政府ノ承諾ヲ經サレハ之ヲ讓渡スコト能ハサル旨ヲ記載シアリタルニ付右形式上ノ困難ヲ排除セムカ爲メニ新案ヲ提出シタル次第ニシテ凡ソ契約上ノ權利ヲ拋棄スル爲メニハ決シテ第三者ノ承諾ヲ要セサルナリ

「ウヰッテ氏 貴方ノ新案ノ如キハ單ニ文字ノ變化ニ過キスシテ其ノ意義ニ至リテハ毫モ貴方ノ舊案ト異ナルコトナシ

小村男 然ラス露國ハ其ノ自國ニ關スル限り其ノ權利ヲ拋棄スルヲ得ルノ理ナリ

「ウヰッテ氏 若シ日本兩國政府ニ於テ權利ノ讓渡ヲ約束シタル以上之ニ對シテ清國政府ノ承諾ヲ得ルコト敢テ難事ニ非サルヘシ

小村男 然レトモ露國案ニ記載シタル如ク附加文言ヲ保存シ置カハ右ノ承諾ヲ清國政府ヨリ得ヘキモノハ露國政府ニシテ日本國政府ニ非サルナリ然ルニ右ノ附加文言ヲ削除スルニ於テハ右ノ承諾ヲ清國政府ヨリ得ヘキモノハ日本國政府タルヘキナリ

「ウヰッテ氏 正シク貴説ノ如シ依テ右附加文言ヲ保存シ置キ以テ露國政府自ラ清國政府ノ承諾ヲ得ルコト、爲スヲ要スルナリ

小村男 不可ナリ露國ノ租借權拋棄ハ完全且現實ナラサルヘカラス單ニ紙上ノ空文ナルヘカラス

「ウヰッテ氏 我家ニ依ルモ露國ノ租借權拋棄ハ現實ニシテ的確ナルモノナリ

小村男 否右租借權拋棄カ條件附ナル以上ハ第三者ノ意思ニ繫屬スルノ結果ト爲リ日國ニ取リテ價值ナキモノトナルヘシ

「ウヰッテ氏 本員ハ何カ故ニ貴全權委員ニ於テ露國案ニ對シ異議ヲ唱ヘラル、ヤヲ解スル能ハス何トナレハ露國ハ租借條約一方ノ當事者タルカ故ニ他方ノ當事者タル清國ノ權利ヲ顧ミスシテ恣ニ該條約ヲ處分スルカ如キ位地ニ立ツコトハ如何ナル場合ニ於テモ其ノ決シテ爲シ得サル所ナレハナリ且露國ニシテ自ラ該條約ヲ處分セサル以上ハ何人ト雖モ切リニ該條約ヲ處分シ得ヘキ筈ナシ

小村男 本員ハ決シテ露國ノ誠意ヲ疑フモノニ非ス

「ウヰッテ氏 然ラハ貴全權委員ハ何カ故ニ尙異議ヲ固持セラル、ヤ

小村男 我第一案ノ如ク租借權ヲ日本國ニ移轉讓渡スルニハ清國政府ノ承諾ヲ要スルモ該租借權ヲ拋棄スル爲メニハ決シテ右ノ同意ヲ要セサレハナリ

「ウヰッテ氏 既ニ陳述シタル如ク此ノ區別ハ文字上ノ變化ニ過キサルナリ

小村男 否我新案ノ如ク露國ハ日本國ノ利益ノ爲メニ租借權ヲ拋棄ストセハ其ノ結果タルヤ露國ハ該租借權ヲ拋棄シタル上日本以外ノ列國カ之ヲ取得スルニ故障ヲ容ルヲ得ヘク獨リ日本國カ之ヲ取得スルニ至ルヲ承認スヘキコト、ナルナリ

「ウヰッテ氏 凡ソ契約ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ合意ヲ得スシテ任意ニ該契約ノ目的物ヲ第三者ニ移轉シ得ヘキ理ナシ

小村男 目的物ノ移轉ト其ノ拋棄トノ間ニハ大差アリ

「ウヰッテ氏」本條ニ就テハ貴我双方ノ間既ニ意思ノ合致アルニ拘ハラス尙此ノ一點ニ付異議ヲ固執セラル、眞正ノ理由如何

(トテ他案ヲ提出セントス此間ローゼン男ハ「ウヰッテ氏」ニ説テ曰ク要スルニ清國ノ承諾ヲ露國カ得ルコト、スルカ日本カ得ルコト、スルカニツキ双方ノ意見一致セサルモノナレハ寧ロ兩國共同シテ清國ノ承諾ヲ得ルト云フコトニセハ纏マラント「ウヰッテ氏」曰ク其レハ得策ナラスト)

小村男 本問題ニ關シテハ本員等既ニ慎重ナル研究ヲ遂ケタリ而シテ我新案ヲ措テ他ニ露國全權委員ノ提起シタル形式上ノ困難ヲ排除スルヲ得ヘキ方法ナシ他ノ諸方案ハ皆有効ナルモノニ非ス

「ウヰッテ氏」露國ハ其ノ條約對手ノ承諾ナクシテハ該條約ヲ取消スコトヲ得ス且如何ナル形式ヲ採用スルニモセヨ結局清國ノ承諾ヲ要スルナルヘシ

小村男 日本全權委員ニ於テハ他ノ良文案ヲ發見スル能ハサレトモ若シ露國全權委員ニ於テ適當ナル一案アラハ之ヲ研究セム

「ウヰッテ氏」貴全權委員異議ノ基礎如何

小村男 本國修正案ノ採用セラレタル場合ニ於テハ清國ノ承諾ヲ得ヘキモノハ露國ニシテ日本國ニ非ス本員等ハ露國ノ誠意ヲ疑フニハ非サルモ條約面ニ於テハ日本國ニ於テ清國ノ承諾ヲ得ヘキコト、定メ置クヲ要ス

「ウヰッテ氏」既ニ述ヘタル如ク露國ハ契約ノ當事者ナルカ故ニ清國ノ承諾ヲ得ルコト

ハ露國自ラ之ニ任セサルヘカラス

小村男 然ラハ寧ロ日露兩國共同シテ清國ノ承諾ヲ得ヘキコト、爲サム

「ウヰッテ氏」貴我兩國ノ清國ニ對スル關係ヨリ見ルニ兩國一致シテ清國ノ承諾ヲ求ムルコト、スル方清國ノ感情ヲ損傷セサルノ效アラム

小村男 若シ日本國政府カ前記規定ノ承諾ヲ清國政府ヨリ得ヘキコトニ關シ露國政府ハ日本國政府ト共同ノ措置ヲ執ルヘシトノ一句ヲ附加セハ日本側ノ異議消滅スヘシ

「ウヰッテ氏」兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ストノ體裁ト爲サム

小村男 夫レニテモ差支ナシ但シ此ノ場合ニ於テハ本條初段ニ露西亞帝國政府ハ日本國ノ利益ノ爲メニ……ヲ拋棄ストアルヲ改メテ露西亞帝國政府ハ……日本國政府ニ移轉讓渡スト爲スヲ要ス

「ウヰッテ氏」就テハ書記官ヲシテ該文案ヲ起草セシメテハ如何

小村男 諾是ニ於テ小村男爵ハ自ラ筆ヲ執リ英文ヲ以テ左ノ文案ヲ起草シ之ニ佛譯文ヲ添テ「ウヰッテ氏」ニ手交ス

第六條修正案

六露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ族順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於

ケル一切ノ公共造物及財産ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財産權カ尊重セララルヘキ

コトヲ約ス(原文英文及佛譯文ハ附屬書第六號及第七號)

「ウヰット」氏 全然贊成ス、但シ末項………尊重セララルヘキコトヲ約ス」前ニ完全ニ「一

句ヲ挿入セムコトヲ希望ス

小村男 諾、コレニテ第六條ハ確定シタルナリ

「ウヰット」氏 然リ、是ヨリ新聞通知案ヲ起草セシメム

小村男 諾

是ニ於テ書記官等ハ左ノ案ヲ起草シ双方全權委員之ヲ承認シタル後午後六時散會セ

リ

新聞通知文

八月十五日午後ノ會議ニ於テ第六條ヲ討議シ相互ノ一致ヲ以テ之ヲ協定シタル後明

朝九時迄休會セリ(原文ハ附屬書第八號)

unanimous decision on Article V, the Plenipotentiaries have decided to take note of the divergency of views and to proceed with the discussion of the other Articles. The meeting will be resumed at three o'clock this afternoon.

第四號

6. The Plenipotentiaries of Russia having no objection in principle to this Article, the Plenipotentiaries of Japan believe that the technical difficulties may readily be removed. The Imperial Government of Japan are prepared to accept the transfer in such manner as to relieve the Imperial Government of Russia of all responsibility towards China. That result would be realized if the stipulation were made to read:

The Imperial Russian Government relinquish in favour of Japan the lease of Port Arthur, Talien and adjacent territory and territorial waters, and all rights, privileges, concessions and franchises connected with or forming part of such lease and they also assign and transfer to Japan all public works and properties in the territory affected by the above-mentioned lease. The Imperial Government of Japan on their part undertake that the actual proprietary rights of individuals in the territory above referred to, shall be respected.

第五號

(Translation)

6. Les Plénipotentiaires de Russie n'ayant aucune objection en principe à cet Article, les Plénipotentiaires du Japon croient que les difficultés techniques pourront être facilement écartées. Le Gouvernement Impérial du Japon est prêt à accepter le transfert d'une manière telle qu'il dégage le Gouvernement Impérial de Russie de toute responsabilité envers la Chine. Ce résultat pourrait être obtenu, si la stipulation était rédigée comme il suit:—

Le Gouvernement Impérial de Russie renonce en faveur du Japon le bail de Port Arthur, de Talien et du territoire et des eaux territoriales adjacents, ainsi que tous les droits, privilèges, concessions et franchises se rattachant à ou faisant partie de ce bail, et il cède de plus au Japon tous les travaux et propriétés publiques dans le territoire sur lequel s'étend le bail susmentionné. Le Gouvernement Impérial du Japon donne, de sa part, l'assurance que les droits de propriété d'individu dans le territoire indiqué ci-dessus, seront respectés.

第六號

6. The Imperial Russian Government transfer and assign to Japan, subject to the consent of the Chinese Government, the lease of Port Arthur, Talien and adjacent territory and territorial waters and all rights, privileges, concessions and franchises connected with or forming part of such lease and they also assign and transfer to Japan all public works and properties in the territory affected by the above mentioned lease.

The High Contracting Parties mutually engage to obtain the consent of the Chinese Government mentioned in the above stipulation.

The Imperial Government of Japan on their part undertake that the proprietary rights of Russian subjects in the territory above referred to, shall be respected.

第七號

Le Gouvernement Impérial de Russie cède au Japon à condition du consentement du Gouvernement de Chine, le bail de port Arthur, de Talien, des territoires et eaux territoriales adjacents, ainsi que tous les droits, privilèges, concessions et franchises se rattachant à ce bail ou en faisant partie, et il cède au Japon tous les travaux et propriétés publiques dans le territoire sur lequel s'étend le bail susmentionné.

Les Hautes Parties Contractantes s'engagent mutuellement à obtenir le consentement du Gouvernement Chinois, mentionné dans la stipulation ci-dessus.

Le Gouvernement Impérial du Japon donne, de sa part, l'assurance que les droits de propriété des sujets russes dans le territoire indiqué ci-dessus, seront respectés.

第八號

In the afternoon sitting of the Conference of August 15th, Article VI has been discussed and agreed upon with common accord and adjourned until to-morrow morning 9 o'clock 30.

講和談判筆記第五回本會議

明治三十八年八月十六日午前九時四十五分開會

列席者前回ニ同シ

小村男 之ヨリ第七條ヲ議セン

「ウヰッテ」氏 承知セリ

小村男 此ノ條ニ關シテ一ノ覺書ヲ作り置タリ今之ヲ貴全權委員等ニ提出シ考究アラシコトヲ希望ス(トテ右ノ覺書ヲ提出ス)

七、日本國全權委員ハ本條カ主義ニ於テ露西亞帝國政府ノ承諾スル所トナリタルコトヲ領ス哈爾濱旅順口間ノ鐵道敷設經營ノ權利ハ遼東半島租借ノ重要部分ヲ成スモノナリ從テ該鐵道カ其ノ全部分及全延長ニ亘リ其ノ敷設及現時經營ノ由テ來レル根本タル右租借ト運命ヲ共ニセサルヘカラサルハ論理上ノ結果ナリ加之兩鐵道線路ノ自然ノ區分點ハ此ノ兩線ノ交叉點ニ在リ又清國カ直ニ該線買收ノ權利ヲ行フコトニ就テハ日本國全權委員ハ日本帝國政府カ本問題ニ於ケル鐵道線路ヲ保有經營スルコトハ清國ノ買收權ニ關スル特許條約ノ規定及其ノ他ノ條件ニ準據シ露西亞帝國政府カ滿洲橫貫鐵道線路ヲ保有經營スルト同様ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘキコトヲ聲明セムコトヲ欲ス(原文ハ附屬書第一號及第二號)

「ウヰッテ」氏 (右覺書一閱ノ後本員ハ此ノ覺書ニ認メラレタル趣意ニ同意スルコト能ハ

第一號

5. The Plenipotentiaries of Japan regret to say that they are unable to share the views and conclusions of the Plenipotentiaries of Russia on the subject of Article V. They believe that Japan's title to at least a larger part of Saghalien can readily be traced to a period anterior to the Russian occupation and it seems to them that instead of being a natural continuation of the continental system of Asia, it forms a natural and necessary link in the chain of insular units of which the Empire of Japan is exclusively composed. But the main considerations which led Japan to ask for the cession of the Island are that (1st) the permanent security of the Japanese Empire requires the exclusive control of the island by Japan and (2nd) by the hazard of war Saghalien has come into the complete possession and occupation of Japan and it is now under her exclusive administration, the authorities of Russia having been replaced by those of Japan. What the Plenipotentiaries of Japan desire is to have the title thus acquired confirmed by a formal cession from Russia.

第二號

(Traduction)

5. Les Plénipotentiaires du Japon regrettent de constater qu'ils sont dans l'impossibilité de partager les vues et les conclusions des Plénipotentiaires de Russie au sujet de l'Article V. Ils croient que le titre du Japon à la majeure partie au moins de Sakhaline peut être facilement démontré même à l'époque antérieure à l'occupation russe; et il leur semble qu'au lieu d'être la continuation naturelle du système continental de l'Asie, cette Ile constitue un anneau naturel et nécessaire de la chaîne des unités insulaires dont l'Empire du Japon se compose exclusivement. Mais les considérations principales qui ont amené le Japon à demander la cession de cette Ile sont: (1) la sécurité permanente de l'Empire du Japon exige le contrôle exclusif de l'Ile par lui, et (2) par la fortune de la guerre, Sakhaline est entrée dans la possession et l'occupation complètes du Japon, et elle se trouve actuellement sous son administration exclusive, les autorités Russes ayant été remplacées par celles du Japon. Ce que les Plénipotentiaires du Japon désirent, c'est de voir le titre ainsi acquis se confirmer par une cession formelle de la Russie.

第三號

In the morning sitting of August 15th, the Conference has discussed articles IV and V. Article IV was unanimously agreed upon. Not being able to arrive at an

ス即チ東清鐵道ノ南滿洲支線カ遼東半島租借ノ一部分ナリトノコトヲ承認スルコト能ハス又此ノ支線ヲ日本ニ讓與スルコトハ遼東半島ニ於ケル租借地ヲ日本ニ讓與スルコトヨリ生スル論理上ノ結果ナリト云フコトモ之ニ同意スルヲ得ス元來半島ノ租借ト支線ノ敷設權讓與トハ二箇各異ナリタル事項ニシテ相互ノ間ニ何等關係アルナク隨テ一ハ以テ他ニ何等ノ影響ヲ有セス又哈爾濱ハ兩國鐵道ノ自然ノ連絡點ナリトノ說ニモ不同意ニシテ此ノ地ヲ以テ必ス鐵道讓與ノ區分點トナスヘシトノ事ハ之ヲ承諾スルコト能ハス該支線ハ其ノ哈爾濱ヨリ南方海ニ達スル迄ノ間ニ於テ之ヲ區劃スルコトヲ得ヘシ即チ露國ハ現在日本軍ノ占領ニ歸セル部分ノ鐵道ハ之ヲ日本ニ讓與スルコトヲ得ルモ其ノ以上ハ不可ナリ而シテ該支線南部ノ讓與ニ關シテハ我方ハ曩ニ我方ヨリ提出シタル回答書ニ記載シタル方法ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ承諾スヘシ此ノ鐵道線路ハ一ノ私立會社ニ屬スルモノニシテ之ヲ買收スルノ權利アルモノハ獨リ清國政府アルノミ故ニ我方ハ會社ト協議ヲ遂ケ清國政府ニ其ノ將來ニ於テ有スル買收權ヲ目下直ニ實行スルコトヲ得セシメ而シテ清國政府カ支拂フヘキ代價ハ之ヲ日本ニ交付セントス

小村男 斯ノ如クンハ所有者タル會社ハ何物ヲ得ルカ

「ウヰッテ」氏 何物ヲモ得ス然レトモ此事ハ露國政府ニ於テ會社ト協議シ處理スヘシ蓋シ日本ニ於テハ其ノ如何ナルカヲ知ラサルモ我露國ニ於テハ政府ハ制度上鐵道會社ニ對シテ監理ヲ行フコトヲ得故ニ本問題ノ讓與ヲ行フニハ次ノ如キ方法ニ依ラント

ス

- 一、鐵道會社ニ對シ其ノ鐵道ノ一部ヲ清國政府ヘ引渡スコトヲ命令スルコト
- 二、清國政府カ鐵道買收ヲ行フコトハ敷設權讓與ノ約定書中ニ規定シアリ今右買收權ヲ直ニ實行スルコトヲ清國政府ニ許スコト
- 三、露國政府ハ此ノ賣渡代金ヲ日本ニ交付シ會社ニハ交付セサルコト
- 四、線路ハ日本軍隊ノ占領セル區域ヲ限り之ヲ引渡スコト此ノ區域ハ判然之ヲ定メサルヘカラス而シテ其ノ分割ノ點ハ或重要ナル場所タルヲ要ス
- 五、既ニ約束シタル一切ノ規定即チ先ニ露國ニ殘屬スル鐵道ニ關シテ爲シタル約束ヲ相互的ニ爲スコトハ此ノ條ニ關スル會議録中ニ掲ケ置クコト

小村男 貴說ノ如ク清國ヲシテ直ニ鐵道買收ノ權ヲ得セシムルコト、セハ日本ハ代金ヲ得ルノミニシテ鐵道ハ之ヲ得サルコト、ナラン

「ウヰッテ」氏 然リ其ノ通りナリ即チ此ノ方法ヲ採用スルノ結果第一ニ日本ハ賣渡代金ヲ得第二ニ露國ハ該鐵道ヲ全ク拋棄シテ何等之ト關係ヲ有セサルコト、ナル思フニ此ノ第二カ貴方ノ主眼點ナラン何トナレハ是ヨリ以後該地方ニ於ケル露國ノ勢力ハ皆無トナルヘケレハナリ

小村男 此ノ如クセハ該鐵道ハ日本ニ於テ所有セス清國ニ於テ所有スルコト、ナルヘ

「ウヰッテ」氏 然リ即チ此ノ如クニシテ露國ハ其ノ勢力ヲ失フコト、ナルヘシ要スルニ

鐵道處分ハ露國ハ清國トノ條約ヲ有スルカ故ニ該條約ニ據テ之ヲ實行スルノ外ナキ
ナリ斯クテ之ヲ實行シタル後清國ハ自由ニ該鐵道ヲ處分スルコトヲ得ヘク而シテ露
國ハ之ニ對シ何等ノ勢力ヲモ有セサルコト、ナルヘシ

小村男 果シテ斯ノ如クンハソハ日本ニ對スル讓渡ニアラス

「ウヰッテ」氏 然リ該鐵道ハ私有財産ナルヲ以テ露國政府ニ於テ自由ニ處分スルヲ得ス
前ニ述ヘタル方法ノ如ク元來ノ約束ヲ踐ミテ引渡ヲ行フノ外之ニ就テハ日露兩國共
ニ如何ナル處分ヲモ爲スコトヲ得ス

小村男 果シテ然ラハ本問題ニ關シ双方全權委員ノ間ニ根本的意見ノ相違アリ故ニ茲
ニ詳ニ日本ノ地位ヲ説明センニ

第一、本員等カ今露國ニ讓與ヲ要求スル鐵道ノ範圍ハ貴全權委員等ノ知ラル、カ
如ク哈爾濱ヨリ旅順口迄ナリ此ノ支線敷設ノコトヲ最初ニ許可シタルハ旅順口
大連租借條約第八條ノ規定ナリ

第二、此ノ支線ハ租借ノ主要且分離スヘカラサル部分ヲ爲ス日本カ此ノ支線全部
ノ讓渡ヲ要求スルハ此ノ理由ニ基ケルナリ

第三、今ヤ露國政府ハ租借權ヲ日本ニ讓渡スルコトヲ承諾シタルヲ以テ該支線ハ
租借權ト共ニ日本ニ引渡サレサルヘカラス

第四、本員等ハ租借條約問題トハ全ク別トスルモ尙哈爾濱ヲ以テ區分點ト爲スノ
當然ナルコトヲ主張スルモノナリ何トナレハ滿洲鐵道ノ幹線ハ西比利亞線ト浦

鹽斯德間ノ直接交通機關ナルモ支線ハ哈爾濱ト遼東租借地トヲ連絡スル爲メニ
敷設セラレタルモノナリ故ニ露國政府ニシテ該租借地ヲ拋棄シタル以上此ノ支
線ハ露國政府ノ關スル限リ其ノ存在ノ理由ヲ失ヒタルモノナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ貴說ニ同意スルコト能ハス何トナレハ租借ト鐵道トハ清國トノ條
約ニ於テ二箇ノ異ナリタルモノナレハナリ其ノ區別ハ租借ニ關スル書類ニ依リ之ヲ
認ムルコトヲ得

小村男 否鐵道ノ許可ハ租借條約中ノ第八條ヲ以テ行ハレタルナリ

「ウヰッテ」氏 事實ニ於テハ此ノ支線ヲ敷設シ海口ニ達セシムルコトハ遼東半島租借ヨ
リモ遙カ以前ニ企テラレタルナリ鐵道ト租借ト二者ハ全ク異ナリタル獨立ノモノニ
シテ互ニ他ノ一部ヲ成セルニアラス偶此ノ兩者カ一條約中ニ規定セラレアルヲ以テ
之ヲ一物ナリト云フ能ハス抑モ我鐵道敷設ノ目的ハ依テ以テ海岸ニ達セムト欲スル
ニ在ルヲ以テ露國ハ毫モ土地若クハ地點ヲ有スルコトナクシテ海岸迄鐵道敷設ノ權
利ヲ清國ヨリ獲得スルヲ得ルハ明ナリ之ト同シク恰モ獨逸ノ膠州灣ニ於ケルカ如ク
鐵道ヲ所有スルコトナクシテ土地若クハ地點ヲ有スルコトヲ得故ニ此ノ兩者カ同一
ノ條約ニ規定セラレタリトノ事實ヨリ相互ノ間ニ何等連絡アリト云フコトヲ得ス

小村男 爾カ云ハルルモ歴史的記錄ハ此ノ兩者カ同一ノ交渉ニ由リテ同時ニ許可セラ
レタルモノナルコトヲ示ス

「ウヰッテ」氏 此ノ兩者カ同一ノ記錄ニ存セリトノ事實ハ本員モ亦之ヲ認ムルモ此ノ形

式ハ兩者カ一ニシテ離ルヘカラサルモノナルコトヲ意味ストハ本員ノ認ムルコト能ハサル所ナリ

小村男 兩者カ其ノ性質上相分離シテ存立スルコトヲ得ルハ勿論ノ事ナリ然レトモ本鐵道ノ起原ハ旅順大連ノ租借ニ在ルヲ以テ沿革上離ルヘカラサル關係ヲ有ス

「ウヰッテ」氏 否、露國カ滿洲鐵道ノ南行支線ヲ敷設シテ海岸ニ達セシメントスルコト、旅順大連ノ租借ヲ得ントスルコトハ全ク別箇ニ起リタル企圖ニシテ最初ニ鐵道敷設ノコト計畫セラレ租借ノコトハ遙カ後ニ至リテ企テラレタルナリ

小村男 露國政府ノ意思如何ハ本員等ノ茲ニ論スル所ニアラス沿革的記録ハ此ノ兩者カ全ク密接離ルヘカラサル關係ヲ有スルコトヲ明示セリ

「ウヰッテ」氏 兩者ハ全ク異リタルモノニシテ貴全權委員ハ兩者ノ許可カ同一ノ條約文ニ認メアルノ故ヲ以テ之ヲ一物ト見做サル、ナラン本員ハ同一條約中ニ規定セルコトヲ以テ兩者相結合スルモノタルコトヲ意味スルモノニアラスト云フモノナルモ尙歴史的二於テモ將タ性質的二於テモ爾カ云ハサルヲ得ス試ニ例ヲ取リテ之ヲ示サンニ茲ニ一人アリ家ヲ購ヒ同時ニ又船ヲ購ヒタリトセン此ノ場合ニ於テ家ト船トハ互ニ他ノ結果ナリト云フヲ得ス

小村男 性質上二者ガ獨立シテ存立シ得ルモノナルコトハ本員モ亦之ヲ認ム然レトモ本員ノ茲ニ論セムトスルハ旅順租借條約ハ千八百九十八年三月ニ締結セラレ之ニヨリ同年六月清國政府ト露清銀行トノ間ニ東清鐵道敷設條約成リ此ノ鐵道敷設ノコト

ハ旅順租借ノ事ニ基キテ定メラレタルナリ

「ウヰッテ」氏 貴説ハ却テ本員ノ意見ヲ確ムルモノ、如シ第一租借談判ノ時租借ト鐵道敷設トヲ併セテ談判セス先ツ租借ノ事ヲ談シ次ニ敷設ノ事ヲ談セリ此ノ鐵道敷設ノ事ハ初メハ主義ノミ取極メ二ヶ月後ノ談判ニヨリテ決定シタルモノナリ此ノ手續ハ又滿洲鐵道ノ幹線ニ於テモ行ハレ最初ニハ主義ノミ決定セラレ後ニ至リテ實際ニ適スル特別ノ約束結ハレタルナリ

小村男 實情貴方ノ説明ノ如クナラハ本員ハ尙更同意スルコト能ハス本員等ノ主張スル所ハ鐵道敷設ハ租借ノ結果ナリト云フニ在リ今貴全權委員ノ述ヘラレタル特別ノ約束ナルモノハ租借條約ニ基キテ結ハレタルモノナルカ故ニ租借權ニシテ讓渡サレタル以上ハ鐵道ハ勿論其ノ結果トシテ讓渡サレサル可ラス而シテ又鐵道カ租借ノ結果ナリヤ否ヤノ問題トハ別ニシテ本員等ハ本線路全部ヲ要求スルニ對シ尙一層高尚ナル政治上ノ理由ヲ有ス抑モ滿洲鐵道ハ其ノ目的專ラ商業上ニ止リタル限リ自然且正當ノ交通機關タリシナリ露國ハ沿黑龍江州及沿海州ニ於テ重要ナル利益ヲ有スルヲ以テ此ノ地ニ對シテ鐵道ノ連絡ヲ附シ以テ同地方ノ富源ヲ利用セントスルハ固ヨリ當然ノコトニシテ若シ此ノ鐵道カ該幹線ノミニ止メラレタリシナランニハ吾人カ五六年來實驗シタルカ如キ多大ノ困難ハアラサリシヤモ知ルヘカラス然レトモ遼東半島租借ノ結果南滿洲支線ノ敷設セラレタルコトハ全然形勢ヲ一變セシメ此ノ南滿洲支線ハ日本カ認メテ以テ自國ノ生存ニ必要缺クヘカラスト爲ス所ノ利益ニ對スル

侵迫タルコトヲ證スルニ至レリ故ニ日本ハ幹線ニ對シテハ其ノ目的カ純然商業的ナル限リ何等ノ困難ヲ惹起スコト恐ク之レナカルヘシト雖此ノ支線ニ就テハ決シテ介意ナキ能ハス殊ニ該支線タル日本カ往年露國及其ノ他ノ強國ノ干涉ニヨリ清國ニ還附スルニ至リタル地域ニ於テ海ニ出ツルノ終點ヲ有セルヲ以テ一層然リト爲ス是レ他ノ問題ハ全ク別トシテ日本カ全支線ヲ要求スルノ已ムヲ得サル最高ノ理由ナリトス

「ウヰッテ」氏 本員等ハ以上根本的ニ意見ヲ異ニセルコトニハ論及セサルヘシ
小村男 ソハ本員ノ議論ノ第一點ノコトナラン本員ノ議論ニハ二點ヲ含メリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ遼東租借ト鐵道敷設ト互ニ關聯セリトノ貴説ニ服スルコト能ハス此ノ兩者ハ政治上經濟上互ニ相影響シ日本ニ對シテ或勢力ヲ及ホシタルハ事實ノ示シタルカ如シ然レトモ此ノ内ノ一ヲ讓與シタリトテ其ノ當然ノ結果トシテ他モ亦伴フテ讓與セラルヘシトハ承服スコト能ハサル所ナリ旅順及遼東半島ノ租借並鐵道ノ敷設カ政治上ノ意味ヲ有スルコトハ本員モ亦之ヲ認ム然レトモ租借地ニシテ日本ニ讓與セラレタル以上本鐵道ハ最早露國ニ取リ政治上ノ意義ヲ有スルコトナキニ至レリ何トナレハ露國ハ只此ノ支線ノ小部分ヲ保有スルニ過キサレハナリ

小村男 貴全權委員ノ談ハ現在ノ事實ニ關スルモノニシテ鐵道ノ來歴ヲ不問ニ付セルモノナリ日本政府ハ該鐵道ノ眞性質ヲ以テ日本ヲ侵迫スルモノト認ム此ノ理由ニヨリ支線全體ノ讓與ヲ要求セサルヘカラス

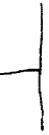
「ウヰッテ」氏 (語ヲ挾ミテ) 該讓與ハ何人ニ向テ之ヲ爲スノ意ナルヤ日本ナルカ將タ清國ナルカ
小村男 其ノ問題ニ就テハ之ヨリ意見ヲ述ヘントスル所ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ云ハントス此ノ兩者ハ、、、、、
小村男 今其ノ事ニ就キ談フ及ホサントス扱第二ノ論點ハ東清鐵道ノ性質是ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ今此ノ問題ヲ決セント欲ス本員ハ海岸ニ終點ヲ有セサル線路カ政事上ノ意義ヲ有セリトハ認ムルコト能ハス海上ニ連絡ヲ有セサルモノタル以上ハ其ノ意義ハ單ニ商業的ナリ

小村男 ソハ現ニ協議中ナル條約ノ成立シタル後ノ結果ナリ本員ハ今鐵道本來ノ意義ヲ論シツ、アルナリ

「ウヰッテ」氏 鐵道本來ノ意義ハ今更論スルコトヲ欲セスソハ只歴史のノコトニシテ若シ之ニ就キ論セラル、ニ於テハ如何様ニモ答ヘ得ヘシ然レトモ今ハ目前ノ處分ノコトナレハ歴史ノコトハ論スルヲ要セス東清鐵道ハ私立會社ノ所有スル鐵道ニシテ政府ハ之ニ付監督ヲ行ヒ又國家ノ爲メ所要アル時ハ之ニ命令ヲ下シテ政府ノ用務ヲ達セシムルモ之カ爲メ鐵道ノ私立タルコトヲ妨クルモノニ非ス是レ露國ノ他ノ鐵道ニ就テモ同シク行フ所ニシテ又外國ニ於テモ其ノ例多シ例ヘハ佛國ノ如キモ其ノ鐵道ハ縱令私有タリトモ政府ノ監督ニ付シ且戰時若クハ國家ノ必要ニ會スルトキハ命令ヲ以テ之ヲ使用處分ス只政府ハ之ニ對シテ報償ヲ爲スアルノミ



小村男 否、東清鐵道ノ性質ハ特殊ナリ

「ウヰッテ」氏 ソハ支線ノコトカ

小村男 否、該鐵道全體ニ關シテナリ貴全權委員ハ東清鐵道ハ私立會社ニ屬スト云ヒ且
恰モ佛國ニ於ケル私立鐵道ノ如シト云ハレタルカ決シテ然ラス

「ウヰッテ」氏 佛國ノ鐵道ノ事ハ例トシテ説明ノ爲メニ擧ケタルナリ

小村男 本員ハ決シテ斯ノ如キモノニアラサルコトヲ證セントス先ツ鐵道敷設ノ由來
及目的ニ就キテ云ハム東清鐵道ハ千八百九十六年五月莫斯科ニ於テ調印セラレタル
露清祕密條約ヲ根源トセルニアラスヤ

「ウヰッテ」氏 然リ其ノ通リナリ

小村男 此ノ鐵道ノ目的タルヤ右條約ニ於テ露國カ清國ヲ助ケテ日本ノ侵撃ヲ防クコ
トノ目的ノ爲メ露國ノ軍隊ヲ輸送スルコトニ在リト認メアリ故ニ此ノ鐵道ハ右ノ祕
密條約ニ由リ軍事鐵道タルコトヲ意味セルコト明ナリ是レ鐵道敷設當初ノ目的ニシ
テ其ノ後此ノ鐵道ニ關シテ露清兩國間ニ締結セラレタル諸種ノ協約ハ皆此ノ目的ニ
適スヘク作ラレタリ其ノ結果東清鐵道ハ外見私立會社ノ鐵道ノ如キ觀アルモ其ノ實
ハ露國政府ノ事業ニシテ露國政府タルモノハ其ノ欲スルカ儘ニ此ノ鐵道ヲ使用處分
スルコトヲ得ルノ地位ニ在リ即チ此ノ鐵道タル全ク露國政府ノ支配ノ下ニ在ルヲ以
テ該政府ノ欲スル所ハ直ニ行ハルノ、位置ニアリ

「ウヰッテ」氏 貴全權委員ノ云ハル、所ハ真相ヲ穿チタルモノニアラス此ノ如キ議論ヲ

爲サル、ハ記錄ノ不足ナルニ基ケリ今其ノ真相ヲ明ナラシムカ爲メ本員ハ爰ニ腹
藏ナク語ルヘシ元來東清鐵道ハ決シテ軍事的ノ目的ヲ以テ敷設セラレタルモノニア
ラス其ノ目的タル一ニ露國ノ絶東領地ニ連絡ヲ附スルニ在リ此ノ連絡ノ爲メニハ最
初ハ黑龍江岸ヲ迂回シテ鐵道ヲ敷設セムコトヲ欲シ其ノ調査ヲ盡シタリ該調査ハ總
テ本員自ラ其ノ衝ニ當リテ行ヒタル所ナルカ其ノ結果黑龍江岸ヲ迂回スルコトハ多
大ノ困難アルコトヲ確メタリ第一ニ地勢甚タ不規則ニシテ工事非常ニ困難ナルカ上
ニ距離甚シク延長シ之ヲ直線ニ貫通セシムルニ比スレハ五六百露里モ迂回セサルヘ
カラサルコトヲ確メタリ故ニ工事容易ニシテ短距離ナル滿洲通過ノ線ヲ取リテ此ノ
鐵道ヲ敷設スルコトヲ決シタルモノニシテ其ノ本來ノ目的ハ全ク商業的ナリシナリ
今貴全權委員ノ語ラレタル莫斯科祕密條約ノコトハ今帝ノ戴冠式ニ李鴻章大使トシ
テ莫斯科ニ來リ其ノ時露國政府ハ彼ト談判セシメ該談判ハ總テ本員自ラ其ノ局ニ當
リタルナリ而シテ當時ニ於テモ本員ハ露國カ東清鐵道ヲ敷設スル目的タル全然商業
上ニ在ルコトヲ説明セリ故ニ清國政府モ之ヲ軍事的トナササルノ趣意ヲ明ニセムコ
トヲ欲シ之カ爲該鐵道ノ途中ニ於テ輸送軍隊ヲ停留スルコトヲ得サル旨ノ規定ヲ設
ケタル程ナリ事情斯ノ如クナルヲ以テ其ノ際ニ於テ日露兩國間ノ戰爭ト云フカ如キ
思想ハ毫厘モ之レ無カリシナリ該談判ノ際李鴻章ハ此ノ鐵道ハ清國カ日本ヨリ侵撃
ヲ受ケタルトキハ如何ナル意義ヲ有スヘキヤヲ論シ若シ日本カ清國ヲ攻撃シ來ルト
キ露國ニ於テ清國ヲ助クルコトヲ承諾スルニ於テハ該鐵道敷設權ヲ許可スヘキ旨ヲ

述ヘタリ之ニ對シ露國ハ又之ヲ相互條件トシテ若シ日本カ露國ト戰ヲ開キ烏蘇里地方ニ侵入シ來ラハ清國亦起テ露國ヲ助クヘキコトヲ約スヘキ旨ヲ提議シ之ヲ好餌トシテ條約ヲ成立セシメタルナリ故ニ此ノ相互援助ノ條件ハ毫モ日本ニ對シテ侵略的性質ヲ有セス又事實ニ於テ露國ハ此ノ相助條件カ實際上何等効力ヲ有セサルモノナルコトヲ斷言ス此ノ條件ニ露國ノ同意シタルハ清國カ頻ニ之ヲ迫リタルト又實際上重大ナル意義ヲ有セサルコトヲ認メタルヲ以テ爲シタル迄ニシテ其ノ真正ノ目的ハ全ク經濟的ナリシナリ其ノ實證ハ千九百年ノ北清事變ニ於テ露國ハ日本ト協同シテ清國ヲ伐チ又現ニ今回ノ日本トノ戰爭ニ於テ露國ハ決シテ清國ニ對シテ露國ノ味方トナリ來ラシコトヲ要求シタルコトナシ又爰ニ全然一個人トシテ貴全權委員カ正當ニ事物ヲ判斷セラル、コトノ爲メ一言スヘキコトアリ此ノ事ハ會議録中ニ掲クヘカラス小村男栗野氏其ノ他露都駐節ノ經歷アル諸氏ハ皆同シク本員カ個人トシテ侵略的主義ニ反對シ終始平和ヲ以テ主義トセルモノナルコトヲ熟知セラル、ナラン此ノ平和主義ノ本員カ該鐵道事業ノ衝ニ當リ本員ノ勢力ノ及フ限リ此ノ主義ヲ該鐵道ノ事ニ及ボサント爲シタルモノナルカ故ニ該鐵道カ全然侵略的ノモノニアラサルコトハ之ニテモ推知シ得ラル、ナラン李鴻章談判ノコトヨリシテ此ノ鐵道ヲ侵略的ノモノナリト看做スハ本員ノ同意スルコト能ハサル所ナリ此ノ鐵道ハ全ク平和的ナリ然レトモ同一ノ物件ハ數百異ナリタル用ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ純然紙片ヲ切ル爲メニ製セラレタル小刀モ時トシテハ人ヲ傷クルノ用ヲ爲スコトアルヘシ此ノ鐵道モ

亦元來ハ平和的ノモノナリシモ今回ノ戰爭ニハ之カ一種ノ武器ナラザリシト云フコトヲ得ス故ニ本員ハ今該鐵道モ一切當初ノ目的ノ通り平和的ノモノナラサルヘカラサルコトニ同意シ從テ遼東半島ノ租借ヲ日本ニ讓ルコト、爲シ且此ノ鐵道カ商業ノ目的以外ニ用ヒラル、コトナキヲ約スヘシ又本員ハ此ノ鐵道カ露國政府ノ大ナル勢力ノ下ニ立テルモノタルコトヲモ否認セス然レトモ之カ爲メ東清鐵道會社ハ特別ノ地位ニ在リト云フコトヲ得ス即チ戰時ニ於テハ鐵道ニ關シテ種々ノ制限及命令ヲ下スコトヲ得ヘシト雖ソハ露國ニ於テ何レノ會社ニ對シテモ爲スコトニシテ只之ニ對シテ政府ハ賠償ヲ爲スコトアルノミ現ニ露土戰爭ノ時モ重要ナル私立會社ノ鐵道ハ皆軍事ノ爲メ之ヲ政府ノ用ニ供セシメタリ之ニ對シテ政府ハ損害ヲ賠償セリ本員ハ實際上貴全權委員ノ希望ト疑惑トヲ充分了解ス而シテ此ノ疑惑ヲ除去ラムコトヲ欲ス本員ハ本鐵道カ旅順迄連絡シタル以上軍事上ノ効力ヲ有シ從テ日本ニ於テ之ヲ一ノ侵略的機關ナリト思考セラル、コトヲモ亦能ク了解ス故ニ遼東半島ノ問題ヲ處分シタル以上ハ該鐵道ニ就キ侵略的若クハ危險的ナリトノ疑念ハ全然除去ラレタルモノト考フ而シテ遼東半島ノ租借ヲ讓渡スコト、爲シタル以上其ノ地域内ニ於ケル鐵道モ亦直接日本ヘ讓渡スコトハ論理上ノ結果ナルヲ以テ本員等ハ之ヲ爲スコトヲ得此事ハ本員等自ラ責任ヲ以テ之ヲ爲スヘシ然レトモ其ノ他ノ部分ニ付テハ爾カスルコト能ハス

小村男 本員カ該鐵道ノ淵源タル莫斯科條約ニ就キ議論ヲ爲シタルハ腹藏ナク我方ノ

所見ヲ説明セムコトヲ欲シタルニ由ル

「ウヰヰ」氏 本員ハ貴全權委員カ腹藏ナク其ノ所見ヲ述ヘラレタルコトヲ謝ス然レトモ本員モ亦腹藏ナク當時ノ事情ヲ語リタルカ如ク貴全權委員ハ所謂該鐵道ノ侵略的性質云々ニ付正鵠ヲ失シタル感想ヲ懷キ居ラル、モノト認ム該條約締結當時ノ事情ニ表裏兩面アリテ所謂防禦同盟ノ規定ヲ設ケタルハ全ク清國ノ同意ヲ得ルタメ表面條文ニ載セタル迄ニシテ眞ノ目的ハ經濟的必要ノ爲メ鐵道敷設權ヲ得ントスルニ在リ其ノ最良ノ證左ハ所謂同盟的條約ノ曾テ實行セラレタルコトナキニヨリ明ナラズヤ

小村男 本員ハ貴全權委員ノ腹藏ナキ説明ニ對シテ眞誠ニ謝意ヲ表ス往年露國ニ駐節スルヤ閣下ノ知己タル榮ヲ得當時該鐵道事業ノ經濟的發達ニ關シ貴見ヲ叩キタルコトアリ而シテ當時ノ説明モ滿洲鐵道ノ目的ハ全然經濟的ナリト云フニ在リシハ本員ノ記憶スル所ナリ

「ウヰヰ」氏 若シ該鐵道カ單ニ幹線ノミニ限ラレタリシナラムニハ日本ニ對シテハ友好的關係ト相互ノ利益トヲ生シ得タリシナラン

小村男 滿洲鐵道ノ本來ノ目的全ク商業的ニシテ且沿黑龍江州地方ノ富源開發ヲ主トシ日本ニ對シテ何等侵略的性質ヲ有スル目的ニアラサリシコトハ今貴全權委員ノ與ヘラレタル説明及貴全權委員カ露都ニ於テ本員ニ語ラレタリシ事ニヨリ甚タ明瞭トナレリ本員ハ莫斯科ニ於テ談判セラレタル祕密條約ニ關スル説明ニ對シ重テ貴全權

委員ニ謝シ且所謂軍隊輸送ニ關スル祕密約束ニ付貴全權委員ノ爲サレタル説明ヲ承諾ス此等ハ皆過去ノ事ニシテ而シテ此等過去ノ事ニ關シテハ本員等ハ文書ニ依リテ判斷スルノ外コレナカリシナリ故ニ今莫斯科協商及該談判ノ直接ノ衝ニ當ラレタル紳士タル貴全權委員ヨリ此事ニ關シ詳細ナル説明ヲ聞クコトヲ得タルハ本員ノ甚タ満足スル所ナリ本員ハ是ヨリ實際的ノ問題ニ移ラム之ニ就キテハ二個ノ問題ヲ決セサルヘカラス即チ

一、如何ニシテ露國政府ハ該鐵道ヲ日本ニ讓渡スヘキカ

二、日本ニ讓渡セラレヘキ鐵道ノ範圍如何

是ナリ而シテ第一點ニ就テハ鐵道ノ讓渡ハ遼東租借權ノ讓渡ノ條件ト同一條件ノ下ニ在ラサルヘカラサルコトハ論理上當然ノ結果ナリ故ニ清國ノ同意ヲ經テ露國ヨリ日本ニ讓渡スコトニスヘシ然レトモ最早午後一時トナリタルヲ以テ新聞通知案ヲ定メ午餐ヲ喫セム

「ウヰヰ」氏 諾

(是ニ於テ双方全權委員ハ八月十六日午前ノ會議ニ於テ第七條ヲ討議シ午後一時ニ至リ休憩セリトノ新聞通知案ヲ定メタル後一同食堂ニ赴キ午餐ヲ共ニシ午後三時十五分迄休憩セリ)

(午後三時十五分再開)

小村男 午前會議ニ引續キ滿洲鐵道引渡ノ方法ヲ議セム

「ウヰッテ」氏 諸滿洲鐵道讓渡方法ニ就テハ其ノ遼東租借地域内ニ在ルモノト其ノ同地域外ニ在ルモノトヲ別タサルヘカラス其ノ該地域内ニ在ルモノニ付テハ露國政府ヨリ之ヲ直接ニ日本國ニ讓渡スルコト租借權讓渡ノ論理的結果ナリト雖其ノ該地域外ニ在ルモノニ關シテハ然ラス

小村男 本員ハ貴案ニ同意スルコト能ハス即チ滿洲鐵道ハ總テ日本國ニ直接ニ讓渡スルノ方法ヲ採用スルコトヲ要ス

「ウヰッテ」氏 本員ハ一旦該鐵道ヲ清國ヘ交付シタル以上ハ該鐵道カ如何ニ處分セラレ、ヤニ付何等ノ方法ヲ以テモ之ニ干渉セサルコトヲ約スヘシ是ニテ實際上何等差支ナカラム結局ハ日本ノモノト爲ルヘキナリ

小村男 然ラハ即チ問題ハ全ク形式上ニ止マリ實際上双方ノ意見ハ一致セルナリ故ニ我方ノ提議通り清國ノ同意ヲ以テ日本ヘ讓渡スコト、爲サム

「ウヰッテ」氏 實質ニ於テハ本員等ハ全ク貴方ト意見相一致セリ然レトモ表面上清國ヘ還附スルコト、爲サ、レハ清國ニ對シテ其ノ體面ヲ傷クルコト、ナラム

小村男 鐵道ノ讓渡ハ清國ノ同意ヲ以テスルコトト爲シタル以上ハ清國ノ體面ヲ傷クルコトハ之レナキニアラスヤ且該讓渡ハ遼東租借權讓渡ト同一ノ性質ナルヲ以テ一方ニ就キテ日本ヘ直接讓渡ヲ承諾セラレタル以上他方ニ就キテ之ヲ拒マラル、理由ナカラム

「ウヰッテ」氏 否租借條約ニハ之ヲ再ヒ他ニ轉讓スル事ニ就キ何等規定ナキヲ以テ可ナリト雖鐵道敷設特許條約ニハ該鐵道ハ清國ニ讓渡スヘキモノナルコトヲ明言シアルヲ以テ双方ノ場合ハ同一ナラス

小村男 貴全權委員ハ過刻租借地域内ニ於ケル鐵道ヲ直接ニ讓渡スコトニ同意セラレソハ租借地讓渡ニ伴フ論理上ノ結果ナリト述ヘラレタリ且又屢鐵道ト租借トハ全ク別異ノモノニシテ其ノ間互ニ何等關係ナキコトヲモ論セラレタリ果シテ然ラハ鐵道讓渡ニ就キ租借地域内ノ部分ト其ノ地ノ部分トニツキ異ナル方法ニ依ラサルヘカラスル理由ヲ發見スルコト能ハス

「ウヰッテ」氏 租借地域内ノ鐵道ヲ直接ニ讓渡スコトハ論理的結果ナリト云ヘルハ左程深キ意味ニハアラス土地カ移ル以上ハ其ノ地上ノ物之ニ伴フテ移行クハ當然ナリトノ考ヨリ來リタルノミナリ

小村男 要スルニ貴説ノ如クハ鐵道ノ移轉ハ租借地ノ移轉ト同様ニ取扱フコトヲ得ルコト、ナル

「ウヰッテ」氏 否鐵道ノ方ハ清國ニ對スル形式上同様ナルコトヲ得ス

小村男 ソハ先刻モ述ヘタル如ク清國ノ同意ヲ要ストナシ置ク以上若シ清國同意セハ何等議論ナキコトナラム

「ウヰッテ」氏 然ラハ條約ノ書方ハ我方ノ提議ノ如クニ爲シ置キ而シテ會議録中ニ若シ鐵道ヲ直ニ日本ヘ讓渡スコトニ付清國ニ於テ故障ナキトキハ露國ハ之ニ對シ何等故

障ヲ有セサルヘシト認メ置カハ可ナラン

小村男 本員ハ斯ノ如ク爲スノ必要ヲ認メス直チニ條約ノ上ニ清國ノ同意ヲ以テ日本ヘ讓渡スコト、スヘシ

「ウヰッテ」氏 ソハ只形式上ノ問題ニシテ主義ハ双方同一ナレハ我方ノ提議ノ如ク取計ヒ趣意ハ達セラレム

小村男 若シ爾カセムニハ日本ハ何事ヲモナスコト能ハス假令會議録中ニ斯ノ如キコトヲ記入スルモ實質上前來貴方ノ主張ト同一ニ歸スヘシ

「ウヰッテ」氏 否清國ニ於テ直接ノ讓渡ヲ選ムニ於テハ露國ハ之ニ對シ異議ナキコトヲ明言スル點ニ於テ異レリ

小村男 若シ條約ニ於テ清國ノ承諾ヲ以テ直接日本ヘ讓渡スコトニナラムニハ可ナルモ貴案ノ如キ取極ニテハ日本ハ自ラ何事ヲモ爲スコト能ハサルヘシ

「ウヰッテ」氏 孰レノ場合ニ於テモ日本ハ金錢若クハ鐵道ヲ受領スルコトヲ得ルナリ是レ我方ノ趣意ナリ

小村男 日本ハ代價ヲ欲スルニアラス鐵道其ノ物ヲ受取ルコトヲ要スルナリ

「ウヰッテ」氏 ソハ我方ニ於テ故障ナキコトナリ故ニ其ノ主意ヲ會議録ニ掲ケ置カムト云フナリ

小村男 否會議録ニテハ不可ナリ條約ニ認メ置クヲ要ス

「ウヰッテ」氏 然ラハ不得已貴方ノ意見ニ同意スヘシ然レトモ若シ爾カスルニ於テハ我方ノ趣意ヲ會議録ニ記入シ置キタシ

小村男 ソハ不可ナリ且不必要ナリ

扱斯克定メタル後遼東租借權讓渡ノ場合ニ於ケルカ如ク本件ニ關シテモ清國政府ノ同意ハ日露兩國ニ於テ之ヲ要求シテ得ルコト、定メム

「ウヰッテ」氏 否其ノ點迄ハ進ムヲ得ス既ニ清國政府ノ同意ヲ以テ直接日本ニ讓渡スコトヲ承諾シタルスラ往過キタリト思考スルヲ以テ此ノ上露國ヨリ進ムテ清國ノ同意ヲ求ムルヲ約スルコトハ本員ノ到底承諾スルコト能ハサル所ナリ若シ我方ノ提議ノ如ク本條ヲ定メタラムニハ露國ヨリ清國政府ニ同意ヲ求ムルコトヲ會議録中ニ記入スルコトヲ承諾スヘキモ今ヤ貴方ノ提議ヲ容レテ直接讓渡トナスコトヲ諾シタル上

ハ此ノ上清國ノ同意ヲモ我ヨリ協力シテ求ムルコトハ爲シ能ハサルナリ

小村男 貴全權委員ノ論旨ハ頗ル解シ難シ租借地ノ讓渡ト鐵道ノ讓渡トハ同性質ナルヲ以テ之ニ對シ清國ノ同意ヲ双方ヨリ求ムルコトニ就テモ亦同様ナラサルヘカラス

然ルニ租借權讓渡ニ關シテハ同意ヲ求ムルコトヲ約シツ、鐵道讓渡ニ付之ヲ拒マルルハ解スヘカラス

「ウヰッテ」氏 否我方ノ考ニテハ鐵道ノ讓渡ニ就テハ相當ノ體面及第三國ニ對スル斟酌ヲ考量セサルヘカラサルコトヲ云フナリ日本ニ於テ清國ト協商ノ上之ヲ受領セラルルコトハ露國ニ於テ毫モ故障ナキ所ナリ

小村男 露國ノ眞意如何ハ毫モ疑フ所ニアラスト雖斯ノ如ク租借權讓渡ニ就テハ共ニ

百二十九

清國ノ同意ヲ求ムルコトヲ諾シツ、鐵道讓渡ニ付テ之ヲ拒マル、ニ於テハ其ノ理由ヲ解スルニ苦ムヲ以テ必ス前者ト同様ノ規定ヲ諾セラレムコトヲ望マサルヲ得ス

「ウヰッテ」氏 決シテ他意アルニ非ス然レトモ露國ノ清國ニ對スル關係上形式ニ於テ誤解ヲ來スノ恐アルコトハ之ヲ避クルノ必要アルナリ

小村男 然レトモ條約ハ公布セラレヘキモノナレハ其ノ公布ノ曉斯ノ如ク全ク同性質ノ讓渡事件ニ關シ一ハ双方ヨリ同意ヲ求ムルコトヲ約シ他ハ之レナキトキハ忽チ疑惑ヲ招キ其ノ理由ヲ問フモノアラハ如何ニ説明スヘキヤ畢竟兩者取扱ヲ異ニスヘキ理由ナキヲ以テ是非共之カ挿入ヲ希望セサルヲ得ス

「ウヰッテ」氏 然ラハ不得已ニ付爾カスヘシ

次ニ貴案中何等ノ債務及負擔ヲ伴ハシメスシテトアリ其ノ意義如何

小村男 是レ畢竟金錢ノ支拂ヲ要セストノ意義ナレトモ強ヒテ必要ノモノニ非サルカ故ニ之ヲ削除スルモ可ナリ

「ウヰッテ」氏 就テハ「金錢ヲ要セスシテ」ト明記シ置カム

小村男 夫レヨリハ「補償ヲ受クルコトナク」トスル方可ナラン

「ウヰッテ」氏 諾又清國政府ノ承諾ニ關シテハ清國政府ノ承諾ヲ條件トシテトナサム

小村男 「ローゼン」男ニ對シ「英語」ノ「Subject to」ハ佛語ニテ何ト譯スルヤ

「ローゼン」男 「Sujet au」ナリ

小村男 然ラハ差當リ英文ヲ佛語ニ直譯シ「Sujet au……」ト爲シ置キ後日之ヲ改ムルコト

ト、セム

「ウヰッテ」氏 條約文ニ欄外註ヲ施シ右「Sujet au……」トハ「……」條件トシテノ意ナル旨ヲ記シ置カム

小村男 否之ヲ後日ニ讓ルコト、スルヲ可トス

「ウヰッテ」氏 諾尙本條末項ヲ定メサルヘカラス

小村男 同項ハ鐵道讓渡ノ場合ト同シク之ヲ相互的ト爲サム

「ウヰッテ」氏 諾

小村男 是ヨリ第二點即チ何レノ場所迄讓渡サルヘキヤ否ヤノ問題ニ移ラム此ノ事ハ過刻モ述ヘタルカ如ク既ニ租借權ノ讓與ニ伴フテ本鐵道ヲ讓受クルコト、ナリタル以上ハ當然哈爾濱迄ノ讓受ヲ請求セサルヘカラス又讓與ノ區分點モ天然ノ形勢上哈爾濱ト爲スコトハ最も相當ナリ貴全權委員ノ言ハル、カ如ク現ニ日本軍隊ノ占領區域内ニ在ル部分ニ限ルト云フコトハ其ノ理由ヲ解スルコト能ハス若シ如斯ナレハ戰局益進ムテ占領區域愈増加セハ鐵道讓渡ノ部分モ益増加スルコト、ナラム

「ウヰッテ」氏 本員ハ哈爾濱迄ノ線路ヲ割讓スルコトニハ斷然同意スル能ハス抑モ滿洲鐵道ハ本員カ實際自ラ視察シテ詳知セル所ニシテ哈爾濱ハ連絡ニ便ナル都市ニ非ス元來同地ニハ二三ノ商店アリタル外毫モ市街ヲシキ設備ナク隨テ鐵道敷設工事ニ伴ヒ必要ナル倉庫物置及工夫役員等ノ宿泊給養ニ必要ナル宿舍等ノ設モナク急ニ市街ヲ建造セサルヘカラサリシ程ナリ又經濟上ヨリ言ヘハ南滿洲支線ノ通過スル地方ハ

南部ハ經營上ノ利益多ク北方ニ進ムニ隨ヒ人口稀薄ニ富力及商工業上ノ利益モ減少スルヲ以テ南方讓受ノ方遙ニ利益多シ

小村男 貴全權委員ハ經濟上ノ事ヲ論セラル、モ經濟上ノ議論ノ外ニ我方ハ哈爾濱迄請求セサルヘカラサル重大ナル政治上ノ理由ヲ有ス即チ南滿洲支線ノ如キハ直接ニ日本ノ利益ヲ侵迫スル性質ヲ有スルモノニシテ之カ爲メ日本國民ノ感情ヲ害シタルコト幾何ナルヤヲ知ルヘカラス此ノ如ク侵略ノ武器トナリタル鐵道ノ一部ヲ今後尙露國ニ保有セシムルコトハ決シテ同意スルコト能ハサルナリ故ニ該支線ノ如ク單ニ旅順ト連絡ヲ附スル爲メ敷設セラレタルモノハ旅順ノ讓渡ト共ニ其ノ存立ノ理由ヲ失ヒタルモノニシテ其ノ全部ヲ日本ヘ讓渡サル、ハ當然ノ事ニ非スマヤ

「ウヰッテ」氏 本員ハ既ニ日本軍隊ノ占領區域内ニ在ル部分ハ果シテ何處迄カラ詳細セスト雖假ニ公主嶺トセン此ノ公主嶺迄讓渡スコトハ異議ナキモ其レ以上進テ讓渡ノ區域ヲ北方ニ延長スルコトハ同意スルコト難シ蓋シ露國ニ於テモ貴國軍隊ノ占領區域内ニ屬スル鐵道ヲ讓與スルコトハ不得已トナサンモ其レ以上ヲ讓ルコトハ國民ノ感情上甚タ困難ナリ又國民ノ感情ハ別問題トシテ經濟上哈爾濱ノ連絡點トシテ便利ナラサルコトヲ言ハジニ該地ヲ南滿洲支線ノ分岐點ニ選ミタルハ全ク偶然ノコトニシテ技術上ヨリ滿洲鐵道カ松花江ヲ横キルニハ此點ヨリスルヲ可トセントノ點ヨリ定メタルノミニシテ經濟上ノ點ヨリハ何等考慮スル所ナカリシ又此ノ鐵道ヲ分割スルニ必ス該分岐點ヨリセサルヘカラサルノ理由モナシ若シ兩部分ノ鐵道所有者タル

會社ヲ異ニスル場合ニハ如何ナル點ヲ以テ其ノ接續點ト爲サムカラ決スルニハ哈爾濱以外ニ於テ求メサルヘカラサルナリ貴全權委員ハ南滿洲支線ノ性質カ日本ヲ侵迫セルヲ以テ其ノ全部ヲ要求スルノ理由アリト述ヘラレタリ然レトモ一旦旅順ヲ日本ニ讓ルコト、ナリタル以上該鐵道カ最早侵略的ノ性質ヲ有セサルコトハ無論ノコトニ屬スルヲ以テ其ノ區分點ヲ哈爾濱ニ定ムルト更ニ南方ニ定ムルトニツキ何等著シキ相違ノ存スルナシ本員ハ和約締結ノ上ハ兩者相信シテ之ヲ實行センコトヲ切望ス若シ兩者相信セハ今後南滿洲鐵道ノ一部分カ侵略的ノ意味ナキコトハ明ナルナラン貴方ハ此ノ點ニ關シ疑念ヲ有シ居ラル、カ如シ其ノ疑念ハ或ハ理由アルコトナラハモ互ニ相信シナハ此ノ點ニ於テ何等ノ齟齬ヲ生スルコトナケン

尙爰ニ隔意ナク聞カンコトヲ欲スルコトアリコハ此處ニテ質問スルモ敢テ軍機ノ秘密ヲ求ムルモノニアラサルヘシト想像ス現ニ日本ノ前衛ノ在ル處ハ何レナルヤトテ滿韓地圖ヲ出ス

小村男 軍隊ノ後部コソ機密ニ屬スルコトナレトモ軍隊前衛ノ所在地ハ双方ニ知レ居ルコトナレハ決シテ機密ニアラス凡ソ此處ナリトテ法庫門附近ノ線ヲ指示ス借軍隊ノ對陣地點ハ此處ナレトモ本員ハ兩國ノ鐵道區分點ハ軍隊ノ所在地ニ據ラス政略上將來兩國ノ關係如何ヲ考慮シ之ヲ決定セサルヘカラサルモノト思考ス

「ウヰッテ」氏 然ラハ現ニ軍隊ノ占領セル地點ヲ以テ區分點ト爲スコトハ一步ヲ讓リテ之ヲ撤回シ該占領地方ヨリ北方ニ於テ第一着ニ位スル商業上最重要ナル地點ヲ選

ミテ區分點ト爲スコトニ同意セン即チ長春ハ第一ノ重要點ナレハ之ヲ以テ區分點ト
ナサム

小村男 本員ハ此ノ區分上ノ問題ニ關シテハ各方面ヨリ研究ヲ加ヘタル上哈爾濱ヲ以
テ最モ適當ナリト認メタルカ貴方ニ於テ哈爾濱ハ如何ニシテモ同意スルコト能ハス
トナラハ之ヲ哈爾濱以外ニ求ムルコト、スルモ其ノ決定方法ハ商工業上ノ重要ナル
地點ヨリモ山川等自然ノ形勢ニ據ルヲ可ナリト思考ス

「ウヰッテ」氏 若シ地域ヲ區劃スル地理上ノ事ナランニハ貴説ノ如ク山川ヲ以テ境界ト
ナスコト可ナランモ鐵道事業ノ上ヨリ言ヘハ天然ノ地形如何ヨリモ重要市街ノ方ヲ
可ナリト認ム若シ然ラスシテ山川ノ形勢ヲ基礎トシテ地點ヲ選ムトキハ其ノ地點ニ
ツキ露國カ哈爾濱ニ於テ爲シタルト同シク種々ノ煩累ヲ以テ連絡停車場ノ設備ヲ爲
サ、ルヘカラサルコト、ナルナラン凡ソ所有主ノ異ナル鐵道ノ連絡ヲ重要ノ市街ニ
取ルコトハ歐洲ニ於ケル例皆然リ

小村男 鐵道事業ハ互ニ一致ヲ保タサルヘカラス其ノ連絡點カ重要ノ市街ニ在ルト否
トハ第二ニ考慮スヘキ問題ニシテ自然ノ形勢如何ハ第一ニ考量スヘキコトナリ

「ウヰッテ」氏 山川ノ形勢如何ハ軍事上ニ於テ重要ノコトナリ然レトモ商業上ニ於テハ
寧ロ市街ノ方ヲ重要ナリトス

小村男 双方ノ觀察點ニ相違アルコトヲ認ム本員ハ種々ノ事情ヨリ考量シ兩國鐵道ノ
最モ自然ニ適スル區分點ハ松花江ニ在リト斷定ス故ニ哈爾濱ヲ以テ區分點ト爲スコ

トニハ絶對ニ同意セラレ難シトノコトナレハ一步ヲ讓リテ哈爾濱ト長春ノ間第二松
花江鐵橋ヲ以テ區分點ト爲サム

「ウヰッテ」氏 自然ニ適ストノ點ヨリ云フトキハ最モ自然ニ適當スルモノハ軍事上ノ關
係ナリ兩軍相對時シテ久シク動カサルハ自然ニ其ノ地點カ天然ノ區分點ニ適スルコ
トヲ證明スルモノナリ故ニ貴説ノ如ク必ス自然ニ適スル場所ヲ選マサルヘカラスト
ノコトナレハ現ニ兩軍ノ對峙セル所即チ公主嶺ヲ以テ最モ適當ナリトセム

小村男 假ニ貴説ノ如ク長春ヲ以テ區分點トナストセハ同地ヨリ吉林ニ通スル支線ハ
日露孰レノ所屬トナルヘキヤ

「ウヰッテ」氏 コハ現在ノ所有主ニ屬スヘキナリ
小村男 現在ノ所有主トハ露國ノコトナルカ

「ウヰッテ」氏 然リ

小村男 此ノ點ハ最モ重要ナルモノナリ若シ此ノ點ニ就キテ妥協ヲ遂クルコトヲ得ハ
長春ヲ選ムコトニ同意セム此ノ支線ハ必ス日本ノ所屬タラサルヘカラス尤モ實際上
此ノ支線ハ未タ敷設セラレサルナリ

「ウヰッテ」氏 果シテ然ルカ本員ハ未タ實際該支線カ現ニ敷設セラレアリヤ否ヤヲ詳ニ
セス元來東清鐵道ノ南滿洲支線ハ吉林ヲ經テ敷設スル筈ナリシモ工事ヲ急キ距離ノ
短縮ヲ計リタルタメ今日ノ如ク直接ニ奉天ノ方ヘ走ル方向ヲ取リタルナリ故ニ貴説
ノ如ク吉林支線ニシテ未タ敷設セラレサルニ於テハ此ノ線路ハ日本ノ所屬ト爲シ即

チ該線以南ノコトハ日本ニ委スルコトニ同意セム然レトモ既ニ敷設セラレ若クハ工事中ナルニ於テハ之ヲ引渡スコトハ承諾スルコト能ハス

小村男 否未タ敷設セラレス

「ウヰッテ」氏 本員ハ此ノ點ニ付確實ナル事實ヲ知ラス速ニ問合スヘシ就テハ此ノ趣意ヲ會議録ニ認メ置カム即チ若シ吉林支線ニシテ果シテ未タ存在セスンハ我方ヨリハ該支線ニ付何事ヲモ主張セス其ノ敷設權ハ日本ニ譲リ日本ニ依リ經營セラル、モ故障ヲ挾マス該線ヨリ南方ニ於テ日本カ如何ナル事ヲ爲ストモ露國ハ決シテ何等ノ故障ヲモ有セス即チ南方ハ日本ニ委シ北方ハ我方ニ於テセン然レトモ若シ該支線ニシテ既ニ工事ニ著手セラレ又ハ半成レリト云フカ如キコトアラハ之ヲ引渡スコト能ハス

小村男 否其ノ趣意ニテハ不可ナリ日本ノ最初ノ要求ハ哈爾濱ヨリ旅順及其ノ支線ノ讓渡ニ在リテ此ノ所謂支線中ニハ吉林線ヲモ含ミタルナリ今ヤ貴全權委員ニ於テ極力其ノ主張ヲ固持シ到底哈爾濱迄ハ承諾スルコト能ハストノコトニ付不得己我ヨリ一步ヲ譲リ區分點ヲ南方ニ定ムルコトヲ承諾シタル以上此ノ支線ノ權利ヲモ抛ツコトハ同意スルコト能ハス

「ウヰッテ」氏 本員ハ充分實際ヲ詳ニセス故ニ今ハ只長春ヲ以テ區分點ト爲スコトノミヲ決定シ置キ兩國經營ノ分境ハ吉林線ト爲シ該線ノ所有主如何ハ更ニ條約全體ヲ議スルトキニ於テ之ヲ定ムルコト、ナサム

小村男 本員ハ此ノ區分點ニ付我方ヨリ一步ヲ譲リタル以上ハ支線ノコトニ付貴方ヨリモ讓歩ヲ要求セサルヘカラス

「ローゼン」男 吉林線ハ果シテ今モ存在セサルカ

小村男 本員カ東京ヲ出發スル迄即チ本年七月迄ハ確ニ存在セサリキ但シ軍事上ノ必要ノ爲メ假線路ノ敷設セラレタルカ如キコトナキヤ否ヤハ知ラス

「ウヰッテ」氏 本員ハ軍事的假線路ノコトハ敢テ顧ミサルナリ永久的ノ支線敷設セラレ居ラサルヤ否ヤヲ確メント欲スルヲ以テ速ニ本國ニ問合スヘシ

小村男 然ラハ此ノ點ハ他日ニ譲リ貴方ニ於テ實際ノ事情ヲ確メラレタル上ニ於テ決定スルコト、セム

「ウヰッテ」氏 即チ左ノ如ク定メ置カン曰ク日本全權委員ハ吉林線ヲ南方ニ屬スルコトトスル條件ヲ留保シテ長春ヲ以テ區分點ト爲スコトニ同意セリ露國全權委員ハ若シ吉林線未タ存在セスンハ之ニ同意セム然レトモ事實如何ヲ詳ニスル迄ハ此ノ問題ハ其儘ニ爲サント云ヘリト

小村男 貴方ニ於テ該支線ノ存否ニ付確實ナルコトヲ知ラル、迄ハ長春ヲ以テ區分點ト爲スヤ否ヤハ未定ナリト爲シ置カム

「ウヰッテ」氏 諾

小村男 就テハ本條即チ第七條ノ文言ハ差當リ左ノ如ク確定シ置カム
露西亞帝國政府ハ………旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬

スル一切ノ權利特權及財産及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲メニ經營セラル、ノ一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且清國政府ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

「ウヰッテ」氏 異議ナシ次ニ第三條討議ノ際決シタル所ニ依リ露國政府ノ爲シタル宣言ト同一文言ノ宣言ヲ日本政府カ其ノ所有ニ歸スル鐵道ニ關シテ爲シ之ヲ會議録ニ留メ置クコト、セム

小村男 諾次ニ第八條ノ討議ニ移ルヘキ順序ナルカ本條ニ就テハ貴全權委員ニハ日本ノ提案ヲ承諾セラレタルヲ領ス

「ウヰッテ」氏 然リ但シ同様ノ義務ヲ日本カ今後滿洲ニ於テ經營スヘキ鐵道ニ關シテモ負擔スルヲ要ス

小村男 諾唯茲ニ一言シタキコトアリ即チ滿洲橫貫鐵道ノ性質ニ關スルコト是ナリ原來該鐵道ハ全然商業上ノ使用ニノミ敷設セラレタルモノナレトモ其ノ實際上ノ運轉ノ狀態ニ就テ之ヲ見ルニ該鐵道ハ軍隊輸送ノ爲メニ使用セラレタリ而シテ本條日本提案ニハ該鐵道ハ全ク商業上ノ使用ニノミ之ヲ供スヘシトアリタルニ本條ニ對スル露國回答書中ニハ該線路ニ依リ運搬セラルヘキ露國軍隊及軍需品ハ清國領土内ニ停留スヘカラス云々トアリテ該鐵道ハ之ヲ軍隊輸送用ニ供スルモノ、如ク從テ日本提案ト相容レサルモノ、如シ即チ日本全權委員ノ希望ハ該鐵道ヲ軍隊輸送用ニ供ス

ヘカラサルモノトスルニ在リタルカ該希望ハ充分貴全權委員ノ了解スル所トナラザリシモノ、如ク思ハル

「ウヰッテ」氏 貴全權委員ノ疑念ヲ抱カル、ノ理由ハ本員之ヲ了解ス貴全權委員ハ恐クハ露國回答書ノ趣意ヲ能ク了解セラレザリシナラム軍隊輸送ノコトハ滿洲橫貫鐵道ノ免許狀ニ規定セラレタルモノニシテ清國領土内ニ停留セサル以上ハ本員ノ精神ニ背クモノニ非ス將又其ノ將來ノ事ニ關シテハ本員ハ相互的ノ條件ヲ以テ貴案ニ同意ス

曩ニ提出シタル我回答書中ニ該線路ニ依リ運搬セラルヘキ露國軍隊及軍需品ハ清國領土内ニ停留スヘカラス云々ノ一項ヲ附記シタルハ即チ貴提案ニ對スル説明ニシテ滿洲橫貫鐵道ノ本來ノ性質ヲ明ニシタルモノナリ

小村男 該線路ニ依リ軍隊ヲ輸送スル以上ハ假令清國領土内ニ停留セスト雖該線路ハ單ニ商業ノ爲メニノミ使用セラル、モノト云フヲ得サルナリ

「ウヰッテ」氏 若シ該線路ニシテ平時ニ於テ大軍隊ヲ輸送スルナラハ是レ特許條約ノ規定ニ合スルモノニ非サルナリ此ノ點ニ關シ小村男ニ於テ疑念アラムコトヲ慮リ回答書中ニ於テ説明ヲ附シ置キタルナリ而シテ本條ノ主義ニ關シテハ貴我双方全ク同意見ナリ

小村男 自國內ノ鐵道ニ關シテハ此ノ問題ヲ生セサレトモ滿洲橫貫鐵道ノ如キ他國ノ領土内ヲ通過スル鐵道ニ關シテハ其ノ使用法ノ問題ヲ生スルヲ以テ此處ニ於テ之ヲ

明白ニ規定シ置クヲ要ス

「ウヰッテ」氏 然ラハ貴全權委員ニ於テハ軍隊ハ些カタリトモ該鐵道ニヨリ輸送スルコトヲ禁止セント言ハル、カ然レトモ露國ハ其ノ領土ノ一部ヨリ他ノ一部ニ向ケ軍隊ヲ移動スルノ必要アリ而シテ其ノ間數百里ヲ隔ツルカ故ニ遠ク迂回シテ露國領ニ依リ軍隊ヲ歩行セシムルカ如キハ到底實行シ得ヘキ方法ニ非ス此等ノ事情ニ鑑ミ本員ハ貴全權委員ノ尙少シク公正ナラムコトヲ希望ス露國ハ沿黑龍江州及沿海州ニ領地ヲ有スルヲ以テ常ニ若干少數ノ兵員ヲ駐屯セシメ時々滿洲以西駐屯ノ軍隊ト交代セシムルノ必要アリ然ルニ此ノ如キ場合ニ鐵道以外ノ方法ニ依リ右ノ輸送ヲ行フコト能ハサルハ明白ナルカ故ニ此ノ目的ノ爲メ少數ノ軍隊ヲ該鐵道ニ依リ輸送スルコトハ此等軍隊カ清國領土内ニ停留セサル以上ハ該鐵道ヲ商業上ノ用ニノミ供スルノ主義ト相容レサルモノト見サルヲ正當トスヘシ本員ハ右ノ見地ヨリ且貴提案ヲ日露兩國交互的ト爲スノ條件ヲ以テ貴提案ニ同意ヲ表シタルナリ貴全權委員ハ此ノ見地以上ノコトヲ協定セント欲セラル、カ

小村男 本員ハ唯我提案ノ趣意ヲ充分明瞭ナラシメムト欲シタルニ過キスシテ滿洲鐵道ニ依リ如何ナル有様ニ於テモ絶對的ニ兵員ヲ輸送セサルコトヲ要求スルモノニ非ス貴説ノ如ク該鐵道ハ露國ト浦潮斯德トヲ連結スル最捷路タルカ故ニ其ノ交代ノ必要上少數ノ兵員ヲ輸送スルコトハ畢竟已ムヲ得サルコトナラン就テハ本條ノ文言ヲ「……鐵道ハ商業上ノ目的ニノミ使用シ之ヲ軍事上ノ目的ニ使用セサルヘシ」トセハ

可ナルヘシ

「ウヰッテ」氏 貴説正ニ我意ニ合セリ扱文言ニ就テハ「……鐵道ハ商業上ノ目的ニノミ使用シ決シテ之ヲ軍略的及侵略的ノ目的ニ使用スヘカラス」トセハ可ナラン

小村男 貴全權委員ノ提議タル本條件ヲ日露兩國相互的トナスコトハ之ヲ諾ス但シ本條件ハ遼東租借地ニ適用セラレサルヘキハ固ヨリ言ヲ俟タス

「ウヰッテ」氏 諾但シ貴方ノ除外ヲ承諾スルニ就テハ我方ニ於テモ同様ノ除外ヲ設ケ露國領内ノ鐵道ニハ之ヲ適用セスト規定セム即チ本條ノ末項ニ此ノ條款ハ兩締約國ノ領有ニ係ル地方ニハ關係セスト附加セハ可ナラム

(一)坐笑フモノアリ「ウヰッテ」氏滿面朱ヲ注キテ曰ク諸君何故ニ笑フヤ本員ハ決シテ笑フ理由ナシト考フ滿洲鐵道ト云ヘトモ露領内ニモ互リ居ル部分アレハ此ノ除外ハ必要ナリト)

小村男 兩國領域内ノ鐵道使用方ニ關シテハ何等問題ヲ生スヘキノ理由ナシ唯遼東租借地ニ關シテハ將來萬一ノ誤解ヲ生スルヲ豫防セムカ爲メニ特ニ一言附加シ置クヲ要スルノミ

「ローゼン」男 小村男ノ意見正當ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ單ニ本條ノ趣意ヲ明瞭ナラシメムト欲シタルニ過キス畢竟小村男ノ意見ノ如クニテ可ナリ

小村男 然ラハ第七條ノ文言ヲ確定セムトテ「ウヰッテ」氏ノ命ニ依リ「ド、プ、ラン、ソン」氏起

stratégique. Il va sans dire que cette restriction ne se rapporte pas aux régions sur lesquelles s'étend le bail de la presqu'île de Liao-tong.

第四號

In the afternoon sitting of August 16th, the Conference has discussed Articles VII and VIII. Article VII has been settled in principle and Article VIII accepted unanimously. The Conference adjourned at 6-30 to 9-30 to-morrow morning.

草ノ上小村男ニ手交シタル左記文案ヲ閱讀シタル上敷設特許條約ノ條件ニ從ヒトアルハ削除シテ可ナルヘシ何トナレハ是レ勿論ノコトニシテ別ニ言ヲ俟タサルモノナレハナリ又侵略ノナル一語ハ削除スルヲ可トス日本國ハ此ノ如キ文字ヲ條約中ニ存シ置クヲ承諾スル能ハサルナリ

日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ敷設特許條約ノ條件ニ從ヒ全ク商工業上ノ目的ニ限り保有經營シ決シテ之ヲ軍略及侵略ノ目的ヲ以テ之ヲ保有經營セサルコトヲ約ス該制限ハ遼東半島租借權カ其ノ効力ヲ及ホス地域ニ於ケル鐵道ニ適用セサルモノト知ルヘシ(原文ハ附屬書第三號)

「ウヰッテ」氏 悉ク貴案ニ同意ス

小村男 就テハ第七條ノ文言ハ確定ノモノト認ムヘシ

「ウヰッテ」氏 諾

(是ニ於テ「ウヰッテ」氏ハ新聞通知案ヲ定メサルヘカラスト云ヒ小村男ト協議ノ上左記ノ案文ヲ作りタル上午後六時三十分ヲ以テ散會セリ)

新聞通知案

八月十六日午後ノ會議ニ於テ第七條第八條ヲ討議シ第七條ハ主義上協定セラレ

第八條ハ一致ヲ以テ承諾セラレタリ會議ハ午後六時半ニ於テ明朝九時半迄休會

セリ(原文ハ附屬書第四號)

講和談判筆記第六回本會議

明治三十八年八月十七日午前九時四十五分開會

列席者 前回ニ同シ

小村男

本日ハ第九條ノ討議ニ移ラントス之ニツキ一ノ覺書ヲ認メ置キタルハ今之ヲ

貴方ニ提出シ研究セラレムコトヲ請フ(トテ左ノ覺書ヲ提出ス)

第九、日本國全權委員ハ本條ニ關スル露西亞國全權委員ノ所説ニ對シ最モ慎重ナル

考量ヲ加ヘタルモ露西亞國全權委員カ本件日本國ノ要求ヲ認諾スルコトヨリ演繹

セムト欲スル所ノ結論ニハ同意ヲ表スルコト能ハス右日本國ノ要求ヲ認諾スルコ

トハ決シテ露西亞國ハ今後戰爭ヲ繼續スル能ハストノ推論ヲ生スヘキモノニアラ

ス日本國全權委員ハ露西亞國ニ對シ屈辱的性質ヲ有シ又ハ大國ノ威嚴ノ眞正ナル

意義ト相容レサルカ如キ條件ヲ要求スルノ意思毫モ之レアルナク却テ事ノ實際ニ

鑑ミ軍費拂戻ノ主義ヲ認諾スルハ日本軍力是迄常ニ成効ヲ博シタル歴史的事實ヲ

認識スルニ外ナラサルコトハ文明世界ノ普ク異論ナキ所ナルヘキヲ信ス

日本國ノ要求ハ毫モ間接若クハ因縁的性質ノモノヲ包含セス嚴ニ戰爭ノ直接實費

ノミニ制限セラレタルモノニシテ該範圍迄ハ日本帝國政府ニ於テ拂戻ヲ受クル正

當ノ權利アルモノト確信ス故ニ日本全權委員ハ該要求ヲ拋棄スルコト能ハス然レ

トモ實際用フヘキ形式並拂戻金額整定ノ問題ニ關シテハ日本國全權委員ハ交讓妥

第一號

7. The Plenipotentiaries of Japan take note of the acceptance of this Article in principle by the Imperial Russian Government. The right to construct and exploit the railway between Harbin and Port Arthur forms an important part of the lease of the Liao-tung Peninsula. It is a logical consequence that the railway in all its parts and extensions should follow the destiny of the lease under which it was built and is now worked. Besides, the natural point of division of the two lines of railway is the point of intersection of those lines. On the subject of the immediate exercise by China of the right of purchase of the line, the Plenipotentiaries of Japan wish to say that the Imperial Government of Japan will hold and work the line in question subject to the provisions of the concession as to China's right of purchase and other conditions in the same manner as the Imperial Russian Government will hold and work the trans-Manchurian line.

第二號

(Traduction)

7. Les Plénipotentiaires du Japon prennent acte de l'acceptation en principe de cet Article par le Gouvernement Impérial de Russie. Le droit de la construction et de l'exploitation du chemin de fer entre Harbine et Port Arthur constitue une partie importante du bail de la presqu'île de Liao-tong. C'est une conséquence logique que le chemin de fer doit suivre, dans toutes ses parties et extensions, le sort du bail en vertu duquel il a été construit et est maintenant exploité. De plus, le point naturel de division des deux lignes de chemin de fer est le point d'intersection de ces lignes. Au sujet de l'exercice immédiat, de la part de la Chine, du droit de rachat de la ligne, les Plénipotentiaires du Japon désirent déclarer que le Gouvernement Impérial du Japon possédera et exploitera la ligne en question, en se conformant aux dispositions de la concession relatives au droit de rachat de Chine et à d'autres conditions, de la même manière que le Gouvernement Impérial de Russie possédera et exploitera la ligne trans-manchourienne.

第三號

Le Japon et la Russie s'engagent à retenir et à exploiter conformément aux dispositions de la concession leurs lignes de chemin de fer respectives en Manchourie exclusivement dans un but commercial et industriel, mais nullement dans un but

協ノ精神ヲ以テ之ヲ議セムトスルノ覺悟ナルヲ以テ露西亞國全權委員ニ於テ右等ノ事由ニ鑑ミ本件ヲ再考セラレムコトヲ熱望スルノ已ムヲ得サルヲ感ス(原文英文及佛譯文ハ附屬書第一號及第二號)

「ウヰッテ」氏 貴方ニ於テ書面ヲ以テ覺書ヲ提出セラレナハ我方ヨリモ書面ヲ以テ之ニ答フヘシ然レトモ此ノ問題ニ就テハ講和談判ノ當初ヨリ我回答書ニ認メ置タル如ク我方ノ趣意ハ既ニ明瞭ニシテ此上論議ヲ重ヌルモ無効ナラム

小村男 日本全權委員ハ其ノ提出シタル覺書中ニ於テ露國ノ回答ニ對シ交讓ノ精神ヲ以テ覆答シ置キタリ然ルニ露國全權委員ニ於テ此ノ問題ノ討議ニ入ルコトヲ全然拒絶セラレハ遺憾ノ至ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ此ノ問題ノ理由ニ就テモ討議ヲ拒絶スト云フニアラス理由ニ就テ意見ヲ交換スルコトハ辭セサルモ之カ爲メ我方ノ決意ハ決シテ動スコト能ハサルコトヲ云フナリ

小村男 凡ソ双方意見ヲ異ニスル點ニ付其ノ解決ヲ得ル唯一ノ方法ハ双方間ニ和衷交讓ノ精神ヲ以テ意見相違ノ理由ニ付討議ヲ爲スニ在リ

「ウヰッテ」氏 本員ハ曩ニモ言ヘル如ク此ノ問題ニ就テハ到底意見ノ一致ヲ見サルモノト認ム斯ル要求ニ應セムヨリハ寧ロ戰爭ヲ繼續スルヲ好マン露國ハ戰爭ヲ繼續スルコトヲ充分ニ決心シ居レリ

小村男 日本ニ於テモ戰爭繼續ニ對スル決心ハ甚タ鞏固ナリ然レトモ兩國徒ラニ戰爭ヲ極點迄推行スル前ニ事ヲ纏ムルノ方法ヲ講スルヲ肝要トス

「ウヰッテ」氏 償金要求ノ理由カ日本ヨリ提出セラレタル儘ニテハ本問題ヲ討議ニ上スコトヲ得ス日本ニ於テ露國ノ軍費ヲ支拂フコト能ハサルト同シク露國ニ於テモ日本ノ軍費ヲ支拂フコト能ハス即チ日本カ露國ニ向ツテ害ヲ與ヘタル費用ハ到底之ヲ仕拂フコトヲ得ス唯我方ノ利益ノ爲メニ要シタル費用即チ露國俘虜ノ爲メニ要シタル費用ノ賠償ヲ以テ理由トセハ露國ハ之ヲ支拂フコトヲ覺悟セリ國際法上双方ノ地位

今日ノ如キ状態ナルニ於テ決シテ償金ヲ拂フヘキ理由ナシ

小村男 コハ國際法ノミニ關スル問題ニアラス吾人ノ研究ヲ要スル任務ハ如何ニシテ戰爭ヲ終局セシムヘキカニ在リ而シテ戰爭ヲ終局スルニ付其ノ戰爭ニ成効シタルモノヨリ或條件ヲ提出スルハ素ヨリ當然且合理ノ事ナリ

「ローゼン」男 二三ノ戰鬪ニ於ケル勝利ハ此ノ種ノ要求ヲ正當ナラシムルコト能ハス

小村男 茲ニハ露國カ果シテ戰敗國トナリタリヤ否ノ問題ヲ研究スルニハアラス戰爭ヲ推行シテ終極迄及ホスコトナク如何ニ之ヲ終局セシムヘキヤヲ研究スルニ在リトスコハ双方カ和衷ノ精神ヲ以テ討議スルニ非サレハ行ハレサルコトナリ

「ローゼン」男 今日迄露國委員ノ爲メニ妥協ニ歸シタルコトハ本員等カ和衷ノ精神ナルコトヲ示セリト認ム本員等ハ自ラ認メテ以テ公平ト爲ス所ノモノハ皆之ヲ承諾協定セリ故ニ本員等ニ和衷ノ精神ナシト云フヘカラス

「ウヰッテ」氏 只今ノ「ローゼン」男ノ談ニ加ヘテ言ハシ露國ハ平和ヲ希望セリ然レトモ如

何ナル價ヲ拂フモ之ヲ得ルコトヲ要スルニ非ス只予一身ノ經歷ヨリ一ノ政治家トシテノ見地ヨリ云ハンニ若シ今後露國カ此ノ事ノ爲メ金額ノ支出ヲ要ストセハ之ヲ價金トシテ日本ニ支拂ハンヨリ寧ロ戰爭繼續ノ用ニ供セム露國人民モ只戰爭繼續ノ爲メナラハ資金ヲ出スヘキモ日本ヘ支拂フ價金ノ爲メナラハ之ヲ出サ、ルヘキナリ

小村男 此ノ問題ヲ考究スルニハ只財政上若クハ其ノ他單獨ノ事情ノミナラス總テ國家全般ノ事情ヲ考慮セサルヘカラス而シテ國家全般ノ事情ヲ周到ニ考慮スルコトハ只國民全體ノコトヲ知ルモノニ由リテノミ之ヲ爲スコトヲ得全體ヲ考慮シテ果シテ戰爭繼續ヲ利益トスルカ又ハ相當ノ犠牲ヲ以テ平和ヲ結フヲ利益トスルカヲ判セサルヘカラス若シ露國ニシテ戰爭繼續ニ決心セリトノ事ナレハ日本ニ於テモ亦等シク戰爭繼續ニ決心セリ只此ノ場合果シテ全般ノ利益孰レニ在リヤヲ考フルコトヲ必要トスルノミ

ウヰッテ氏 軍費賠償ハ決運的戰敗ヲ蒙リタル國即チ此ノ上戰爭ヲ繼續スル能力ナキニ至リタル國ニ由リテノミ仕拂ハルヘキモノナリ我露國ハ未タ全局ニ於テ敗劔セルモノト認メス只今日迄戰闘ニ於テ失敗ヲ爲シタルノミト認ムルノ地位ニ在リ故ニ軍費賠償ハ諾スルコト能ハス

小村男 今回ノ講和談判ニ付我條件ヲ提出スルニ當リ帝國政府ハ平和締結ニ絶對的ニ要ノ條件ナリト認ムルモノヲ定メ且最モ穩當ナリト信シ之ヲ提出シタルヲ以テ之ニ對シテハ必ス協定スルヲ得ルコト、信シ居レリ

ウヰッテ氏 我方ニ於テハ貴方提出ノ條件ヲ以テ穩當ナリト認ムルコト能ハス此ノ條件ノ如キハ今日ノ如キ狀態ノ下ニ在リテハ既往ノ成績ヲ認ムルヨリモ寧ロ將來ノ事ニ關スルモノト云フヘシ此ノ點ニ於テ本員ハ貴方ト觀察ヲ異ニス

小村男 日本ニシテ若シ將來ノ事ヲ考量シ條件ヲ案出セシナラムニハ決シテ今回提出シタルカ如キモノニハアラサリシナラム

ウヰッテ氏 コハ兩政府各相當ノ考ヲ有ス故ニ双方一致セサルハ已ムヲ得サルナリ要スルニ我方ハ貴方ト考ヲ一ニスルコト能ハス我方ニ於テハ向後尙久シク戰爭ヲ繼續スルコトヲ得ルナリ

小村男 露國カ戰爭ヲ繼續スルヲ得ルハ本員ニ於テ之ヲ否認セスト雖日本モ亦戰爭ヲ繼續スルコトハ勿論之ヲ爲シ得ルナリ而シテ今後ノ戰局如何ヲ判斷スルニハ既往ノ成績ハ貴全權委員ノ知了セラル、カ如クニシテ日本ハ此ノ成績ヲ經歷シ來リ將來ノ成効如何ニ就テハ充分ナル信賴ヲ有シ居レリ故ニ此ノ際ニ當リ戰爭終局ノ談判ヲ爲スコトハ我ニ取リテハ一ノ犠牲ナリ而モ此ノ犠牲ヲ甘ニスルハ充分ニ人道及兩國真正ノ利益ヲ顧慮スルニ因ル

ウヰッテ氏 然ラハ貴説ノ如ク假ニ今後ノ戰局カ既往ノ如クニ進行スルモノトシテ判斷セハ如何日本カ今日迄擧ケ得タル成績ニ由リ考察スレハ十八箇月間ノ進歩ハ約八百哩ノ地步ヲ進メタルニ止ル之ニヨリテ前途ヲ算シ愈貴國軍隊カ進ンテ我本國ニ入り來ルノ日ハ何レノ時ナルヘキヤ若シ愈露ノ本國ニ入り來ル場合アラハ其ノ時始メ

テ償金ノコト講和談判ノ問題ト爲ラン之ヲ要言スレハ償金ヲ支拂フハ戦争ニ全敗シタル國ノミ而シテ露國ハ決シテ全敗シタルニアラス

小村男 歴史ノ示ス所ハ貴全權委員ノ所論ノ如クナラス而シテ茲ニテ考究スヘキ問題ハ如何ナル地位ニ至ラハ償金ヲ支拂フヘキ必要アリヤ否ヤニアラスシテ双方極端迄戦争ヲ推行スル以前ニ平和ヲ結フノ途ヲ講スルコト利益ナリヤ否ヤノ點ニ在リ

ウヰヰッテ氏 本員ニシテ若シ露國カ全敗起ツ能ハサルニ至ルコトアルヘキヲ暫時タリトモ想像スルコトヲ得ハ今述ヘタル如クニハ答ヘサルヘシ假ニ日本軍連戦連勝ヲ重ネ聖彼得堡若クハ莫斯科ニ侵入シ來ルコトモアラハ其ノ時始メテ國民ハ償金ノ問題ニ上ル所以ヲ了解スヘク其ノ時ニハ貴説ニ應スルコトナラム

小村男 若シ實際上斯ノ如クナランニハ最早平和談判ナルモノアルコト無ク只自己ノ欲スル條件ヲ命令スルコトアランノミ

ウヰヰッテ氏 爾カ云ハル、モ「ナポレオン」ノ如キ偉人ニシテ莫斯科迄侵入シ來リタレトモ其ノ曉平和條件ヲ命令シタルコトナク又爲シ得サリキ

小村男 「ナポレオン」ハ偉人ナルモ其ノ事業ニ於テハ只一個ノ人ナリ日本ノ戦争ニ臨メルハ一個人ニアラス全國民皆之ニ臨メリ

ウヰヰッテ氏 否「ナポレオン」ト雖其ノ背後ニハ全佛國民ヲ控ヘ他ニ同盟國ヲモ有シ居リタルヲ以テ其ノ事業タル一個人ノ事ニアラス

小村男 「ナポレオン」ハ如何ニ大人物ニシテ其ノ使役セシ人ハ如何ニ多數ナリシニモセ

ヨ其ノ事業タル「ナポレオン」一個ノ大望ナリ故ニ佛國民其ノ背後ニ在リタリトテ其ノ後援ハ一時的ナリ日本ノ場合ハ之ト異ニシテ全國民ノ事業ナリ

ウヰヰッテ氏 「ナポレオン」ノ事業トテモ一個人ノ大望ニアラス佛國人民全體ノ望ニシテ又彼若シ莫斯科ニ止マリ居タリシナランニハ全歐洲ヲ風靡スヘカリシナリ尙一言スヘキコトアリ日本全權委員ノ此ノ談判ニ蒞ミタル趣意ハ人道及日露兩國ノ真正ノ利益ノ爲メナリト云ハレタリ就テハ貴全權委員等ニ於テハ露國ハ如何ナル條件ヲモ受諾スヘントノ意見ヲ持シテ此ノ地ニ來ラレタルニハアラサルヘシ然ルニ貴方ノ條件中ニハ眞實平和ノ爲メ又ハ人道ノ爲メト云ハンヨリ寧ロ此ノ機會ニ於テ露國ヲ犠牲トシテ日本國民ノ自利自益ヲ獲取セントノ目的ニ出タルモノアルヲ認ム

小村男 日本ハ戦争ノ今日迄ノ經過ニ照ラシテ相當ナリト認ムル條件ヲ定メ而シテ双方ノ和協ニ依リ以テ平和ヲ成立セシメ得ヘシト信シ本員等ヲ此ノ地ヘ簡派セルナリウヰヰッテ氏 本員モ亦露國皇帝陛下ヨリ同様ノ訓令ヲ受ケ來レリ即チ和衷ノ精神ハ既ニ只今迄ニ充分其ノ實證ヲ與ヘタリト思考ス然ルニ日本ノ平和條件中本員等カ此地ニ來書スル以前ニハ知ルコト能ハサリシモノアリ是レ日本ハ今日迄之ヲ我方ニ知ラシメサリシニ由ル而シテ此等ノ條件中本員等ノ同意スルコト能ハサルモノアリ思フニ此ノ種ノ條件ハ平和締結ノ爲メニスルニアラスシテ露國ハ弱ナリトノ觀念ヨリ之ニ乗セントスルモノナラム

小村男 所謂其ノ種ノ條件トハ何ヤナリヤ

「ウヰッテ」氏 ヲハ我方ノ回答書中ニ説明シ置ケリ

小村男 否其ノ種ノ條件ノ何ヤナリヤハ貴方ノ回答ニテハ充分明ナラス何トナレハ該
回答中明ナラサリシモノニシテ會見論究ノ結果知ルヲ得タルモノアレハナリ

「ウヰッテ」氏 我方ノ回答中ニハ明ニ認メ有リタリ尤モ此事ニ就テ此ノ上論スルハ効益
ナシ一言ニシテ云ヘハ此ノ如キ條項四アリ此ノ中何レカ國家ノ威嚴及現在ノ狀態ニ
照シテ受諾スルコト能ハサルヤハ回答書ニヨリ認ムルコトヲ得ルナラン

小村男 然レトモ今迄協議シタルモノ、中ニテ始メハ双方到底一致スルコト能ハサリ
シモノモ協商ノ結果妥協ニ歸シタルモノアリ

「ローゼン」男 ヲハ主義ニ於テ互ニ一致セルモ只細節ニ關シテ意見ヲ異ニシタルモノカ
協定サレタル迄ノコトナリ

「ウヰッテ」氏 此等ノ諸點ニ於テ協定ヲ見タルハ何レモ皆日本ノ讓歩ニアラス露國ノ讓
歩ニヨリテ妥協ニ歸シタルナリ本員ハ此ノ談判中讓歩シ得ヘキモノハ終極迄讓リテ
協商ヲ遂クルコト、爲セリ然レトモ其ノ中ニハ露國ニ對シ命令セラル、カ如キモノ
アリ今ヤ吾人ハ如何ニシテモ露國ニ於テ承諾スルコト能ハサル點ニ到著セリ是迄協
定ノ成リタルハ談判ノ結果ニアラス日本ノ主張ニ對シ露國カ歩ヲ讓リタル結果ナリ
小村男 否是迄協定ノ成リタルハ其ノ本來ノ要求カ戰爭ノ結果既ニ既成ノ事實ト爲リ
居リタルモノニシテ貴方ノ承諾ノ有無ニ拘ハラズ現存セル事柄ニ過キス而モ我方ニ
於テハ日露兩國ノ將來ニ鑑ミ貴方ニ於テ貴國ノ利益ヲ保存セラル、希望上正當ト認

ヘキモノニ對シテハ躊躇ナク同意ヲ與ヘタリ即チ今日迄協定ニ歸シタル所ハ既ニ戰
争ニ由リ收メ得タル結果ヲ確定シタルニ過キサルカ故ニ之ヲ以テ貴方ヨリノ讓歩ニ
成レリトスルコトハ本員等ニ於テ之ヲ承認スルコト能ハス加之是迄議シタル個條中
既ニ日本ノ遂成セル事實スラモ貴方ニ於テ之ニ對シ同意セラレサルモノアリ而シテ
其ノ理由ヲ問ヘハ單ニ貴國ノ威嚴ニ關スト云ヒ其ノ他ノ個條モ較モスレハ國ノ威嚴
ニ關ス云ヤトテ協商ヲ拒マル、モノアリ然ルニ所謂國ノ威嚴トハ果シテ如何ナルモ
ノナルヤ凡ソ國トシテハ或時機ニ於テ犠牲ヲ爲サ、ルヘカラサルコトアリ是レ世界
ノ平和ノ爲メ若クハ其ノ國家ノ隆盛ヲ計ル爲メ必要トスル所ニシテ如何ナル大國ニ
於テモ犠牲ヲ爲スコトハ世界ノ平和ノ爲メ一國ノ更ニ大ナル利益ノ爲メニナスコト
ニシテソガ果シテ自家ノ威嚴ヲ傷クルヤ否ヤハ自家一個ノ見ヲ以テ定メス世界ノ公
評ニ依リテ判セサルヘカラスコトハ個人トシテモ國家トシテモ同様ニシテ他人カ如何
ニ考フルヤハ別ニ考慮セサルヘカラス所謂威嚴云々ノコトモ他人ハ却テ之ヲ弱點ト
ナスコトアルヘシ今日ノ問題トシテハ戰爭ノ結果此ノ範圍迄ハ犠牲ニ供シ以テ時局
ヲ收メ平和ヲ回復スルヲ得ンニハソハ國家ノ威嚴ニ關セサルノミナラス却テ世界ノ
平和ヲ維持スルノ好結果ヲ生スヘシ

「ウヰッテ」氏 只今述ヘラレタル既成ノ事實ヲ認メス云々ノコトニ付一言スヘキコトア
リ戰爭中遂行シタル事實ニ二様ノ性質アリ一ハ只事實上獲得シタルコトニハ獲得シ
タルモノヲ保持スルコト是ナリ此ノ二者ノ區別ハ歷史上其ノ例ニ乏シカラス貴全權



委員ハ既成ノ事實ト云ハル、モ所謂既成事實ニモ二箇ノ手續アリ即チ獲得スルコト、永遠ニ保持スルコトニシテ一旦獲得シタルモノハ必ス永遠ニ之ヲ保持スルト限ラズ永遠ニ保持スルニハ對手國カ正當ノ形式ニ由リ之ヲ認諾セムコトヲ要ス又所謂國家ノ威嚴ナルモノハ各人ノ見解ニ依ルモノニシテ第一ニ之ヲ判スルモノハ人民ナリ茲ニ所謂人民トハ他國人ヨリモ露國人ノ輿論ニ重キヲ置キテ云フナリ此ノ點ニ就テハ世界ノ判定ヲ顧ルヘシトノ貴説ハ本員モ亦同感ナリ今日ノ場合此處ニテ協定スルコトニ付日露兩國孰レカ正當ナリシヤハ世界之ヲ評セン貴全權委員ハ人道ニ鑑ミ正當ト認メタルモノヲ露國ニ要求スト云ハル、モ本員等ハ人道ニ鑑ミ露國ノ威嚴ト兩國戰爭ノ現狀トニ顧ミ露國ノ承諾スルコト能ハサルカ如キ條件ハ之ヲ提出セラレサランコトヲ希望ス

小村男 我全權委員ハ當初ヨリ述ヘタル如ク今回ノ講和條件ハ戰爭ノ結果ニ顧ミ決シテ過當ナラサルコトヲ充分ニ確信シテ之ヲ提出セリ若シ日露ノ位置顛倒シテ露國カ今日日本ノ立テル地位ニ在リシナランニハ其ノ日本ニ要求シ來ル所ノモノハ決シテ斯ル穩當ナルモノニハアラザリシナラン此ノ事ハ過去ノ歴史ニ徴シ十分ニ確信シテ疑ハサル所ナリ然ルニ日本ハ戰爭ニ關シ今日ノ如キ位置ニ在ルニ拘ハラズ斯ル穩當ナル條件ヲ提出シタルハ日本カ今後戰爭ヲ繼續シ益優勝ノ地位ヲ占ムルコトニ顧ミス一ニハ人道ヲ重ニスルカ爲メ又一ニハ兩交戰國共ニ戰局ヲ飽迄繼續セシメテ極端ノ場合ニ達スル以前和局ヲ結フコトヲ必要ナリト認メタルカ故ナリ露國ニ此ノ上戰

争繼續ノ準備アリト云ハル、ハ左モアラシ日本ニモ亦無論此ノ上戰爭ヲ繼續スルノ準備ハ充分アリ然レトモ今日ノ世界ハ兵力ノミノ競争ニアラス經濟力ノ競争盛ナルヲ以テ日露兩國カ兵力的競争ニ從事スル間ニ世界ノ經濟的競争ニ遅ル、ハ喋々ヲ俟タス故ニ兩國真正ノ利益ニ顧ミルニ於テハ双方共極端ニ達スル以前兵力ノ戰爭ヲ止メ世界ノ經濟的競争ノ爲メ盡力スルコトヲ緊要ナリトス

「ウヰ」氏 第一ニ日本ノ提出條件カ果シテ穩當ナリヤ否ハ觀察ノ如何ニ依ルコトニシテ貴全權委員ハ之ヲ穩當ナリト云ハル、モ本員ハ爾カ認メス即チ今日迄ノ戰爭ノ經過ニ照シ決シテ穩當ナリト認メス第二ニ假ニ日露其ノ位地ヲ顛倒シタル場合ヲ想像シ從來ノ歴史ニ顧ミ斯ル場合ニハ露國ノ條件ハ一層過大ナリシナラント云ハル、モ如何ナル歴史ナルヤ本員ハ之ヲ知ラス若シ露國ニシテ東京ニ侵入セハ其ノ條件ハ償金ノ如キモノヲモ含ムナラン然レトモ露軍ノ東京ニ達スル前ニ平和談判開始セラレナハ其ノ條件ハ今回ノ如キ過重ナルモノニアラス償金ノコトハ問題トナラザラン日本モ戰捷ヲ繼續シテ歐露ニ來リ聖彼得堡ニ侵入スルカ少クトモ莫斯科ノ如キ歐露ノ大都府ニ入り來リナハ償金ノコト問題トナルハ理由アリト認メラレン第三兵力ノ戰爭カ兩國ノ經濟上ニ有害ナリトノコトハ本員モ亦同感ナリ就テハ貴方ヨリ我方ヲ助ケテ苛重ナル條件ノ提出ヲ止メ以テ速ニ和局ヲ收メシメラレムコトヲ必要ナリト

思考ス

小村男 數次云フ如ク今回ノ講和條件ハ戰爭ノ結果ヨリ稽フレハ決シテ過當ニアラサ

ルコトハ本員等ノ確信スル所ナリ蓋シ條件ノ輕重ハ素ヨリ見解ノ如何ニ依ルコトナルカ我條件ノ過當ナラサルコトハ當事者タル日本ノミノ意見ニアラス世界ノ評論ニ照シ明ナリ故ニ若シ兵力ノ争ヲ止メ世界ノ經濟的競争ニ力ヲ轉スルヲ以テ兩國ノ利益ナリトセハ速ニ平和ヲ結ヒ經濟的競争ニ力ヲ注キ以テ自國經濟上ノ發達ヲ圖ルコト最モ得策ナルニアラスヤ抑モ世界ノ公論ニ於テ我主張ヲ過當ナリト認メ居ラサルコト即チ戰爭ノ結果ニ徴スレハ決シテ過當ナラスト認メ居ルコトハ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ貴全權委員ノ有シ居ラル、モノ、如キ消息ヲ有セス即チ如何ニシテ此ノ條件ヲ穩當ナリトスル世界ノ評論ナルモノヲ知リ得ラレタルヤヲ解セス世界ノ輿論ハ一層公平ナルモノナルヘシ若シ然ラスシテ貴全權委員ノ云ハレタル如クナランニハ本員ハ其ノ輿論ハ不公平ノモノナルコトヲ悲ムモノナリ然レトモ實際ハ一層公平ニシテ決シテ貴全權委員ノ認メラレタル如キモノニハアラサルヘシ

小村男 先ニ述ヘラレタル貴見ニ據レハ條件ノ過當ナリヤ否ヤハ各人ノ見解ニ由ル即チ日本ハ之ヲ穩當ナリト確信シ貴方ハ之ヲ過當ナリト云ハル然ルニ日本ノ要求ノ穩當ナルハ獨リ日本ノミナラス世界ノ評論ニ於テ之ヲ認メ居ルコト諸般ノ報道ニ由リテ明ナリ

「ウヰッテ」氏 然ラハ吾人ノ購讀スル新聞紙カ同一ナラサルナラン本員ノ讀メル新聞紙ハ此ノ條件ヲ以テ過當ナリトセリ

小村男 世界ノ評論ノ如何ナルモノナリヤヲ確實ニ知ルノ方法ナキハ勿論ニシテ各人自ラ認メテ評論ナリト信スル所ノモノヲ事實ナリトスルノ外ナク本員ハ本員ノ信スル所ハ斯ノ如シト云ヒタルナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ反對ニ認メ居レリ
小村男 將タ世界ノ評論カ本員ノ斷定シタル如キ批評ヲ下スハ當然ノ理由アリテ存ス即チ世界ハ日露兩國ノ政治上ノコトハ知ラス事實ニ現ハレタル戰爭ノ結果ハ著シク之ヲ認メ居レルヲ以テナリ且本員ノ知レル限ニテハ之ヲ世界ノ歴史ニ徴スルニ如何ナル戰爭ニ於テモ今日ノ如キ充分ノ結果ヲ生シタルコトハ之レナカラン

「ウヰッテ」氏 貴説ノ如クニテハ吾人ノ閱讀スル新聞紙カ同一ナラサル如ク吾人ノ閱讀スル書籍モ亦異ナリタルモノナラン本員ハ斯ノ如キ場合ニ償金ノ如キ條件ヲ提出シタル前例ハ之レナシト認ム

小村男 今ハ戰爭ヲ止ムルヤ否ヤノ大體論ナリ過刻來フ如キ談緒ヲ開キタルハ双方ノ同意ヲ得ルコト能ハサルモノ即チ償金其ノ他ノコトニ就キ國ノ威嚴之ヲ許サストノコトヲ論セラレタルカ故ニシテ要ハ大體ニ在リ吾人ハ歴史ヲ研究スルカ爲メニ來リタルニアラサルヲ以テ只今ノ談ハ此處ニ止メ只如何ニシテ戰爭ヲ息ムヘキカノ方法ヲ議セント欲ス日本ハ素ヨリ露國ニ於テモ或方法ヲ以テ平和ヲ回復スルノ希望アルコト、信ス然ルニ爰ニ其ノ目的ヲ達スル爲メニ必要ナル或個條ニ付双方ノ意見根本的ニ異ナルモノナリ

「ウヰッテ」氏 其ノ點ハ一ニアラス數點アリ
小村男 此ノ根本的ニ相違セル意見ヲ調和スルノ途アリヤ否ヤ是レ吾人ノ研究スヘキ
問題ナリ就テハ第九條ニ關シ我方ヨリ提出シタル覺書ニ對シテ回答ヲ與ヘラレハト
ノコトナラハ其ノ回答ヲ受領シ閱讀セム又第十條及十一條ニ關シテモ我方ノ意見ヲ
認メタル短文ノ覺書ヲ作り置キタレハ之ヲ提出シテ考究ヲ請フヘシ之ニ對シテモ同
シク書面ヲ以テ回答セラルヘキカ

「ウヰッテ」氏 差當リ第九條ハ如何ニスヘキカ
小村男 双方同意ニ到達シ得サルコトヲ認メルコト、スルノ外ナカラシ
「ウヰッテ」氏 然ラハ貴説ノ如クスヘシ

(コレヨリ左ノ新聞通知案ヲ決定シ午後零時五十分休憩)

新聞通知案

八月十七日午前講和會議ハ第九條ヲ討議シタルモ双方全權委員ノ合意ヲ得ル能ハ
サリシヲ以テ全權委員ハ意見ノ相違ヲ認メ午後三時迄休會セリ(原文ハ附屬書第三
號)

(午後三時五分再ヒ開會)

小村男 コレヨリ第十條ヲ議セム

「ウヰッテ」氏 今朝約束シタル第九條ニ對スル回答ヲ作り置キタレハ之ヲ貴方ヘ交付ス

ヘシ(トテ左ノ覺書ヲ提出ス)

露西亞國全權委員ハ日本國ニ向ヒ軍費ヲ拂戻スコトニ關スル箇條ニ付日本國全權
委員ヨリ交付セラレタル覺書ニ對シ慎重ナル考量ヲ加ヘ日本國全權委員カ該要求
ヲ提出スルニ當リ毫モ露國ニ向ヒ大國ノ威嚴ト相容レサル提議ヲ爲スノ意思ナカ
リシコトノ聲明ヲ領シ茲ニ満足ノ意ヲ表ス

然レトモ露西亞國全權委員ハ戰爭ヲ終止スルヲ得ヘキ妥協ヲ爲サムトスル最モ誠
實ナル希望ヲ懷クニ拘ハララス露國ニ於テ苟モ其ノ敵國ニ對シ彼カ軍事上如何ナル
大成効ヲ博シ得タリトスルモ軍費拂戻ヲ約束スヘキ講和條約ニハ到底署名スル能
ハサル旨ヲ明截ニ聲明スルノ已ムヲ得サルヲ感ス

抑モ露國ハ今日ニ至ル迄軍事上幸運ニ際會セスト雖未タ戰勝國ノ意思ニ屈服スヘ
キ戰敗國ノ地位ニ陥リタルモノニ非サルカ故ニ之ニ對シ軍費拂戻ヲ請求スルカ如
キハ之ヲ國際關係ノ歴史ニ照スモ又之ヲ衡平ノ原理ニ律スルモ到底正當ナリト云
フヲ得サルヘシ

前陳ノ理由ニ依リ如上ノ處理ニ適應セシメムカ爲メ用フヘキ形式並拂戻金額ノ整
定ニ關スル講究ハ無益ニ屬スルモノナリトス(原文ハ附屬書第四號)

小村男 第十條ニ付一ノ覺書ヲ作り置キタレハ一覽セラレタシ(トテ左ノ覺書ヲ「ウヰッ
テ」氏ニ手交ス)

第十、日本國全權委員ニ於テ本件要求ヲ提出シタルハ該要求ノ承諾セラレタル場

合ニ日本國ニ移屬スヘキ物質的利益ニ基クヨリハ寧ロ其ノ國際法ノ原則ニ適合
 スルヲ確信シタルニ基クモノナリ本件要求ニ對シ國際關係上適切ナル先例ノ之
 ヲ支持スヘキモノナキハ疑ナキ事實ナリト雖是レ古來未タ曾テ交戰國ノ軍艦カ
 戰鬪ノ結果ニヨリ中立港灣ニ避難シ抑留セラレタルノ事實ナキニ基因スルモノ
 ナリ若シ本件軍艦ニシテ長期ノ避難ヲ許容セラレザリシナラニハ其ノ大部分
 ハ遂ニ日本軍ノ手ニ落チタリシナルヘシ交戰國軍艦ノ中立國港内ニ避難シ以テ
 戰鬪ノ結果ヲ逃ル、コトハ正義ノ原則ト相容ル、モノト見ルヲ得ス又國際義務
 ノ遂行ニ關シテハ何等國家ノ威嚴ナル問題ノ存スヘキ理ナシ而シテ日本國全權
 委員ノ要求スル所ハ單ニ戰鬪中損害ヲ被リタル艦船ニノミ關スルモノナリ依テ
 日本國全權委員ハ該要求ヲ維持スルノ正當ナルヲ信ス(原文英文及佛譯文ハ附屬
 書第五號及第六號)

此ノ條件ニ付説明スヘキコトアリ日本カ此條件ヲ出シタルハ固ヨリ公法上ニ於テ
 正當ノ理由アリト信スルモ尙其ノ他ニ特別ノ事情アリ此ノ軍艦引渡ノコトハ主ト
 シテ清國領海ニ在ルモノヲ目的トスルモノニシテ清國ハ開戰當初ヨリ中立ヲ宣言
 シタルモ之ヲ實行スルノ能力ナク戰鬪ノ結果露國ノ軍艦清國港灣ニ進入シタル場
 合ニ清國ノ自力ヲ以テ之カ武装解除ヲ實行セシメタルモノ一モ之レアルナク皆日
 本艦隊ノ威壓ヲ受ケテ之ヲ行ヒタルナリ若シ此ノ問題ニシテ單ニ日清兩國ノ關係
 ナリシナラニハ日本艦隊ハ清國ノ港灣ニ進入シテ適當ノ處置ヲ執ルヘカリシモ



上海ノ如キハ列國ノ利益關係存在スルヲ以テ之ヲ害セザラシカ爲メ姑ク交戰國權
 利ノ執行ヲ差控ヘタル次第ナリ此等ノ露國軍艦ハ前ニモ述ヘタル如ク日本ノ力ニ
 由リテ武装ヲ解除セシメタルナリ當時日本艦隊カ之ヲ擊破若クハ捕獲セザリシハ
 日本ノ當然行ヒ得ヘキ交戰權ノ實行ヲ停止シタル結果ナリ斯ノ如キ事情ノ下ニ在
 ル軍艦ナルカ故ニ日本ニ於テ其ノ引渡ヲ要求スルハ當然ノコトニシテ即チ日本カ
 此ノ條件ヲ提出シタルハ主トシテ清國領海内ニ抑留セラレ在ル軍艦ノ始末ニ重キ
 ヲ置クヨリ來リタルコトナレハ右ノ事情ヲ了解セラレタシ

「ウヰッテ」氏 清國カ中立ヲ維持スルノ力ナカリシトノ貴説ハ全ク同意ナリソハ事實ノ
 證スル所ニシテ即チ日本軍中ニ多數ノ清國人アリシコト其ノ明證ナリ

小村男 日本軍中ニ清國人有リ等ノ説ハ露國新聞紙等ニ誤リ傳ヘタルコトアリト聞ク
 我邦ニテハ却テ露軍中ニ多數ノ清國人アリトノ説ヲ傳ヘ居レリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ如何ナル事情アリトモ中立國ノ港灣ニ抑留セラレタル軍艦ヲ敵國
 ニ交付スル理由ヲ解スルコト能ハス陸兵ノ一團カ中立國ノ領土内ニ竄入シ又ハ軍艦
 數隻カ中立國ノ港灣ニ入りタリトテ其ノ公法上ヨリ來ル唯一ノ結果ハ武装ヲ解除シ
 テ戰争期間中同處ニ留置スルニ止リ決シテ此等軍隊又ハ軍艦カ對手國ニ捕拿セラレ
 ルノ理由ヲ發見スルコト能ハス

小村男 交戰國一方ノ軍艦カ戰鬪ノ結果中立港灣ニ入り自ラ進ンテ若クハ當該地方官
 ノ命令ニ依リテ武装解除ヲ行ヒタル場合ト交戰國他方ノ海軍力ノ威壓ニヨリテ之ヲ

實行セシメタル場合トハ其ノ間大ナル差違アリ中立國カ其ノ中立ヲ維持スル能力ナキ爲メ交戦國ノ軍艦ニ對シテ中立ノ規定ヲ實行スルコト能ハサル場合ニ他ノ交戦國カ不得已海軍ノ威壓ヲ加ヘサルヘカラサルハ當然ノ結果ニシテ上海ニ竄入シタル露國軍艦ノ如キハ清國ノ中立規則ニ於テ廿四時間以内ニ出港スルカ又ハ武装解除ヲ行フカノ進退ヲ決セサルヘカラサリシニ拘ハラズ早クモ三週間遅キハ五週間何等ノ處決ヲモ爲サス其ノ極漸クニシテ武装解除ヲ爲シタルハ日本カ交戦國ノ權利ヲ以テ該港ニ進入シ適當ノ處置ヲ爲スコトニ決心シタルヲ以テ始メテ行ハレタルナリ其ノ際日本ハ當然交戦國ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘカリシハ勿論ナルモ清國港灣ニハ列國ノ利益關係アリ之ヲ損センコトハ日本ノ欲スル所ニアラサルヲ以テ可成列國ノ利益ニ損害ヲ與フルコトヲ避ケンカ爲メ實力ヲ以テ自家當然ノ權利ヲ實行スルコトヲ見合セ置キ其ノ權利ノ爲メニハ穩當ノ手段即チ談判ノ結果ニヨリテ軍艦ヲ引取り以テ無事ニ結局セシメントノ覺悟ヲ定メタルナリ是レ今回此ノ條件ヲ提出シタル緣由ナリトス

ウヰット氏 本員ノ意見ニテハ縱令其ノ間如何ナル事情アリシトスルモ公法ハ公法トシテ動カスヘカラス露艦ノ武装解除カ如何ナル理由ニ依リ行ハレタルニモセヨ又其ノ方法及解除ノ期日カ如何ニ異ナリタルニモセヨ結果ハ同一ナリト思考ス第一ニ貴全權委員ノ云ハル、如キ事情ヲ論スルノ必要アリトセハソハ本員等ノ未タ知ラサル事ナルヲ以テ事實ヲ調査スル爲メ特別ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス然レトモ二十四時

間又ハ四十八時間云々ノ如キ規則カ實行セラレザリシトテ之カ爲メ公法上ヨリ來ル當然ノ結果ハ變化セス武装解除ヲ行ヒタルモノハ其ノ所屬ハ本來ノ所有者ナルコト動カスヘカラス又日本海軍ノ威壓トハ如何ナルモノナリヤソハ港内ニ在ル軍艦カ出テ來リナハ之ヲ破壊ストノコトナラン其レ以上ニ如何ナルコトヲ行ヒ得ルカ日本艦隊カ中立港ニ進入スルノ權利アリトハ重大ナルコトナリ本員ハ之ヲ信セス日本艦隊カ上海ニ入ラサリシハ他國ノ利益ヲ重スルニハアラサシテ他國トノ葛藤ノ危險ヲ冒スニアラサレハ行フコト能ハサリシカ爲メナラン

小村男 今之ヲ項ニ分チテ論スヘシ第一ニ抑留軍艦ハ本來ノ所有主ニ還ルコト當然ナリト云ハル、モ此ノ場合ハ事情ヲ異ニシ日本ニ於テ當然其ノ引渡ヲ受クヘキ理由アリ第二、一旦清國ノ港灣ニ入りタルトキハ日本艦隊ハ其ノ港灣ニ進入シテ攻撃ヲ加フル能ハストテ所謂日本艦隊ノ威壓ナルモノハ如何ナルモノナリヤト問ハレタルカ元來中立國ニシテ其ノ中立ヲ實行スルノ力ナキ場合ニ交戦國ハ其ノ權利トシテ中立港内ノ敵艦ヲ攻撃シタルハ國際上今日迄其ノ例アルコトニシテ交戦國ニ此ノ權利アルハ疑ナキ所ナリ第三、實際ノ事實ニ於テ露艦ノ武装解除タルヤ上海入港ノ後清國中立規則ニ二十四時間以内ニ武装解除又ハ出港ノ明定アリ且地方官ヨリ頻ニ迫リタルニ拘ハラズ彼等軍艦ハ數週間ニ至リテ何等ノ處分ヲモ爲サス日本艦隊カ港口ニ入ルニ至リ始メテ武装解除ヲ行ヒタルモノニシテ何レノ場合ニ於テモ皆然ラサルナシ是レ即チ港灣内ニ於テ攻撃セラレ、コトヲ避ケンカ爲メニシテ而シテ日本艦隊ハ露艦カ

武装解除ヲ行ヒタル爲メ交戦國ノ權利ヲ實行スルコトヲ見合セタルナリ第四此ノ交
戦權ノ實行ヲ見合セタルハ列國ト衝突ノ危險ヲ冒スコトヲ避ケンカ爲メナリシトノ
コトニ就テハ日本ハ開戦ノ當初列國ニ向テ清國ト列國トノ貿易上ノ利益ニ害ヲ及ホ
スカ如キ處置ハ出來得ル限り之ヲ避ケ戦争ノ結果列國貿易上不利ナル影響ヲ及ホサ
ハランコトヲ勉ムトノ趣意ヲ宣言シ置キタルヲ以テ此ノ宣言ノ趣旨ニ基キ清國港灣
ニ於テ當然自ラ行ヒ得ヘキ交戦權ノ行使ヲ見合セタルナリ

「ウヰッテ」氏 日本全權委員ハ和協ノ精神ヲ以テ來ラレタル趣ナルカ此ノ條件ハ非常ニ
人心ヲ激昂セシムルモノナルヲ以テ此ノ點ニ關シテハ再考セラル、ナラント思料シ
居リタルカソハ誤ナリキ今ヤ本員等ハ此ノ事ニツキ到底同意スルコト能ハサルヲ以
テ其ノ旨ヲ認メテ次項ニ移ラン乎貴意如何

小村男 露國全權委員ニ於テハ今回ノ抑留艦引渡ノコトハ普通ノ場合ト異ナルコトヲ
認メ日本ヨリ此ノ條件ノ正當ナルコトヲ考ヘ必ス同意セラル、ナラント信シ居リタ
リ然ルニ單ニ露國ノ威嚴ニ關スルトノ一點ニ固執セラレ何等調和ノ途立タサルハ遺
憾ノ至ナリ此ノ上議論ヲ繼續スルモ双方ノ一致ヲ見ルコト困難ナルハ同感ナルヲ以
テ先例ニ遵ヒ其ノ旨ヲ認メテ次項ニ移ルコト、セム

扱次ハ第十一條ナリ此ノ條ニ關スル露國全權委員ノ最初ノ回答中「露國ハ近キ將來ニ
於テ東洋ニ著大ナル海軍力ヲ有スルノ考ヲ起サ、ルヘシ云々」ノ宣言アリ此ノ宣言ハ
素ヨリ日本ノ提出シタル條件ト矛盾セス即チ主義ニ於テ我提出ノ條件ニ關聯セル宣

言ナルカ故ニ満足ヲ以テ之ヲ迎ヘム然レトモ日本カ此ノ條件ヲ提出シタルハ帝國將
來ノ安全ヲ圖ルカ爲メニシテ極メテ重大ノ點ナレハ斯ル漠然タル宣言ヲ以テ満足ス
ルコトヲ得ス故ニ若シ露國ニ於テ果シテ東洋ニ於テ優勢ノ海軍力ヲ維持スルノ意思
ナシトセハ之ヲ條約上ノ義務トシテ規定シ置キ又近キ將來ニ於テ著大ナル勢力云々
ノ如キ程度ノ漠然タルコトハ將來紛議ヲ起ス基ナルヲ以テ此ノ程度ヲモ明ニ爲シ置
キタシ

「ウヰッテ」氏 右様ノ書方ナラハ條約ヲ以テスルモ可ナラント思考スルカ第一貴全權委
員ハ「著大ナル勢力」トハ漠然ナリト云ハル、モ然ラハ如何ナル文字ヲ以テ適當ト爲ス
ヘキカ本員ハ之ヲ求ムルモ發見スルヲ得ス又此ノ字句ノ儘ニ爲シ置クモ書面ニ「著大
ナル」ト書キタル以上兩國ノ交情親密ト爲リ互ニ相信スルニ至テハ是ニテ目的ハ達セ
ラレン一定ノ數ヲ定ムルハ甚タ困難ナリ勢力ノ著大ナルヤ否ヤハ時ニヨリ大ニ異ナ
リ去年ハ其ノ噸數ヲ以テ一勢力ノ價アリトセル海軍力モ今年ハ同噸數ニテハ毫モ價
ナキモノトナル時勢ナレハナリ

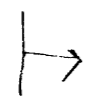
扱是ヨリ此ノ點並ニ此迄議シタル點ニ就キ一言セントス本員等ハ眞實且永續ノ平和
ヲ結ハンカ爲メニ來リタリ何トナレハ若シ眞實永續ノ平和ニアラスンハ單ニ將來ノ
紛議ヲ招クノミニシテ平和ヲ爲スノ要ナキノミナラス寧ロ戦争ヲ繼續スルヲ優レリ
トスレハナリ爰ニ本員カ無遠慮ノ言ヲ爲スヲ宥サレヨ總テ此ノ談判中本員ノ察スル
所ニ依レハ貴全權委員ニハ露國ハ現狀ノ下ニ於テ平和ヲ欲スルモ日本ト衝突ヲ惹起

スナラントノ考慮ヲ有セラル、カ如シ本員ハ能ク之ヲ了解ス。貴全權委員カ此ノ感想ヲ有セラル、ニハ理由アルコトヲ認ム然レトモ若シ過去ニ於テ懷カレタル感想カ將來ニ於テモ懷カサルヘカラサルモノナリトセハ今日平和ヲ爲スノ要ハ何レニ在リヤ平和カ大ナル價ヲ有スルハ甲處ハ彼ノ勢力ニ委シ乙處ハ我勢力ノ下ニ置クト定メ互ニ他ノ利益ヲ尊重シ他方ニ損害ヲ與ヘサルコトヲ覺悟スルニ在リ兩國今ヤ隣接ノ國トナリ双方孰レモ他ヲ尊重セサルトキハ互ニ存立スルコトヲ得ス日露兩國人共ニ互ニ他ノ利益ヲ尊重スルノミナラス一步ヲ進メテ將來ハ互ニ補助セントノ點迄此ノ關係ヲ進捗セシメント欲スコハ予及ヒ予ノ同僚多數者——是ハ重要ノ地位ニ在ル官吏ヲイフコトナルカ此等ハ皆皇帝陛下ノ從僕ニ過キサレトモ——即チ總テノ政治家及皇帝陛下モ同意見ナリ若シ吾人ニシテ互ニ他ノ利益ヲ尊重セス又互ニ他ヲ援助スルコトナシトセハ假令紙上ノ條約ヲ設ケタリトテ平和ハ一時形象ヲ呈スルノミニシテ近キ將來ニ於テ再ヒ戰爭ヲ爲スノ形勢トナランコトハ一般ノ事ナルカ第十一條ニツキ此ノ思想ヲ以テ此ノ個條ヲ考察センニ自ラ尊重シ又他ヲ尊重シテ親密ノ關係ヲ結ハントスルニ當リ條約ヲ以テ或地方ニ於ケル海軍力ニ制限ヲ置カントシ之ニ對シテ我方ヨリ或宣言ヲ爲サントスルヲ日本ニ於テ不充分ナリトシ其ノ實行如何ヲ疑ハレハ是レ互ニ信セサル空文ニ過キサルヲ以テ假令海軍力ノ數ヲ限リテ掲記スルモ信用ナクシハ其ノ結果ハ一樣ナラン又實ニ事實上ヨリ語ランニ本員ハ敢テ憶スル所ナク云ハン露國ハ今ヤ海軍ヲ有セス斯ク公言シタリトテ國辱ナリト思考スル程露國ハ小



ナルモノニアラス之カ爲メ毫モ露國ノ偉大ナルコトヲ損スル所ナシ扱露國ノ海軍ハ如何ニスヘキヤ之ニ就テハ東洋ノ外尙多クノ大問題アリ亞細亞ノ西南黒海、バルチック海等歐洲ノ此ノ方面ニ於テ極東ニ於ケルヨリモ重大ナル問題ヲ有ス故ニ露國ハ今後三箇ノ艦隊即チ、バルチック、海黒海及極東艦隊ヲ有セサルヘカラス然ルニ今日ノ狀態ニ於テ日本海軍ノ如キ優勢ナル海軍力ヲ有スル國ト爲ルコトハ容易ニナスコト能ハサルナリ況ンヤ貴國ハ我軍艦ヲ捕獲セラレ又現ニ優勢ナル軍艦ヲ注文セラレ且今後益注文セラル、コトナランニ於テオヤ本員ハ又云ハントス能ク事實ヲ觀察スル人ハ今貴方ヨリ要求セラル、事ハ特ニ約束ナクトモ其ノ如ク成リ行クヘキヲ知り又我方ヨリ宣言ヲ爲シタル以上我ハ必ス眞實ニ其ノ如ク爲スヘキハ何人モ首肯スル所ナラン何トナレハ我ハ其ノ如ク爲スヨリ外ニ爲スヘキノ途ナケレハナリ本員ハ又附言センニ實際、バルチック、海黒海及極東ニ有力ノ艦隊ヲ有スルコトハ露國ニ取リテ爲シ得ヘカラサル所ナルカ假ニ之ヲ爲シ得ヘシトセハ如何ニ本問題ハ解決セラルヘキ乎抑モ極東艦隊ノ位置タル總テノ海峽貴國ノ支配ニ屬スル下ニ在リテ如何ナル事ヲ爲シ得ヘキカ此等ノ事情ヲ考察セラレンニハ本員ノ宣言ノ行ハル、ヤ否ヤニ就キ疑念ヲ懷カル、コト之レ無カラント信ス

小村男 只今貴全權委員ノ述ヘラレタル所ハ大要二個ニ分ル一ハ日露兩國將來ノ關係ニシテ一ハ目下ノ議題ニ關スル貴見ナリ此ノ第一點即チ假令講和條約成立スルモ將來日露兩國各他ノ一方ノ利益ヲ犯サルノ意思ナキトキハ紙上ノ條約ハ如何ナリト



モ永遠ニ確實ノ平和ヲ結フコト能ハスト云ハレタル點ニ付テハ本員モ全然同感ナリ
 日露兩國間ニ誠實且密接ナル關係ヲ維持シテ互ニ双方ノ利益ヲ尊重シ互ニ双方將來
 ノ運命ヲ認メ共ニ國家永遠ノ繁榮ヲ謀ルヘシトハ我政府及國民ノ從來抱持セル意見
 ニシテ此ノ希望ヲ達スル爲メ是迄日本ハ非常ニ力ヲ盡シ而シテ其ノ盡力ノ衝ニ當リ
 タルハ本員ナリ即チ千八百九十六年韓國ニ關スル日露協商ハ本員自ラ韓國ニ在リテ
 之ヲ結ヒタルモノニシテ是レ日露兩國間ニ永ク誠實親密ナル關係ヲ保チ兩國各其ノ
 運命ニ從ヒ其ノ希望ヲ達シ又其ノ相互ノ利益ヲ尊重スルコトノ關係ヲ結ハントセル
 發軔ナリ其ノ後露都駐劄公使タルノ命ヲ奉シ在任僅ニ半歲ナリシモ其ノ間ニ在リテ
 從來ノ素志ヲ達セントノ希望ヲ以テ日露協商問題ヲ本員ヨリラムスドルフ伯ニ提出
 シタルコトアリ又滿洲及韓國ニ於ケル露國ノ行動ニヨリ或ハ日露兩國ノ關係危險ニ
 陥ラントスルニ際シ出來得ヘクハ素志ノ如キ協商ヲ以テ時局ヲ解決セント欲シ盡
 力シタルモ本員ナリ其ノ間露國ニ於テハ協商ノ趣意ニ賛同セラレタルニ拘ハラズ事
 實ニ於テハ之レト齟齬シタルコト續々生シ來リタルヲ實驗セリ本員ノ素望ハ只今簡
 單ニ述ヘタル通りナルヲ以テ將來尙一層此ノ意思ヲ鞏固ナラシムルハ自然ノ成行ナ
 リト諒セラレタシ次ニ第二ノ本案ニ就テノ事實問題ハ貴説ノ如ク露國カ三方面ニ於
 テ優勢ノ海軍力ヲ維持スルコトハ容易ナラス又バルチック海ニモ黑海ニモ相當ノ海
 軍力ヲ有スルコトモ各其ノ理由アルコトハ本員亦之ヲ認ム然レトモ過去ノ事實ニ於
 テ露國ハ滿洲經營ノ計畫ヲ立テシヨリ以來黑海及バルチック海ニ優勢ノ海軍力ヲ有

スルノ必要アルニ拘ハラズ海軍主力ノ殆ト全部ヲ東洋ニ派シ即チ日本艦隊ニ對シ優
 勢ヲ維持スヘク軍艦ヲ派遣セラレタリ故ニ將來ニ於テモ露國ノ東洋ニ於ケル海軍力
 ノ増減ハ其ノ政策ノ如何ニ依リ定メラル、コト、ナラン隨テ今此ノ事ニ就キ日露兩
 國間ニ充分ノ協調成ランニハ始メテ安全ニシテウヰテ氏一己ノ意見ヲ以テ満足ス
 ルコト能ハス蓋シ此ノ事タル政略ニヨリ變化ヲ受クルモノニシテ而シテ政略ハ人ニ
 ヨリ又時ニヨリ種々異ナルモノナレハナリ故ニ日露間ニ於テ將來ニ誠實親密ノ關係
 ヲ維持スル爲メ協調ヲ爲スコトハ先刻述ヘタル本員ノ素志ト吻合セリト雖此際平和
 ヲ結ハンカ爲メニハ該協調ノ有無ニ拘ハラズ日本帝國ノ安全ヲ保ツモノナラサルヘ
 カラス

ウヰテ氏 貴説ノ如ク往年意見ノ交換ハ少カラス之ヲ行ヒタルカ今ハ本問題ヲ決セ
 ン我方ニ於テハ極東海軍ニ關シ日本ノ威壓ニ由リテ束縛ヲ受クルコトヲ諾スルコト
 能ハス此ノ點ニ付テハ本員モ「ローゼン」男モ共ニ意見ヲ變更スルコト能ハス故ニ當初
 日本ヨリ提出セラレタル案ノ如クナラハ只否ト答フルノ外ナシ然レトモ我提案ノ宣
 言ハ本員等一己ノ資格ヲ以テスルニ非スシテ皇帝陛下ノ代表者トシテ之ヲ爲サント
 ス即チ最初ヨリ本員ノ陳ヘタル趣旨ヲ認メ公然ノ宣言書ト爲サン貴方ニ於テ之ニ同
 意ナラハ決定セン然レトモ若シ不同意ナラハ互ニ意見ノ一致セサルコトヲ認メ置ク
 コト、ナスノ外ナカラン

小村男 其ノ宣言ハ條約ト等シク公布セラレテ可ナルモノナリヤ

「ウヰッテ」氏 然リ

百七十

小村男 帝國政府カ此ノ條件ヲ提出シタルハ全ク將來ニ對シテ帝國ノ安全ヲ謀リ且出來得ル限リ誤解ヲ避ケントノ希望ニ基クヲ以テ若シ文章ノ解釋如何ニ依リ誤解ヲ生スルカ如キコトアラハ我本意ニ非ス故ニ本員等ニ於テ貴方ノ提議ニ同意スルト假定セハ其ノ文章タル誤解ノ恐ナキモノニアラサレハ承諾スルコト能ハス

「ウヰッテ」氏 我宣言案ハ貴方ノ手ニ在リ該案ハ貴方ノ希望ニ合シ又日本國民カ將來露國ヨリ侵略ヲ受クルノ恐ヲ除キ置カントノ希望ニモ適セン若シ該案ニシテ貴意ニ適セスンハ如何ニ之ヲ認ムヘキ乎

小村男 形式ノ如何ハ強テ問ハサルモ意義ニ誤解ノ虞アリテハ不可ナリ

「ウヰッテ」氏 此ノ宣言ハ條約附屬文書トシテ條約ニ附セム

小村男 屢陳フル如ク該宣言ハ將來誤解ノ生シ易キ書方ニテハ却テ紛議ノ基トナルヲ以テ露國政府ノ趣意ヲ明白ニ爲シ置カサルヘカラス貴案ノ如キ書方ニテハ誤解ヲ生スルノ恐アルニ付別案ヲ提出セラレンコトヲ希望ス

「ウヰッテ」氏 我方ニテハ此ノ書方ニテ充分明白ナリト認ムルヲ以テ別案ヲ提出スルコト能ハス若シ貴方ニ考案アラハ提出セラレタシ左スレハソレニ付考究スヘシ

小村男 然ラハ我方ヨリ提議セン乎

「ウヰッテ」氏 吾人ハ最早刺ス處僅ニ十一條及十二條ノミニシテ而シテ十一條ハ既ニ討議ヲ了シ只決定如何ノ問題アルノミニ本員ハ之ヲ宣言書ト爲サントス就テハ斯クスル

コトニ決定シ而シテ其ノ文章ハ我提案ノ如クスルヤ又ハ別案ヲ提出セラル、ヤハ貴方ニ於テ決セラル、コト、シ其ノ確定ハ明朝ニ延ハスコト、ナサム

小村男 元來我方ニテハ條約ニ記入スルコトヲ希望シ宣言書トナスノ考ハ之ヲ有セザリシ貴案ニ付テハ先ツ實質ニ於テ二箇ノ不可ナル點アリ然レトモ只今貴全權委員ノ述ヘラレタル如ク尙我方ニ於テモ研究ヲ加ヘ果シテ貴案ニ同意シ得ルヤ否ヤ又他ニ相當ノ案アリヤ否ヤヲ決セム

「ウヰッテ」氏 二ケノ不可ナル點トハ如何

小村男 一ハ近キ將來ニ於テ露國カ極東海面ニ著大ノ海軍力ヲ有セストノコトハ事實ニ外ナラスシテ宣言ヲ要セサルヘシ二ハ近キ將來ト云ヒ又ハ著大ト云ヒ共ニ程度問題ニシテ意義甚タ漠然タルヲ以テ却テ紛議ヲ起スノ因ナリ

「ウヰッテ」氏 然レトモ之ヲ判然書キ表スコトヲ得ルヤ免ニ角明朝承ラム

小村男 承知セリ左様取計ハム

「ウヰッテ」氏 扱最早此ノ後ニハ十二條ノ一ヲ餘スノミニシテ是ハ明日早々議了セム其ノ上ニテ今一回會合ヲ開カム然ルニ今迄ノ會議錄調製遲滞セルヲ以テ明後土曜日ハ休會トシ其ノ翌日曜日ハ土地ノ習慣ニヨリ休會ヲ可トセン此ノ兩日ヲ書記官等ノ會議錄調製ニ充テ月曜日午後三時ニ開會シ是ヲ以テ最終ノ會見ト爲サム

小村男 諾

(コレヨリ左ノ新聞通知文ヲ決定シ右ニテ散會時ニ午後六時三十分)

百七十一

第七號

In the afternoon sitting of August 17th, Articles X and XI have been discussed. Regarding the Article X, the Plenipotentiaries have shown a divergency of views which has not been settled. Article XI has been reserved for further discussion. The Conference adjourned till to-morrow August 18th.

(新聞通知文)

八月十七日午後講和會議ハ第十條及第十一條ヲ討議セリ第十條ニ關シテハ双方意見ノ相違アリテ合致スルヲ得ス又第十一條ニ關シテハ更ニ討議ヲ爲スコトトシ明十八日迄休會セリ(原文ハ附屬書第七號)

directes de la guerre et jusqu'à cette limite le Gouvernement Impérial du Japon est fermement convaincu qu'il a le juste titre au remboursement. Les Plénipotentiaires du Japon ne jugent donc pas possible d'abandonner cette réclamation. Ils sont toutefois prêts à traiter la question de forme à adopter ainsi que l'ajustement du montant à rembourser, dans un esprit de conciliation et de convenance, et ils se voient forcés d'insister ardemment pour que les Plénipotentiaires de Russie reconsidèrent la question sous le jour de ces remarques.

第三號

In the morning sitting of August 17th, the Conference has discussed the Article IX. Not being able to arrive at an agreement, the Plenipotentiaries have decided to take note of the divergency of views, and the Conference adjourned to three o'clock in the afternoon.

第四號

Les Plénipotentiaires de Russie ont pris en sérieuse considération la note que L. L. E. E. les Plénipotentiaires du Japon ont bien voulu leur remettre relativement à l'Article concernant le remboursement au Japon des frais de la guerre. Ils prennent acte avec satisfaction de la déclaration de Messieurs les Plénipotentiaires du Japon qu'en mettant en avant cette demande, il n'entrait en aucune façon dans leur intention de faire à la Russie une proposition incompatible avec la dignité d'une grande Puissance.

Toutefois, malgré leur désir le plus sincère d'arriver à une entente qui puisse mettre fin à la guerre les Plénipotentiaires de Russie se voient obligés de déclarer d'une manière catégorique que la Russie ne saurait signer un traité de paix en vertu duquel elle s'engagerait à rembourser à un adversaire, même favorisé par de grands succès militaires, ses frais de guerre.

Ni l'histoire des relations internationales, ni les principes de l'équité ne sauraient justifier une pareille demande adressée à la Russie qui, bien que n'ayant pas jusqu'ici été favorisée par la fortune des armes, ne se trouve en aucune façon dans la position d'une Puissance vaincue, réduite à subir la volonté du vainqueur.

Dans ces conditions, la recherche d'une forme à adopter pour couvrir une semblable transaction, aussi bien que l'ajustement du montant qui serait à rembourser, devient inutile.

第五號

10. The Plenipotentiaries of Japan advanced this claim not so much on account of the material advantages likely to accrue to Japan from its acceptance, as from the conviction that it was in accordance with the principles of the law of nations. It is no doubt true that the claim is without the support of exact precedent in international relations, but that circumstance is due to the fact that no cases have arisen in which belligerent ships of war have in the sequel of battle sought asylum in neutral ports and been there interned. If prolonged sanctuary had not been extended to the vessels in question it is probable that the larger part of them would ultimately have fallen into the hands of the Japanese forces. It does not seem to be consistent with the principles of justice that vessels by seeking the hospitality of neutral ports, should be permitted to escape the consequences of battle. There can be no question of national dignity in connection with the fulfilment of international obligations. The claim of the Plenipotentiaries of Japan applies only to vessels that were damaged in battle. In the circumstances of the case, the Plenipotentiaries of Japan feel justified in maintaining the claim.

第六號

10. Les Plénipotentiaires du Japon ont émis cette réclamation, non pas autant à cause des avantages matériels de nature à revenir au Japon de son acceptation, que dans la conviction qu'elle était en conformité des principes du droit des gens. Il est vrai, sans doute, que la réclamation est dénuée d'appui d'un précédent exact dans les relations internationales, mais cette circonstance s'attribue au fait qu'il n'est survenu aucun cas où les vaisseaux de guerre belligérants avaient, à la suite de bataille, cherché l'asile dans des ports neutres et y étaient internés. Si un abri prolongé n'avait pas été accordé aux vaisseaux de guerre en question, il est probable qu'une majeure partie en seraient finalement tombés aux mains des forces japonaises. Il ne semble pas compatible avec le principe de justice que les vaisseaux, en cherchant l'hospitalité des ports neutres, soient permis de s'échapper aux conséquences de la bataille. Il ne peut y avoir aucune question de la dignité nationale par rapport à l'accomplissement des devoirs internationaux. La réclamation des Plénipotentiaires du Japon ne s'applique qu'aux vaisseaux qui ont été endommagés dans les batailles. Dans ces circonstances, les Plénipotentiaires du Japon se voient justifiés à maintenir cette réclamation.

第一號

9. The Plenipotentiaries of Japan have given their most serious consideration to the observation of the Plenipotentiaries of Russia on the subject of this Article. They are unable to share the conclusions which the Plenipotentiaries of Russia would draw from the admission of the claim of Japan under this head. In such an admission there could exist no inference that Russia was no longer able to continue the struggle. The Plenipotentiaries of Japan have no intention to claim any terms that will be humiliating to Russia as that would not consist with a just sense of the dignity of a great Power, and they believe that the whole civilized world would find, in the admission of the principle of reimbursement in the actual circumstances of the case, nothing more than the recognition of the historical fact that up to this time the arms of Japan have been successful. The claim of Japan contains nothing of an indirect or consequential nature. It is strictly limited to the actual direct expenses of the war and to that extent the Imperial Government of Japan firmly believe that they are justly entitled to reimbursement. The Plenipotentiaries of Japan accordingly do not find it possible to abandon the claim. They are nevertheless prepared to approach the question of the formula to be used as well as the adjustment of the amount to be reimbursed in the spirit of conciliation and accommodation and they feel compelled to earnestly urge the Plenipotentiaries of Russia to reconsider the question in the light of these remarks.

第二號

(Traduction)

9. Les Plénipotentiaires du Japon ont donné leur plus sérieuse considération aux observations de Leurs Excellences les Plénipotentiaires de Russie au sujet de cet Article. Ils sont dans l'impossibilité de partager les conclusions que les Plénipotentiaires de Russie voudraient tirer de l'admission de la réclamation du Japon dont il s'agit. Dans une pareille admission, il ne pourrait exister aucune déduction que la Russie ne pût plus continuer la lutte. Les Plénipotentiaires du Japon n'ont aucune intention de réclamer des conditions quelconques qui seraient humiliantes à la Russie ou qui ne seraient pas compatibles avec le sens juste de la dignité d'une grande Puissance, et ils croient que le monde civilisé entier ne trouverait, dans l'admission du principe de remboursement, dans les circonstances réelles du cas présent, que la reconnaissance du fait historique que jusqu'ici les armes japonaises ont été toujours couronnées du succès. La réclamation du Japon ne contient rien qui soit d'une nature indirecte ou de conséquences. Elle est strictement limitée aux dépenses réelles

講和談判筆記第七回本會議

明治三十八年八月十八日午前十時開會

列席者 前回ニ同シ

小村男 前日ノ引續トシテ第十一條ノ宣言書ノ書方ニ付昨夜來考案ヲ凝シタルモ我方ノ趣意ヲ明ニシ同時ニ貴方ノ趣意ニ合スル適當ノ文章ヲ案出スルコト困難ナリ借今日迄懸案トナリタル四ヶ條ニ付テ熟ラ考フルニ此等條項ニ關シテハ之ヲ從來述ヘラレタル貴見ニ徵スルニ到底満足ノ協定ヲ見ルコト能ハサルヘシト思考スルカ故ニ茲ニ日本全權委員ハ一ノ宣言ヲ爲サントス
(トテ左ノ覺書ヲ提出ス)

(覺書)

日本國全權委員ハ此迄双方意見合致ニ至ラサル諸問題ヲ満足ニ調整セムトスル誠實ナル希望ヲ懷クニ因リ若シ露西亞國全權委員ニ於テ調和ノ精神ヲ以テ薩哈噠島割讓及軍費拂戻ノ問題ヲ考量スルノ意向ナラムニハ日本國全權委員ハ海軍力制限及抑留軍艦交付ニ關スル條件ヲ撤回スヘキ覺悟ナル旨ヲ宣言ス(原文英文及佛譯文ハ附屬書第一號及第二號)

即チ日本全權委員ハ未タ双方ノ一致ヲ得サル總テノ問題ヲ満足ニ解決セントノ誠實ナル希望ヲ有スルニ因リ若シ露國全權委員ニ於テ薩哈噠島割讓及軍費拂戻ノ問題ヲ

調和ノ精神ヲ以テ考量セラル、ニ於テハ海軍力制限及抑留軍艦引渡ニ關スル要求ヲ撤回スル覺悟ナリ

「ウヰッテ」氏 然ラハ我方ヨリ貴宣言ニ對スル回答ヲ書面ニテ提出スヘシ

(トテ露語ニテ「ド、ブランソン」及「ナボコフ」兩書記官ニ口授スル所アリ起草ヲ始メタルモ忽チ又之ヲ中止セシメテ曰ク)

本員ハ此ノ場合ニ於テ兩國全權委員ノミヲ以テ祕密ニ談シタキ事アリ依テ書記官等ヲ退席セシメテ祕密會ヲ開キタシ貴意如何

小村男 喜ムテ同意スヘシ

(爰ニ於テ書記官等退席シテ四全權委員祕密會ヲ開キ午後三時二十五分ニ至リ本會議ニ移ル)

「ウヰッテ」氏 前回ニ續キテ第十一條ヲ議セム是ハ双方同意ニ至ルコト能ハサル旨ヲ認メテ次條ニ移ラム

小村男 然リ第十二條ニ移ラム

「ウヰッテ」氏 之ニ就テハ我方ノ回答ニ認メ置キタル通り沿岸ニ於ケル漁業ヲ日本人ニ許可スル爲メ日本ト協商スヘキ約束ヲ爲シ置カム

小村男 然ラハ其ノ書方ハ如何

「ウヰッテ」氏 書方ハ此ノ如クセム(トテ左ノ條約案ヲ口述ス)

(第十二條修正案)

露西亞國ハ日本海、オコーツク海及ペーリリンク海ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與セムカ爲メ日本國ト協定ヲ爲スヘキコトヲ約ス而シテ前記ノ方面ニ於テ既ニ露西亞國臣民又ハ外國臣民ニ屬スル所ノ權利ノ依然効カヲ有スヘキハ言ヲ俟タス(原文ハ附屬書第三號)

小村男 夫レニテ可ナリ

「ウヰッテ」氏 楮之ニテ十二條ヲ議了セリ今一回最終ノ會議ヲ開クコトニ付昨日ハ月曜日ノ午後ト爲シ置キタル書記官等ノ申立ニヨレハ會議録ノ調製ハ明日マテハ完成スルコト難キカ如シ

小村男 我方ノ書記官等ヨリモ時間不足ナル旨ノ申立アリ然ラハ一日延期シテ火曜日ト爲サンカ

「ウヰッテ」氏 承知セリ然ラハ火曜午後三時ニ再ヒ會見シテ是迄ノ議事録ニ署名シ且其節更ニ談判ヲ續行スル理由アルヤ否ヲ決セム

小村男 承知セリ

(右ニテ散會時ニ午後四時三十分尙本日午前及午後ノ會議ニ付左ノ如ク二通ノ新聞通知文ヲ決定ス)

(新聞通知文)

八月十八日午前ノ會見ニ於テ兩國全權委員ハ第十一條ノ討議ヲ繼續シ午後ノ會見ニ於テモ之ヲ繼續スヘキ筈ナリ(原文ハ附屬書第四號)

第一號

The Plenipotentiaries of Japan declare that, animated by the sincere desire to bring about a satisfactory adjustment of all the questions on which agreement has not been reached, they will be prepared to withdraw the conditions concerning the limitation of the naval strength and the surrender of interned ships if the Plenipotentiaries of Russia were disposed to consider in a spirit of conciliation the questions of the cession of Sakhalien and the reimbursement of the war expenses.

第二號

(Traduction)

Les Plénipotentiaires du Japon déclarent que, animés d'un sincère désir d'apporter un ajustement satisfaisant de toutes les questions sur lesquelles un accord n'a pas été intervenu, ils seront prêts à retirer les conditions concernant la limitation de la force navale et la remise des vaisseaux internés, si les Plénipotentiaires de Russie sont disposés à considérer dans un esprit de conciliation les questions de la cession de Sakhaline et du remboursement des frais de guerre.

第三號

La Russie s'engage à s'entendre avec le Japon pour concéder aux sujets japonais des droits de pêche le long des côtes des possessions russes dans les mers du Japon, d'Okhotsk et de Behring. Il va sans dire que les droits déjà appartenant dans cette région à des sujets tant russes qu'étrangers, resteront en vigueur.

第四號

In the morning sitting of August 18th, the Conference has continued the discussion of Article XI which will be resumed at three o'clock in the afternoon.

第五號

In the afternoon sitting of August 18th, not being able to arrive at an agreement on Article XI, the Conference has passed to the discussion of the last Article which has been settled unanimously. The next sitting will be held next Tuesday August 22nd at three o'clock p. m.

八月十八日午後ノ會見ニ於テ兩國全權委員ハ第十一條ノ事項ニ關シ意見ノ合致ヲ得ル能ハサリシニ因リ講和條件第十二條即チ未條ノ討議ニ移リタルカ双方ノ意見全ク一致セリ而シテ次回ノ會見ハ八月二十二日午後三時ニ開カルヘシ(原文ハ附屬書第五號)

百八十

百八十一

講和談判筆記第八回本會議

明治三十八年八月二十三日午前九時三十分ヨリ正午迄秘密會議同日午後二時三十分
本會議開會

列席者 前回ニ同シ

(前數回ノ會議ニ關スル會議録ヲ双方ノ書記官ヨリ提出シ双方ノ全權委員之ニ署名
ヲ了ス)

「ウヰット」氏 貴我兩全權ハ今ヤ双方ノ意見一致ニ至ルコト能ハサル四項ヲ協議スルノ
位地ニ達シタリ故ニ終局的ノ協商ニ達スルノ途アリ得ルヤ否ヲ講究スル爲メ進ムテ
此ノ四項ヲ考究センコトハ有益ナルヘシ是レ貴我兩全權ノ最終ニ試ムヘキ盡力ナリ
小村男 本員等ハ終局的ノ協商ニ達スヘキ途ヲ發見スル爲メ盡力ヲ試ムルコトヲ得策
ナリトスル貴全權委員ノ意見ニ全然一致ス而シテ今回ノ商議中本員等ハ貴方ニ提出
シタル講和條件ノ穩當ナルコトニ依リ將又薩哈噠島割讓並軍費拂戻ノ問題ニシテ滿
足ニ處理セラル、ニ於テハ第十及第十一ノ二項ヲ撤回スヘキ覺悟ヲ告ケテ日本政府
カ戰爭ノ慘禍ヲ終止セシメムトスル希望ノ誠實ナルコトヲ充分ニ表彰シタルハ自ラ
満足スル所ナリ爰ニ又日本政府ノ誠意ニ對シ新タナル一表證ヲ加ヘムカ爲メ更ニ讓
歩ヲ進メ茲ニ貴全權委員ニ對シ相互的讓歩ノ方案ヲ提出セントス右ノ方案ハ極メテ
重要ナルモノニ付貴全權委員ニ於テハ最モ慎重ナル考量ヲ之ニ加ヘラレムコトヲ希

望ス即チ本員等カ本國政府ノ認可ヲ以テ提議スル所ノ相互的讓歩案ハ此ノ覺書ニ載セアリ(トテ左記譯文ノ覺書ヲウヰヰッテ氏ニ手交ス)

一、薩哈噠島ヲ二分シ北緯五十度以北ノ地ハ露西亞國ニ還附シ該緯度以南ノ地ハ日本國ニ屬セシムルコト

二、日本國及露西亞國ハ宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航行ヲ阻礙スヘキ何等ノ措置ヲ執ラサルコトヲ互ニ約スルコト

三、露西亞國ハ北緯五十度以北ニ在ル薩哈噠島一部ノ還附ニ對スル報酬トシテ金拾貳億圓ヲ日本國ニ支拂フコト

四、上記ノ趣旨ニ於テ協定成立セハ日本國ハ軍費拂戻ニ關スル要求ヲ撤回スルコト但シ此ノ撤回ハ露西亞國俘虜ノ保護及給養ノ爲メ日本國ノ支出シタル經費ニ及ハサルコト(英佛原文ハ附屬書第一號及第二號)

「ウヰヰッテ氏 本員等ノ方ニ於テモ亦露國カ誠實平和ヲ希望セルコトヲ表彰シタリト考フ本員等カ十二個條ノ内八個條迄承諾シタルハ協商ヲ成立セシメ戰爭ヲ終止セシムムコトヲ誠實ニ希望セル證據ナリト認ム今貴全權委員カ平和ノ目的ニ向テ新ニ一歩武ヲ進メラレタルハ本員等ノ頗ル感謝スル所ナリ殘レル四個條ニ就テハ位地ヲ善ク確カメ置ガムカ爲メ貴全權委員ノ説明アラシクコトヲ乞フ本員ニ於テモ亦貴全權委員カ本員ニ對シ試ミルコトヲ必要ト認メラルヘキ問題アラハ如何ナル問題ニ對シテモ答辨スヘク充分ニ覺悟セリ

貴全權委員ニ於テハ形式ノ如何ヲ問ハス軍費賠償ノ要求ヲ一切脱却セル協定案ヲ發見スルコトハ可能ナリト認メラル、ヤ否ヤ今貴全權委員ノ交付セラレタルカ如キ提案ハ名義ヲ改メテ軍費拂戻ノ要求ヲ爲サムトノ趣意ナルハ自然ノコトナルヲ以テ若シ之ヲ露國政府ニ報告セハ之ヲ承諾シ得ヘキモノト認メラレサルヘキヲ以テナリ就テハ此ノ軍費拂戻問題ヲ脱却セル或ル融合案ヲ發見スルコトハ不可能ノコトナリヤ貴我兩全權委員カ協商ニ到達スルヲ得ヘキ爲メ俘虜ニ關係スル費用以外ノ軍費ノ問題ハ形式ノ如何ヲ問ハス全然脱却セル方案ヲ案出スルコトハ貴委員ニ於テ不可能ノコト、考ヘザル、ヤ

小村男 本員カ今提出シタル方案ハ薩哈噠島及軍費ノ二大問題解決ニ關スル一切ノ困難ヲ排除スルノ目的ヲ以テ作成セラレタルモノニシテ此ノ提案ニシテ採用セララル、所トナラシカ本員等ノ考ニテハ一方ニ於テハ日本政府カ其ノ領有ヲ緊要トシ特ニ今現ニ占領中ナル事實ニ鑑ミ一層其ノ然ルヲ認ムル所ノ薩哈噠島問題ニ關スル妥協ト爲リ他ノ一方ニ於テハ貴委員等カ軍費拂戻ノ名義ノ下ニ支拂フコトヲ不能トセラレタル軍費問題ニ關スル妥協トナルヘシ且本案ノ形式タルヤ貴委員等カ頗ル強固ニ維持セラレタル異議ヲ排除シ同時ニ亦薩哈噠島ノ北部ヲ露國ニ還附スルコト、ナルナリ日本ハ薩哈噠島ノ一部ヲ還附スルコトヲ承諾スルニ對シテ日本政府カ正當ナリト認ムル金額ヲ領收スルヲ要ス日本カ軍費拂戻要求ヲ撤回スルコトハ此ノ覺書ニモ述ヘタルカ如ク本妥協案カ受諾セラル、コトヲ條件トシテ始メテ行ハレ得ヘキモノナ

ルコトハ貴委員等ノ省慮ヲ乞ハントスル所ナリ

「ウヰッテ」氏 本員一個限リニ假リニ想像シテ問ハン露國カ薩哈噠島ノ一部ヲ買戻スコトヲ拒ミ即之ヲ換言スレハ露國カ薩哈噠全島ヲ日本ニ讓與スト假定セシニ此ノ場合ニ於テ貴委員等ハ如何ナル位地ヲ採ラルヘキヤ日本ハ金錢拂戻ニ關スル一切ノ要求ヲ撤回スルコトヲ得ヘキヤ否ヤ

小村男 若シ右ノ如キ協定ニシテ成立スルヲ得ヘクムハ本問題ノ解決ハ比較的容易ナルヘキモ日本ニ取リテ薩哈噠島全部ノ還附ニ同意スルノ困難ナルハ軍費拂戻ヲ全然拋棄スルノ困難ナルト同様ナリ

「ローゼン」男 本員ノ見ル所ニテハ「ウヰッテ」氏ノ問題ハ判然小村男ノ了解スル所トナラサルモノ、如シ「ウヰッテ」氏ハ露國カ薩哈噠島全部ヲ拋棄スル場合ヲ想像セルナリ

小村男 本員ハ「ウヰッテ」氏ノ問題ヲ充分ニ了解セリ本員ノ言ヒタルハ若シ「ウヰッテ」氏ノ提議セルカ如キ協定ニシテ成立スルヲ得ヘクムハ本問題ノ解決ハ容易ナルヲ得ヘキモ日本ニ取リテ軍費拂戻ノ要求ヲ拋棄スルノ困難ナルハ薩哈噠島全部ノ還附ニ同意スルノ困難ナルト同様ナリ是ヲ以テ本方案ハ右ノ困難ニ對シ双方ヨリ各々半途迄歩ミ合ヒテ解決ヲ與ヘムトシテ提議スルモノニシテ其ノ要義ハ双方ノ交讓ニ在テ存ス是レ此ノ妥協案ノ精確ナル意義ナリ

「ウヰッテ」氏 貴委員カ談判成立ノ爲メ盡力セラル、ハ本員ノ満足スル所ニシテ貴意正ニ領ス此ノ方案ニ於テ尙金錢ノ問題ニ關スル思想アルヲ以テ妥協困難ナラン就テハ

此ノ方案モ唯一ノ妥協案ト云フ義ニモ無之他ニ妥協ノ方法モアリ得ヘシ本員ハ問ハント欲ス貴委員ニ於テハ形式ノ如何ヲ問ハス軍費拂戻ノコトハ之ヲ無キコト、シテ或方案ヲ案出セラル、コト能ハサルヤ

小村男 本員等ハ如何ナル他案ヲモ發見スルコト能ハス本員等ノ見ル所ニヨレハ提議シタル方案ハ甚タ公平正當ニシテ一切ノ困難ヲ除去スルニ適當ナル唯一ノ案ナリ然レトモ若シ貴委員ニシテ何等他ニ方案ヲ提出セラル、ニ於テハ本員等ハ欣然之ニ考量ヲ加フヘシ

「ウヰッテ」氏 本員ニ於テ何等方案ヲ提議スルコトハ目下ノ事情ニ於テ能ハサルナリ本員ハ露國政府ノ認可ヲ得テ貴方ニ提議スヘキ如何ナル方案ヲモ有セス然レトモ貴方ノ案ヲ考量シテ他ノ方案ヲ考出スルコトヲ得ヘシ此ノ方案ノ根據タルヤ若シ露國ニシテ或金額ヲ支拂フナラハ日本ハ薩哈噠島ノ北半部ヲ提供スヘシト云フニ在リ本員カ爰ニ云ハントスル所ハ政府ヨリ認可ヲ受ケテ正式ニ提議スルニハアラス本員カ職務上ノ資格ヲ離レテ一個人タル意見ヲ述ヘント欲スルナリ今貴方ノ提議ハ或金額ニ代ヘテ或土地ヲ我方ヘ還附セラレントスルニ在リ我方ニ於テハ島ノ一部ヲ買戻サンヨリモ寧ろ全島ヲ日本ニ委スル方可ナリトスルコトアルヘシ此レ貴方ノ提案ニ對スル論理的結果ニシテ本員一個ノ考ヲ以テ推論スルナリ右ノ如クニナストキハ軍費拂戻ノ問題ヲ全ク脱去スルコト、ナルヘシ之ニ關スル貴方ノ意見如何

小村男 貴委員ハ右ノ如キ融合案ヲ以テ本員提出妥協案ノ論理的結果ナリト云ハル、

モ本員等ノ方案ハ或形式ニ於テ軍費拂戻ノ要求ヲ棄テサルノ趣意ニテ造ラレタルモ
ノニツキ貴委員ノ所論ハ假令形式上論理的ナリトセンモ實質上ヨリ云ヘハ全然誤レ

「ウヰッテ氏 然ラハ本日ノ會議全體ノ經過ヨリ軍費拂戻ノ思想ヲ全ク含マサル融合案
ハ一切日本ニ於テ承諾スル能ハサルモノト結論シテ可ナリヤ

小村男 然リ今茲ニ提議シタル形式以外ノ融合案ハ總テ承諾スル能ハサルモノナリ此
ノ方案ヲ作成スルニ方リ本員等尙數層重要ナル事ヲ考量シタルナリ即チ本案ニシテ
承諾セラレムカ其ノ結果トシテ兩國間ニ一切不滿ノ原因ヲ貽スコトナキヲ得ヘシ其
ノ故ハ他ナシ本案ノ要旨ハ相互ノ讓歩ニ在リ而シテ相互ノ讓歩ニ依リ妥協ヲナスコ
トハ双方任意ノ行動ニシテ他ノ強制ニ由ルモノニアラサレハナリ依テ貴委員等ニ於
テハ此ノ妥協案ニ適切ノ考量ヲ加ヘラレムコト本員等ノ熱望スル所ニシテ且貴委員
ニ於テハ本國政府ノ認可ヲ經タル何等ノ解決案ヲ有セラレストノコトナレハ本員等
ハ此ノ方案カ露國政府ノ受諾スル所トナルヘキヤ否ヤヲ知ランコトヲ切望スルナリ
「ウヰッテ氏 此ノ問題ニ對シ答フルハ本員ノ義務ナリ本員ハ何等ノ方案ヲ提出スルコ
ト能ハス本員ハ日本政府ノ認可ヲ得ルコト、ナルヘキ方案如何ヲ知ルノ基礎ヲ發見
センコトヲ欲シタリキ又本員ハ如何ナル案ナラハ我政府ニ於テ受諾スヘキヤ否ヤヲ
知ルコト能ハス然レトモ如何ナル案ナラハ受諾セサルヘキヤヲ述ヘ得ル丈ケノ智識
ヲ有ス此ノ見地ヨリシテ本員ハ個人的ノ談話ニ入りタリ本員ノ知ル所ヨリ云ヘハ此

ノ貴方ノ案ハ俘虜ノ費用ハ別トシテ尙實質上軍費ノ要求ヲ含ムヲ以テ多分我政府ノ
承諾ヲ得ルコトナカルヘシ故ニ本員ハ若シ我方ニ於テ薩哈噠島ノ一部ヲ買戻スコト
ヲ拒絕シテ軍費ノ問題ハ全然脱去スルコトヲ得ル如キ意義ノ方案ヲ案出スルコトヲ
得ルヤ否ヤヲ問ハント欲シタリ此ノ問ニ對シテハ今迄ノ經過ヨリ斯ル融合案ハ日本
政府ノ受諾スル所トナラサルヘキコト、結論ス本員ノ問ハ是ニテ終レリ今本員ハ貴
方ヨリ如何ナル問題ヲ出サル、トモ之ニ答フル覺悟ナリ貴方第一ノ問ハ貴方提出方
案ハ露國政府ノ受諾スル所トナルヘキヤ否ヤナリト了解ス之ニ對シテ本員ハ此ノ方
案ハ軍費ノ要求ヲ含ムヲ以テ受諾スル所トナラサルヘシト答フルコトヲ得若シ此外
ニ尙何等本員ニ問ハルヘキコトアラハ喜ムテ之ニ答フル覺悟ナリ

小村男 貴委員ハ露國政府ノ位地ヲ本員ニ甚タ明瞭ナラシメラレタリ本員ハ此ノ上何
モ附加シテ問フコトナシ而シテ本員モ亦日本政府ノ位地ヲ貴方ニ甚タ明瞭ナラシメ
タリト信ス

「ウヰッテ氏 本員ハ貴委員カ日本政府ノ位地ヲ腹藏ナク述ヘラレタルコトニ對シテ甚
タ感謝ス尙斯ノ如キ次第ナレハ今朝既ニ發議シタルカ如ク最終ノ會議ヲ土曜日午後
迄延期セムコトヲ提議ス

小村男 本員ハ全然之ニ贊成ス
(右終リテ左記新聞通知案ヲ起草シ兩全權認可ノ午後三時三十分散會ス)

(新聞通知文)

第一號

1. The Island of Saghalien to be divided into two parts, the territory lying north of the 50th degree, North Latitude, to be restored to Russia and the territory lying to the south of that parallel to belong to Japan.
2. Japan and Russia to engage respectively not to take any measures which may impede the free navigation of the La Perouse and Tartary Straits.
3. Russia to pay to Japan Yen 1,200,000,000, as compensation for the restoration of the portion of Saghalien Island to the north of the 50th parallel, North Latitude.
4. Upon the conclusion of an arrangement in the above sense, Japan to withdraw her demand concerning reimbursement of war expenses, but such withdrawal is not to apply to the expenses incurred by Japan for the care and maintenance of Russian prisoners of war.

第二號

(Traduction)

1. L'île de Sakhaline sera divisée en deux parties; le territoire situé au nord du 50^{me} degré de latitude nord sera restauré à la Russie et le territoire situé au sud de ce parallèle appartiendra au Japon.
2. Le Japon et la Russie s'engagent respectivement à ne pas prendre des mesures qui pourront empêcher la libre navigation des Détroits de Lapérouse et de Tartarie.
3. La Russie payera au Japon la somme de 1,200,000,000 yen, à titre de compensation de la restauration de la partie de l'île de Sakhaline, située au nord du 50^{me} parallèle de latitude nord.
4. Lorsqu'un arrangement sera conclu dans le sens ci-dessus, le Japon retirera sa demande relative au remboursement des dépenses de guerre, mais ce retrait ne s'étendra pas aux dépenses supportées par le Japon pour les soins et entretiens des prisonniers de guerre russes.

第三號

In the sitting of August 23rd, the Conference has proceeded to the examination and signature of the protocols of the preceding sittings. It has been decided that the next sitting will be held next Saturday August 26th.

八月二十三日ノ會議ニ於テ前數回ニ關スル會議録ヲ檢閲シ之ニ署名ヲ了シ次回ハ來
ル土曜日即八月二十六日ニ之ヲ開クコトニ決定セリ(原英文ハ附屬書第三號)

百九十

百九十一

講和談判筆記第九回本會議

明治三十八年八月二十六日午後四時三十分開會

列席者前回ニ同シ(兩國全權委員ハ同日午後三時三十分ヨリ本會議ヲ開キマテ)

小村男 前回ノ會議錄ニ署名セムカ

ウヰヰッテ氏 諾

(是ニ於テ兩國全權委員ハ講和會議錄第八號ニ署名ヲナセリ)

小村男 次回ノ會議ハ何時之ヲ開クヘキヤ

ウヰヰッテ氏 明後日午後三時ニ之ヲ開クコト、ナシテハ如何

小村男 可ナリ次ニ新聞通知案ハ左ノ如ク之ヲ定メテハ如何

八月二十六日ノ會議ニ於テ全權委員ハ前回會議錄ニ署名ヲ了シタリ而シテ次回ノ會議ハ八月二十八日午後三時ニ開始セラルヘシ(原文ハ附屬書第一號)

ウヰヰッテ氏 貴案ニ賛成ス

(右畢リテ午後四時四十分ニ散會セリ)

第一號

Dans la séance du 26 Août, la Conférence a procédé à la signature du protocole de la séance précédente. La prochaine séance aura lieu lundi le 28 Août à trois heures de l'après-midi.

百九十五

2-0096

0223

講和談判筆記第十回本會議

明治三十八年八月二十九日午前十時五十五分開會

列席者前回ニ同シ(兩國全權委員ハ同日午前十時ヨリ秘密會議ヲ開キタリシカ)
(同五十分ヲ以テ終了シ同日五十分ヨリ通常會議ヲ開キタリ)

(兩國全權委員ハ講和會議錄第九號ニ署名ヲ爲シタル後)

小村男 八月二十三日ノ會議ニ於テ本員ヨリ提出シタル日本政府ノ妥協案ニ對スル露國政府ノ公然ノ回答如何ヲ知ラムト欲ス

「ウキッテ」氏 諾右回答ハ此ノ文書中ニ記載シアリトテ左ノ回答書ノ原本ヲ取出シ之ヲ讀上ケタル後之ヲ小村男ニ手交セリ)

(覺書) (原文ハ附屬書第一號)

日本國全權委員カ八月二十三日ノ會議ニ於テ拾貳億圓ノ報償ヲ以テ薩哈噠島北部ヲ露國ニ還附センコトヲ發議シタル四箇條ノ覺書ハ露西亞帝國政府ニ於テ最モ慎重ナル研究ヲ遂ケタル所ナリ

前記覺書ニ對スル回答トシテ露西亞國全權委員ハ今茲ニ日本國全權委員ニ對シ俘虜給養費外ニ何等ノ支拂ヲ爲スコトハ講和會議開始ノ當初露西亞國ノ列擧シタル重要ノ一基礎ニ戻ルカ故ニ露西亞帝國政府ハ前記提議ヲ承諾スル能ハサル旨ヲ通告スルノ光榮ヲ有ス

露西亞國全權委員ハ又薩哈噠全島ノ保有カ露西亞國ニ取リテ緊要ナルコトヲ明示

センカ爲メ甚タ重要ナル數多ノ理由ヲ彙ニ本會議ニ於テ述ヘ置キタリ
然レトモ皇帝陛下ハ極東平和ノ回復ニ資セントノ誠實ナル希望ヲ有セラル、一新
證トシテ薩哈噠島北部ヲ何等金錢上ノ報償ナクシテ露國ノ保有ニ委スルコトヲ條
件トシテ同島南部ヲ日本國ニ讓與スルコトニ同意アラセラル但シ此ノ場合ニ於テ
日本國ハ宗谷海峡通航ノ自由ヲ保證シ且其ノ占有スヘキ同島ノ部分ニ於テ何等軍
事上措置ヲ執ラサルヘキコトヲ約スヘキモノトス
今ヤ露西亞全權委員ハ該案ヲ日本國全權委員ノ考量ニ供スルニ際シ其ノ皇帝陛下
ノ命令ニ依リ該案ハ協商ヲ遂ケントスル唯一ノ目的ノ爲メニ露國ノ爲シ得ヘキ最
後ノ讓歩ナル旨ヲ日本國全權委員ニ聲明スルノ光榮ヲ有ズ

小村男 (尙右回答書ヲ閱讀シタル後日本國全權委員ハ兩國妥協ノ方法ニ關シ本國政府
ノ訓令ニ依リ特別ノ宣言ヲ爲スノ光榮ヲ有ストテ左ノ宣言書ヲウヰヰッテ氏ニ手交セ
リ)

(宣言書) (原文英文及佛譯文ハ附
屬書第二號及第三號)

日本國政府ハ軍費ノ拂戻ヲ要求スルニ正當ナル理由ヲ有スルコトヲ確信スト雖露
西亞國政府カ該要求ヲ考量スルコトヲ絕對ニ拒絕シタルコトヲ領シ且日本國政府
カ該要求ヲ固持スルヨリ必然生スヘキ結果ヲ考量シ一ハ人道ト文明ノ爲メ一ハ日
露兩國眞正ノ利益ニ鑑ミ茲ニ日本國ノ既ニ行ヒタル薩哈噠島占領ヲ既成ノ事實ト
シテ露西亞國カ承認スルコトヲ條件トシテ前記軍費拂戻ノ要求ヲ撤回スヘキコト

ヲ日本國全權委員ニ訓令セリ

ウヰヰッテ氏 (ローゼン男ト共ニ右宣言書ヲ熟讀シタル後露國皇帝陛下ノ最モ明截ナル
大命アルニ依リ此ノ妥協案ニ對シテハ唯今提出セル文書ヲ以テ回答ト爲スノ外ナシ
小村男 然ラハ已ムヲ得ス日本國政府ハ人道ノ爲メ世界ノ平和ヲ克復セムトスルノ極
メテ誠實ナル希望ヲ抱クカ故ニ貴回答案ヲ承認スヘシ但シ薩哈噠島分界點ハ北緯五
十度ヲ襲踏スヘク且軍事上措置ニ關スル制限ハ全ク相互的ナルヲ要ス又宗谷海峡ノ
自由通航ヲ妨クル措置ヲ執ラストノ約束ハ之ヲ相互的ト爲シ韃靼海峡ニ關シ露國ヨ
リ之ヲ約束スルヲ要ス

ウヰヰッテ氏 軍事上措置ニ關スル制限及海峡ノ自由通航ヲ相互的トスルコトニハ異議
ナシ但シ露國ハ從來同島内部ニモ沿岸ニモ未タ嘗テ何等軍事上措置ヲ施シタルコト
ナク又將來ニ於テモ之ヲ施サントスル意思ナキカ故ニ右ノ制限ヲ相互的ニスルカ如
キハ實際上不必用ノコトナレトモ貴全權委員ノ希望ニ依リ之ヲ相互的ト爲スコトハ
之ヲ諾ス將又主義トシテ同島分界點ヲ五十度ト爲スコトニハ異議ナキモ右境界ヲ精
細ニ定ムルコトハ特別委員ニ依テ現場ニ於テ爲サレサルヘカラス

小村男 然リ次ニ兩國間此ノ際協定ヲ要スルコトハ同島ニ於ケル犯罪人置場ノ問題は
ナリ是ハ講和條約中ノ個條ヲ以テ規定シ置クノ必要アルモノニ非スト雖免ニ角兩國
ノ協定ヲ要スルモノナリ同島ノ犯罪人置場ハ從來日本政府ニ困難ヲ惹起シタルコト
頗ル多ク北海道カ同島ト宗谷海峡ヲ隔ツルニ拘ハラズ右囚徒ノ北海道ニ逃レ來リテ

混雜ヲ惹起シタル場合頗ル多シ而シテ此ノ後同島ニ於テ日露境ヲ接スルニ至ラハ右ノ混雜ハ更ニ増加スヘシ就テハ此ノ後ハ同島北部ニ犯罪人置場ヲ維持セラレサラムコトヲ希望ス

「ウヰヰッテ氏」 本員ハ此ノ事ニ關シ適當ナル報道ヲ有セス此ノ事タルヤ微細ニ互ル一點ニシテ此處ニテ協議スルヲ要セサルコトナルヘシ且本員ハ如何ニ之ヲ處理シ得ヘキヤヲ知ラス又此ノ點ニ關シ何等ノ職權ヲモ有セス但シ本員ノ信スル所ニ依レハ後來露國カ同島ニ於テ囚徒置場ヲ設置スルノ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ隣國人ニ對シ不愉快ノ原因ト爲ラサル様必ス萬般ノ措置ヲ採ルニ相違ナシ

小村男 貴全權委員ハ本件ヲ貴國政府ニ具申スルヲ得ヘシ

「ウヰヰッテ氏」 本員ハ何等ノ職權ヲ有セス是レ全ク内務省ノ所管ナリ

小村男 然レトモ本件ヲ露國政府ニ具申勸奨スルヲ得ヘキ理ナリ

「ウヰヰッテ氏」 本員ハ之カ爲メニ適當ノ地位ニ在ラス

小村男 貴全權委員ハ此ノ事ヲ日本全權委員ノ意見トシテ露國政府ニ取次クコトヲ得ヘケム

「ウヰヰッテ氏」 然リ、日本政府ノ希望トシテ之ヲ露國政府ニ取次クコトハ之ヲ爲スヲ得ヘシ

小村男 然ラハ是ヨリ第五條ノ文言ヲ決定スルコト、セム

「ウヰヰッテ氏」 然リ但シ此等ノコトハ專門技術官及書記官等ニ任シテ可ナラム

小村男 北緯五十度ヲ以テ境界線トスルコト及軍事的措置ニ對スル制限ヲ相互的ニスルコト等ハ之ヲ明ニスルヲ要ス

「ウヰヰッテ氏」 然リ、但シ文言作成ノコトハ專門家等ニ任シテ可ナラム

小村男 此處ニテ確定シタル原則ニ依リ專門家等ヲシテ文言ヲ作成セシムルコトニ異議ナシ

「ウヰヰッテ氏」 次ニ協議ヲ要スルハ專門事項擔當員ヲ列席セシムルノ件ナリ今ヤ講和會議ハ諸般ノ重要問題ヲ議了シ單ニ枝葉及細目ニノミ關スル問題ニ到着シタルニ付テハ條約文ノ起草等ニ關シ專門事項ヲ擔當スル隨員等ヲ此ノ席ニ招致スルコト得策ナルヘシト思ハル則チ露國側ヨリ云ヘハ條約ノ文言ニ付テハ「マルテンス」財政上ノ事項ニ付テハ「シボフ」及「ボコチロフ」軍事上ノ事項ニ付テハ「エルモロフ」ノ如キ專門家ヲ今日午後招致セントスル次第ナルカ貴見如何

小村男 異存ナシ我方ニ於テモ必要アル場合ニ於テハ專門事項擔當隨員ヲ招致スルコトトセム然ルニ本日茲ニ全權委員カ議決スルヲ要スル諸件アリ即チ(一)滿洲撤兵方法ノ件(二)滿洲ニ於ケル双方鐵道區分點確定ノ件及(三)鐵道保護ノ件是ナリ而シテ先ツ右第一件ヨリ陳述セムニ本件ニ付テハ條約第二條ニ於テ追加約款ヲ以テ之ヲ定ムヘシトノ明記アルカ故ニ本員ハ之ニ依リ一ノ提案ヲ作成シタリ就テハ之ヲ提出シテ貴全權委員ノ研究ニ供スルカ故ニ之ニ對シテ貴見ヲ發表セラレムコトヲ望ム而シテ若シ貴方ニ於テ他案アラハ之ヲ示サレムコトヲ請フ(トテ左ノ撤兵案ヲ「ウヰヰッテ氏」ニ手交

ス)

(撤兵案) (原文英文及佛譯文ハ附)

(屬書第四號及第五號)

下名ノ日本國皇帝陛下ノ全權委員及露西亞國皇帝陛下ノ全權委員ハ本日調印ノ講和條約第二條ノ規定ヲ實行セムカ爲メニ左ノ追加約款ヲ協定セリ

日本國及露西亞國ハ滿洲及其ノ附近ニ於ケル兩國軍隊ヲ左記ノ三期ニ分チ全然且同時ニ撤退スヘキコトヲ互ニ約ス

第一期 講和條約批准後十日以内ニ撤兵ヲ開始シ四箇月以内ニ終ルヘキコト

日本軍ハ新民廳、奉天、撫順、興京、懷仁、楚山ノ線以内及豆滿江右岸ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ伯都訥、桃賴、昭山河屯、額木索、琿春ノ線以内及豆滿江左岸ニ撤退スヘキ

コト

第二期 第一期終了ヨリ四箇月以内ニ撤兵ヲ終ルヘキコト

日本軍ハ牛家屯、大石橋、岫巖、鳳凰城、安平、河口ノ線以内ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ胡拉爾、吉齊、齊哈爾、墨爾根、愛琿ノ線以内ニ撤退スヘキコト

第三期 第二期終了ヨリ二箇月以内ニ撤兵ヲ終ルヘキコト

日本軍ハ遼東租借地及韓國境内ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ露國領土内ニ撤退スヘキコト

前記追加約款ハ講和條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

ウヰヰッテ氏 貴意ヲ領ス然レトモ滿洲撤兵ノ件ハ全ク特別ノ問題ニシテ現今滿洲ニ駐

屯スルカ如キ大軍ヲ動かスノ方法ニ關スル細微ノ點ノ如キハ專門家ニ非サレハ之ヲ協定スルコト能ハサルモノナリ此ノ問題ニ就テハ數多技術上ノ困難アルカ故ニ本員ハ今茲ニ何等ノ意見ヲモ發表スルコト能ハス

小村男 本員提出ノ案ハ我陸軍官憲ノ承認ヲ經タルモノナリ

ウヰヰッテ氏 露國側ニ於テハ本問題ニ就テ困難ヲ感スルコト貴方ニ比スレハ頗ル多シ

滿洲駐屯ノ陸軍官憲ニ諮詢セサレハ精確ノ協定ヲ爲ス能ハサルナリ本員ハ決シテ故

意ニ本問題ヲ回避セムトスルニ非サルナリ而シテ強テ本員ノ私見ヲ吐露スレハ滿洲

撤兵ハ左ノ如キ原則ニ依テ之ヲ爲スヘキモノナリ(第一)戰鬪ハ講和談判ノ趣旨ニ背ク

カ故ニ之ヲ終止セシムルカ爲メニ兩國間ニ一般的ノ協約ヲ爲スコト(第二)此ノ後兩軍

互ニ援軍ヲ増遣セサルコト(第三)兩軍同時ニ撤退シ以テ各時期ニ於ケル兩軍隊ノ數ヲ

略同一ニスルコト則チ是ナリ而シテ如何ニシテ此ノ原則ヲ實行スルヲ得ルヤ否ヤノ

問題ハ重ニ鐵道ノ輸送力及土地ノ實況ニ依テ之ヲ決スヘキモノナルカ故ニ今此處ニ

於テ解決スルコト困難ナリ必ス滿洲駐屯軍司令長官ノ意見ヲ徵セサルヘカラス

小村男 本問題ニ關シ露國陸軍官憲ノ意見ヲ徵セサルヘカラサルハ勿論ナレトモ茲ニ

之ニ關スル原則ヲ協定シ以テ之ヲ條約ニ附屬セシメサルヘカラス

ウヰヰッテ氏 本員ハ貴全權委員ト根本ニ於テ同一ノ思想ヲ有ス然レトモ本問題ヲ判斷

スルニ適セス

小村男 細目ニ互ル事項ハ戰場ニ在ル司令官ノ協定ニ任セ原則ハ今茲ニ之ヲ協定シ以

テ條約ニ附屬セシムルノ必要アリ

「ウヰッテ」氏 専門事項擔當員ヲ招致セム

小村男 本員ハ貴全權委員カ本件ヲ考量シ之ニ關スル貴方ノ案ヲ提出セラレムコトヲ希望ス

「ウヰッテ」氏 諾

小村男 次ニ協定スヘキハ滿洲鐵道保護ノ件ナリ其他通商條約締結ノ件條約批准交換ノ件停廢交換ノ件モ協定ヲ要スルコトナルカ該諸案ハ本日午後ノ會議ニ提出スルコト、セム茲ニハ滿洲鐵道保護ニ關スル案ヲ提出スルカ故ニ貴全權委員ノ考量ヲ煩ハス(トテ鐵道保護ニ關スル左ノ覺書ヲ「ウヰッテ」氏ニ手交ス)

(覺書)

(原文英文及佛譯文ハ附屬書第六號及第七號)

日本國全權委員ハ滿洲ニ於ケル日露兩國鐵道ニ對シ必要ナル保護ヲ加ヘ且誤解ノ原由ヲ避ケムカ爲メニ講和條約附屬議定書ヲ以テ左ノ如ク一ノ協定ヲ爲サムコトヲ提議ス

清國ニ於テ自ラ其ノ責務ニ任シ且之ヲ實行シ得ルニ至ル迄日露兩國政府ハ各其ノ滿洲鐵道ノ線路財產及運輸ニ必要ナル保護ヲ加ヘムカ爲メ鐵道守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス但シ前記兩國政府ハ右守備兵ハ如何ナル場合ニ於テモ鐵道一「キロメートル」ニ付五人ヲ超過セサルヘキコトヲ互ニ約ス

「ウヰッテ」氏 (右覺書ヲ熟讀シタル後主義ニ於テハ本案ニ贊成ス但シ「キロメートル」ニ

付五人トハ注意ノ充分ナル案ニハ非サルヘシ是レ本員ノ經驗ニ基キタル感念ナリ

小村男 本員ハ右ノ兵數ニ付陸軍當局者ノ意見ヲ徵シタル上該案ヲ作成シタルモノ故右兵數ハ實際ノ必要ニ應スルニ足ルモノト信スレトモ清國ニハ數多ノ非常且豫見シ難キ事柄アルヲ以テ若シ將來右兵數ノ不足ナルヲ認メタルトキハ兩國ノ合意ヲ以テ之ヲ増加スルヲ得ルコト、爲シテ可ナルヘシ要ハ鐵道守備兵數ヲ定ムルコトハ常ニ兩國協議ノ上之ヲ爲スコト、約定スルニ在リ

「ウヰッテ」氏 既ニ陳述セル如ク本員ハ主義上貴全權委員ト同意見ナリ然レトモ右兵數ヲ今ヨリ五人ト定メ置クコトハ恐クハ賢明ナル措置ニ非ルヘシ他日平和ノ狀況全ク回復シ滿洲全般靜謐ナルニ至ラハ該數ト雖或ハ實際上ノ必要ニ應スルニ足ラム然レトモ前陳ノ狀態ニ達セサル間ハ五人ノ員數必ス不足ナルヘシ依テ其時ニ至ル迄ハ兩國各適當ト認ムル兵數ヲ置クコト、爲スコト然ルヘシ

小村男 該兵數ハ兩國ノ協議ヲ以テ之ヲ定サルヘカラス而シテ此事ニ何等困難アルヘキ理ナシ

「ウヰッテ」氏 兩國政府ハ各其ノ所有スル鐵道ノ延長ニ從ヒ時々双方協議ノ上其ノ守備兵ノ員數ヲ定ムルコト、セム乎

小村男 本件ハ正式ノ議定書ヲ以テ確定シ置クヲ要ス

「ウヰッテ」氏 諸次ニ此處ニ協議ヲ要スルハ最も重要ナルコトニシテ兩國軍隊ノ衝突ヲ豫防スルノ件即チ是ナリ今ヤ兩國講和談判大ニ進捗シ緊要問題總テ解決セラレタル

ニ拘ハラス若シ滿洲ニ於ケル兩國ノ軍隊尙互ニ相衝突スルカ如キコトアリテハ甚タ
悲ムヘキカ故ニ右ノ如キコト發生セサル様熱望ニ堪ヘス

小村男 貴全權委員ニ於テ何等定マリタル案ヲ提出セラレムニハ本員等ハ直ニ之ニ考
量ヲ加フヘシ

「ウヰッテ」氏 該案ハ則チ兩國皇帝陛下ニ於テ各勅命ヲ戰場ニ於ケル軍司令官ニ發シ彼
等ヲシテ互ニ協議ノ上休戦ヲ規約セシムルコト、スルニ在ルヘシ就テハ双方全權委
員ニ於テ今ヨリ直ニ本國政府ニ打電シテ本件ノ直ニ行ハル、コトニセム(トテ鉛筆ヲ
取リテ右電信案ヲ起草セムトス)

小村男 此ノ事ニ關シテハ本員モ直ニ電信ヲ以テ本國政府ニ請訓スヘキモ是レ君主ノ
行動ニ關スルコト故本員ハ本國政府ノ訓令ニ接スル迄ハ何等精確ナル意見ヲ發表ス
ルコト能ハス次ニ協定ヲ要スルハ講和條件第七條討議ノ際貴委員ニ於テ寬城子吉林
間ノ支線ノ存否ヲ確メタル、迄懸案ト爲シ置キタル滿洲ニ於ケル兩國鐵道區分點ノ
問題ナリ

「ウヰッテ」氏 然リ、該件ニ就テハ先般返電ヲ得テ寬城子吉林間ノ鐵道ハ存在セサルコト
明瞭トナリタルヲ以テ本員等ハ日本人カ前記地方間ノ鐵道ヲ敷設經營スルコトニ異
議ナシ就テハ此ノ儀ヲ講和會議録ニ記載シ置クコト、セム乎(ウヰッテ)氏露語ニテ斯
ノ如クニシテ該線以南ハ日本ノ勢力範圍トナリ以北ハ露國ノ範圍トナルナラント獨
語ス)

小村男 然リ、ソレニテ満足ナリ

「ウヰッテ」氏 午後ノ會議ハ專門事項擔當員ヲ招致セム

小村男 如何ナル事項ニ關シテナリヤ

「ウヰッテ」氏 軍事ニ關シテハ「エルモロフ」少將條約文案ニ就テハ「ド、マルテンス」顧問官財
政ニ關シテハ「シボフ」局長等ナリ

小村男 異議ナシ

午後零時三十分休會

午後三時再開(兩國全權及講和會議書記官ノ外「マルテンス」「ボコチロフ」「エルモ
ロフ」及「シボフ」ノ諸氏列席セリ)

小村男 今此處ニ協定スヘキ事項ニシテ今朝ノ會議ニ於テ約束シタルモノニ關シ案文
ヲ提出シ貴全權委員ノ研究ヲ請ハムト欲ス第一ハ俘虜交換ニ關スル件第二ハ兩國間
通商條約締結迄兩國ノ通商關係ヲ支配スヘキ方法ニ關スル件第三ハ滿洲ニ於テ兩國
カ所有スヘキ鐵道ノ接續ニ關シテハ向後可成速カニ條約ヲ締結スルノ必要アルヘキ
カ故ニ此ノ事ヲ規定シタル一條ヲ條約中ニ挿入シ置クノ件第四ハ條約批准交換ノ方
法ニ關スル件ナリ日露兩國ノ距離非常ニ大ナルヲ以テ通常ノ外交手續ニ依テ批准ヲ
交換スルニ於テハ長期ノ時日ヲ要スル次第ナルカ該條約ヲ一日モ速ニ實施スルコト
ハ一般ノ利益ナルヲ以テ何等便法ヲ設ケムコトヲ希望シ該案ヲ提出シタリ(トテ左ノ

諸案ヲ提出ス

二百八

(俘虜交換ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附
屬書第八號及第九號)

本條約實施ノ後成ルヘク速ニ一切ノ俘虜ハ互ニ之ヲ還附スヘシ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ各俘虜ヲ引受クヘキ一名ノ特別委員ヲ任命スヘシ一方ノ政府ノ收容ニ係ル一切ノ俘虜ハ他ノ一方ノ政府ノ特別委員又ハ正當ニ其委任ヲ受ケタル代表者ニ引渡シ同委員又ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ受領スヘク而シテ其ノ引渡及受領ハ引渡國ヨリ豫メ受領國ノ特別委員ニ通知スヘキ便宜ノ人員及引渡國ニ於ケル一個若クハ數個ノ便宜ノ出入地ニ於テ之ヲ行フヘシ

日本國政府及露西亞國政府ハ俘虜引渡完了ノ後……日以内ニ俘虜ノ捕獲若クハ投降ノ日ヨリ死亡又ハ引渡ノ時ニ至ル迄之カ保護給養ノ爲メニ各負擔シタル費用ノ計算書ヲ互ニ提出スヘシ同計算書交換ノ後露西亞國ハ……日以内ニ日本國カ前記ノ用途ニ支出シタル實際ノ金額ト露西亞國カ同様ニ支出シタル實際ノ金額トノ差額ヲ日本國ニ拂戻スヘキコトヲ約ス

(通商條約ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附
屬書第十號及第十一號)

日露兩國間一切ノ通商條約ハ戰爭ノ爲メ廢止セラレタルヲ以テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ新ニ通商航海條約ヲ締結スルニ至ルマテノ間兩國通商關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用スヘキコトヲ約ス而シテ輸入税及輸出税稅關手續通過税及噸稅並一方ノ代辦者臣民及船舶ニ對スル

他ノ一方ノ領土ニ於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記ノ方法ニ依ル又露西亞帝國政府ハ浦鹽斯德ニ駐在スヘキ日本國正式領事ノ任命ヲ諾ス

(鐵道聯絡ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附屬
書第十二號及第十三號)

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ交通及運輸ヲ増進シ且之ヲ便易ナラシムルノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵道業務ヲ規定セムカ爲メ成ルヘク速ニ別約ヲ締結スヘシ

(批准交換ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附屬
書第十四號及第十五號)

本條約ノ全文ハ裁可ヲ奏請スル爲メ電信ヲ以テ日本國皇帝陛下及露西亞國皇帝陛下ニ上奏スヘシ而シテ右裁可アリタル事實ノ證明書ハ……ニ於テ日露兩國代表者間ニ可成速ニ上記ノ日附後……日以内ニ之ヲ交換スヘシ上記裁可ハ批准ニ代ハルヘキモノニシテ一切ノ關係ニ於テ批准ト同一ノ價值及効力ヲ有シ本條約ハ右證明書ノ日附ヨリ全部ヲ通シテ完全ノ効力ヲ生スヘシ

「ウヰット」氏 此等ノ諸問題ヲ議スルニ先チ一般ノ事柄ニ付貴我ノ意見ヲ交換セムコトヲ希望ス本員ノ所見ニ依レハ今將ニ締結セラレムトスル條約ハ假令豫備條約ニハ非サルモ一般的ノモノタルヘキカ故ニ細微ニ互ル事項ハ該條約ノ範圍内ニ於テ此處ニ非スシテ例ヘハ哈爾賓ノ如キ土地ニ於テ協約セラレヘキモノナラムト思ハル而シテ日本ハ滿洲ニ近キカ故ニ右談判地ヲ哈爾賓ト定ムルモ日本ニ取リテハ不便ナカルヘシ貴見如何

二百九

小村男 本講和條約ヲ可成速ニ實施スルノ必要アルヲ以テ此處ニ於テ右本條約ヲ締結スルヲ可トス

「ウヰッテ」氏 若シ一切ノ事項ヲ此處ニ於テ協定スルヲ得ハ貴見ノ如クニシテ可ナリト雖此處ニテハ協定シ得サル事柄モアルヘシ

小村男 此處ニテ細微ノ諸點ヲ協定スルコト能ハサル事柄ニ關シテハ其ノ原則ヲ此處ニテ協定セハ講和條約ヲ實施スルヲ得ヘシ是レ貴我兩國ノ利益ナリ依テ此處ニ於テ協定シ得ヘキ必要ノ諸事項ハ一切之ヲ協定シ獨リ細目ニ互リ若クハ地方的ノ性質ヲ有スルニ由リ此處ニテ直ニ協定スル能ハサル事項ノミヲ追テ兩國特別委員ヲシテ本條約ニ於テ決定セル主意ニ遵由シテ協定セシムルコトハ爲スヘシ

「ウヰッテ」氏 貴見ニ贊成ス

小村男 今提出シタル諸案ハ皆極メテ大體ノミニ關スルモノニシテ少シモ専門的特別ノ智識ヲ要セサルモノナリ又今朝討議シタル滿洲撤兵ノ件モ亦此處ニテハ極メテ大體ノ事柄ノミヲ規約シテ可ナリ

「ウヰッテ」氏 (俘虜交換ニ關スル案文ヲ讀ミタル上) 佛文ヨリ成レル本件ノ文言ハ恐クハ修正ヲ要スヘキモ本案ノ主義ニ關シテハ何等ノ異議ヲ有セス但シ該案ノ末文中「計算書ノ交換後……日以内ニ云々」トアルニ關シテハ一考ヲ要ス双方共善意ヲ以テ右計算書ヲ提出スヘキカ故ニ右計算ノ金額ニ對シ異議等ハ萬々之レ無カラムモ若シ右計算並其ノ組立等ヲ検査シタル結果異議アル場合ニ於テハ如何ニ爲スヘキヤ豫メ定メ

タル期限内ニ支拂フコト能ハサル場合モアルヘシ

小村男 此ノ點ニ付貴全權委員ニ於テ若シ懸念アラハ今此處ニ右費用ノ總額ヲ見積リ右見積總額ニテ協定スルコトハ爲シテモ宜シ

「ウヰッテ」氏 本員等ハ右總額ヲ見積ル爲メニ必要ナル材料ヲ此處ニ有セス

小村男 然ラハ貴方ニ於テ別ニ何等考案アリヤ若シアラハ本員等ハ之ニ考量ヲ加フヘシ又本員等ニ於テハ右見積總額ヲ確ムル爲メニ本國政府ニ打電シテ目的ヲ達スルヲ得ヘシ

「ウヰッテ」氏 此處ニ考量ヲ加フヘキハ見積總額ニ非スシテ該見積ニ用フル計算基礎ノ材料如何ニ在リ材料ノ當否ハ深ク検査ヲ要スルモノナレトモ右材料ニシテ正當ナル以上ハ見積額ノ多寡ノ如キハ顧ミルニ足ラサルモノナリ尤モ右材料ト雖本員ハ「シボ」フ局長ト共ニ之ヲ定メ得サルニハ非ス

之ヲ要スルニ貴案ニハ大體贊成ナレトモ唯支拂期限ヲ此處ニテ豫定セムトスル點ニ關シ全然同意ニ至ラサルノミ尤モ計算書査閱等ノ手續濟ミタル上ハ露國政府ハ直ニ諸費用ヲ支拂フ手續ヲ爲スヘシ

小村男 貴意ヲ領ス就テハ「計算書ノ交換後……日内ニ云々」トアルヲ改メテ「可成速ニ」ト爲シテモ差支ナシ

「ウヰッテ」氏 然ラハ本員ハ全然貴案ニ贊成ス

(次ニ同氏ハ通商關係ニ關スル我提案ヲ熟讀シタル後)

「ウヰッテ」氏 該案ニ關シテモ大體ニ於テ何等ノ異議ナシ然レトモ戰爭ト條約トノ關係ニ付本員ハ疑ヲ存ス戰爭ハ果シテ諸條約ヲ廢止セシムルモノナル乎
 本員ノ私見ニ依レハ戰爭ハ單ニ條約ノ效力ヲ停止スルノミニシテ平和克復ト共ニ其ノ效力ヲ回復スルモノナレトモ本員ハ國際法ノ専門家ニ非サルカ故ニ「ド、マルテンス」氏ノ意見ヲ徵セムコトヲ希望ス但シ本件ハ本員ノ強テ主張スルモノニ非ス
 「ド、マルテンス」氏 外交上ノ慣例ニ依レハ講和條約中特ニ一條ヲ設ケ戰爭前存在シタリシ諸條約ハ其ノ舊來ノ効力ヲ回復シテ再々實施セラレヘキ旨ヲ規定シ以テ戰爭前ノ狀態ヲ回復セシムルコト、爲リ居レリ

小村男 今「ド、マルテンス」氏ノ陳述セラレタル如ク講和條約中特ニ戰爭前ノ條約ヲ再々實施スル旨規定セル一條ヲ設クルコトノ慣例ハ即チ國際法ノ原則トシテ講和條約締結ノ事實ハ當然因テ以テ直ニ戰爭前ノ諸條約ヲ復活セシムルモノト認メ居ラサル證據ナリ若シ當然復活スルモノナラハ斯ル規定ヲ特設スル必要ナカルヘシ此ノ慣例タルヤ却テ戰爭ハ諸條約ヲ廢止セシムルモノニシテ單ニ其ノ効力ヲ停止セシムルモノニ非ストスル原則ヲ證明スルモノナリ扱本問題解決ノ方法ニ二様アリ一ハ講和條約中一條ヲ特設シテ戰爭前實施セラレタリシ條約ヲ復活セシムルニ在リテ他ノ一ハ新ニ條約ヲ締結スルニ存ス本員等ノ案ハ即チ此ノ第二ノ方法ヲ採用シタルモノナリ蓋シ日露兩國通商上ノ利益ヲ顧ミレハ我提案ノ如ク此ノ際新條約ヲ締結スルヲ以テ得策ト爲セハナリ而シテ右新條約締結ノ場合ニハ最惠國條款ヲ包含スル諸外國トノ條

約ヲ基礎トスルヲ要スルナルヘシ又我提案中……………新通商航海條約ノ締結……………前ニ戰爭前行ハレタリシ條約ヲ基礎トセルノ文字ヲ附加スルモ可ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ強テ貴案ニ對シ異議ヲ有セス貴案ニハ最惠國待遇ニ關スル保障アルカ故ニ我方ニ取リテ實際上差支ナカランモ便利上ヨリ之ヲ見レハ寧ロ講和條約中ノ一條ニ於テ單ニ戰爭前存在セシ諸條約ヲ復活セシメ必要アラハ之ニ修正ヲ加ヘ以テ新條約ノ締結迄其ノ効力ヲ繼續セシムヘシト定ムルヲ可トスヘシ

小村男 貴全權委員ニ於テ重大ナル異議ナキ限リハ我案ヲ維持セムコトヲ希望ス最惠國待遇主義ヲ新ニ締結スヘキ條約ノ基礎ト爲スヘキ旨ヲ附加スルモ可ナリ
 「ウヰッテ」氏 然レトモ貴方ニ於テ強テ該案ヲ維持セントスル趣意ハ何處ニ在リヤ願クハ員率ニ説示セラレヨ本件ハ究竟重要ノモノニ非サルカ故ニ本員ノ固執セムト欲スル點ニ非ルナリ

小村男 既ニ略陳シタル如ク兩國通商上双方ノ利益ニ鑑ミ舊條約中或ハ復活スルヲ得サルヘキ細目ノ點アルカ故ニ此ノ際新條約ヲ締結スルヲ可トスルナリ右締結迄ハ本員ノ發議セル方法ニ依リ通商關係ノ取扱ヲ規定スヘク又右締結スヘキ新條約ハ主義トシテ實際舊條約ト大差ナカルヘク日本政府ノ意思モ亦此ニ在リ
 「ウヰッテ」氏 然ラハ貴案ニ賛成ス就テハ今般締結スヘキ新條約ハ戰爭前ノ舊條約ヲ基礎トスヘキ旨條文中ニ明記シ置カレタシ

小村男 諾



(此ノ間ボコチロフ氏等類ニ本條草案未文浦鹽斯德領事任命ノ問題ニ付ウヰッテ氏ノ注意ヲ促ス)

「ウヰッテ氏 扱爰ニ質問セント欲スルハ該案最後ノ一句ナリ該句ニハ浦鹽斯德ニ於ケル日本領事ノ件ヲ規定シタリ本員ハ此事ニツキ異議アルヘシトモ思ハサレトモ何ノ理由アリテ此ノ如ク單ニ浦鹽斯德駐在領事ノコトノミヲ書キ表ハシタルヤ之ヲ讀ム者ハ必ス然ラハ他ノ諸地點ニ於ケル領事ノコトハ如何トノ問題ヲ發スヘシ

小村男 他ノ諸地點ニ於ケル領事ノコトハ該案ノ首部ニ於ケル最惠國待遇ニ關スル規定ニテ明白ナリ而シテ浦鹽斯德港ニ於ケル領事ノ件ノミヲ茲ニ掲ケタルハ該件ハ戰爭前久シク日露間ノ交渉問題タリシカ故ニ此ノ際之ヲ解決セムト欲シタルニ因ルモノナリ

「ウヰッテ氏 此ノ點ハ強テ固執セラル、ノ必要ナカラム本員ハ先年親シク同地ヲ巡視シテ日本ノ駐在官吏ニ面會シタリ本員ハ其ノ正式領事タルヤ將タ貿易事務官タルヤヲモ知ラサリキ(此ノ時「プランソン」氏「ウヰッテ」氏ニ私語シテ浦鹽斯德ニハ未タ外國領事ノ駐在ヲ許サ、ルコトヲ注意ス)

之ヲ要スルニ貴案ハ露國ヲシテ他諸列國ノ領事ヲモ浦鹽斯德ニ駐在セシムルヲ要スルニ至ラシムルモノナリ貴國ハ旅順及大連ニ外國領事ヲ駐在セシムルコトヲ諾セラハキヤ若シ貴方ニ於テ浦鹽斯德駐在領事ノ件ヲ固執セラル、ニ於テハ我方ヨリ貴國ニ於ケル同様ノ地點ニ露國領事ヲ駐在セシムルノ件ヲ主張スルヲ要スルニ立到ル

ヘシ孰レニシテモ此ノ事ハ講和條約中ニ規定スルヲ要スル程重要ナルモノニ非ルナリ

小村男 然リ此ノ事タルヤ畢竟通商上ノ一事項タルニ止マルモノナルカ故ニ通商條約談判ノ際之ヲ商議スルコト、セム

「ウヰッテ氏 此ノ如クスルコトハ今之ヲ定ムルヨリモ遙ニ勝レリ
小村男 就テハ該一句ヲ削除セム

「ウヰッテ氏 (日露兩國鐵道接續事務協定ノ件ニ關スル我提案ヲ閱讀シタル後)本員ハ之ニ對シ何等ノ異議ナシト云ヒ次ニ批准交換ニ關スル我提案ヲ閱讀シタル後)本員ハ外交官ニ非サルカ故ニ此等專門ノ事項ニ關シ充分ノ智識ヲ有セサレトモ原來外交ハ頗ル保守的ナル一部門ナルカ故ニ該提案ノ如キ前例ニ反セル異常ナル方法ハ本員等ヨリ之ヲ露國外務省ニ電申ストモ受理セラレ難シト思ハル又實際上ヨリ之ヲ觀察スルモ本條約ニ關シ皇帝其ノ他ノ人々ニ於テ萬一疑問アルニ際シ如何ニシテ之ヲ説明スルヲ得ヘキヤ到底本案ノ如キ電報ノ方法ニテハ其ノ目的ヲ達スル能ハサルヘシ
小村男 本案ハ畢竟可成速ニ條約ヲ實施セントノ精神ニ依リ作成セラレタルモノナレハ該精神ヲ貫キ得ルモノナラムニハ如何ナル方法ニテモ可ナリ貴方ニ於テハ何等簡便迅速ナル方法ヲ案出セラレサルヤ

「ド、マルテンス」氏 千八百六十六年普墺戰爭及千八百七十一年普佛戰爭ノ先例ヲ見ルニ兩國全權委員ハ先ツ終局的平和條約ノ基礎タルヘキ豫備條約ヲ締結シタル後本條約



ノ談判ヲ開始シタリ

二百十六

小村男 此處ニハ本條約ヲ締結スルヲ可トス他ノ諸講和條約ト異ナリテ此度協議ヲ遂ケタル條約ハ其ノ箇條實ニ少シ

「ウヰッテ」氏 實際上ノ便利ヨリ考ヘ下ノ如クセハ可ナラム則チ双方全權委員條約ヲ締結調印シタル後各之ヲ携ヘテ本國ニ歸リ兩國皇帝陛下ノ批准ヲ受クルコト、シ其ノ上ハ電信ノ方法ヲ以テ諸般ノ手續ヲ履行スルコト、セハ可ナラスヤ

小村男 然ラハ外交上通常ノ手續ニ依ルコト、シ唯批准ノ事實ヲ通知スルノ手續ハ電信ノ方法ヲ以テ例ヘハ華盛頓府ニ於テ之ヲ行フコト、セム

「ウヰッテ」氏 然リ而シテ右批准通知ノアリタル時ヨリ條約ハ直ニ實施セララル、コト、セム

小村男 然リ此ノ意義ヲ以テ本條約起草セシムルコト、セム

「ウヰッテ」氏 右批准ノ事實ヲ通知スルノ方法ニ關シテハ露國ハ在東京佛國公使ニ、日本ハ在聖彼得堡府米國大使ニ之ヲ通知シ右兩官ヨリ各其ノ駐節國政府ニ通知スルコト、爲シテハ如何

小村男 ツレニテモ可ナリ

「ウヰッテ」氏 本員ハ此ノ方法ヲ以テ他ノ方法ヨリモ勝リタルモノト信ス現今ヤ條約文確定ノ時期ニ達シタリ

小村男 此ノ事務ハ双方ノ會議附書記官等ニ一任シテ然ルヘシ書記官等ニ於テ成案ヲ

具シタル後兩國全權委員之ヲ檢閲ノ上確定スルコト、セハ如何

「ウヰッテ」氏 會議附書記官等ハ重ニ會議錄調製等ノ爲メ任命セラレタルモノニシテ條約文確定ノ如キ重大ナル任務ノ如キハ經驗アル專家ノ手ニ付スヘキモノト信ス就テハ我方ニ於テハ「ド、マルテンス」氏ニ此ノ任務ヲ授クルコト、セム

小村男 我方ニ於テハ「デニソン」氏ニ此ノ任務ヲ授ケム而シテ他ノ者ヲ之ニ附スルコトトセム

「ウヰッテ」氏 我方ニテハ「ド、マルテンス」氏ニ「ボコチロフ」及「ド、ブランソン」兩氏ヲ附セム

小村男 「デニソン」氏ニハ安達落合兩氏ヲ附セム

「ローゼン」男 滿洲撤兵案ノコトニ付一言セム本員等ハ此處ニ單ニ大要ノミヲ協定シ得ルニ過キス而シテ同伴ハ戰鬪行爲熄止ニ關スル件ト同文書ニ於テ規定シテハ如何

小村男 休戰ノコト、撤兵ノコト、ハ全然別ニ之ヲ規定スヘキモノナリ依テ本員ハ貴方ニ於テ條約ニ附屬スヘキ撤兵約款ノ案ヲ提出セラレムコトヲ望ム

「ウヰッテ」氏 諾、此處ニテ爲サムカ

小村男 否、旅館ニ歸リテ之ヲ爲スヲ可トス

「ウヰッテ」氏 戰鬪ノ休止ハ封鎖ヲモ熄止セシムルカ

小村男 然ラス休戰ハ商船拿捕ニ適用セラレサルモノナリ

「ド、マルテンス」氏 日露兩國間ニ於テハ右ノ如クニテモ差支ナカルヘシト雖中立國ト交戰國トノ關係ニ就テハ果シテ右ノ如クニテ可ナリヤ

二百十七

小村男 然リ休戦ハ畢竟一時的ノ戦闘休止ニ過キサレハナリ

「ウヰッテ」氏 今後一週間内ニ條約ニ署名スルヲ得ヘキヤ貴見如何

小村男 是レ重ニ起草委員諸氏ノ勉勵如何ニ關スルコトナリ速ナレハ速ナル丈利益アルモノナリ

「ウヰッテ」氏 然リ

(コレヨリ左記ノ新聞通知案ヲ定メタル上午後五時ヲ以テ散會セリ)

(新聞通知文)

(原文英文ハ附屬書第十六號)

八月二十九日午前ノ會議ニ於テ一切ノ問題ハ主義上協定セラレタルヲ以テ細目ニ互ル諸點ノ討議ニ移ルニ決シ同日午後ノ會議ニ於テ細目ヲ討議シタル後講和條約起草ノ事務ヲ日本國外務省法律顧問「デニソン」氏及露國外務省附「コンセイエー」ブリ「ヴェー」ド、マルテンス氏ニ委任シ可成速ニ其ノ事務ヲ完成セシムルコト、爲シタリ

and navigation, the system of reciprocal treatment on the footing of the most favoured nation in which are included import and export duties, customs formalities and transit and tonnage dues and the admission and treatment of the agents, subjects and vessels of one country in the territories of the other.

The Imperial Russian Government agree to the appointment of a regular Japanese consul to reside at Vladivostock.

第十一號

(Traduction)

Tous les traités de commerce entre le Japon et la Russie ayant été annulés par la guerre, les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie s'engagent à adopter comme base de leurs relations commerciales, pendant la conclusion d'un traité de commerce et de navigation, le système du traitement réciproque sur le pied de la nation la plus favorisée, y compris les tarifs d'importation et d'exportation, les formalités de douane, les droits de transit et de tonnage et l'admission et le traitement des agents, des sujets et des vaisseaux d'un pays dans le territoire de l'autre. Le Gouvernement Impérial de Russie consent à la nomination d'un consul régulier Japonais qui réside à Vladivostock.

第十二號

The Imperial Governments of Japan and Russia, with a view to promote and facilitate intercourse and traffic, will, as soon as possible, conclude a separate convention for the regulation of their connecting railway services in Manchuria.

第十三號

(Traduction)

Les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie, en vue de favoriser et de faciliter des rapports et le trafic, concluront, aussitôt que possible, une convention séparée pour le règlement de leurs services de raccordement de chemins de fer en Manchourie.

第十四號

Telegraphic exemplifications of this Treaty shall be submitted to His Majesty the Emperor of Japan and His Majesty the Emperor of Russia for approval and certificates that approval has been accorded, shall be exchanged between the Representatives of Japan and Russia at as soon as possible, and not later than days from the date hereof. Such approval shall take the place of ratification and shall, in all respects, have the same value and effect as ratification and from the date of the certificates above mentioned, the said Treaty shall enter into full force and vigour and be binding in all its parts.

第十五號

(Traduction)

Les ampliations télégraphiques de ce Traité seront soumis à Sa Majesté l'Empereur du Japon et à Sa Majesté l'Empereur de Russie pour leur approbation, et les certificats constatant que cette approbation a été accordée seront échangés entre les Représentants du Japon et de Russie à aussitôt que possible, et pas plus tard que dans jours de la date du présent. Cette approbation tiendra lieu de la ratification et aura, sous tous les rapports, la même valeur et le même effet que la ratification, et à partir de la date des certificats susmentionnés, le dit Traité entrera en pleine vigueur et sera obligatoire dans toutes ses parties.

第十六號

In the morning sitting of August 29th, complete agreement in principle on all points has been arrived at by the Conference and it has been decided to proceed to elaborate the details.

In the afternoon sitting of August 29th, the Conference has discussed the details of the Treaty of Peace. It has been decided to entrust the drafting of the Clauses of the Treaty to M. Denison, Legal Adviser to Foreign Office of Japan and Privy Councillor de Martens of the Foreign Office of Russia so as to finish the work as soon as possible.

Les forces japonaises sont à se retirer dans les limites du territoire de Liao-tong cédé à bail et de la frontière de Corée.

Les forces russes sont à se retirer dans les limites du territoire russe.

L'Article Additionnel ci-dessus sera considéré comme ratifié par la ratification du Traité de Paix.

第六號

The Plenipotentiaries of Japan propose with a view to make provision for the due protection of the Japanese and Russian railways in Manchuria, and at the same time in order to avoid giving grounds for misunderstanding, that an arrangement to the following effect be concluded by means of a protocol to be annexed to the Treaty of Peace:

Until such time as China is able and ready to assume and fulfill the duty, the Imperial Governments of Japan and Russia reserve to themselves the right to maintain railway guards for the due protection of their respective Manchurian railway lines, properties and traffic. The two Governments, however, reciprocally engage that the guards to be so maintained, shall not in any case exceed five persons to each kilometre of railway.

第七號

(Traduction)

Les Plénipotentiaires du Japon, ayant en vue de faire une disposition pour la protection voulue des chemins de fer japonais et russe en Manchourie, et afin d'éviter en même temps, toute cause de malentendu, proposent qu'un arrangement à l'effet suivant soit conclu au moyen d'un protocole qui sera annexé au Traité de Paix:

Jusqu'à ce que la Chine soit capable et prête à assumer et à exécuter son devoir, les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie se réservent le droit de maintenir les gardes du chemin de fer pour la protection voulue de leurs chemins de fer manchouriens, propriétés et trafics respectifs. Les deux Gouvernements, toutefois, s'engagent réciproquement que les gardes qui seraient ainsi à maintenir, n'excéderont en aucun cas cinq hommes par chaque kilomètre du chemin de fer.

第八號

As soon as possible after the exchange of the ratifications of this Treaty, all prisoners of war shall be reciprocally restored. The Imperial Governments of Japan

and Russia shall each appoint a special commissioner to take charge of prisoners. All prisoners in the hands of one Government shall be delivered to and received by the special commissioner of the other Government, in such convenient numbers and at such delivering port or ports of the delivering state as such delivering state shall notify in advance to the special commissioner of the receiving state. The Governments of Japan and Russia shall present to each other within days after the delivery of prisoners has been completed, a statement of the expenditures respectively incurred by them for the care and maintenance of prisoners from the date of capture or surrender up to the time of death or delivery. Russia engages to repay to Japan within days after the exchange of the statements as above provided, the difference between the actual amount so expended by Japan and the actual amount similarly disbursed by Russia.

第九號

(Traduction)

Aussitôt que possible après l'échange des ratifications de ce Traité, tous les prisonniers de guerre seront réciproquement restitués. Les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie nommeront, chacun de son côté, un commissaire spécial qui se chargera des prisonniers. Tous les prisonniers se trouvant dans les mains d'un Gouvernement seront remis au commissaire de l'autre Gouvernement ou à son représentant dûment autorisé qui les recevra en tels nombres convenables et à un tel ou tels ports convenables de l'Etat qui les remettra, que cet Etat notifiera d'avance au commissaire spécial de l'Etat qui les recevra. Les Gouvernements du Japon et de Russie présenteront l'un à l'autre, dans jours après que la remise des prisonniers aura été achevée, un compte rendu des dépenses faites respectivement par eux pour le soin et l'entretien des prisonniers depuis la date de la capture ou de la reddition jusqu'à celle de la mort ou de la remise. La Russie s'engage à rembourser au Japon, dans jours après l'échange des comptes rendus comme il est stipulé ci-dessus, la différence entre le montant réel ainsi dépensé par le Japon et le montant réel également déboursé par la Russie.

第十號

All Treaties of Commerce between Japan and Russia having been annulled by the war, the Imperial Governments of Japan and Russia engage to adopt as the basis of their commercial relations, pending the conclusion of a treaty of commerce

第三號

(Translation)

Le Gouvernement Japonais croit sincèrement qu'il a des justes titres de réclamer le remboursement des dépenses de la guerre, mais constatant le refus absolu du Gouvernement Russe de traiter cette réclamation et considérant les conséquences qui résulteraient inévitablement s'il persistait dans sa demande, il a, pour la cause de l'humanité et de la civilisation et en reconnaissance des vrais intérêts du Japon et de la Russie, autorisé les Plénipotentiaires du Japon à offrir de retirer la réclamation de ce remboursement, pourvu que la Russie reconnaisse comme un fait accompli l'occupation de l'île de Sakhaline par le Japon.

第四號

The undersigned, Plenipotentiaries of His Majesty the Emperor of Japan and His Majesty the Emperor of Russia, in execution of the provisions of Article II of the Treaty of Peace signed this day, have agreed upon the following Additional Article:

Japan and Russia mutually engage completely and simultaneously to withdraw their military forces from Manchuria and its neighbourhood in three periods, as follows:

1st Period.—The withdrawals shall begin within ten days after the ratification of the Treaty of Peace and be completed within four months.—

The Japanese forces in Manchuria, are to be withdrawn within a line connecting Hsin-min-tin, Moukden, Fu-shun, Hseng-King, Hwai-jen and Chho-san, and the Japanese forces on the Russo-Corean frontier, are to be withdrawn to the right bank of the River Tumen. The Russian forces in Manchuria, are to be withdrawn within a line connecting Petua, Tao-lai-chao, Shan-ho-tun, Omoso and Hunchun, and the Russian forces on the Russo-Corean frontier are to be withdrawn to the left bank of the River Tumen.

2nd Period.—The withdrawals shall be completed within four months from the expiration of the 1st period.—

The Japanese forces are to be withdrawn within a line connecting Niu-cha-tun, Ta-shih-kiao, Hsiu-yen, Feng-hwang-cheng and the mouth of the Anping River (Anping-ho).

The Russian forces are to be withdrawn within a line connecting Hu-lar-chi, Tsi-tsi-har, Merguen and Aihun.

3rd Period.—The withdrawals shall be completed within two months from the expiration of the 2nd period.

The Japanese forces are to be withdrawn within the leased territory of Liaotung and the frontiers of Corea.

The Russian forces are to be withdrawn within Russian territory.

The foregoing Additional Article shall be considered as ratified with the ratification of the Treaty of Peace.

第五號

(Translation)

Les soussignés, Plénipotentiaires de Sa Majesté l'Empereur du Japon et Plénipotentiaires de Sa Majesté l'Empereur de Russie, en exécution des dispositions de l'Article II du Traité de Paix, signé ce jour-ci, sont convenus sur les Articles Additionnels suivants:

Le Japon et la Russie s'engagent mutuellement à retirer complètement et simultanément leurs forces militaires de la Manchourie et de son voisinage en trois périodes comme suit:

1^{re} période.—Les évacuations commenceront dans dix jours après l'échange des ratifications du Traité de Paix et seront achevées dans quatre mois.—

Les forces japonaises en Manchourie sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Hsin-min-tin, Moukden, Fushun, Hsengking, Hwai-jen et Chhosan, et les forces japonaises à la frontière russo-coréenne sont à se retirer à la rive droite de la rivière de Toumen.

Les forces russes en Manchourie sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Petuna, Tao-lai-chao, Shan-ho-tun, Omoso et Hunchun, et les forces russes à la frontière russo-coréenne sont à se retirer à la rive gauche de la rivière de Toumen.

2^{me} période.—Les évacuations seront achevées dans quatre mois suivant l'expiration de la 1^{re} période.—

Les forces japonaises sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Niu-cha-tun, Ta-shih-kiao, Hsiuyen, Feng-hwang-cheng et la bouche de la rivière d'Anping (Anping-ho).

Les forces russes sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Hu-lar-chi, Tsi-tsi-har, Merguen et Aihun.

3^{me} période.—Les évacuations seront achevées dans deux mois suivant l'expiration de la 2^{me} période.

兩國全權委員非正式會見要録

第一號

La notice présentée par les Plénipotentiaires du Japon à la séance du 23 Août et formulant en quatre points la proposition de restaurer à la Russie la partie Nord de Sakhaline moyennant une somme de 1,200,000,000 iens, a fait l'objet de la plus sérieuse considération de la part du Gouvernement Impérial de Russie.

En réponse à cette notice, les Plénipotentiaires de Russie ont l'honneur d'informer les Plénipotentiaires du Japon que le versement de toute somme, exceptée celle pour l'entretien des prisonniers de guerre, étant contraire à l'une des principales bases exposées par la Russie lors de l'ouverture des négociations, le Gouvernement Impérial de Russie se voit dans l'impossibilité de consentir à la proposition précitée.

Les Plénipotentiaires de Russie ont également présenté à la Conférence des raisons très sérieuses pour démontrer l'importance pour la Russie de la possession de toute l'île de Sakhaline.

Toutefois Sa Majesté l'Empereur, afin de donner un nouveau témoignage de Son sincère désir de contribuer au rétablissement de la paix en Extrême Orient, consent à céder au Japon la partie sud de l'île de Sakhaline, à condition que la partie nord reste en la possession de la Russie, sans aucune compensation pécunière. Il est bien entendu que le Japon devra dans ce cas garantir la liberté de navigation dans le détroit de Lapérouse et s'engager à ne prendre aucune mesure militaire dans la partie de Sakhaline occupée par lui.

En présentant ce projet à la considération des Plénipotentiaires du Japon, les Plénipotentiaires de Russie ont l'honneur de déclarer sur l'ordre de leur Auguste Maître, que ce projet forme la dernière concession que la Russie puisse faire dans le but unique d'arriver à une entente.

第二號

The Japanese Government sincerely believe that they are justly entitled to claim reimbursement of the expenses of the war, but taking note of the absolute refusal of the Russian Government to entertain such a claim, and considering the consequences that would inevitably ensue if they should persist in their demand, have, for the sake of humanity and civilization and in recognition of the true interest of Japan and Russia, authorized the Plenipotentiaries of Japan to offer to withdraw the claim to such reimbursement, provided Russia recognizes as a fait accompli the occupation of the Island of Saghalien by Japan.

「ホテル、ウエントウオルス」内ニ於テ開キタル日露兩國全權委員非正式會見
要録第一

八月廿九日迄ニ「ボーツマヌ軍港内」ノ公式會見ニ於テ日露兩國全權カ大體協定シタル講和條約ノ各條件ヲ正式ノ條文トシテ調整スル爲メ設ケラレタル兩國起草委員カ條文數個ノ字句ニ關シ到底一致ヲ得ルコト能ハサリシ事項及九月二十九日ノ會見ニ於テ要領ノミヲ協定シテ條文案未タ決定スルニ至ラサリシ薩哈噠島南部割讓ニ關スル件及兩國全權ニ於テ各本國政府ノ訓令請求中ニ係リシ撤兵ノ條件ニ關スル規定等ヲ處理スル爲メ日露兩國全權ハ九月一日及二日ノ兩日ウエントウオルス「旅館」ノ室内ニ於テ非正式會見ヲ爲シタリ

是ヨリ先キ八月廿九日ノ會見ニ於テ露國全權ハ講和各條件ノ要領協定セラレタルヲ以テ直ニ休戰議定書ヲ締結センコトヲ提議シ日本全權ハ之ニ對シ本國政府ニ請訓ノ上何分ノ回答ヲ爲スヘキ旨答ヘ置キタル處其ノ後日本政府ノ訓令到達シタルヲ以テ日本全權ハ其ノ訓令ニ基キ休戰議定書案ヲ作り八月三十一日之ヲ露國全權ニ回送シタリ

Terms of armistice to be embodied in a convention or protocol :—

1. Pending the definitive conclusion of peace, an armistice to be arranged between the two belligerent Powers.
 2. A certain distance to be fixed between the two armies in Manchuria and the Tumen district. The said distance to be agreed upon by the Commanders of the two armies.
 3. The naval forces of one belligerent not to bombard the territory belonging to or occupied by the other.
 4. Maritime capture in accordance with International Law not to be suspended.
 5. Reinforcements not to be dispatched during the term of the armistice and those forces already on the way not to be dispatched to the north of Moukden on the part of Japan or to the south of Harbin on the part of Russia.
- The present Protocol shall take effect immediately upon the signature of the Treaty of Peace.

(譯文)

條約又ハ議定書ニ規定スヘキ休戰條件

- 一、講和ノ終局的ニ成立スル迄兩交戰國間ニ休戰ヲ協定スルコト
 - 二、滿洲並ニ豆滿江方面ニ於ケル兩國軍隊ノ間ニ一定ノ距離ヲ定ムルコト右距離ハ兩國軍隊司令官ニ於テ協定スルコト
 - 三、兩交戰國ノ一方ノ海軍ハ他ノ一方ノ領土若クハ占領地ヲ砲撃スヘカラサルコト
 - 四、國際法ニ依レル海上捕獲ハ停止セラレサルコト
 - 五、休戰期限中増援兵ヲ派遣スヘカラス又其ノ既ニ派遣ノ途ニ在ル者ハ日本國ニ在リテハ之ヲ奉天以北ニ露國ニ在リテハ之ヲ哈爾濱以南ニ送ルヘカラサルコト
- 右取極ハ講和條約調印後直ニ實施セラルヘシ

露國全權ハ該條約案ニ對シ九月二日朝左記ノ對案ヲ日本全權ニ提出シ來レリ

Les soussignés, Plénipotentiaires du Japon et de Russie, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements, sont convenus des termes suivants jusqu'à la conclusion définitive du Traité de Paix :

1. Les Commandants des armées et des flottes des deux Puissances établiront de commun accord l'armistice sur les bases suivantes.

2. Une certaine distance (zone de démarcation) sera fixée entre les fronts des armées des deux Puissances tant en Manchourie que dans la région de Toumen.

3. Les forces navales de l'un des belligérants ne bombarderont pas le territoire appartenant à l'autre ou occupé par lui.

4. Les captures maritimes ne sont pas suspendues par l'armistice.

5. Pendant la durée de l'armistice, de nouveaux renforts ne seront pas envoyés au théâtre de la guerre; ceux qui se trouvent déjà en route ne seront pas envoyés de la part du Japon—au nord de Moukden, de la part de la Russie—au sud de Kharbine.

(譯文)

下名ノ日露兩國全權委員ハ各本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ講和條約締結ニ至ル迄ヲ有効期限トシテ左ノ條款ヲ協定セリ

- 一、兩國ノ陸海軍司令官ハ雙方ノ合意ヲ以テ左記原則ヲ基礎トシテ休戰ヲ協定スヘシ
- 二、滿洲並豆滿江方面ニ於ケル兩國軍隊間ニ一定ノ距離(區劃地域)ヲ定ムヘキコト
- 三、兩交戰國ノ一方ノ海軍ハ他ノ一方ノ領土若クハ占領地ヲ砲撃スヘカラサルコト
- 四、海上捕獲ハ休戰ノ爲メニ停止セラレサルコト
- 五、休戰期限中増援兵ヲ戰地ニ派遣スヘカラス其既ニ派遣ノ途ニ在ルモノハ日本國ニ在リテハ之ヲ奉天以北ニ露西亞國ニ在リテハ之ヲ哈爾濱以南ニ送ルヘカラサルコト

右露國對案中日本提案ト異ナル點ハ(第一)日本提案ニ於テハ休戰條約ハ兩國政府間ニ於テ直接ニ之ヲ爲スコト、定メタリシカ露國對案ニ於テハ兩國軍司令官ニ於テ之ヲ協定スヘキコト、爲シタルコト(第二)日本提案第三條ニ國際法ニ依レル海上拿捕云々トアリタルヲ露國對案ニ於テハ單ニ海上拿捕ト爲シタルコト及(第三)日本提案ニハ休戰議定書ハ講和條約調印後直ニ効力ヲ生スヘシトアリタルヲ露國對案ニ於テハ全ク之ヲ缺如シ休戰議定書ハ其ノ調印後直ニ効力ヲ生スルノ結果ヲ生セシメムトナシタルニ在リ而シテ右第一點ニ關スル理由ハ露國政府ニ於テ「リ子ウイチ」將軍ヲ壓制セントスルカ如キ

形迹ヲ避ケ或程度マテ其ノ行動ノ自由ヲ認メ以テ彼ニ面目ヲ施サシメントスルニ在リ
 第二點ニ關スル理由ハ「ド、マルテンス」氏ノ説ニ依レルモノ、由ニテ海上ノ捕獲ト云ヘハ
 既ニ充分ナル意義ヲ有スル專門語ニシテ決シテ「國際法ニ依レル」ト云フカ如キ文字ヲ附
 加スルノ必要ナシ而シテ之ヲ附加スルハ偶以テ疑ヲ生セシメ混雜ヲ惹起サシムルニ過
 キスト云フニ在リ（註、案スルニ「ド、マルテンス」氏カ此ノ説ヲ唱ヘタルハ露國ノ海上捕獲規程
 ハ頗ル杜撰ナルモノニ付國際法ニ依レル」ト云フカ如キ文字ヲ附加スルニ
 於テハ何等差支ヲ生スルニ至ルヤモ計リ）終リニ第三點ニ關スル理由ハ兩國間ノ戰闘ヲ休
 止セシムルコトハ一日速ナレハ一日ノ利アルコト故講和條約ノ調印ヲ俟タス直ニ休戰
 議定書ノ効力ヲ生セシメント云フニ在リタリ右ニ對シ小村全權委員ハ（第一）休戰事項ノ
 大綱ハ兩政府間ニ於テ直接ニ協定スヘキコトニシテ軍司令官ニ一任スヘキコトニ非ス
 且各軍司令官カ其ノ政府ノ定メタル所ニ依リ休戰ノ細目ヲ定ムルニ於テ何等不名譽ナ
 ルコトアルヘキ理ナシ（第二）露國對案ノ如ク「國際法ニ依レル」ト云フ文字ヲ削除スルモ實
 際何等ノ差支ヲ生セサルカ故ニ右對案ヲ承諾ス（第三）休戰ヲ速ニ實行スルコトハ善事ニ
 ハ相違ナキモ講和條約調印ノ後之ヲ實行スルコト最モ適當ナリ右調印ヲ俟タスシテ直
 チニ之ヲ實行スルハ早計ナル旨ヲ回答シ兩國起草委員ノ間ニ數次交渉ノ末遂ニ右小村
 全權委員ノ意見ノ如ク休戰議定書ノ文言ヲ確定シタリ
 又右交渉中案文第一項ニ「……講和條約ノ終局的ニ締結セラル、迄」トアルハ不穩當ニ
 シテ「……講和條約ノ實施迄」ト改ムヘキコトヲ發見シ右ノ如ク確定シタリ依テ同一日
 午前十時小村全權ノ室ニ於テ該條約ニ調印スルコトニ決セリ

同日午前十一時三十分露國全權ウヰッテ氏及ローゼン男ハ小村男ノ室ニ來ル是ニ於テ
 双方ノ書記官（日本ヨリ「安達氏、落合氏、露國ヨリ「ド、アラントン」氏）各自調製セル左記休戰條約ヲ提出シ比較對照ノ上
 兩國全權ニ差出ス兩國全權之ニ記名シテ該議定書ノ締結ヲ了セリ

PROTOCOLE.

Les soussignés, Plénipotentiaires du Japon et de Russie, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements, sont convenus des termes suivants d'un armistice entre les belligérants jusqu'à l'entrée en vigueur du Traité de Paix :

1. Une certaine distance (zone de démarcation) sera fixée entre les fronts des armées des deux Puissances tant en Manchourie que dans la région du Toumen.
2. Les forces navales de l'un des belligérants ne bombarderont pas le territoire appartenant à l'autre ou occupé par lui.
3. Les captures maritimes ne sont pas suspendues par l'armistice.
4. Pendant la durée de l'armistice, de nouveaux renforts ne seront pas envoyés au théâtre de la guerre; ceux qui se trouvent déjà en route ne seront pas envoyés de la part du Japon—au nord de Moukden, de la part de la Russie—au sud de Kharbine.
5. Les Commandants des armées et des flottes des deux Puissances établiront de commun accord les conditions de l'armistice, conformément aux dispositions énumérées ci-dessus.
6. Les deux Gouvernements donneront ordre à leurs Commandants immédiatement après la signature du Traité de Paix de mettre ce Protocole en exécution.

Portsmouth, le 1^{er} Septembre 1905.

(譯文)

下名ノ日露兩國全權委員ハ各本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ講和條約ノ實施ニ至ル迄ヲ有効期限トシテ兩交戰國間ニ左ノ休戰條款ヲ協定セリ

第一條 滿洲並豆滿江方面ニ於ケル兩國軍隊ノ間ニ一定ノ距離(區劃地域)ヲ定ムヘシ

第二條 兩交戰國ノ一方ノ海軍ハ他ノ一方ノ領土若クハ占領地ヲ砲撃スルコトヲ得ス

第三條 海上ノ捕獲ハ休戰ノ爲メニ停止セラレ、コトナシ

第四條 休戰期限中増援兵ヲ戰地ニ派遣スルコトヲ得ス其ノ派遣ノ途ニ在ル者ハ日

本國ニ在リテハ之ヲ奉天以北ニ露西亞國ニ在リテハ之ヲ哈爾濱以南ニ送ルコトヲ得ス

第五條 兩國陸海軍司令官ハ前數條ノ規定ニ遵ヒ雙方合意ノ上休戰ノ條件ヲ決定スヘシ

第六條 兩國政府ハ本議定書ヲ實施セムカ爲メ講和條約調印後直ニ其ノ司令官ニ命令ヲ發スヘシ

千九百五年九月一日ポーツマスニ於テ

小村 壽 太郎

高平 小 五 郎

セルジ、ウヰ、ウヰ、ウヰ

二百四十一

此機會ニ於テ兩國全權ハ何日頃講和條約調印ノ運ニ至ルヘキヤノ模様ニ關シ談話ヲ爲セリ「ウヰッテ」氏曰ク「起草委員ニ於テハ隨分用語ニ關スル議論多クシテ事務ノ進行速ナラスト聞ク用語ノコトハ大抵ニシテ成ルヘク速ニ成案ヲ造ラレタシ本員ハ條約ノ調印期日ヲ可成速ナラシメンコトヲ欲スルノ希望ヲ開陳シ置キタシ尤モ是ハ全ク私事ノ都合ニヨルコトニシテ公事ノ爲メニハ如何様ニモ變更スヘシト雖成ルヘクハ此ノ都合ニ叶フ様致シ度シ即チ本員ハ來ル十二日紐育出帆ノ獨逸郵船「カイゼル」ウヰルヘルム、ツウアイテニ依リテ歸國致シタシ此ノ船ニ乘リ遅ル、トキハ其ノ後秋分ノ期節ト爲リ海上險惡トナルヲ以テ本員ノ如キ航海ニ弱キ者ハ大ニ困難スヘシ又其ノ後ノ良好ナル便船ハ二週間乃至三週間ヲ待タサレハ得ルコト能ハサルヲ以テ旁該汽船ニ乗込ミタシ而シテ紐育出發以前「シカゴ」ヘ赴クノ約束アルヲ以テ出發以前約一週間ノ暇ヲ得タシ就テハ四日若クハ五日ノ内ニ講和條約調印ヲ了スルコト、致シ度シ」

小村男曰ク「當方ニ於テモ成ルヘク速ニ調印ノ運ニ至ラシメタキ希望ナルヲ以テ出來得ル丈ケ條約書作成ヲ急カシムルコト、爲サム就テハ條約ノ成案ヲ作ルニ必要ナル撤兵條件ノコトハ未タ協定ヲ經サルヲ以テ至急之ヲ協定スルコト、致シ度シ右ニ就テハ曩ニ當方ヨリ案ヲ提出シタル處貴方ヨリ之ニ對スル對案ヲ提出スヘシトノ約束ニ爲リ居ル儘ニテ未タ其ノ提出ナキヲ以テ至急之ヲ提出セラレタシ」

「ウヰッテ」氏曰ク「承諾セリ就テハ本日夕刻再ヒ會見セン其ノ節再ヒ此ノ室ヘ集マルコト

「ナサン」ト

小村男曰ク「此ノ次ハ本員等ヨリ貴方ノ室ヘ出掛クルコト、セム時刻ハ何時頃ニセンカ」ト

「ウヰッテ」氏曰ク「光來ヲ得ハ幸ナリ時刻ハ晚餐後即今夜八時半トナサム」
右ニテ散會

「ホテル、ウエントウヲルス」内ニ於テ開キタル日露兩國全權委員非正式會見

要録第二

九月一日午後八時三十分、ウヰッテ氏ノ室ニ於テ開會

列席者 日本小村高平兩全權「デニソン」安達、落合三隨員

露國「ウヰッテ」「ローゼン」兩全權、マルテンス、「ボコチロフ」、「エルモロフ」、「ブラ
ンソン」ノ四隨員

小村男曰ク「條約第二條即チ滿洲撤兵ニ關シ追加條款ヲ以テ定ムルコト、爲シタル撤兵
條件ニ關シ貴方ノ案ヲ提出セラレタシ」

「ウヰッテ」氏曰ク「撤兵條件ニ關シテハ貴方ノ案ノ如ク時日ヲ限り地域ヲ區劃シテ之ヲ定
ムルコトハ我方ニ於テ爲スコト能ハス是ハ主トシテ鐵道ノ輸送力如何ニ關係シ又戰場
ニ於ケル司令官ニ於テ實際ノ事情ヲ考量シテ定ムヘキモノニシテ今此處ニテ判然ト定
ムルコトハ難シ若シ貴方提出ノ案ノ如クニ精確ニ定メントスレハ本員ノ如キハ今ヨリ
本國政府ヘ打電シテ詳細ノ訓令ヲ求メサルヘカラス而シテ本國政府モ直ニ之ヲ定ムル
コト能ハサルヲ以テ滿洲ニ於ケル野戰軍司令長官ニ移牒シ其ノ意見ヲ徵セサルヘカラ
ス斯クシテ往復ヲ重ヌルトキハ該條件ノ決定ヲ見ル迄ニハ尙一二週日ヲ要スヘシ故ニ
此處ニテハ撤兵ニ關スル要件ノミヲ定メ置キ詳細ノコトハ戰場ニ於ケル兩國司令官ノ
協商ニ委ヌルコト、爲スノ外ナシ」

小村男曰ク「要件ノミヲ定メ置クコトハ素ヨリ異議無シ其ノ要件ニ關シ當方提出ノ案ニ

同意セラル、コト能ハサルナラハ之ニ對スル貴方ノ對案ハ如何ソレヲ承知致シ度シ
「ウヰッテ氏曰ク我方ノ案ハ爰ニテ直ニ述ルコトヲ得ヘシ尤モ是ハ既ニ八月二十九日軍
港ニ於ケル會見ニ於テ述ヘ置キタリ即チ

- 一、兩國ハ成ルヘク速ニ滿洲ノ撤兵ヲ實行スヘキコト
- 二、撤兵ハ先ツ前面陣地ニ在ル者ヨリ之ヲ行フコト
- 三、撤兵中ノ各時期ニ於テ日露兩國軍隊ノ滿洲ニ殘留スル數ハ約同一ナルコト
- 四、兩國ハ鐵道保護ノ爲メ守備兵ヲ滿洲ニ置クノ權ヲ留保ス其ノ數ハ雙方所有ノ鐵
道延長ニ比例シ兩國司令官ニ於テ互ニ協定スルコト
- 五、以上ノ諸件ヲ基礎トシテ詳細ノ條件ヲ定ムルコトハ之ヲ兩國司令官ニ委ヌルコ
ト

是ナリ

小村男曰ク貴方ノ案ヲ書面ニシテ出サレタシ

「ウヰッテ氏曰ク諾」

(是ニ於テウヰッテ氏ハ右ノ趣意ヲ「フランツシ」氏ニ口授シ筆記セシム筆記了ラント
スル頃再ヒ曰ク)

『更ニ詳ニ書面ニ認メテ後刻差上ルコトトナサン』

小村男曰ク「諾」サテ次ニ兩國全權ノ協定ヲ要スルコトハ薩哈噠島割讓ニ關スル問題ナリ
之ニツキ我方ニ於テ條文案ヲ作りタレハ之ニ依リ協議決定致シタシ』

(トテ左記草案ヲ提出ス)

cession, et finalement la commission préparera et signera les cartes constatant les limites du territoire cédé. Les travaux de la commission seront soumis à l'approbation des Hautes Parties Contractantes.

ARTICLE

The Imperial Russian Government cede to the Imperial Government of Japan in perpetuity and full sovereignty the southern portion of the Island of Saghalien and all islands adjacent or appurtenant thereto and all public works and properties thereon. The 50th degree of North Latitude is, in principle, adopted as the northern boundary of the ceded territory. As soon as possible after the present Treaty comes into force a commission of delimitation composed of an equal number of members to be appointed respectively by the two High Contracting Parties shall on the spot mark in a permanent manner the actual boundary line between the Japanese and Russian possessions of the Island of Saghalien. The commission shall be bound, so far as topographical considerations permit, to adhere to the 50th parallel of North Latitude as the boundary line and in case any material deflections from that line at any points are found to be necessary, compensation will be made by correlative deflections at other points. It shall also be the duty of said commission to prepare a list and description of the adjacent or appurtenant Islands included in the cession, and finally the commission shall prepare and sign maps showing the boundaries of the ceded territory. The work of the commission shall be subject to the approval of High Contracting Parties.

ARTICLE

Le Gouvernement Impérial de Russie cède au Gouvernement Impérial du Japon en perpétuité et en pleine souveraineté la partie sud de l'Île de Sakhaline et toutes les îles qui sont adjacentes ou qui y appartiennent ainsi que tous les travaux et propriétés publiques qui s'y trouvent. Le 50^{me} parallèle de latitude nord est, en principe, adopté comme la limite du territoire cédé. Aussitôt que possible après la mise en vigueur du présent Traité, une commission de délimitation, composée d'un nombre égal de membres qui seront nommés respectivement par les deux Hautes Parties Contractantes, marquera, sur place, d'une manière permanente, la ligne limitrophe entre les possessions japonaise et russe de l'Île de Sakhaline. La commission sera tenue, autant que les considérations topographiques le permettent à adhérer au 50^{me} parallèle de latitude nord pour la ligne limitrophe, et dans le cas où quelques déviations de la dite ligne sur quelques points seront trouvées nécessaires, la compensation en sera faite par les déviations corrélatives sur d'autres points. Il sera, de même, le devoir de la dite commission de préparer une liste et description des îles adjacentes ou appartenantes qui seront comprises dans la

(譯文)

第...條

露西亞帝國政府ハ薩哈噠島南部及其ノ附近ニ在リ又ハ之ニ屬スル一切ノ島嶼並該地ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス其ノ讓與地域ノ北方境界ハ原則トシテ之ヲ北緯五十度ニ定ム兩締約國ニ於テ各任命スヘキ同數ノ人員ヨリ成ル境界劃定委員ハ本條約實施後成ルヘク速ニ薩哈噠島ニ於ケル日本國及露西亞國領地間ニ實際ノ境界線ヲ永久ノ方法ヲ以テ實地ニ就キ劃定スヘシ該委員ハ地形ノ許ス限リ北緯五十度ヲ以テ境界線ト爲スコトヲ要ス若シ何レカノ地點ニ於テ同緯度ヨリ偏倚スルノ必要ヲ認ムルトキハ他ノ地點ニ於ケル對當ノ偏倚ニ依リテ之ヲ填補スヘシ該委員ハ讓與中ニ包含セラル、附近又ハ所屬島嶼ノ表及明細書ヲ調製スルノ任ニ當リ且讓與地域ノ境界ヲ示ス地圖ヲ調製シ之ニ署名スヘシ該委員ノ事業ハ兩締約國ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

ARTICLE

The inhabitants of territory ceded to Japan by Russia, who wish to take up their residence outside of such territory, shall be at liberty to sell their real property and retire. For this purpose, those inhabitants who labour under no political or administrative disability, shall be granted a period of two years from the date this Treaty comes into force and at the expiration of that period those of the free inhabitants who shall not have sold their real property and left such territory, shall, at the option of Japan, be deemed to be Japanese subjects. Japan reserves full liberty to withdraw the right of residence in, or to deport from such territory, any inhabitants who labour under disability as aforesaid.

ARTICLE

Les habitants du territoire cédé au Japon par la Russie, qui désireront établir leur résidence en dehors de ce territoire auront la liberté de s'en retirer en vendant leurs propriétés immobilières. Dans ce but, les habitants qui ne se trouvent pas dans l'incapacité politique ou administrative, seront permis d'avoir une période de deux ans à partir de la date de la mise en vigueur de ce Traité; et à l'expiration de cette période, ceux des habitants libres qui n'auront pas vendu leurs propriétés immobilières et quitté ce territoire, seront, à l'option du Japon, considérés comme sujets japonais. Le Japon se réserve la pleine liberté de retirer le droit de résidence dans ce territoire à tous les habitants se trouvant dans l'incapacité ainsi qu'il est dit plus haut, ou de les déporter de ce territoire.

(譯文)

第...條

露西亞國ヨリ日本國ニ讓與セラレタル地域ノ住民ニシテ該地域以外ニ居住ヲ移サムト欲スル者ハ其ノ不動産ヲ賣却シテ退去スルノ自由ヲ有ス政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒタルコトナキ住民ハ前記ノ目的ノ爲メ本條約實施後二箇年ノ猶豫ヲ與ヘラレヘシ該猶豫期限滿了マテニ不動産ヲ賣却シテ右地域ヲ退去スルニ至ラサル自由住民ハ日本政府ノ都合ニ依リ之ヲ日本臣民ト認ムヘシ日本國ハ前記ノ權能ヲ失ヒタル住民ニ對シ該地域ニ於ケル居住權ヲ撤回シ又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐スヘキ充分ノ自由ヲ留保ス

ARTICLE

Japan and Russia mutually engage not to construct in their respective possessions on the Island of Saghalien or the adjacent or appurtenant islands any fortifications or other similar military works. They also respectively engage not to take any measures which may impede the free navigation of the Straits of La Perouse and Tartary.

ARTICLE

Le Japon et la Russie s'engagent mutuellement à ne construire dans leurs possessions respectives sur l'île de Sakhaline et sur les îles qui y sont adjacentes ou qui y appartiennent, aucune fortification ni travaux militaires semblables. Ils s'engagent, de même, à ne prendre aucune mesure qui pourrait entraver la libre navigation des Détroits de Lapérouse et de Tartarie.

(譯文)

第...條

日本國及露西亞國ハ薩哈噠島又ハ其ノ附近若クハ所屬島嶼ニ於ケル各自ノ領地内ニ
堡壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築造セサルコトニ互ニ同意ス又兩國ハ各宗谷
海峽及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙スルコトアルヘキ何等ノ措置ヲ執ラサルコトヲ約
ス

「ウヰヰッテ氏ハ右草案一覽ノ後曰ク『是ハ大體ニ於テハ異議ナキモ條數モ非常ニ多ク又規
定セントスル所モ甚タ詳細ナリ本員ハ條約ニ於テ斯ノ如キ詳細ナル規定ヲ設クルコト
ヲ欲セス條約ニハ只肝要ノ點ノミヲ擧ケ詳細ノ手續ニ關スルコトハ之ヲ別約ニ讓リテ
ハ如何全體他ノ講和條件ニ就テハ箇條數モ少ク字句モ多カラサルニ此ノ土地割讓ト云
フカ如キ露國ノ威嚴ト國民ノ自負心ヲ最モ甚シク害スル事柄ニ關スル規定ニ限り數章
ニ涉リ長ヤシキ文句ヲ以テ條約ニ上スコトハ甚タ不快ナリ』」

小村男曰ク『要點丈ケヲ條約ニ載セ詳細ノ手續ノコトハ別約ニ讓ルコトハ異議ナシ然ラ
ハ起草委員ヲシテ左様ニ取計ハシメム』

「ウヰヰッテ氏曰ク『草案第一ノ個條ニ於テ『附近及所屬諸島』ト云フコトアリ此ノ所屬諸島ト
ハ如何ナルコトヲ云フヤ』」

小村男曰ク『所屬諸島トハ薩哈噠島ノ行政管區ニ屬スル諸島ト云フ義ナリ此ノ所屬ノナ
ル文字ハ意義明了ナラストノコトナラハ除キ去ルモ差支ナシ』」

「ウヰッテ氏曰ク薩哈噠島ヲ支配スル行政管區ト云ヘハ極メテ廣キ意義ト爲リ非常ノ遠方ニ迄及フコト、ナルヲ以テ此ノ文字ハ取去ラレタシ」

小村男曰ク「諸單ニ附近ノ諸島トナサム」

「ウヰッテ氏曰ク草案第二ノ個條ニ於テ讓渡地ノ住民ハ二箇年以内ニ不動産ヲ賣却シテ撤退スルニアラサレハ日本政府ノ都合ニ依リ日本臣民ト見做ストノ規定ハ酷ナリ領土ノ割讓ハ之ニ由リテ該領土ニ於ケル住民ノ私權ニ害ヲ及ホサルコト、ナスニアラサレハ公平ヲ缺クナラン只領土ニ於ケル主權ヲ移轉スルノ結果新主權者タル日本國ノ法律、法權ニ服従スル以上ハ既有ノ權利ハ之ヲ尊重スルコト、致シタシ又同島ニハ現ニ或年限間官廳ト特約ヲ結ヒテ水運業ノ特權ヲ有スルモノアリ尤モ此等特權ヲ有スルモノハ本員ノ記憶スル所ニテハ「セミオノフ商會外」ニシテ極メテ少數ナレハ實際ニ於テハ左シタル大事件ニハアラサルモ免ニ角現住民ノ是迄有シ居レル所有權及營業權ハ主權ノ移轉ニ係ハラス之ヲ尊重スルコト、爲サ、ルヘカラス又本條文中 *se trouvant dans l'incapacité politique ou administrative* (政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒタル)トハ如何ナル意義カ」

小村男曰ク「是ハ犯罪ニ因リ權能ヲ完全ニ享有セサルモノヲ云フ」

「ウヰッテ氏曰ク此等ノ權能不完全ナル者ヲ南薩哈噠ヨリ放逐セラル、コトハ不得已トスルモ此等ノ者カ該地域内ニ有スル所有權ハ之カ爲メニ侵サル、コトナカラシコトヲ要ス」

「デニソン氏説明シテ曰ク一體日本ニ於テハ外國人ニ土地所有權ヲ許サ、ルヲ以テ本案

ノ如ク規定セントスルナリ是レ日清講和條約ニ於テ臺灣ニ關シ規定シタル所ト同一ナリ」

小村男曰ク「日本ノ法律ニ服従セシムルコトノ條件ノ下ニ於テ該地ニ存在スル露國臣民ノ所有權及營業權ヲ尊重シ且權利ヲ缺ケル者ニ對シテモ所有權ヲ侵害セサルヘキコトヲ約スルハ差支ナキヲ以テ左様ニ取計ハム」

「ウヰッテ氏曰ク草案第三ノ個條末尾ニ在ル韃靼海峽トハ何ヲ指スカ」

小村男曰ク「薩哈噠島ト大陸ノ間ノ海峽ナリ」

「ウヰッテ氏曰ク此韃靼海峽ナルモノ、範圍如何」

小村男曰ク「薩哈噠島ノ全延長丈ケノ長サヲ云フ」

「ウヰッテ氏曰ク只海峽ノ自由航海ヲ妨クル措置ヲ執ラスト云フコトハ甚々漠然トシテ如何ナル區域迄航海ノ自由ヲ保證スルノ義ナリヤ分明ナラサルカ如シ」

小村男曰ク「島ト大陸トニ挾マレアル處ハ海峽ナリ其挾マレアル所ヲ出テ、大海ニ入レハ海峽ノ區域外ト爲ル」

「ウヰッテ氏曰ク本員ハ一體此邊ハ如何ナル地形ニ成リ居ルヤ詳ニ承知セス海峽ノ幅ハ如何程アリヤ誰カ詳細ナル地圖ヲ所持セサルカ」

「此ノ時室内ニ詳細ノ地圖ナカリシヲ以テ日本ノ書記官一人之ヲ取りニ行カントシタルカ全權ハ之ヲ必要ト認メサリシニ付地圖ハ提出セス」

「ウヰッテ氏曰ク此海峽ノ自由航海ヲ保證スト云フコトハ此ノ草案ノ書方ニテハ穩當ナ

ラサルニ付左ノ如ク改メタシ』

二百六十二

Ils s'engagent, de même, à garantir le principe universellement reconnu de la liberté de navigation des Détroits de La-Pérouse et de Tartarie. (又兩國政府ハ一般ニ認メラレタル自由航海ノ原則ヲ宗谷韃靼

兩海峽ニ於テ保障スヘキコトヲ約ス)

(此ノ書面ハ「マルテンス」氏ヨリ小村男ニ手交セリ)

小村男曰ク『此ノ書方ニテハ何事ヲ意味スルヤ明了ナラス』

「マルテンス」氏曰ク『是ハ海峽ノ自由航海保證ト云フコトニ付是迄各國ニ於テ行ハレタル主義ヲ此ノ兩海峽ニ對シテ適用セント云フコトナリ』

(「マルテンス」氏ハ低聲ニテ「ダーダネルス」海峽ニ關スル先例モアリト述フ)

小村男曰ク『一體此ノ事ハ宗谷海峽ニ關シテ露國全權ヨリ要求セラレタル約束ヲ日本全權カ承諾スルニツキ之ヲ韃靼海峽ニ關シテ相互的ト爲サシコトヲ主張シ「ウヰッテ」氏之ニ同意セラレタルモノニシテ其ノ文句モ「ウヰッテ」氏提議ノ通りニ爲リ居レルナリ今更之ヲ變更セントスルコトハ解スベカラズ』

「ウヰッテ」氏曰ク『然ラハ元ノ通りニ致シ置カム』

(此ノ間「エルモロフ」少將ハ「此ノ字句ニテハ露國ニ不利益ナリ」ト述フ「ウヰッテ」氏ハ「然ラハ何トカ改メムカ」ト推問ス「エルモロフ」少將ハ「最早全權ニ於テ同意ノ旨述ヘラレタル上ハ詮方ナカラシ」ト述フ右ノ問答ニテ薩哈噠島ノ處分及撤兵問題ニ關スル一應ノ談話終ル)

小村男曰ク『扱是ヨリ兩國ノ條約起草委員ニ於テ條約文起草中字句ニツキ意見ヲ異ニシタル諸點ニ就キ協定セム』

「ウヰッテ」氏曰ク『諾』

「マルテンス」氏曰ク『先ツ條約ノ前文ニ於テ露國委員ハ同文中ニ「兩國ノ陸海軍カ發揚シ文明世界ノ驚歎ヲ博シタル勇武克己ニ敬意ヲ表シ」云々ノ文句ヲ挿入セントシタルカ日本委員ハ不必要ナリトシテ斥ケラレタリ此ノ點ニ就キ全權ノ裁定如何』

小村男曰ク『戰爭終結後 皇帝陛下ハ或ハ勅語ヲ賜ヒテ陸海軍ノ勇武忠誠ヲ嘉獎アラセ

ラレ又ハ敵國ノ陸海軍ノ勇武ナリシコトヲ稱シ玉フコトアルヘキモ講和條約文中ニ此等ノ頌辭ヲ掲ケルハ事態ニ合ハス之ハ掲ケサルコトヲ可トス』

「ウヰッテ」氏之ヲ承諾ス

小村男曰ク『韓國ニ關スル條ニ於テ英文ノ measures of guidance, protection and control(指導保護及監理ノ措置)ニ對スル佛譯ニ mesures de direction, de protection et de contrôle(指導保護及監理ノ措置)ナル字句アリ此ノ最終ノ contrôle(監理)但シ此ノ佛語ノ文字ハ會計事務監査ノ意義ノミニ解セラル、場合多シナル語ハ英語ノ control(監理)ナル語ニ對シ意義ノ強弱ニ著シキ相違アリ聞ク所ニ依レバ「マルテンス」博士ノ說ニ佛語ノ direction(指導)又ハ指揮ノ意義ヲ有スハ英語ノ guidance(指導)ヨリモ強ク之ニ反シ佛語ノ contrôle(監理)但シ監査ノ意義ヲ通例トスハ英語ノ control(監理)ヨリモ弱ク英文ニテ guidance(指導) protection(保護) and control(及監理)ト云ヘバ弱キ意義ノ語ヨリ漸次ニ強キ意義ノ語トナルモ佛文ニテ direction(指導)又ハ指揮 protection(保護) et contrôle(監理)

二百六十三

監査ト云ヘハ強キ意義ノ語ヨリ順々ニ弱キ意義ノ語ト爲ル由然ルニ英文ノ control (監理) ナル語カ包含スル所ノ意義ハ此ノ佛文ノ三語中孰レニモ包含セラレサルモノアルヲ以テ此ノ儘ノ佛文ニテハ不充分ナリ依テ會議録又ハ別約ヲ以テ本條ノ佛文ニ於テ用井タル parole control ナル語ハ同條ノ英文ニ於テ用井タル parole control ナル語ト同意義ニ解スヘキコトヲ明記シ置カム

「ウ井ッテ氏曰ク『承知セリ』」

「マルテンス氏ハ此ノ間ニ於テウ井ッテ氏ト私語シタル上小村男ニ向ヒ滿洲ニ於テ日露兩國カ鐵道建設及經營ノ特許ヲ有スルコトハ門戶開放及均等待遇主義ト相容レサルモノニ非ス又右特許ニ依リテ獲得シタル土地ノ區域内ニ於テ日本國及露西亞國臣民ハ他ノ外國民ト等シク互ニ同一ノ權利ヲ享有ス云々トノ規定ヲ條約ノ一條トシテ採用スルコト(起草委員會記録第一末尾參照)ニツキ全權ノ意見如何ヲ問フ

小村男曰ク『此ノ事ハ素ト兩國全權ノ協定ヲ以テ會議録ニ留メ置クコトト定メタルモノナリ起草委員會ニ於テモ既ニ決セル問題ニアラスヤ今更此ノ事ニ就キ再ヒ議論スヘカラス』

「ウ井ッテ氏曰ク『會議録ニ於テ單ニ會議録ニ留メテ條約ニハ載スヘカラサル旨明言シタルモノ即チ韓國ニ於テ日本ノ執ルヘキ措置ニシテ韓國ノ主權ニ影響スルモノニ關スル申合セ等ヲ條約ニ掲載スルコトヲ拒絕セラルルハ能ク了解セリ然レトモ本件ノ如ク會議録ニハ只兩國全權カ其規定ヲ設クルコトニ同意シタルコトヲ認メアルノミニシテ之

ヲ條約ニ載スヘシトモ又載スヘカラストノ明言モナキモノハ今ヨリ之ヲ條約ノ一條トシテ採用スルニ何等差支アラシヤ本件ノ外會議録ニ於テ兩國全權ノ同意ヲ經テ協定セリト掲載セル諸件ハ果シテ之ヲ條約ノ條項ト爲サ、ルノ意歟』

小村男曰ク『條約ノ條項ハ當初ヨリ夫々條項ト爲スノ趣意ヲ以テ提議シ雙方全權ニ於テ討議ノ上其ノ掲載スヘキ條文案迄決定シ來リ其ノ範圍モ明瞭ナレハ之ニ關シテ何等問題無キ筈ナリ然ルニ今ニ至リ更ニ條項ヲ作ラントスルハ協定ノ範圍ヲ超エテ新ナル議論ヲ惹起サントスルモノニシテ斯ノ如クハ事ノ纏マル際限アルヘカラス今日ノ場合ハ是迄雙方ニ於テ纏メ來リタルモノヲ整齊シテ條約文ト爲スコトノ外何等新ナル話ヲ始ムヘカラス』

「ウ井ッテ氏之ヲ承諾ス

次ニ小村男曰ク『旅大租借及長春旅順間ノ鐵道讓渡ニ關シ清國政府ノ同意ヲ經ルコトヲ規定セル文句ハ英文ニ於テ subject to (ヲ經テ)トナリ居レルヲ佛文ニテ a condition de (ノ條件ニ於テ)ト譯スルハ不當ナレハ之ヲ avec (ヲ以テ)ト訂正スヘシ』

「ウ井ッテ氏曰ク『承諾セリ此ノ點ニ就テハ起草委員ニ於テ隨分議論アリタル由ナルカ日露兩國共同シテ清國ノ承諾ヲ求ムル以上ハ實際何等差支ナキニアラスヤ』

落合氏曰ク『只今ノウ井ッテ氏ノ言ニ就キ全權ノ許可ヲ得テ起草委員會ノコトヲ説明セムカ此ノ點ニ付起草委員會ニ於テ議論ヲ生シタルハ『フランソン氏カ租借及鐵道ノ讓渡ハ清國政府ノ同意ヲ得ルニアラサレハ行ハレス即チ清國政府ノ同意ハ該讓渡ニ對スル

不可缺條件(conditions sine qua non)ナリト論セラレタルヲ以テ日本委員ハ斯ル解釋ノ苟モ行ハル、虞アル以上ハ該文字ヲ其ノ儘ニ放任スルコト能ハサルヘシトノ意見ヲ述ヘタルニヨリ議論ヲ生シタルナリ』

「フランソン」氏曰ク『本員ハ斯ノ如キ議論ヲ爲シタルニアラス』

(一) 坐笑フ者アリ

次ニ「ボコチロフ」氏ハ「ウヰ」氏ノ承諾ヲ求メテ小村男ニ向テ曰ク『滿洲ニ於ケル鐵道ヲ日露兩國ニ於テ純然商工業ノ目的ニ經營スヘキコトヲ約スル條ニ於テ Le Japon et la Russie s'engagent à retenir et à exploiter(日本國及露西亞國ハ………保有シ且經營シ………ヲ約ス)ト云フ文句アリ此ノ「retenir」(保有シ且)ナル文句ハ全ク不必要ナレハ之ヲ削除スルコトヲ主張シ置ケリ御承諾成ルヘキヤ』

小村男曰ク『此ノ文字ハ貴方ノ全權ヨリ出タルモノニシテ貴方ノ案ノ儘協定シテ斯ク成リ居レルナリ然レトモ今更貴方ニ於テ之ヲ削除スルコトヲ必要トセラル、ナラハ削除ニ同意スルモ差支ナシ』
右ニテ起草委員會ニ於テ懸案ト爲セシ諸點ノ討議アリ其ノ他ノ諸條項ハ雙方全權ニ於テ格別議論モ無ク又雙方ノ委員ヨリ全權ノ會合ニ提出シテ裁決ヲ求ムヘキ事柄モ無キヲ以テ是ニテ全權ノ會見ヲ了ル時ニ午後十時ヲ過ク

「ホテル、ウエントウ」内ニ於テ開キタル日露兩國全權委員非正式會見

要録第三

九月二日午後ノ分(列席者前日ト同シ)

九月一日夜ノ會見ニ於テ露國全權ハ撤兵條件ニ關スル別約案ヲ送付センコトヲ約セシニヨリ翌三日午前「ウヰ」氏ヨリ左記別約案ヲ小村男ニ送付シ而シテ同日午後小村男ノ室ニ來リ會見センコトヲ申込ミ來レリ

ARTICLE ADDITIONNEL.

Les deux Hautes Parties Contractantes s'engagent à produire l'évacuation de la Manchourie dans le plus bref délai possible.

Les troupes qui occupent des positions frontales doivent être retirées les premières.

La quantité de troupes russes et japonaises qui restent en Manchourie, doit être à chaque époque approximativement égale pour les deux parties.

Les Gouvernements de Russie et du Japon se réservent le droit de maintenir des gardes pour protéger leurs lignes respectives de chemin de fer, leurs propriétés et le trafic. Le nombre de ces gardes devra être fixé de commun accord, en conformité avec l'extention de la voie, et être pour chaque kilomètre de la ligne égal pour les deux parties.

Ces principes serviront de bases à une convention spéciale concernant le mode et les périodes d'évacuation, qui sera conclue par les Commandants des armées des deux Puissances.

(譯文)

追加條款

兩締約國ハ成ルヘク速ニ滿洲ノ撤兵ヲ行フヘキコトヲ約ス
前面陣地ヲ占領セル軍隊ハ最先ニ撤退セサルヘカラス

滿洲ニ殘留スヘキ露西亞國及日本國軍隊ノ數ハ各時期ニ於テ雙方略均一ナルヲ要ス
露西亞國及日本國政府ハ各自ノ鐵道線路財產及運輸ヲ保護セムカ爲メ守備兵ヲ置ク
ノ權ヲ留保ス該守備兵ノ數ハ線路ノ延長ニ應シ雙方合意ヲ以テ之ヲ定メ且鐵道線路

一「キロメートル」毎ニ雙方同數ナルヲ要ス

前記ノ原則ハ兩國軍司令官ニ依リテ締結セラルヘキ撤兵ノ方法及時期ニ關スル別約
ノ基礎タルヘキモノトス

此ノ案タルヤ極メテ漠然トシテ何等要領ヲ得サルヲ以テ小村男ハ更ニ左ノ趣意ヲ以テ
對案ヲ造ラシム

- 一、日露兩國政府ハ同時ニ且講和條約實施後直ニ滿洲撤兵ニ着手シ該條約實施ノ日
ヨリ十個月以内ニ於テ滿洲ニ於ケル兩國軍隊ハ——日本軍隊ハ遼東半島租借地
區域内及韓國々境以内ニ露國軍隊ハ露國領土内ニ——撤退スヘシ
- 二、兩國ノ軍隊ハ先ツ前面陣地ニ在ル者ヨリ撤退スヘシ
- 三、兩締約國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護セムカ爲メ守備兵ヲ置クノ權利
ヲ留保ス該守備兵ノ數ハ「キロメートル」毎ニ五名ヲ超過スヘカラス

Les Commandants des forces japonaises et russes en Manchourie s'entendront sur les détails de l'évacuation conformément aux principes ci-dessus énumérés.

四、滿洲ニ於ケル日露兩國軍隊ノ司令官ハ前記ノ原則ニ從ヒテ撤兵ノ細目ヲ協定ス
ヘシ

With reference to Article II of the Treaty of Peace between Japan and Russia of this date, the undersigned Plenipotentiaries have concluded the following Additional Article:

ADDITIONAL ARTICLE.

The Imperial Governments of Japan and Russia mutually engage to commence the withdrawal of their military forces from Manchuria simultaneously and immediately after the Treaty of Peace comes into operation, and within a period of ten months from the date of the enforcement of the said Treaty the Armies of the two Powers in Manchuria shall be withdrawn—the Japanese Armies within the leased territory of the Liaotung peninsula and Korean frontier, and the Russian Armies within Russian territory.

The forces of the two countries occupying the front positions shall be first withdrawn.

The High Contracting Parties reserve to themselves the right to maintain guards to protect their respective railway lines in Manchuria. The number of such guards shall not exceed five men per each kilometre.

The Commanders of the Japanese and Russian forces in Manchuria shall agree upon the details of the evacuation in conformity with the above principles.

A l'égard de l'Article II du Traité de Paix entre le Japon et la Russie en date de ce jour, les Plénipotentiaires soussignés ont conclu l'Article Additionnel suivant:

ARTICLE ADDITIONNEL.

Les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie s'engagent mutuellement à commencer le retrait de leurs forces militaires de la Manchourie simultanément et immédiatement après la mise en vigueur du Traité de Paix; et dans une période de dix mois à partir de la date de la mise en vigueur du dit Traité les Armées des deux Puissances en Manchourie seront retirées—les Armées japonaises dans le territoire à bail de la presqu'île de Liaotong et dans la frontière coréenne, et les Armées russes dans le territoire russe.

Les forces des deux Puissances occupant les positions frontales seront retirées les premières.

Les Hautes Parties Contractantes se réservent le droit de maintenir des gardes pour protéger leurs lignes de chemins de fer respectives en Manchourie. Le nombre de ces gardes n'excédera pas cinq hommes par kilomètre.

(譯文)

本日附日本國及露西亞國間講和條約第二條ニ關シ下名ノ全權委員ハ左ノ追加約款ヲ締結セリ

追加約款

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ同時ニ且講和條約ノ實施後直ニ滿洲ヨリ各其ノ軍隊ノ撤退ヲ開始スヘキコトヲ互ニ約ス而シテ講和條約實施ノ日ヨリ十箇月ノ期間内ニ滿洲ニ在ル兩國ノ軍隊ハ撤退スヘシ

即チ日本國軍隊ハ遼東半島租借地及韓國々境内ニ露西亞國軍隊ハ露西亞國領土内ニ撤退スヘシ

前面陣地ヲ占領スル兩國軍隊ハ最先ニ撤退スヘシ
兩締約國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護セムカ爲メ守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス該守備兵ノ數ハ一キロメートル毎ニ五名ヲ超過スルコトヲ得ス

滿洲ニ於ケル日本國及露西亞國軍司令官ハ前記ノ原則ニ從ヒ撤兵ノ細目ヲ協定スヘシ

午後四時頃ニ至リ露國全權ウヰッテ氏及ローゼン男ハエルモロフ「フランソン」兩隨員ヲ隨ヘテ小村全權ノ室ニ入り來ル

小村男曰ク「貴方ノ撤兵條件案ハ之ヲ熟讀シタル處撤兵ノ期限及鐵道守備兵人員ノ定メモノナク不完全ナルヲ以テ之ニ同意シ難シ就テハ此ノ兩者ヲ定メ置クコト必要ナリト認

メ對案ヲ作り置キタリ

「ウヰッテ氏右對案一覽ノ後曰ク『日本軍隊ハ遼東半島租借地區域内及韓國々境内ニ撤退ストアルハ如何ナル義ナルヤ斯ノ如ク書スルトキハ戰爭ヲ終結スル條約ニ於テ更ニ戰爭ヲ始ムルカ如キ觀ヲ有セシム』」

小村男曰ク『然ラス滿洲域内ヨリ撤退スルノ義ナリ御承知ノ如ク日本ハ鎮南浦ニ輸送上陸點ヲ有スルヲ以テ軍隊ノ某部分ハ先ツ韓國々境内ニ撤退セシメテ鎮南浦ヨリ便船ニ搭載シ日本ヘ歸ラシムルコト、ナルヘシ即チ撤退ノ順路ナリ』

「ウヰッテ氏曰ク『然ラハ韓國々境内ト云フコトハ撤兵ノ途ヲ此ノ方面ニ取ルト云フノ義ニ止マルヤ』」

小村男曰ク『實際ハ韓國々境内ニ撤退シタル軍隊ノ大部分ハ鎮南浦ヨリ日本ヘ歸還スルコトトナルヘシ此ノ書方ニ疑ヲ抱カル、ナラハ韓國々境内云ヤト云フコトヲ止メ遼東半島租借地ヲ除キ滿洲ヨリ撤退スト云フコトニ改メム』

「ウヰッテ氏曰ク『左様ニ取計ハレタシ次ニ撤兵ノ期限ヲ定ムルコトハ甚タ困難ニシテ實地ニ就キテ調査スルニアラサレハ果シテ幾日月間内ニ撤兵ヲ實行シ得ヘキヤ否ヤ分明ナラス斯ル細目ノコトハ出先ノ司令官ノ協商ニ委任スルコト、シ此處ニテハ單ニ成ルヘク速ニ撤兵ヲ行フコトヲ約束セハ充分ナラム』」

小村男曰ク『此ノ點ハ日本政府ヨリ特別ノ訓令アリ日本ニ於テハ最も重キヲ置ク所ナルヲ以テ此處ニ於テ是非共或期限ヲ定メ置ク必要アリ而シテ十ヶ月ノ期限ヲ提議スルコ

トハ是亦政府ヨリノ訓令ニ基ケルモノナリ

「ウヰッテ氏曰ク『露國ノ方ニテハ之ヲ定ムルコトハ甚タ困難ナリ日本ナラハ海上輸送セラル、コトナルヲ以テ撤兵ハ比較的容易ニシテ其ノ期限ヲ定ムルコトニ格別困難アラサルヘキモ露國ハ只一條ノ鐵道ヲ以テ之ヲ行ハサルヘカラス而シテ滿洲ニ在ル大軍ヲ執レノ場所迄撤退シ得ヘキヤハ容易ニ定メ得ル問題ニアラス東西比利亞ノ諸所即チ「チタ」「ブラ」ウエスチエンスク等ニ於テハ素ヨリ斯ル大軍隊ヲ止宿セシムル設備ナキヲ以テ一々歐羅巴露西亞ヘ歸リ來ルモノトシテ計算ヲ立テサルヘカラス』」

(トテ「エルモロフ」少將ニ意見ヲ聞ク)

小村男曰ク『日本ノ方ハ十箇月ニテ撤兵ヲ行ヒ得ヘシト雖只今ノ貴說ノ如ク露國ニ取リテ十箇月ノ期限ハ困難ナリトアラハ之ヲ十二箇月迄延長センカ』

「ウヰッテ氏曰ク『十二箇月ニテモ尙果シテ行ヒ得ルヤ否ヤハ確言スル能ハス最モ此ノ期限内ニテ實行スルコトヲ得ルヤモ知レサレトモ此處ニ於テ必ス十二箇月以内ト限ルコトヲ約束スルハ甚タ困難ナリ』」

小村男曰ク『如何ニシテモ或期限ヲ定メ置クコトハ絶對的必要ナルヲ以テ只今ノ貴說ノ如クナランニハ主義トシテ成ルヘク速ニ撤兵ヲ完了スヘキ旨ヲ約シ之ニ如何ナル場合ニ於テモ超過スヘカラサル期限トシテ更ニ六箇月ヲ増シ十八箇月ト定ムルコト、セハ如何是ハ本員等ニ於テ責任ヲ以テ提議スルモノナレハ貴方ニ於テモ責任ヲ以テ承諾セラレンコトヲ望ム』

「ウヰッテ氏曰ク然ラハ致シ方無シ十八箇月ヲ以テ最長期限ト爲スコトハ責任ヲ以テ承諾セム」

小村男曰ク「次ニ鐵道守備兵ノ數モ之ヲ一定シ置カサルヘカラス」

「ウヰッテ氏曰ク是亦此ノ席ニ於テ何名ト定ムルコトハ甚タ難シ滿洲ノ状態ハ何時頃常態ニ復スヘキヤ差當リ見込附キ難ク其ノ状態ニシテ靜穩ニ歸セザル限リ鐵道ノ安全ヲ保護スル爲メニハ随分多數ノ守備兵ヲ要スヘシ予ノ考ニテハ是レ亦兩國ノ軍司令官ヲシテ隨時其ノ必要ノ數ヲ鐵道線路ノ延長ニ比例シテ定メシムルコト、爲スコト實際ニ有益ナリト思フ」

小村男曰ク「實際幾何ヲ要スヘキヤハ固ヨリ滿洲ノ状態如何ニ因ルコトナレトモ一キロメートル毎ニ五名以内ト爲サハ充分ナリト考フ實際ハ一キロメートル二名乃至三名位ニテ充分ナラン」

「ウヰッテ氏曰ク一キロメートル五名ニテハ安心ナラス日本ノ方ニテハ遼東半島租借地ニ兵ヲ駐メ置クヲ以テ事アル場合ニ直ニ派兵スルコトヲ得ヘシト雖露國ハ滿洲ヨリ悉ク撤兵スルコト、ナルヲ以テ僅少ノ兵ヲ駐メ置キテハ一朝事變アル場合ニ安全保護ノ目的ヲ達スルコト難シ」

小村男曰ク「万一事變アリタル場合ニ兵ヲ出ス便宜ハ日本モ露國モ同様ナリ露國ハ滿洲ニ隣レル自國ノ領土内ニ兵ヲ駐メ置クヲ以テ出兵ヲ必要トスル場合ニ對スル便宜ハ日本ト異ナラス」

「ウヰッテ氏曰ク否日本ハ滿洲内部ニ騷亂アリタルトキ旅順ヨリ直ニ兵ヲ派出スルコトヲ得ルモ露國ハ例ヘハ哈爾濱ニ事變アリテ派兵ヲ要スル場合ニ露領ヨリ同地ニ兵ヲ派遣スルハ甚タ難事ナリ」

小村男曰ク「否日本カ長春ニ派兵ヲ要スル場合ニ比シ敢テ難事ニハアラス距離ハ等露國ノ方近カラシ」

「ウヰッテ氏曰ク滿洲ノ状態靜穩ニ歸シタル曉ニハ一キロメートル五名ニテ充分ナランモ當分ノ内ハ此ノ數ノ制限内ト定ムルコトハ到底同意シ難シ依テ守備兵ノ數ハ滿洲ノ形勢ニ依リ其ノ都度兩國司令官ヲシテ必要ノ數ヲ協定セシメ事態全ク平常ニ復シタル曉ニ一キロメートル五名ヲ制限トスルコトニ定ム」

小村男曰ク「否此ノ制限ハ是非共此ノ場合ニ協定シ置クコトヲ要ス軍司令官ニ協定ヲ全然放任スルトキハ勢多數ノ兵ヲ駐メントスルニ至ラン若シ最大限ヲ五名トシテ不足ナラハ之ヲ上シテ十名ト爲サム」

「ウヰッテ氏之ヲエルモロフ少將ニ談ス少將曰ク一キロメートル十名ニテハ戰爭前ノ數ヨリモ少クナルヲ以テ不得策ナリ」

「ウヰッテ氏曰ク是非共制限ヲ設クルトノコトナラハ成ルヘク多數ニ定メ置キタシ尤モ其ノ精確ナル數ハ實際ノ事情ニ照シ兩國司令官ヲシテ協定セシムルコト、シテ茲ニ定ムル最大限ハ一キロメートル毎ニ二十名ト爲サハ如何是ニテモ總體ニスレハ僅ノ兵數ニアラスヤ」

小村男曰ク「キロメートル二十名ト爲ストキハ雙方ノ兵數著シキ多數ニ上リ露國ノ如キハ約二師團ノ兵ヲ駐ムルコト、爲ルヘキヲ以テ同意シ難シ本員ハ日本政府ノ趣意ヲ超ユルコト甚シキヲ以テ頗ル躊躇スレトモ十名ノ制限ニテ到底同意スルコト能ハスト云ハル、ナラハ予ノ責任ヲ以テ其ノ制限ヲ上シテ十五名トナスコトニ協定セム尤モ是ハ此ノ以上ヲ超過スヘカラストナス最大限ノコトニシテ實際ハ勿論之ヨリ少數ナルヘシ而シテ實際必要ノ數ハ兩國軍司令官ヲシテ實情ヲ考査シ成ルヘク少數ニ協定セシムルコト、ナサム」

「ウヰッテ氏曰ク然ラハ已ムヲ得サルニ付本員モ亦責任ヲ以テ「キロメートル十五名ヲ以テ制限トナスコトニ同意セム」
右ニテ撤兵條件ノ要領決定ス

「ホテル、ウエントウフルス」内ニ於テ開キタル日露兩國全權委員非正式會見
要録第四

九月二日夕方ノ分(列席者前同ト同シ)
從來協定シ來リタル撤兵條件及薩哈噠島ニ關スル規定ニ關シ修正シタル條文ヲ確定スル爲メ日露兩國全權委員ハ九月二日午後九時、ウヰッテ氏ノ室ニ會見セリ
日本全權委員ハ前回兩國全權會見ノ節協定シタル所ニ據リ兩國起草委員ノ協定シタル左記條文案ヲ出シ之ヲ露國全權ニ示シ雙方全權ニ於テ之ヲ確認セムコトヲ提議セリ

ANNEXE No. I.

Les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie s'engagent mutuellement à commencer le retrait de leurs forces militaires du territoire de la Manchourie simultanément et immédiatement après la mise en vigueur du Traité de Paix; et dans une période de dix huit mois à partir de cette date les Armées des deux Puissances seront complètement retirées de la Manchourie, à l'exception du territoire à bail de la presqu'île de Liaotong.

Les forces des deux Puissances occupant les positions frontales seront retirées les premières.

Les Hautes Parties Contractantes se réservent le droit de maintenir des gardes pour protéger leurs lignes de chemins de fer respectives en Manchourie. Le nombre de ces gardes n'excédera pas quinze hommes par kilomètre; et dans la limite de ce nombre maximum, les Commandants des Armées japonaises et russes fixeront, de commun accord, le nombre des gardes qui seront employés, le plus minime possible conformément aux exigences réelles.

Les Commandants des forces japonaises et russes en Manchourie s'entendront sur tous les détails relatifs à l'évacuation conformément aux principes ci-dessus énumérés, et prendront de commun accord, les mesures nécessaires pour effectuer l'évacuation aussitôt que possible et en tous cas pas plus tard que dans la période de dix huit mois.

(譯文)

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ同時ニ且講和條約ノ實施後直ニ滿洲ノ地域ヨリ各其ノ軍隊ノ撤退ヲ開始スヘキコトヲ互ニ約ス而シテ講和條約實施ノ日ヨリ十八箇月ノ期間内ニ兩國ノ軍隊ハ遼東半島租借地以外ノ滿洲ヨリ全然撤退スヘシ
前面陣地ヲ占領スル兩國軍隊ハ最先ニ撤退スヘシ
兩締約國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護セムカ爲メ守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス該守備兵ノ數ハ「キロメートル」毎ニ十五名ヲ超過スルコトヲ得ス而シテ日本國及露西亞國軍司令官ハ前記最大數以内ニ於テ實際ノ必要ニ顧ミ之ニ使用セララルヘキ守備兵ノ數ヲ雙方ノ合意ヲ以テ成ルヘク少數ニ限定スヘシ
滿洲ニ於ケル日本國及露西亞國軍司令官ハ前記ノ原則ニ從ヒ撤兵ノ細目ヲ協定シ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ十八箇月ヲ超ヘサル期間内ニ撤兵ヲ實行セムカ爲メ雙方ノ合意ヲ以テ必要ナル措置ヲ執ルヘシ
兩國全權之ニ同意シ且此ノ條文ハ附屬條約トシテ本條約トハ別ニ締結センコトヲ約セ

「ウヰット」氏曰ク「前同會見ノ節日本全權提出ノ草案ニ日本軍隊ハ遼東半島租借地域内及韓國々境内ニ撤退セララルヘシト認メアリタルコトニツキ本員ハ小村男ニ其ノ趣意ヲ質問セシニ小村男ハ韓國々境内ト云フコトハ軍隊ノ或部分ノ歸還ノ途ヲ指スモノニシテ滿洲ニ在ル日本軍ヲ韓國ニ移スコトノ意義ニ非サル旨ヲ答ヘラレタリ就テハ其ノ趣意

ヲ會議録ニ認メ置カム』

小村男曰ク『否、會議録ニ認ムルコトハ同意スルコトヲ得ス』

『ウヰヰッテ氏曰ク『然ラハ滿洲ヨリ韓國々境内へ移サル、軍隊ハ如何ニ爲サル、趣意ナルヤ滿洲ニ在ル日本軍ハ日本へ還サル、ト云フコトニハアラサルカ此ノ大軍ノ全部若クハ大部分韓國ニ留メ置カル、コトモアルヘシト云フ義ナリヤ此ノ事ニ就テ最初日本ノ提案ニ認メアリシコトカ如何ナル意義ナルカヲ明ニ爲シタル書面無ケレハ本員等本國ニ歸リテ彼事ハ如何ニナリタリヤノ質問ヲ受ケタルトキ説明ニ困シムヲ以テ本員ト小村男トノ間ニ行ハレタル問答ノ儘ヲ認メタル一ノ會議録ヲ作ルコト、致シタシ』

小村男曰ク『否、此ノ旅館ニ於テ兩國全權カ數回會合談話シタルハ皆正式ノ會合ニアラス互ニ個人ノ資格ヲ以テ打解ケテ腹藏ナク所見ヲ述ヘタルコトナルヲ以テ之ヲ正式ノ記録ニ上スコトハ斷シテ承諾シ難シ』

『ウヰヰッテ氏曰ク『然ラハ此ノ問題ニ關スル問答ヲ更ニ正式ノ會見ヲ開キテ之ヲ行ヒ其レニ據リ會議録ヲ作ルコト、ナサム』

小村男曰ク『若シ此ノ問題ニ關シ正式ノ會見ヲ開クコト、ナラハ本員ハ全ク異ナリタル答ヲ爲サム一個人ノ資格ヲ以テ私見ヲ腹藏ナク語りタレハコソ韓國ニ撤退スル軍隊ノ大部分ハ日本ニ還サル、ナルヘシトノ見込ヲ述ヘタルナレ然レトモ若シ貴方ヨリ正式ニ日本ハ此ノ軍隊ヲ如何ニスル方針ナリヤト問ハレナハ其ノ答トシテハ日本ハ遼東半島租借地域ヲ除ク外滿洲ヨリ其ノ軍隊ヲ撤退スヘシ其ノ後ノ處置如何ハ敢テ説明スル

限ニアラスト云ハンノミ』

『ウヰヰッテ氏曰ク『然ラハ正式ノ會見ハ請求セサルヘシ然レトモ此ノ問題ニ付日本全權ノ説明ヲ求メタレトモ日本全權ハ何等説明ヲ與ヘサリシトノ趣意ヲ會議録ニ認メ置カム』

小村男曰ク『此ノ事ニ付何等正式ノ記録ヲ作ルコトハ決シテ承諾スルコト能ハス』

『ウヰヰッテ氏曰ク『然ラハ何事ヲモ主張セサルヘシ然レトモ此ノ問題ハ後日ニ殘レルモノト認ムヘシ』

小村男曰ク『何故ニ此ノ問題カ後日ニ殘レルモノト認メラルルヤ本員ハ解スルコト能ハス』

『ウヰヰッテ氏曰ク『滿洲ヨリ撤退シタル大軍ヲ韓國ニ移シタル後如何セラル、ヤノ問題ハ終ニ説明セラレサルナリ本員ハ韓國ニ於テ日本カ如何ナル措置ヲ執ラル、トモ之ニ對シテ彼是言ハント欲スルモノニアラス日本ハ韓國ニ對シ各般ノ措置ヲ執リ之カ爲メニ必要ナル軍隊ヲ駐屯セシメラル、ナルヘシ此ノ點ニ就テハ露國ハ素ヨリ何事ヲモ言ハント欲スルモノニアラス然レトモ滿洲ヨリ撤退セシメラレタル大軍隊ヲ韓國内ニ入レ其ノ後ノ處分ヲ如何セラル、ヤノ問題ハ之ヲ存シ置カサルヘカラス』

小村男曰ク『ウヰヰッテ氏カ今ニ至リテ斯ノ如キ議論ヲ爲サル、ハ氏ハ日本カ韓國ニ於テ如何ナル地位ヲ有スルヲ必要トスルヤヲ未ダ了解セラレサルニ由ル斯ノ如キ誤解アリテハ不都合ナルカ故ニ今ヨリ改メテ韓國ニ關スル規定ヲ再ヒ談判セム』

『ウヰヰッテ氏曰ク『否、韓國ニ關シ日本ノ必要トスル地位如何ハ能ク了解シ居レリ然レトモ

滿洲撤兵ノコトハ別ノ事ナリ

小村男曰ク『滿洲域内ヨリ軍隊ヲ撤退セシムルコトハ兩國ノ約定ニヨリ明ニシテ今更議論ヲ要セス其ノ撤退シタル軍隊ニシテ韓國ノ領土内ニ入りタル後之カ處分ヲ如何ニスヘキカハ獨リ日本政府ノ決定ニ存スヘキコトナリ日本政府ハ韓國ニ於テ幾何ノ軍ヲ置クヘキヤ其ノ配置及行動ハ如何ニスヘキヤヲ獨リ自ラ判斷措置スヘク此ノ事ニ就テハ聊カタリトモ外間ノ容喙ヲ許サ、ルナリ此ノ趣意ニシテ明ナラサル以上ハ韓國ニ關スル規定ヲ更ニ改訂スルコトヲ要ス』

「ウヰッテ」氏曰ク『其ノ趣意ハ充分ニ了解シ居リ今更之ヲ變更セント欲スルモノニアラス』
小村男曰ク『然ラハ何等問題ノ存スルモノ無キニアラスヤ』

「ウヰッテ」氏曰ク『否別ニ強テ此ノ問題ヲ維持セントスルニアラス只非常ノ大軍ヲ北韓ニ駐屯セシメラル、カ如キコトアラハ折角戰爭ヲ終結シテ其ノ結果更ニ新ニ戰爭ヲ始ムルノ意ナルカラ疑ハシムルカ如キコトナキカ否ヤヲ掛念シタル迄ナリ』

小村男曰ク『貴意ノ在ル所今ニ至リテ漸ク了解セリ貴意ニテハ日本カ若シ北韓ニ大軍ヲ駐メ置カハ露國ノ之ニ隣接セル地方ヲ脅カス虞アリト云フコトナラム』

「ウヰッテ」氏曰ク『然リ』

小村男曰ク『其ノ點ナラハ日本モ同様ナリ若シ滿洲ヨリ撤退スル露軍ニシテ多數沿海州ニ駐屯スルカ如キコトアラハ是即チ日本ヲ脅カスモノトナルナリ』

「ウヰッテ」氏曰ク『沿海州ニハ大軍隊ヲ給養スヘキ方法ナキヲ以テ斯ル虞ナシ』

小村男曰ク『執レニシテモ故ナク大軍隊ヲ邊境ニ駐メ置クコトハ費用ヲ要スルモノ故日露兩國共斯ル措置ヲ執ラサルコト政略ノ宜キヲ得タルモノナラム』

次ニ薩哈噠島ニ關スル規定ヲ確認セムカ爲メ日本全權ハ左ノ條文案ヲ提出ス



Le Gouvernement Impérial de Russie cède au Gouvernement Impérial du Japon en perpétuité et en pleine souveraineté la partie sud de l'île de Sakhaline et toutes les îles qui y sont adjacentes, ainsi que tous les travaux et propriétés publics qui s'y trouvent. Le cinquantième parallèle de latitude nord est adopté comme la limite du territoire cédé. La ligne frontière exacte de ce territoire sera déterminée conformément aux dispositions de

Le Japon et la Russie conviennent mutuellement de ne construire dans leurs possessions respectives sur l'île de Sakhaline et sur les îles qui y sont adjacentes aucune fortification ni travaux militaires semblables. De même, ils s'engagent respectivement à ne prendre aucune mesure militaire qui pourrait entraver la libre navigation des Détroits de Lapérouse et de Tartarie

Il est réservé aux sujets russes habitants du territoire cédé au Japon de vendre leurs propriétés immobilières et de se retirer dans leur pays; mais, s'ils préfèrent rester dans le territoire cédé, ils seront maintenus et protégés dans le plein exercice de leurs industries et droits de propriété à la condition de se soumettre aux lois et à la juridiction japonaises. Le Japon aura la pleine liberté de retirer le droit de résidence dans ce territoire à tous les habitants se trouvant dans l'incapacité politique ou administrative, ou de les déporter de ce territoire. Il s'engage toutefois à ce que les droits de propriété de ces habitants soient pleinement respectés.

Aussitôt que possible après la mise en vigueur du présent Traité, une Commission de Délimitation, composée d'un nombre égal de membres qui seront nommés respectivement par les deux Hautes Parties Contractantes, marquera, sur les lieux, d'une manière permanente, la ligne exacte entre les possessions japonaise et russe de l'île de Sakhaline. La Commission sera tenue, autant que les considérations topographiques le permettent, à suivre le cinquantième parallèle de latitude nord pour la ligne de démarcation, et dans le cas où des déviations de la dite ligne sur quelques points seront trouvées nécessaires, compensation en sera faite par des déviations corrélatives sur d'autres points. Il sera, de même, le devoir de la dite Commission de préparer une liste et description des îles adjacentes qui seront comprises dans la cession, et finalement la Commission préparera et signera les cartes constatant les limites du territoire cédé. Les travaux de la Commission seront soumis à l'approbation des Hautes Parties Contractantes.

(譯文)

露西亞帝國政府ハ薩哈噠島南部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼並該地方ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十度ト定ム該地域ノ正確ナル經界線ハ……………ノ規定ニ從ヒ之ヲ決定スヘシ

日本國及露西亞國ハ薩哈噠島又ハ其ノ附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地内ニ堡壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築造セサルコトニ互ニ同意ス又兩國ハ各宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

日本國ニ讓與セラレタル地域ノ住民タル露西亞國臣民ニ付テハ其ノ不動産ヲ賣却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保ス但シ該露西亞國臣民ニ於テ讓與地域ニ在留セムト欲スルトキハ日本國ノ法律及管轄權ニ服從スルコトヲ條件トシテ完全ニ其ノ職業ニ從事シ且財産權ヲ行使スルニ於テ支持保護セラルヘシ日本國ハ政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒタル住民ニ對シ前記地域ニ於ケル居住權ヲ撤回シ又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐スヘキ充分ノ自由ヲ有ス但シ日本國ハ前記住民ノ財産權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

兩締約國ニ於テ各任命スヘキ同數ノ人員ヨリ成ル境界劃定委員ハ本條約實施後成ル

ヘク速ニ薩哈噠島ニ於ケル日本國及露西亞國領地間ノ正確ナル境界ヲ永久ノ方法ヲ以テ實地ニ就キ劃定スヘシ該委員ハ地形ノ許ス限リ北緯五十度ヲ以テ境界線トナスコトヲ要ス若シ何レカノ地點ニ於テ同緯度ヨリ偏倚スルノ必要ヲ認ムルトキハ他ノ地點ニ於ケル對當ノ偏倚ニ依リテ之ヲ填補スヘシ該委員ハ讓與中ニ包含セラル、附近島嶼ノ表及明細書ヲ調製スルノ任ニ當リ且讓與地域ノ境界ヲ示ス地圖ヲ調製シ之ニ署名スヘシ該委員ノ事業ハ兩締約國ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

而シテ日本全權ハ此ノ條文三個ノ内第一第二ハ之ヲ各條約中ノ個條トシ第三ハ議定書「プロトコール」ヲ以テ規定セント發議ス

「ウヰッテ」氏曰ク「プロトコール」ト云フコトハ如何ナルコトナリヤ會議録ト云フコトカ」小村男曰ク「否議定書ト云フコトナリ本條約ニ附屬スル別約ノコトニテ其ノ形式條約ト約同一ナリ尤モ「プロトコール」ト云フコトヨリモ撤兵條件ト同様追加條款ヲ以テ規定スルコトトセハ可ナラム」

「ウヰッテ」氏ハ之ヲ承諾シ且曰ク「爰ニ形式各目ノコトニツキ日本全權ニ問フヘキコトアリ條約ト「プロトコール」會議録トノ間ニ如何ナル價值ノ差異アリヤ條約ノ規定ハ兩國政府ヲ拘束スル効力アレトモ「プロトコール」ニハ斯ル効力ナキカ」

小村男曰ク「條約ハ條約丈ケ「プロトコール」ハ「プロトコール」丈ケノ効力アリ」

「ウヰッテ」氏曰ク「然ラハ其ノ効力ニ異同アリトノコトナリヤ「プロトコール」即チ會議録ニ記載シタルコトハ條約ノ如ク各自ノ本國政府ヲ羈束スル力ナシトノコトナラハ何故ニ

會議録ヲ作りテ雙方全權署名スルヤ本員ノ考ニテハ會議録記載ノ事柄ト雖兩當事國ハ之ニ服從セサルヘカヲサルモノナリ就テハ今迄調製シタル會議録ニ記載ノコトハ條約ト等シク兩國ヲ拘束スル力アル旨ヲ認メタル記録ヲ作り兩國全權之ニ署名セム」

小村男曰ク「否左様ノ事ヲ爲ス必要ナシ條約及「プロトコール」ハ夫々定マリタル價值アリテ何等議論ノ生スヘキ筈ナシ」

「ロトゼン」男曰ク「然リ條約ハ其ノ條文通り執行スルコトヲ要スルハ勿論ニシテ「プロトコール」ハ或ハ拘束力ヲ有スルコトアリ或ハ兩當事國間ニ於テ之ニ記載セル事柄ニ關シ間題ノ生シタルトキ議論ノ根據トシテ援用セラル、コトアルヘシ」

次ニ「マルテンス」氏モ「ロトゼン」男ノ說ヲ贊シ「ウヰッテ」氏ノ說ハ遂ニ立消ノ姿トナリタリ」右了リテ後雜談アリ條約ノ調印ハ起草委員ノ事業終結次第直ニ淨書ニ著手セシメ爲シ得ヘクハ九月四日午後ヲ以テ之ヲ行フコト、定メ且其ノ場合ニ條約調印ノ式場ニ招待スヘキ人員ヲ如何ニスルヤ等ノ話アリテ散會セリ